K-1ミドル魔裟斗と小比類巻はウォーターボーイズ？

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年6月27日発行（毎月第2・第4木曜日発行）第4巻・12号・通算71号

SRS-DX

Special Ring Side

No.71
2002
6・13&6・27 合併号
毎月第2・4木曜発売
定価680YEN

桜庭さん、そろそろ出番ですよ！

6.23
PRIDE.21
さいたまスーパーアリーナ

なにぃ？

シウバとノゲイラが怪我？

SRS-DX
6・13
6・27合併号 No.71

5.11『K-1 WORLD MAX 2002』決勝大会
修斗、UFC、パンクラス、GW格闘技情報

編集人・谷川貞治　発行人・柳沢忠之　発行所・(株)
(株)ローデス　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社　〒105-8070　東京都港区海岸1丁目15番1号

本体648円

マット界の 2002年後半戦 キーポイントは?

どんどん巨大化する格闘技ビジネス 混沌とする〝最強決定戦〟

文◎谷川貞治

桜庭ならば、やはりVSミルコ戦だ!

ミルコVSシウバ戦が終わって、マット界は今、どういう方向に進むべきか道を探している。そんな状況下で、2002年の上半期を総括するとともに、噂される夏のビッグイベントをひとつのピークとして、後半戦のマット界のキーポイントを探ってみる。

『プライド20』横浜アリーナ大会は、近年まれに見る緊張感の中で行われた他流試合で、"引き分け"という結果に不満は残るものの、大変大きな反響があった。

問題はこの両者の対決が、K―1 VS『プライド』の完結編なのか、それとも通過点なのかということである。それがハッキリしないことには、ミルコVSシウバ戦の意味は見えてこないし、今後のマット界の予測は立てにくい。

で、結論から言うと、ミルコVSシウバは通過点に過ぎないのだ。なぜ、そんなことが言えるのか。ここが問題なのだが、今の格闘技イベントは、地上波のテレビ局を巻き込んだことによって巨大ビジネス化している。その典型的な例が、昨年末の『INOKI―BOM―BA―YE』だが、小川直也の1億円要求話が浮上したように、数億という単位でお金が動くまでに格闘技イベントは進化している。この流れを絶ち切ると、マット界全体がトーンダウンしてしまうのだ。

では、そんな巨大化する格闘技イベントの切り札とは何か? それがリスクの大きな"他流試合"なのである。

国内の格闘技マーケットを考えると、力道山VS木村政彦戦や猪木VSアリ戦のような他流試合が唯一、これまで遠心力として一般世間でも大きな話題となってきた。スポーツというジャンルを考えても、オリンピックやサッカーのワールドカップに負けないソフトとして、格闘技が唯一できることが他流試合。これは、テレビの視聴率としても、かなりいい数字が稼げるソフトであることは何度も証明されてきた。

そうなると、格闘技界が進むべき方向は、K―1のように新しいジャンルを作り、それをサッカーのワールドカップのような国際的スポーツに高めていくか、究極の他流試合で世間をアッと言わせるしかない。しかし、『プライド』のような公開他流試合の場が設けられると、刺激が強すぎるため、他の格闘技は必ず巻き込まれる。それがプロレスであり、K―1だった。だから、巨大ビジネスを求めて、他流試合はここで終わりという話にはならないのだ。

純『プライド』2大王者シウバ&ノゲイラ負傷でDSEが遂に桜庭担ぎ出しに出た!

Wandarlei Silva

Antonio Rodorigo Nogueira

▲『プライド』2大王者のシウバとノゲイラが揃ってケガのために次回の『プライド』を欠場することが決定的となった

実際、ミルコVSシウバを終えて、K―1VS『プライド』はややトーンダウンしたところはたしかにある。それは、どちらか一方が大きな勝ちを奪い、もう一方が大きな負けを味わわなかったからである。もし、大きな勝ちと大きな負けが生まれれば、そこには必ず「リベンジ」という発想が生まれてくる。他流試合のリベンジは、前回の初対決の時以上に感情移入しやすい。ビジネス的にもリベンジのほうが、大きな話題を作れる可能性を持っていて、オイシイのだ。

しかし、猪木VSアリ戦やミルコVSシウバ戦のような引き分け試合は、一時的にトーンダウンする場合が多い。それでも、マット界が巨大ビジネス化の方向に向かうのなら、ここで一時撤退というわけにはいかないのだ。

だったら、桜庭VSミルコはやるしかない。あるいは、藤田VSミルコだっていい。それは、ファイターとか、プロデューサーの意志に関係なく、必然的にそういう流れになってしまうというところに恐いところがある。そういう時代に、今、マット界は突入してきたのだ。

猪木祭りのあと、『プライド』は田村潔司の担ぎ出しに成功し、田村VSシウバの一戦を実現させた。そうなると、ミルコVSシウバ戦のあとの『プライド21』は

マット界の2002年後半戦キーポイントは？

Mirko CroCop

▲ミルコVSシウバ戦で見つめ直さなければならなくなったルール問題。もうドロー判定は通用しない

いったい何をやるかが気になるところ。
これについて、当初DSEはアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラVSセーム・シュルト、ヴァンダレイ・シウバVS●●●●●（諸般の事情により伏せ字にします）といった純『プライド』のタイトルマッチを考えていたという。ところが、そのノゲイラとシウバの両王者が相次いで練習中に負傷。『プライド21』に出場できない公算が強くなってきた。
もちろん、ノゲイラとシウバが出場しなくても、今の『プライド』の充実した選手層を考えると、いいカードはいくらでも組める。また、参戦が噂されるリングス・ロシアのエメリヤーエンコ・ヒョードルのように、新しいファイターの登場もいくつかあるだろう。
しかし、問題なのはメインイベント。『プライド』は田村VSシウバやミルコVSシウバのような話題となるメインを用意しなければならない宿命にある。それが『プライド』が『プライド』たりえる生命線だ。そこで今、DSEが目論んでいるのが、『プライド』のエース、桜庭の復帰戦だ。すでにDSEは桜庭をこのタイミングで担ぎ出そうと動き出したという情報も伝わってきている。
桜庭は昨年の11・3『プライド17』東京ドーム大会のシウバ戦で左肩脱臼でTKO負けとなり、手術をしてこの半年間はリハビリに専念してきた。最近では、スパーリングもこなせる段階にまで復調しているという。桜庭の性格を考えると、早く試合がしたくてウズウズしているところだろう。果たして、桜庭は6・23さいたまスーパーアリーナ大会に間に合うのか。タイミング的に見れば、話題が途切れたちょうど今が、そろそろ出番だ。
しかし、考えなければならないのは、桜庭がどういう復帰のドラマを用意するかということだ。グレイシーに連勝し、一躍マット界のスーパースターとなった桜庭だが、その後シウバに2連敗し、2度ともケガをさせられた。ここはなんとしてもシウバに借りを返さなければならないのだが、連敗しているだけに、いきなり打倒シウバと言っても、本人もファンも面白くないだろう。シウバを視界に入れつつも、桜庭は何か他のドラマを作らなければならない。桜庭自身もそれは十分感じとっている。

次の究極の他流試合は、桜庭VSミルコ！ルールが変われば、この試合は成立する

▶桜庭は復帰後、いきなりシウバと闘っても面白くない。何か別のドラマを作る必要がある

Kazushi Sakuraba

そこで、桜庭がなんとなく目を付けているのが、ミルコである。桜庭の発言を聞いていると「ミルコにはもっとおいしくなるまで太ってほしい」とか「ミルコVSシウバは、ミルコが勝つ可能性がある」と口にしており、自分が負けている相手であるシウバを他の選手にとられたくないという意識はまるでない。むしろ、田村よりはミルコにシウバの首を取ってもらいたいという気分だったのではないか。田村戦はやりたくないが、K—1のスターであるミルコ戦が復帰のドラマとして浮上してくるのは、桜庭にとっても好都合だからである。
もちろん、桜庭がミルコ戦を実現させるためには、ルールや体重差など、いくつかの問題が残っている。というより、K—1VS『プライド』は今後、これまで採用してきた3分5Rルールを見つめ直す時期にきている。逆に言えば、ルールを少し変えただけでも、前回のミルコVSシウバはもっと面白くなるはず。本当はミルコが勝つべき試合だったが、「引き分け」という結果が出た以上、その原因を改善しなければならない。
いずれにせよ、桜庭が復帰するにしても、なんらかのドラマが必要になってくる。それを踏まえた上で、6・23『プライド21』に復帰するかどうかに注目したい。すでに前回以上の反響だという『プライド21』。カード発表を楽しみにしたい。■

「無」に向かって綱渡りをやれるのかぁ!!
（「やります……」byドラゴン）

出席者◎ ターザン山本
（ブラックバス＝超ラージマウス）
サダハルンバ谷川
（本誌シロナガスクジラ編集長）
小松魔裟夫
（本誌ちりめんじゃこ編集部員）
司会◎柳沢忠之（本誌シーラカンス発行人）

2002年後半戦
マット界のキーポイントは？

『イノキ・ボンバイエ』でプロレスが全部引いちゃったんだよぉ

山本 おい！ 谷川ぁ。今日はメシをご馳走するだけだって言うから来たのに、なんで小松や柳沢氏もいるんだぁ？

谷川 いや、僕もちょっとボーッとしてたんですけど、気が付いたら2002年も半年過ぎちゃうんで、ここで上半期を振り返ってみようかと思いまして……。

山本 なんだぁ、メシ食わせるだけじゃねえのかぁ！ 騙まし討ちだよぉ。

小松 山本さん、何も発言しないで食事だけご馳走になるというのは虫がいい話じゃないですか。

谷川 んあ～！

――おまえは徐々に自分のキャラが分かってきたね（笑）。

山本 で、上半期の総括かぁ？

谷川 は、はい。さっそくお願いします。

山本 今年のマット界はもう一区切り付いているんだよねぇ。これでサッカーのワールドカップで空白の期間があって、その後にまたドカーンと爆発がくるんだよぉ。じゃあ、ここまでの上半期がなんだったかって言うと、非常に先が読みにくい時代という感じがしたなぁ。

谷川 なるほどお。

山本 線というか、流れが見えなかったよなぁ。不透明！ 不明確！ つかみづらい上半期だったよぉ。確かにミルコVSマーク・ハント、ミルコVSシウバとかがあったけど、非常に流れが見えにくかった。

谷川 まずここまでを復習しましょう。去年の年末に『イノキ・ボンバイエ』という大イベントがありましたが……。

山本 ポイントとしてはあれが起爆剤というか起点なんだよねぇ。要するにあれが上半期を決定づけたんだけど、それでプロレスが全部引いちゃったんだよぉ。

谷川 プロレスが引いたんですか……。

山本 諦めたわけよぉ。永田のあのミルコ戦での敗北で、完全にプロレス団体のフロント、マスコミ、ファンがギブアップしたというか、絶望とは言わないけども、サイレントに引いたというかなぁ。

――サイレントに引いた（笑）。

山本 永田という格闘技色がない選手が出て行って、勝負にならないというか、なんの手応えもなく秒殺されたろう。あれを見てみ～んな敗北感を持っちゃって、もうやめようというムードが出てきてしまったんだよぉ。つまり、あれがプロレスと格闘技との対立概念を失っていく大いなる起点になってしまった。あれ以来、プロレスと格闘技の対立ってないもんなぁ。今年、何かあった？

――いや、ないですよね（笑）。

山本 ないんだよぉ！ あれで誰かがミルコにリベンジするとか、復讐するとか、チャレンジするとか、そういうムードさえ出なかったもんなぁ。そういう状況でK―1はいきなりミルコにハントをぶつけただろ。つまりプロレスに付け入れなくしてしまったわけよぉ。で、次にシウバをぶつけただろぉ？ プロレスラー・キラーのミルコにプロレスが絡んでいかなければいけないのに、K―1と『プライド』がパッとカットしてしまったわけ、これはデカイことだよぉ！

谷川 要するにプロレスは格闘技に足蹴にされたってことですか。

山本 足蹴というか、無視というか、用済みというか。12・31を起点としたら、声を大にして言っておかなければならないパイプカット的流れだよねぇ。

谷川 でも、その理由としては一つ言うと、新日本プロレスから武藤たちが離脱したり、プロレスも桜庭と藤田が負傷欠場でコマがなくなっちゃいましたよね。

山本 それはオールすべてぜ～んぶ引き潮現象ですよ。安田も引いたでしょ。

小松 あ、安田がIWGPのベルトを取ったのも引き潮現象なんですか？

山本 引き潮も引き潮、大引き潮ですよぉ！ み～んな無意識のうちに共通して同じ現象を起こしているんだよねぇ。結局、武藤はそういうことをやり続けた新日本におさらばして全日本に行ったたっていうことも、自覚的に「自分で引くんだ」という意識の表れでしょ？

谷川 マスコミも引きましたよね、GKとかはもう宣言していますもんね、巻頭記事で。「プロレスはプロレスでやっていきましょう」って。

山本 つまり武藤は三行半を下したんだよね、新日本に。そうすると新日本プロレスの風化現象は一気に巨大化して、それが5・2東京ドームの風化と同調しているんだよぉ。

――そうですね。永田云々はもちろんあるけれども、言ってみればプロレスは12月31日のイベントのスケール感やプレッシャーに引いたと思うんですよ。

谷川 テレビ局やプロモーション会社、それはK―1であり、ドリームステージエンターテインメントであり、興行会社じゃない人たちのスケール感をプロレス界が味わったってことなのかあ。

――ビジネス・スケールというものを初めて、まざまざと味わったんでしょう。

山本 あの大晦日が365分の1の巨大な1日になって、プロレスが決定的にダメージを受けたんだよぉ。

谷川 極端なことを言うと、チケットの実売や放映権料とかファイトマネーとかで本当に何億という単位のお金が動いたりとかね。で、テレビ関係者とかを含めるとスタッフが1000人ぐらい動いていたんですよ。プロレスでそんな興行ってないでしょうからね（笑）。

――だから、サスケがそれを見て、「WWFより凄いですね」って言ってたんだよなあ（笑）。

谷川 でも、そのスケール感の違いを最も感じたのは猪木さんでしょう。

▲今年上半期のマット界の流れの起点となった、昨年大晦日の『イノキ・ボンバイエ』

謎が解けたよ。田村VSシウバは必然的だったんだなぁ

小松　あ、猪木さんも引いちゃったんですか？

谷川　引いちゃったっていうか、初めて見たんだろうね、ああいう世界を。

―あのイベントをリハーサルから全て見ていたらしいんだけど、「いったい何人動いてんだ？　なんだ、これは……」っていう（笑）。これまでやってきた世界とのあまりのギャップに愕然としたんでしょうね。

山本　だったら、安田がバンナに勝った時のあの喜びようとかさぁ、プロレスファンはマンガですよぉ。

―ダハハハハッ！　だから、ミルコを選んだ永田とかは嗅覚としてはイベント性のおいしさは分かってたわけじゃないですか。でも、そこでミルコとしかやらないって永田が言っちゃうソフトを見る目のなさというかね。で、そういうことを一切無視したのが安田でしょ。おいしさとか、そういう感覚で見なかった選手が一気にブレイクできたんでしょう。

山本　今から考えると、とんでもない興行だったんだなぁ。

谷川　で、あの大会でなんだかんだ言って、一番評価されちゃったのが石井館長なんですよね。でも石井館長は実感としては、普段の作業だったんですよ。だから真の意味で勝ったのは石井館長で、猪木さんが勝った感じはしなかったじゃないですか？　それは安田も同じで。

―それはソフト的な意味で村松友視さん的に言えば、12月31日が他流試合の中でも「過激な他流試合」。1月10日に発表した田村VSシウバが「ルール内他流試合」の典型で、田村はプロレスを背負ってきていたわけ。それは他流試合として成立はしているんだけれども、あの大晦日の過剰な他流試合には対立概念としては及ばないわけじゃないですか。ある意味、プロレスが田村で本当に終わっちゃったわけでしょう。だから、ソフト的にどんどん終わっていく構図にはなっているんだけれども、そのイベント性のスケール感に全てが負けてったってことでしょう。

谷川　今は逆に言うと、イベントのスケール感が問われるというか、試合の勝ち負けは関係ないもんね。

―でも、そこに勝負論がないと求心力がないんだけどね。

谷川　何か凄いことをやることが第一だよね。でも、僕は個人的にあそこで田村投入は凄く重要なことだと思うし、逆に言うと、『プライド』に対する信頼感が出たよね。田村VSシウバをあのタイミングでやってしまうっていう。

山本　あれは必然的にやらなきゃいけないということで出てきたんだなぁ。俺はおかしいなぁって思ったんだけど、謎が解けたよ。必然的だったんだなぁ。

―そこで『プライド』とK―1がこだわったのは、過剰なる他流試合をやった後に、純『プライド』と純K―1が重要だと思ってそれをやろうとしたんでしょう。それが田村VSシウバであり、ミルコVSハントなんだよね。さらにそれがまた少しずつ絡みだして「過剰なる他流試合」をやろうっていう展開でしょう。

山本　よくできているなぁ。これ、ぜ～んぜんアングルじゃないのに。

谷川　言ってみればナチュラル・アングルですよ。ミルコが永田に勝ちました、と。で、K―1に帰った時にいきなりハント戦ですからね。そこで、ミルコVSノルキヤとか、そういうことをやった時に、K―1が落ちちゃいますからね。

山本　いや、それやったら落ちるよ。もう引き下がれないわけよぉ。

―だから、イベントを成立させるためにはソフトは綱渡りでいかないと無理ってことでしょう。綱渡り、綱渡りでいかないとダメなのに、プロレスは点を並べて、たまにドカンッと5・2ドームって感じですからね。それのためのソフトの綱渡りをまったくしてないでしょ。

山本　一見、綱渡り的に見せたんだよ、蝶野VS三沢で。でも、やっぱり全然違ったんだよなぁ。

谷川　安田の使い方なんか見ると本当にもったいないですよねぇ。

―安田の使い方は綱渡りどころか、綱そのものがないもんなぁ（笑）。

谷川　バンナに勝った後にもっと大きく見せないきゃいけないのに、なんか急に強くなったように感じただけで、IWGP奪取とかだからね。

―そういうソフトの綱渡り感を今のプロレスが持てないんだろうね。

山本　妙な形で凱旋帰国してしまったでしょ。今の時代は凱旋帰国なんかしちゃいけないんだよねぇ。

◀プロレスの引き潮現象の象徴的な出来事であった武藤の新日本離脱

谷川　それがロスの猪木道場で遅刻して天狗になっているっていうアングルになっちゃうじゃないですか（笑）。だから、武藤とかが純プロレスに行っちゃうのも分かりますよね。

―でもね、なんで綱渡りができたかって言ったら、大晦日に安田とバンナでメインを張れたからだよね。「これで、いけるんじゃん」っていう話じゃないですか。たとえミルコが負けようが、シウバが負けようが、次にいくらでも作りようがあるぞっていう話でしょ。本来なら小川が出ないって段階で「イノキ・ボンバイエ」って終わってたというか、追い込まれていたのに、それが結果として成り立ってしまった。実績としてそれはデカイでしょう。でも、その綱渡りの緊張感をプロレスは持てないんですよ。でもある意味、こういう状況だからこそ世界中からファ

2002年後半戦 マット界のキーポイントは?

上半期のMVPはブラックバスですよぉ!

イターが集まりますよ。

谷川　こんなにおいしい状況ってないもんなあ。

――ゴールドバーグが『プライド』に出たいって言ってるのも、そういうことでしょう。だから、ビンスVS日本マーケットっていう話になっていったり、どんどんエスカレートして世界規模になっちゃうよなあ。

谷川　その中で生き残った人は凄いよね、プロデューサーもファイターも。

山本　そんな状況の中でノゲイラみたいな選手のテンションってどうなの? どういう心理なの、ああいう選手は?

――半分は保守的だけど、自分たちが輝けるマーケットが日本にしかないというのは分かっているでしょう。

谷川　だから、一番凄いのはノゲイラのK―1参戦でしょう。普通はやらないですよね、柔術家が。ノゲイラがK―1に参戦したいって発言すること自体が異常な話だよね(笑)。

山本　普通は考えられないけど、そう言わせてしまう状況になってるんだなぁ。というと、あいつは一番時代の先端を行っているじゃないかぁ。

――時代の先端を走らなきゃ、置いてきぼりを食っちゃう時代なんですよ。

山本　『プライド』のチャンピオンがそれを言わざるを得ないってことは凄く追い詰められているのか、凄く意識が高くなっているのか、どちらかだなぁ。

谷川　そこでプロモーターはそういう選手たちを潰すぐらいの使い切り方をするか、プロモーターの言うことを聞かない選手のマッチメイクよりも面白い物を提供しないと、勝てないんですよ。「おまえ出ないんだな。じゃあこの選手を使って、こういうことやる」ってなると、選手は「やられた」ってなるんですよ。この間、もしミルコがギリギリのところで出ないってなったら、『プライド』にしろ石井館長にしろ、絶対にミルコVSシウバ以上のカードを提供したと思いますからね。

山本　ということは、リング外でもの凄いせめぎ合いがあるってことだなぁ。今までこんなことなかったよぉ。

――まあ、ないですよね(笑)。

谷川　その競争意識が凄く高いよね。

山本　そうすると、あのシュート・ボクセ軍団っていうのはどうなるの?

谷川　上半期の流れでいったら、中心人物はミルコだったけど、一番活躍したのはシュート・ボクセですよね。

山本　シュート・ボクセだよなぁ、あの……。

小松　あ……、ブラックバス!

山本　ブラックバス化しているもんなぁファイターが。なんであんなモチベーションになっているの? パクッ、パクッって。だって、あのマリオをやっつけたヤツ(ムリーロ・ニンジャ)もやっぱりブラックバスだもんなぁ!

――あれは、ブラジルの中での『プライド』の価値観がもの凄く高いということの表れでしょうね。

谷川　そこで、ミルコとシウバというかミルコとシュート・ボクセの差が出ましたよね。変な言い方だけどミルコはやっぱり、K―1ファイターとして『プライド』に遊びに来ちゃいましたもんねえ。

山本　シウバは常にパクッ、パクッだもんなぁ。

谷川　これからの時代に生き残るのはああいうタイプかもしれないですね。

山本　俺は上半期のMVPはシュート・ボクセ。イコール、ブラックバスですよぉ!

――上半期のMVPはブラックバス(笑)。

山本　そうなった人間が一番強いっていうのを証明したもんねぇ。凄い世の中になってしまったなぁ、

――でも1年前を考えたら、山本さんの口からシュート・ボクセとかニンジャとかマリオだとか出てくることが不思議ですよね。それだけでこの1年がいかに凄く変化したかって気がしますよ(笑)。

山本　そう?

谷川　いや、本当にそうですよ。だってイメージ的には全日本キックの藤原道場とシュート・ボクセってそんなに違わなかったですもんねえ、その頃は。

山本　狩猟民族が一つの獲物を集団で追っかける感じがするんだよぉ。今や俺はシュート・ボクセの大ファンですよぉ!

――ダハハハッ!

山本　あと、あのトップグループ?

小松　あ、トップチームです(笑)。

山本　トップチームの上品さも好きだったんだけど、あのマリオとの闘いを見たら、僕はシュート・ボクセに傾いた。完全に転向したよぉ、俺は。

小松　でも、ホテルのロビーで会った時、山本さんは「なんだ、あいつら汚い格好して」って言ってたじゃないですか。「おい小松、おまえと変わらねえなぁ」って。

山本　…………。

――でも、闘い方でナチュラル・ヒール化できる軍団って凄いですよ。闘い方で目がいくようなところまでレベルが来たっていうことですからね。

谷川　見事にストリート・ファイトを技術化して見せてますもんね。

――だから、バーリ・トゥードって柔術をいかに知っているかみたいな闘いの中で試行錯誤して試合スタイルができあがってたけど、まったく違うスタイルのシ

▲上半期のMVPはブラックバス軍団ことシュート・ボクセ軍団!

▲唐突な感じもした2・24『プライド19』での田村VSシウバだったが、これは必然的な流れだった

綱渡りをやってるからスケール感が感じられるんだなぁ

▲昨年のK－1王者ハントとプロレスキラー・ミルコというK－1の頂上対決が3・3K―1名古屋大会でいきなり実現してしまった

ユート・ボクセが認められるようになったわけじゃないですか。

山本　柔術のきちんと計算された世界があって、そこにわけの分からないグループが出てきたからさ、凄くいいよなぁ。

――その究極の形が寝技と立ち技の『プライド』とK―1でしょ。もう、K―1がそういう目で見られているから昇り調子なわけですよ。

谷川　富山もチケットがほぼ完売ですからねえ。まだ全然カード出てないのに。

山本　えっ!?　だって中迫だよ!

――『プライド21』だって、まだカード発表してないのに、先行発売で過去最高の売れ行きだって話ですからね。

山本　なんでそんなに売れるの?

――やっぱりスケール感がデカイからイベントに安心できるんでしょう。でも、それはプロレスじゃなくて格闘技だからスケール感が出たっていう話じゃないですからね。

山本　それは今まであったスケール感を突破したんだなぁ。それは重要だよぉ。

――昔からプロレス団体が、テレビが付けば潰れないとか、もうそういう領域じゃないわけですよ。テレビをどう使って、どうスケールを出すかっていう思考がなければ、新日本があんな惨憺たる結果にはならないでしょう。

谷川　新日本プロレスが7・1%でK―1ワールドMAXが13%強っていうのは、プロレスと格闘技の差じゃないですからねえ。

小松　あ、それはテレビ?

――「テレビ?」ってなんだよ、意味が分からないよ、おまえは（笑）。

山本　今のは『ウォーターボーイズ』言語ですよぉ。

谷川　あれは完全にプロモーションの差でしょう。『イノキ・ボンバイエ』もそうですけど、朝から晩まで煽りをやっていましたもんねえ。テレ朝の猪木さんと蝶野がやってるスポットを何回か見たんですけど、あれをやってれば安心できる世界じゃないですよ、今は。

――単純な露出度の問題じゃなくて、方法論ってことでしょう。

谷川　プロレスと格闘技の唯一の差っていうのは、スポーツニュースでやるっていうことなんですよ。でも、ありとあらゆることをやらせますもんね。地上波のテレビ放送が付いたって、方法論が違えば結果は全然違いますからね。猪木さんと蝶野の政権交代っていうドラマよりも、格闘技の場合はもっと透明なものから作り上げようとしますからね。

――それは外に向けたアングルじゃなければ、通用しないってことでしょ。蝶野VS三沢もそうだけど、内に向けたアングルはまったく通じないよね。

山本　しかし、外というのは「無」なんだよな。内に向けたものは「有」なんだよ。「無」に向かってバーンッと行ったほうがいいのは確かなんだよぉ。

谷川　それをやっているのがWWFですよ。ちゃんとしたアングル番組持ってるし、ソフトを使い分けているし、WWFがテレビを使うのがなぜうまいかっていうのはその差ですよ。

――そういったプロモーションを含めたやり方をするから、イベントがでかくなって、スケール感が出るんですよね。

山本　うん、ビッグビジネスになるっていうことでしょう。ビッグビジネスっていう発想がないもんな、今のプロレスは。逆に格闘技は綱渡りというか背水の陣をやってるからスケール感が感じられるんだなぁ。

谷川　そう、背水の陣ですよ。ソフトを作るほうも追い込まれているし。これでダメだったら、次はないよっていう。

――だから、この上半期はそれが明確になった時期でしょう（笑）その勝負がある種、夏にまたあると思うんですよね。

谷川　8月8日のUFOがどうなるかっていうのがね。

山本　でも、UFOって一度も成功したことがないんだよなぁ。

――日本テレビを付けて、東京ドームで何をやるのか。そこでプロモーション能力であるとか、ソフトの中身の能力だとか、全てが問われるでしょう。そこで、もし「テレビが付けば大丈夫だ」というレベルの発想だとねえ……。

小松　えーっと、それは本気でやるつもりなんですか?

谷川　やるだろうねえ。小川直也の真価が問われるっていうか、勝負所だよね。

――俺の興味はただ一点で、猪木さんがそれにどう関わるかですよ。『イノキ・ボンバイエ』の時は外、つまり「無」に向けたプロモーションとか、スケール感に乗ったでしょう。

谷川　つまりテレビはプロモーションと割り切って、いかにプロモーションできるかってことだよね。

――そのプロモーションが完璧にできれば、結果として中継は成立するでしょう。

山本　なるほどなぁ、無に向かって外に向かって……、そこだよなポイントは!　でも、セコセコした「内」に向かう気持ちというのは、プロレスの世界にいる人たちのアイデンティティになっていて放棄しようと思っても放棄できないわけよ。内なるものが拠り所で、それを捨てたらアイデンティティがなくなるからさらに「内」に行くんだよぉ。ここが最大のジレ

つまり三沢VS蝶野を切り札と思っているわけよぉ

ンマというかさぁ、プロレスの最大の矛盾点だったわけよ。

谷川 でも、それは昔からあったことなんですよね。

山本 いや、猪木VSアリ戦はあれだけ世間にバーンッとやったじゃないかぁ。

――猪木さんは「外」に向かってましたよね。ズバリ言っていまだに疾走しているというか（笑）。「無」っていうのは時代性だから、歳と共にくっついていかざるを得ない時は乗るんですよ。だから、猪木さんも今まで自力で走っていたのが、「疾走」が好きだから、もの凄い速い乗り物にも乗るようになったんですよ。

山本 IWGP構想だって、本当は「無」だったからなぁ。それが時間が経つにつれて「内」なるものになったんだよぉ。

谷川 その意味で言えば、猪木さんはプロモーションの大天才ですよね。TBSとの掛け合いを見ていてもそうだけど、テレビ局の持っている発想を蹴っ飛ばす何かを持ってますもんね。

――本当にアングルを作っているんじゃなくて「アングルが張り付いてます」って感じだからね（笑）。

山本 付いてくるっていうのは、先天的なものだからなぁ。最後は辻褄が合うというかさぁ。でもそれは馬場さんにはできないもんね。馬場さんは「内なる人」だから貯金貯金していったんだよぉ。

――猪木さんは、実体はともかく内なるものでお客さんを集めるのが許せないんでしょう（笑）。現実としては、蝶野の言うように内なるものでお客さんが入っているんだけども、それを絶対に肯定したくないんだろうね。「おまえらもっと『無』に向かってやれ、走れよ」っていう（笑）。

山本 5・2の三沢VS蝶野はその象徴的なものだよなぁ。でも、さっき言った、格闘技界のスケール感を見たから、彼らもそれをあえてやろうとするわけですよ。つまり彼らは切り札と思っているわけ、三沢VS蝶野戦を。それを勘違いして「ウチの切り札はこれだ」って新日本とノアが同意して、合体するわけですよ。

谷川 やっぱりあの闘いをプロデュースしたのが本人同士にしか見えないんですよね。やっぱり誰かの手の平に乗って追い込まれて、偶然そうなったという形じゃないですからね。

――でも、本気で内に走るんだったらもっとZERO-ONEとか、他にいっぱいあるじゃないですか（笑）。

山本 内に走るんだったら、ZERO-ONEみたいなバカバカしさのほうが面白いとゆーことだよなぁ。高速カウントのほうがはるかにいいですよぉ。5・2は彼らなりにレジスタンスしたんだけど、やっぱり時代は動いていることを理解しないとダメということだなぁ。

谷川 ケロちゃんが言ってましたよね。「K-1、『プライド』、サッカー、プロ野球……！　これがプロレスだ！」って（笑）。

山本 それが内なるものの根拠として、外にぶつけたわけよね。どうしても、それが彼らの根拠だからねぇ。

――それはいくら「無」を挑発しても玉砕しちゃいますよ（笑）。

谷川 でも5・2はね、猪木さんが追い込んだり、誰かがK-1や『プライド』みたいにプロデュースして、新日本が手の平に乗っていたら、見え方が全然違ったと思いますよ。

山本 まず最初に自分を出そうとする気持ちが強いでしょ、レスラーって。そうするとスケール感が出ないんだよなぁ。その中に差別化されたキャラとか存在感が見えてくると、ホントは一番気持ちいいんですよ。

谷川 で、それを裏切る人がいると、また面白いですよね。

山本 規定演技をやりながらフリー演技をやるのが一番面白いんですよぉ。キチンと規定演技をやって、その中でその人の自由さが感じられたら最高だよぉ。

――それは高級なソフトですよ。

山本 でも、それは日本のプロレスラーにはできねえよぉ。

――そうそう。それは「プロレスが自己プロデュースの世界だ」っていう詭弁なんですよ、逃げ道というかね（笑）。

谷川 本当に今のプロレスがスケール感を出すのは難しいですね。

山本 体質的、資質的に一番苦手だよぉ。

谷川 思い切って生き残るには誰かにプロデュースを任せるしかないですね。僕らが見てきたプロレスって山本さんが書いてきたものなんだけど、それを長州本人は何も分からずにやってたじゃないですか。

山本 そう！　外側のイメージの中で乗せられていくのが重要なんですよぉ！

谷川 それがないんですよ、今のプロレス界に。

――それに乗せようとしているものがコンセプトに成り得てないからね。

谷川 でも、山本さんがやってた頃の『週プロ』にはそれがあったのになぁ。確実に「無」に突き進んでいたように感じましたからね。

山本 でも、俺は実体に対しては何も期待してなかったんだよぉ。

谷川 んあ～！

山本 でも「行け！」「突っ走れ！」「雪崩れ込め！」と言い続けていただけなん

▲プロレスが格闘技から足蹴にされた象徴的な試合がミルコVSシウバ

2002年後半戦
マット界のキーポイントは？

今年の後半は「究極の行き当たりばったり」ですよぉ

だよなぁ、俺は。

谷川　それが重要で、そこで団体側が主導権を握ろうとすると、おかしくなるってことだと思いますよ。

山本　それを自分たちでと思った瞬間に勢いにストップがかかるんだよなぁ。明らかにフィクションを失うんだよねぇ。

谷川　そこに気付いてどう変わるかっていうのも面白いですけどね。バンナなんかそうだったし、ミルコなんかも今はそんな状態になっているんですよ。試合に表れちゃいますからね、ファイターは。

山本　たしかにシウバ戦までのミルコは「無」に向かって突っ走ってたよなぁ。

谷川　藤田と闘った時なんか「なんでそんなことやるの？」って。冷静に考えればやる必要もないし、みんなキョトンとしちゃいましたよね（笑）。でも、突っ走って行ったでしょう？　バンナもボクシングからK―1に戻ってきた時はそんな感じでしたね。そういう時は疾走感が出るんですよ。

山本　じゃあ、フィリォはどうなん？

谷川　残念ながらフィリォは「無」に突き進んでないですよねぇ。

山本　もったいないよなぁ、あんなに素質があるのに。やらせなきゃいかんなぁ。俺たちはひたすらやらせるしかないんだよぉ。でも、「おまえの言いなりになってたまるか！」ってなるんだよねぇ、ファイターたちは。

――ダハハハッ！

谷川　「おまえにやらされてたまるか」って、まあマスコミが一番ターゲットにされやすいんですけどね。でも、そう思ったらダメになっちゃうんだよなぁ。

――でも、プロレスとの接点でいえばキーになるのはやっぱり藤田でしたね。

山本　確実に「無」へ突っ走ってたよぉ。

――その意味で12月31日は小川よりも藤田欠場の問題がデカイでしょうね。今年のプロレスを考える上でも。だから藤田がどう動くかっていうのは、今年の後半戦のキー・ポイントになるし、プロレスの価値観自体も変わってくるんじゃないですか？

谷川　本当はこだわりがあるんだけど、藤田や桜庭は手の平に乗れるからね。それが彼らのいいところですよ。

――そこで重要なのは藤田がプロレスに復帰したとしたら、逆にプロレス界はまったくタマを失うってことになるでしょうね。

山本　藤田がプロレスを帰る場所としたら、プロレスは終わるよぉ。もう、プロレスには帰ってくるなと言いたいよぉ。

小松　あ、高山とタッグを組んでいる場合じゃない、と。

――それをやった瞬間にプロレスが終わるっていう感じがしますよね。藤田という選手がどうのこうのというよりも。

山本　それでもプロレス界的には高山＆藤田がいいんだよなぁ。内向きの価値観が凄く盛り上がるんですよぉ。でも、それは三沢VS蝶野と同じような感じの思考形態だよなぁ。

――でも、それはプロレスならいつでもできることですからね。

山本　うん、いつでもできることに逃げてしまったらお終いなんだよぉ。（小松を指さして）おまえ、ポカ～ンとしてるなぁ。逃げてるのかぁ。

――ダハハハッ！　「僕はそれでもZERO―ONEに注目していきます！」とか、なんか発言はないのか（笑）。

小松　あ、ZERO―ONEはそのスケール感の底のほうで、ズーッと繋がってましたよ。小笠原の乱入から高速スリーカウントまで。

山本　おまえはハードルが低いねぇ。

谷川　で、山本さん。ズバリ、後半戦のポイントはどうなんですか？

山本　下半期は怖いですよぉ！

――「後半戦は怖い」（笑）。

山本　現実的に成功している人も成功していない人も何をやっていいか分からない。とにかく手探りの綱渡りだからなぁ。

谷川　それは猪木さんも含めてですね。

山本　8月にビッグマッチがあるっていうのが、プロレス雑誌にメッセージされているけど、本当にそれは間近になってみないと分からないよぉ。つまり、今年の後半は「究極の行き当たりばったり」ってことですよぉ。

――そうなると山本さんが一番強そうですよ。ブラックバス体質だから（笑）。

谷川　そういう時に確実に生き残るのはブラックバスですね。

山本　パクッと食い付きますよぉ！

――でも、世の中の流れは「キャッチ＆リリース」ですから、食い付いた後のリリースには気を付けてくださいね（笑）。妙な所にリリースされて、「あれぇ？」ってなりますから。よ～く考えて、自覚的に食い付かないと（笑）。

山本　そうだよな、変なところに放されたらたまらんもんなぁ（笑）。

――気付いたらプールに放されて、周りが『ウォーターボーイズ』だらけだったとかね（笑）。

山本　でも、今日は上半期の流れがハッキリと分かったよ。非常にいい傾向だぁ。

――おい、おまえはいい傾向なのか？

小松　は……、何が？

――毎回、黙々とメシ食ってるだけだけど、おまえとしてはそれはいい傾向なのか？（笑）。

小松　うまいものを食べられるのは、いい傾向……ってことですかねぇ。

山本　いいんだよ、『ウォーターボーイズ』はそれでよし。オ～ケイっ！　話はお終い。おまえがボーッとしてる間にとっくに結論は出ましたよぉ。

小松　あ、話は無事に終わりましたか？

それはよかった。

谷川　んあ～！

■

▲プロレスの切り札的なカードとして実現した5・2新日本プロレスの三沢VS蝶野だったが……

全国の若者に告ぐ！魔裟斗の涙にキミは何を見たのか？

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜
5・11★日本武道館

ミドル級世界一決定トーナメント

- 魔裟斗（日本代表/シルバーウルフ）
- ドゥエイン・ラドウィック（アメリカ代表/3-Dマーシャルアーツ）
- アルバート・クラウス（ヨーロッパ・ロシア代表A/リング ホージム）
- シェイン・チャップマン（オセアニア代表/フィリップ ラム リーガージム）
- 小比類巻貴之（主催者推薦/黒崎道場）
- マリノ・デフローリン（ヨーロッパ・ロシア代表B/チームアンディ）
- ガオラン・カウイチット（タイ代表/ペッティンディー ボクシングプロモーション）
- 張加溌（中国代表/中国武術協会）

優勝賞金 1000万円／2位 200万円／3位 75万円

K－1ミドル級初の世界王者はクラウス！

▲魔裟斗を破ったアルバート・クラウスが、決勝でムエタイ王者・ガオラン・カウイチットを破り、初代K-1ミドル級チャンピオンに輝いた

閉会式でも、魔裟斗の目には涙が浮かんでいた

準決勝1R、まさかのダウン！ 一番ナメていたヤツにやられた!!

なんとか立ち上がったものの、ダメージは明らか。2度のダウンでKOとなるため、観客も魔裟斗を支えようと力一杯の「魔裟斗」コールを送った

▲1R、クラウスの左ストレートが魔裟斗のアゴ先にヒット。さらにフォローの右ストレートも顔を捕らえて魔裟斗がダウン

魔裟斗のまさかのダウンに場内は騒然

全国の若者たちに問う！　キミたちは魔裟斗の試合後の涙を見て何を感じたのか？　実は「K—1ワールドMAX」の一番の見所はそこにあるのだ。

K—1初のミドル級大会。それがここまで盛り上がったのは、なんと言っても〝黒崎イズム〟という予想外のソフトが注入されたからだ。黒崎イズムなしに、K—1ミドル級大会について、ムエタイのガオランがどうしたとか、優勝したアルバート・クラウスがどうしたと語っても仕方がない。

その黒崎イズムを持ち込んだのは、魔裟斗のライバル、小比類巻貴之。彼の存在は大きい。現代の若者の中で、金とか女、物欲といったものを一切絶ち切り、あえて強さだけを求める環境に身を置いた小比類巻。それを指導するのが、極真史上でも最も厳しい苦行をしたと言われる黒崎健時だった。

黒崎先生のような人になると、現代の若者に対して絶望し、もうあきらめていると想像するのは難しくない。そんな若者に、強くなることを教える気にもならないだろう。しかし、その黒崎先生が小比類巻を迎え入れた。それだけで、小比類巻幻想は膨らむというものである。

実際、小比類巻のような若者は、今の時代、異質な精神をもっている人間に見られる。しかし、その異質な精神は、日本人にとって、どこか懐かしいもの。だから、小比類巻がどういう生き方をしようとしているかは、子供からお年寄りまで伝わることができるし、共感を呼ぶことができる。小比類巻のような強さを求める方法論は、

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜
5・11★日本武道館

クラウスのカウンターを恐れずガムシャラに攻める魔裟斗を大声援が包む

ボクシングがベースのクラウスに対し、魔裟斗の重いローキックは効果的で、かなりのダメージを与えた

▲1回戦のラドウィックにKO勝ちできなかった魔裟斗は、その分まで気合いが入っているかのような表情だった

倒されても、最初から最後まで骨を削る闘いができる魔裟斗!

魔裟斗のパンチも何度かクラウスの顔面を捕らえたが、クラウスの巧さが連打を許さなかった

「あんなに痛いパンチは初めて」（魔裟斗）クラウスのパンチはシャープで威力も凄かった

▲チャップマンとの激闘を物語るように、クラウスの目の下は腫れ上がっていたが、表情は勝ち気で満々

この気の強さに大逆転の期待が……

日本人の原点そのものなのだ。

だから、小比類巻という人間は、TBSのあおり番組で何度も扱われることで、かなり浸透した。私自身も、「K—1ワールドMAX」の日本大会のあと、タクシーに乗ってて「あの小比類巻ってのは凄いねぇ」と何度か言われたことがある。それだけ、分かりやすいタイプの人間だってことだ。

一方、最も今どきの若者の感性を持ちながら、分かりにくいのが魔裟斗のほうである。魔裟斗は金とか、女、物欲をハデに口にする。顔もいいし、ファッションモデルを務めるほどセンスもいい。まったくもって、現代の若者を代表するような男なのだが、魔裟斗の表情や闘いっぷりを見ると、ただ者ではない芯の強さを感じる。その過剰さにおいては小比類巻のほうが、よっぽど普通に見えるのだ。

魔裟斗のこの謎を解き明かすことのほうがよほど難しい。かっこいい魔裟斗よりも、私には誰よりも多くの練習量をこなし、誰よりも勇気をもって死界に飛び込んで激しい打ち合いをする魔裟斗に興味がある。私には正直、魔裟斗のほうが現代版〝ミスター・ストイック〟に見えるのだ。

魔裟斗と小比類巻。この2人のライバル関係こそが、K—1ミドル級の面白さだ。その証拠に、この日の観客は、明らかにいつものK—1とは客層が違った。魔裟斗と小比類巻の2人が、新しい客を集めてきたのだ。きっと、ほとんどの観客はジャンルよりも、この2人を見に行ったに違いない。

つまり、これはK—1ミドル級の世界大会であって、世界大会で

魔裟斗こそ、現代版ミスター・ストイックだ！

ホホを膨らませて猛ラッシュをかける魔裟斗。しかし、パンチの技術ではクラウスが一枚上手で、最後まで完璧に捕らえることはできなかった

★第6試合/K-1 WORLD MAX 2002 準決勝戦（3分3R）
○アルバート・クラウス（3R判定3-0）魔裟斗●
<オランダ/リング ホージム> <日本/シルバーウルフ>
※採点…29-28、29-28、30-28。魔裟斗は1Rに右ストレートによるダウン1あり

はない。〝世界〟という場を通して、魔裟斗と小比類巻の2人の若者を確かめに行く場なのだ。

実際、魔裟斗と小比類巻の2人以外の選手は、どんなキャラクターで、本当に世界でどれほど強いのかはまだまだ見えにくかったため、どうやって応援していいかという戸惑いが見えた。というより、2人の日本人以外は、K―1のリングに上がる上で、まだまだプロとしてのオーラが足りない。

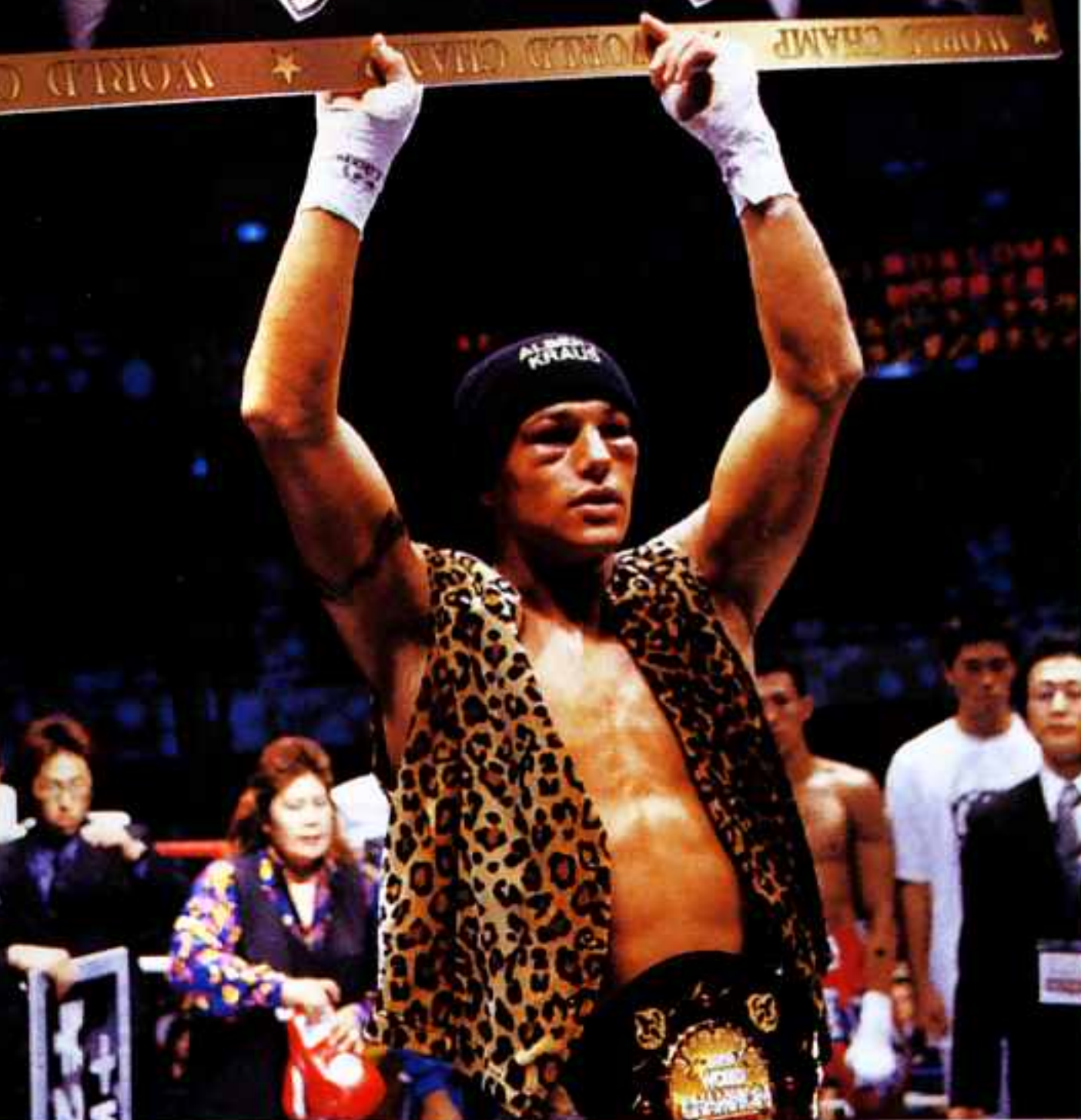
私はムエタイの伝説の男ガオランにしても、強いのか弱いのか最後まで分からなかった。ガオラン本人が放つ光が特別ではないのだ。おそらく、ガオラン個人が強いのではなく、ムエタイが凄いのであって、ガオランはきっとそのムエタイを完璧に身に付けている選手なのだろう。私は現時点で、ガオランの強さをそう解釈した。

準決勝で魔裟斗と対戦したアルバート・クラウスもそう。ルックスは抜群にいいのだが、どこか芯の強さが感じられない。魔裟斗も同じことを感じたのか、クラウスに関して質問された時も「この時期、記者会見のためにわざわざ日本に来るようなヤツには絶対に負けない。広島にK―1（ジャパン）見に行っている余裕なんてないはずですよ」と発言している。魔裟斗にとっては、一番負けたくない相手というより、眼中にすら入っていなかった。魔裟斗は準決勝の相手を、オーストラリアのチャップマンだと想定していたのだ。

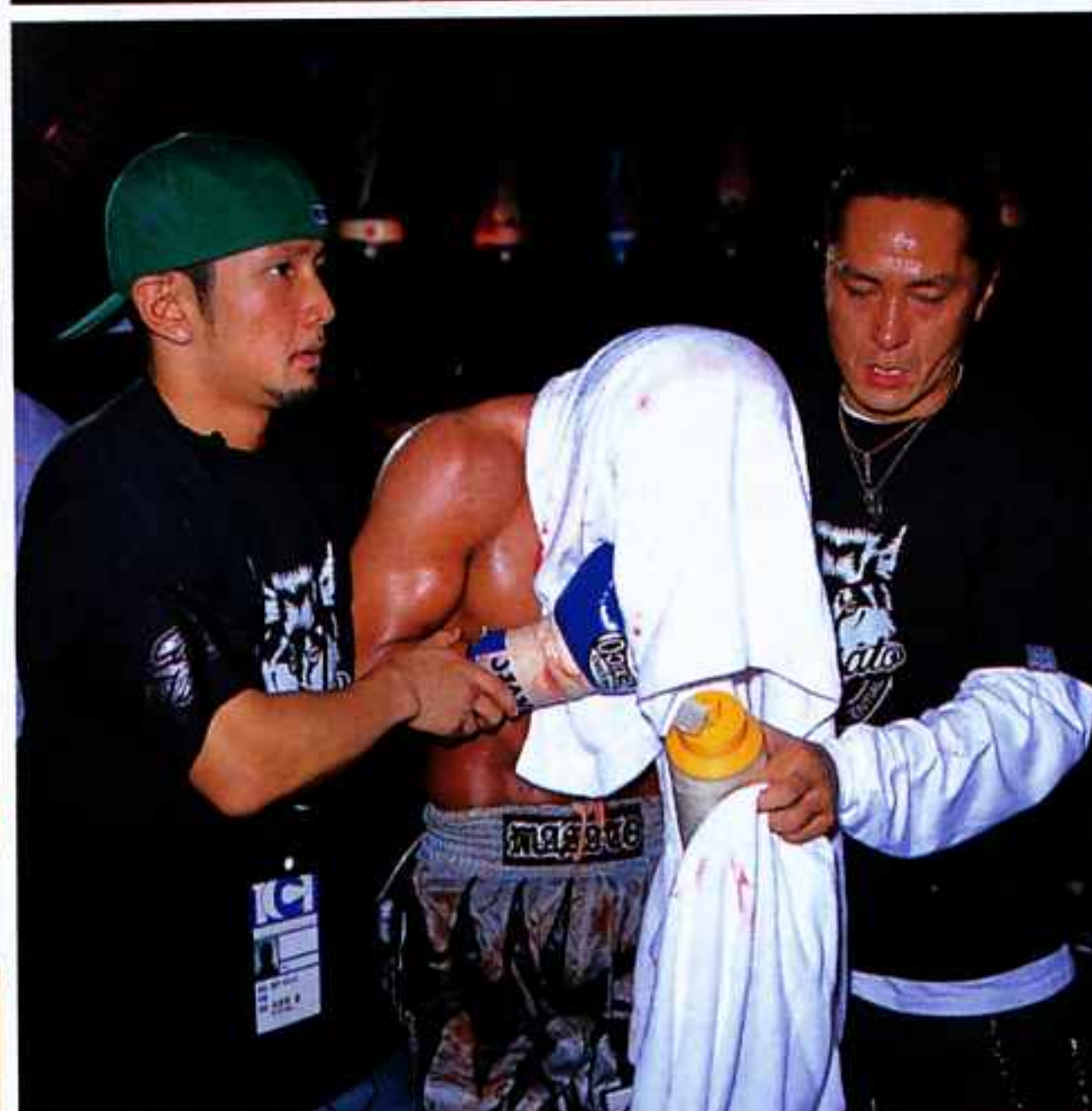
しかし、クラウスの芯の強さは感じないものの、ボクシング・センスは予想以上のものがあった。パンチのまとめ方と、当てる角度

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜
5・11★日本武道館

K―1ミドル級GPで、誰が最強というよりも、魔裟斗、コビを通して現代の若者を確かめろ！

優勝を宿命と考えていた魔裟斗は、負けを確信しボウ然と虚空を見つめる

▲優勝賞金1000万円を手にしたクラウス。使い道に関して聞かれると「とりあえず貯金します」と21歳ながらも妻子持ちらしい堅実な答えをしていた

▶終了と同時に勝ちを確信するクラウスは、両手を上げて勝利をアピール

▶判定3―0。勝利のアナウンスに安堵の表情を見せるクラウス。魔裟斗の目には無念の涙が

▲試合後、魔裟斗は涙を隠すようにタオルを頭からスッポリと被って花道を帰っていった

◀3位の賞金は75万円。優勝とは実に大きな差がある。これが勝負というものなのだ

が抜群にいい。しかも、試合後の魔裟斗のコメントを聞く限り、パンチ力も相当なものだという。トータルな攻撃力と練習量では自信のあった魔裟斗だが、真っ向打ち合いに出て、1R初っぱなにまさかのダウンを食らってしまった。

「こんなヤツに負けてしまうのか」

きっと魔裟斗も見る側もそう思っただろう。だが、ここからが魔裟斗の凄いところ。試合時間めいっぱいの3Rのゴングが鳴るまで、鼻は折れ、顔を腫らしながらも、魔裟斗はガンガン前に出た。あの気の強さがあれば、魔裟斗は逆転するんじゃないかという期待感を最後まで抱かせた。魔裟斗の試合は、そうやっていつでも、観客を釘付けにするのである。

やはり、ただ者じゃない。魔裟斗の準決勝敗退は決して悪い結果ではない。ここで次に出て来る小比類巻が勝って、魔裟斗と小比類巻の立場が逆転すれば、K―1ミドル級の世界はさらに爆発する。その結果のほうが、魔裟斗が追い込まれて、まだ表に出ていない自我が見えてくるからだ。

しかし、次の準決勝の小比類巻も、ムエタイのガオランにあっさり負けた。魔裟斗と小比類巻の、この負けっぷり、そして試合後の表情がこの大会のクライマックスだった。2人の内容に判定を下すとしたら、今日は魔裟斗の勝ちだ。魔裟斗の準決勝敗退は順当だが、小比類巻には奇蹟を起こしてほしかった。試合後、人目をはばからず涙した魔裟斗。クラウスのパンチで、鼻骨骨折だけではなく、奥歯2本が吹き飛んだことが、試合後に判明した。（谷川）

クラウスのコメント

世界中で一番幸せな人間はボクだと思うよ

――優勝した率直な気持ちをお願いします。

クラウス 今、世界中で一番幸せな人間はボクだと思うよ。

――3試合を闘って、一番の山はどこでしたか？

クラウス みんな強かったので、誰が強かったとか、どの試合が大変だったかなんていうのはないよ。

――1回戦は苦戦しているように見えましたが、3Rが終わった時点で、自分が勝ったと思いましたか？

クラウス チャップマンの攻撃はきつかったけど、きちんとガードしてたので心配ないだろうと思っていた。

――目の周りが腫れていますが、それはどの時点で？

クラウス 最初の試合で受けた傷がもとになっていると思うけど、そのあとにも攻撃を受けたので、それが全部重なってこういう形になったのかな。

――魔裟斗選手の印象は？

クラウス とてもいい選手だね。そして、とてもいい青年だと思う。強かったよ。

――具体的にどこが強かったですか？

クラウス ボクシング的なパンチを交えた攻撃が強かった。

――ローキックは効きました？

クラウス 少しは効いたけど、まあ大したことはなかった。

――決勝戦のガオラン選手の印象は？

クラウス とても強い選手だったよ。ただ、こういった試合には、運がつきものだからね。

――優勝できた要因は？

クラウス 常に選手というのは変化し続けるもので、今日はボクに運が向いていた。ラッキーだったね。

――ガオラン選手の弱点はどこでしたか？

クラウス ボクシング的な部分が弱かったと思う。ヒザやキックに関しては、それなりのものを持っていたと思う。

――ボディへの攻撃が有効に見えましたが？

クラウス 背の高い選手だったので、上のほうをガードしていたので、下のほう（ボディ）を狙ったんだ。

――K―1大国オランダにまた1つ勲章が増えましたね。

クラウス 嬉しいよ。ピーター・アーツのような選手が出た国なので、そこにボクの名前が加わったことが嬉しいね。

――準決勝が終わったあとに、どのくらいダメージがありました？

クラウス その時点では、特に何も感じなかったけど、リラックスした時に少し痛くなったくらいかな。

――試合が終わってから、ご自分の顔を見ましたか？

クラウス カメラのモニターを通して少し見たけど、まあヒドイ顔をしていると思ったよ（笑）。でも、どんな試合でもこういう顔になるし、何週間かすれば元に戻るよ。

――1日に3試合というのは初めてですか？

クラウス 1日に3試合をするのが初めてってだけでなく、K―1に参戦するのも初めて、日本で闘うのも初めて。全てが初めての大会で、それに成功が加わって終わったね。

――日本のファンにアピールできたと思いますか？

クラウス ボク自身では分からないけど、自分の持っているものを全て出したので、日本で有名になれることを願っているよ。

――妻や子供がいることは勝つことへの励みになりました？

クラウス そうだね。家で待っている妻や子供に、いい結果を見せられるようにと、自分のベストを尽くしたから。

――今回、アーツ選手と一緒に練習されたと思いますが、アーツ選手に言いたいことは？

クラウス まず最初に「ありがとう」と言いたい。細かいことまで面倒を見てくれて、いろいろしてくれて感謝しているよ。オランダでもトレーニングをしてくれたし。

――魔裟斗選手が「こんなにパンチ力が強い選手はいない」と言ってましたが、そのパンチ力の秘訣は？

クラウス もしかしたら、同じ程度かもしれないよ。彼も非常にパンチの強い選手だった。今回は、運も味方してくれたしね。

――賞金は何に使いますか？

クラウス とりあえず銀行にでも貯金するよ（笑）。■

魔裟斗のコメント

俺も子供を作れば勝てたかもなぁ（笑）

――3Rが終わった時点では、引き分けだと思いましたか？

魔裟斗 いや、俺は2Rの段階で勝てなかったら、負けだなぁと思っていたんで。やっぱ、パンチの技術が向こうのほうが一枚上手でしたね。あんな痛いパンチ食らったのは、初めてです。ジャブが、向こうのほうが入るから、それで向こうはタイミングがとれるけど、俺はタイミングがズレちゃうんですよね。自分のジャブが当たらないで、向こうのパンチが当たるから。パンチの技術で負けたなぁっていう。いつもパンチの打ち合いで負ける気はしなかったですけど、相手のほうがうまかったから。パンチ、強かったですよね。根性ありましたよ、あの選手。

――自分の右ローキックが効いてたっていう感触は？

魔裟斗 う～ん。いや、でも、セコンドは「効いてる」って言ってたけど、これじゃ倒れないだろうなっていう感じはしてましたね。

――1Rのダウンはスリップですか？

魔裟斗 いや、効きましたよ、効きました。1Rで右目にパンチが当たった時に、目がぼやけちゃって。

――1回戦も予想以上に苦戦しました？

魔裟斗 いや、1回戦はリングに上がった時には、まったく問題ないと思って。1Rとか、ちょっと遊びのつもりでやってたら、エンジンのかかりが遅くて、そのまま3Rまでダラダラいっちゃったっていう感じですね。始まった瞬間、向き合った瞬間に力の差が分かったんで。

――1回戦で予想以上に体力を使ったのでは？

魔裟斗 1日3試合経験したんで、疲れはそんなになかったですね。

――準決勝が始まる前の心境は？

魔裟斗 ぜんぜん平常心。なんかまぁ、今までやってきた外人と一緒だろうなあって。

――ファーストコンタクトの印象は？

魔裟斗 けっこう圧力があったし……、下がってましたっけ？　俺が外人相手に下がるのは初めてじゃないかな。圧力あって、凄ぇ根性あった。あれですよ、きっと。子供がいるか、いないかの差ですよ。俺も子供を作れば勝てたかもなぁ（笑）。あんな顔を腫らしてね、普通の外人だったら、たぶんやめてると思いますよ。

――判定で負けが決まった瞬間の気持ちは？

魔裟斗 う～ん、悔しいっていうか。分かんないけど涙が出てきた。試合で泣くのなんて初めてじゃないッスかね。

――やはり悔し涙ですか？

魔裟斗 うん。痛くて泣いてるわけじゃないッスよ（笑）。悔しいっていうか、何か分かんないけど、とにかく涙が出てきた……。

――「魔裟斗コール」は聞こえました？

魔裟斗 うん。ちょっと優しかったですよね。

――今後は？

魔裟斗 いやぁ、今は何も考えたくないですね。今は頭の中、真っ白ですね。

――ファンに対して何かありますか？

魔裟斗 う～ん。俺のことを期待してくれたファンには、期待を裏切ってごめんなさい。

――ケガの状態は？

魔裟斗 まだ見てもらってないんですけど、また鼻が折れたかなぁと。

――試合前、「優勝したら賞金で買おうと思っているものがある」と言っていましたが？

魔裟斗 ベンツのSL。

――それは次回に持ち越しですか？

魔裟斗 それも悔しいな（笑）。俺、明日は8件くらい取材あるつもりでいたし、その予定がなくなってヒマになるのがイヤですね。ヒマが嫌いだから。■

K-1 WORLD MAX 2002
〜世界一決定戦〜
5・11★日本武道館

黒崎先生、今日の小比類巻は泣けましたか？

TWINS SPECIAL

ムエタイの裏技で肋骨にヒビが！ だが、これは小比類巻がやるべき戦法だったはず

クリンチでもつれ合い、マットに倒れ込む両者。この時、上になったガオランは小比類巻のボディめがけてヒザを叩き落としている。この裏技で、小比類巻はアバラを負傷

準決勝で、魔裟斗が負けた。クラウスのパンチでダウンを食らい、嗚咽をもらしながらリングを去る光景はとてつもなくショッキングなものだった。

そして、もう一つの準決勝、小比類巻VSガオラン。残されたたった一人の日本代表として、小比類巻にかかる重圧はどれほどのものだったんだろうか。だけど、そんな悲愴感いっぱいの姿にこそグッとくるわけだ。

が……。入場してくる小比類巻は、その表情こそ気合いに満ちているものの、体全体から発する雰囲気はなぜかノリノリ。テクノ風のテーマ曲に合わせて肩でリズムを取っているようにも見える。プレッシャーなど微塵も感じていないかのようだ。なんで？

あれっと思うシーンは、試合中にもあった。

2R。クリンチでもつれ合った小比類巻とガオランは、そのまま転倒。その瞬間、ガオランは小比類巻のワキ腹のあたりにヒザを叩き落とした。この裏技で、小比類巻は肋骨にヒビが入り、決定的なダメージを負ってしまう。

これが、ムエタイというものなのだ。サッカーで言う〝マリーシア（ズル賢さ）〟こそムエタイの神髄かもしれない。相手が出血したら、グローブの紐の部分でこすって傷口を広げるようなことまで平気でするのである。

しかし、それは逆に小比類巻がしなければいけないことだったんじゃないかとも思う。少なくとも小比類巻の師匠・黒崎健時という人は、そこまで考えていたはず。かつての黒崎健時の愛弟子である

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜
5・11★日本武道館

敵に背中を見せてダウンした小比類巻 この試合に黒崎イズムはあったのか？

ガオランの執拗なヒザに、小比類巻はついにダウン。敵に背中を向けて倒れる姿は、あまりにも弱々しかった

▲ワキ腹を傷めた小比類巻を、ガオランは徹底したヒザ攻撃で苦しめる。小比類巻は表情も動きも、まったく精彩を欠いていた

★第7試合/K-1 WORLD MAX 2002 準決勝戦（3分3R）
○ガオラン・カウイチット（2R2分42秒、KO勝ち）小比類巻貴之●
<タイ/ペッチンディー ボクシング プロモーション> <日本/黒崎道場>
※2ノックダウン。小比類巻は2Rに右ヒザ蹴りと左ヒザ蹴りでダウンを喫した

▼ファーストダウンの直後、またしても背後からヒザを回されて2ノックダウン。日本勢全滅の瞬間である

たった一人で日本を背負う重圧！ なのに小比類巻はノリノリの入場〜？

序盤の動きは悪くなかった。上体を揺らす独特の動きから鋭いローを打ち込む

◀肋骨にヒビが入った状態で、閉会式にも出た小比類巻。それだけで凄いと言えなくもないが……

▲魔裟斗が敗れ、たった一人で日本を背負って闘うことになった小比類巻だが、入場時は音楽に合わせて肩でリズムを取ったりしてノリノリ。なぜ？

▲ガオランが組んでくると、小比類巻はヘッドロックのような形で背中を向けてブレイクを待つ。が、そのスキに背後からパンチを浴びてしまう場面も

藤原敏男は、ラジャダムナンのタイトルマッチで相手をサバ折りでKOしたのだ。全体重をかけて相手を倒し、マットに後頭部を叩き付けて失神させたのである。ムエタイ以上に「そこまでやるか!?」と思わせるのが黒崎イズム。そういう思いが、僕たちにはある。

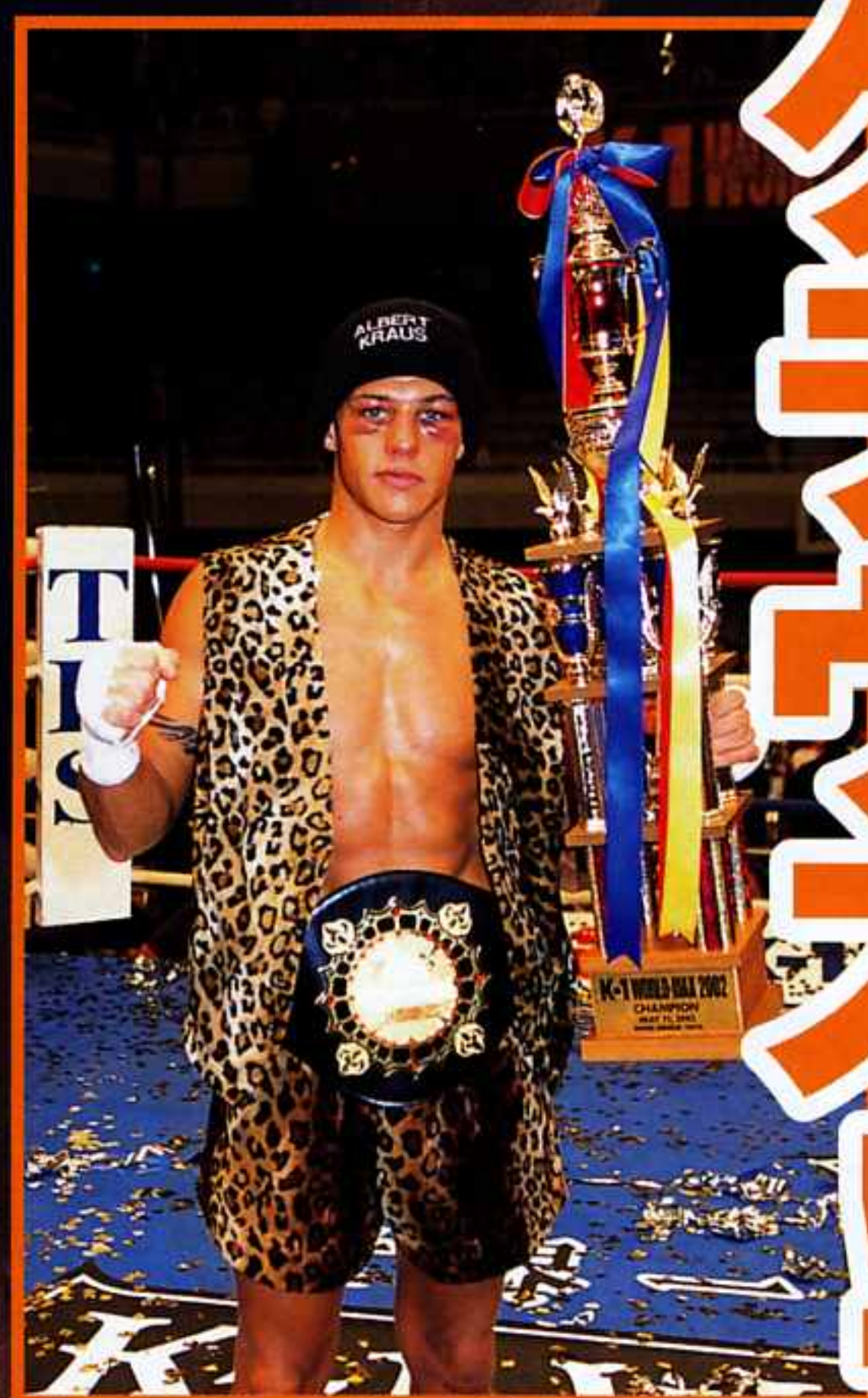
そしてフィニッシュシーン。小比類巻はあろうことか相手に背中を向けてダウンしてしまった。アバラをケガしてるんだから仕方がないとも言える。でも、小比類巻は黒崎健時の弟子なのだ。

たしかにガオランは強かった。だがそれ以上に思ったのは「何をやってるんだ、小比類巻は？」ということ。この日の小比類巻には、僕たちが考える黒崎イズム、その幻想らしきものが見られなかった。どこまでいっても等身大というか、一人の若者としての小比類巻の姿しか受け取ることができなかったのだ。小比類巻にとっての黒崎イズムって、いったい何？

これは僕個人の印象だが、小比類巻は〝ミスターストイック〟ではないような気がする。根っこの部分ではそこらにいる普通の若者と変わらないんじゃないか。ただ、それに違和感を感じたから黒崎道場に身を投じたのだ。今、小比類巻は〝普通の若者〟と〝黒崎イズム〟の間で必死にもがいている最中なんだろう。この試合は、その狭間にできたジンマシンみたいなものなのかもしれない。

黒崎イズムを自分の〝飾り〟に終わらせるのか、それともしっかりと身体の中に染み込ませることができるか。全ては今後の小比類巻次第だ。

（橋本）

K-1ミドル級初の王者もオランダ人 アルバート・クラウス！

あまりの早業に武道館ボーゼン！ クラウスの拳、ムエタイの名花をむしりとったあ!!

★第8試合/K-1 WORLD MAX 2002 決勝戦（3分3R）
○アルバート・クラウス（1R1分00秒、KO勝ち）ガオラン・カウイチット●
〈オランダ/リングホージム〉 〈タイ/ペッチンディーボクシングプロモーション〉
※ボディからのパンチ連打

たった1分で決着はついた。クラウスのパンチが4発決まると、ガオランは何の前触れもなく、前のめりに崩れ落ちる。仰向けになった体を何とか引き起こそうとしたが、その四肢はダメージによって引きつったままだった。

日本武道館に集まった観客は興奮とか、感動とかを通り越し、あっけにとられていた。ザワザワと嘆声がスタンドにうごめいて、それからタイ人がもう立ってこれないと分かると、ため息の塊に変わった。だって、この両者が世界一を争うと決まった時、誰もがガオランの圧倒的優勢を予想していたに違いないからだ。

では、どうして、こんなことになったのか？

答えは簡単である。クラウスのパンチが強すぎたからだ。そのパンチに対して、ガオランが無策に過ぎたからだ。あるいは、ムエタイの生きる伝説とまで言われた男は、パンチの威力というものをナメていたんじゃないのか。こういう結果が生まれたからには、そう思われたって仕方ない。

キックボクサーとして、両者にはそれくらいの差はあった。クラウスの闘い方は、極端な言い方をすれば、キック対応型の国際式ボクシングである。ある程度の蹴りはできるのだが、決め手は全てパンチだ。この大会前まで記録した11のKOは、ほとんどがアゴに決めた拳によるもの。本人も「一番好きな攻撃は左フックのレバーブローだ」と言っていた。

ガオランのほうは、完璧に近いムエタイスタイルだ。その動きはまさに素晴らしい。ヒジとヒザが

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜
5・11★日本武道館

わずか1分の惨劇。タイの生きる伝説の体がリングにのたうつ

▶角田レフェリーのカウントが続く。だが、タイの伝説の戦士はもう動けない、立ち上がれない

ガオランのコメント

「ショック？　負けた選手がショックを受けるのは当然のことでしょう。（決勝で）負けたのはパンチを食ったから。アルバートはとてもパンチが強い。できるならタイで、ムエタイルールで再戦したい。この大会に出てきた8人は、みんないい選手。小比類巻も力があった。私のヒザ蹴りをかなり受けたから、負けたのだろう」

▶まさかの敗戦にガオランの表情は暗く沈んだままだった。絶対の自信を持って臨んだ出場だっただけに、それも当然だ

▶「今、世界中でボクが一番幸せだ」。コーチに抱え上げられたクラウスは歓喜にむせんだ

これがワンナイト・トーナメントの恐ろしさ、そして面白さだ

◀クラウスの右フックが、ガオランのアゴにグサリ。ボディへの連打から、フォローされたこの一撃で勝負は決まった

▲深刻なダメージを引きずりながら、半ば体を引き上げたガオランだったが、レフェリーは試合終了を宣告した

▲試合開始直後はキックの応酬。蹴り勝ったのはやはりガオランだったのだが……

最大の武器と言われたが、多彩な蹴りの持ち主でもある。「ルールでヒジが使えなくても関係ない」と本人が言い切るのもうなずける。

本来の力、それに余力の差は両者の顔を見ても一目瞭然だ。予選からここまで、まったく危なげなかったガオランは、試合前と変わらぬまっさらのまま。大会一のいい男クラウスのほうはたんコブとアザだらけで、チャップマン、魔裟斗に受けた攻撃の傷痕をはっきりと残していたのである。

試合が始まって、蹴りの応酬となったが、その切れ味も断然タイ人のほうが上回っていた。

だが、だが、である。一瞬のうちに局面は変わったのだ。まずはクラウスの右ボディブローが脾臓を襲う。ここをまともに打ち抜かれると、全身が極度の倦怠感に蝕まれる。続いて左フックでレバーを狙われた。こちらは激痛が走り、まるで金縛りにあったように体が動かなくなる。ガオランの動きはここで、まったく静止してしまうのである。

こうなれば、ボクサーの拳に勝るものはない。クラウスは鍛え上げたそのパンチで、サンドバッグを殴りつけるようにトドメの攻撃に入った。すっかりガードが甘くなったガオランの左アゴに、首からねじ切るような右フックが飛び込んだ。これで決まりである。フォローの左フックは無用だった。

トーナメント戦は、結局、誰と対戦するか分からない。各選手別に対策を立てるのは難しい。だからこそ生まれたこのあっけないKO劇だったし、また、だからこそ面白いのである。

（宮崎）

さすが、魔裟斗！遊びのつもりで1回戦突破！

2・11には大"魔裟斗"コール発生！なかった

1回戦、「遊びのつもりでダラダラしてたら、エンジンのかかりが遅くなってしまった」と語った魔裟斗だが、力強いフックでダウンを奪って判定勝ちした

ラドウィックのコメント

「いい試合でした。K－1に上がることは夢でしたが、アメリカ代表として十分闘えたと思います。始まってすぐに「いける」と自分では思ったのですが、ダメージを受けてしまい、このような結果になってしまいました。結果的にフックでやられてしまったわけですが、自分では見えなかったですし、力強いパンチでした。またK－1で闘えることを望みます」

◀入場式のラドウィック。K－1に上がることが夢だっただけに、いささか緊張気味か？

▲バス・ルッテンの下でトレーニングを積み、総合格闘技の経験もあるという触れ込みのラドウィックだったが、典型的なムエタイファイターで予想以上の強さを見せた

▲結局、試合は判定までもつれ込んだが、魔裟斗の勝ち。会場の魔裟斗コールに応えて、KOで勝ち上がってほしかったが……

▼3Rにようやくダウンを奪った魔裟斗だが、その後もKOを狙って積極的に攻めていった

★第2試合/K-1 WORLD MAX 2002 1回戦（3分3R）

○魔裟斗（3R判定3-0）ドゥエイン・ラドウィック●

<日本/シルバーウルフ> <アメリカ/3-D マーシャルアーツ>

※採点…30-28、30-27、30-28。ラドウィックは3Rに左フックでダウン1あり

『K－1 WORLD MAX』のポスターに書いてある「創造」と「破壊」。まるで、ZERO－ONEのポスターのようだが、2月のK－1中量級日本大会は、キックボクシング日本一決定戦というイメージを完全に「破壊」し、K－1中量級という新しいソフトを「創造」することに成功した。

この成功に一役買った須藤元気と同じ活躍を、密かに期待されていたのが魔裟斗の1回戦の相手となったラドウィックだ。バス・ルッテンの下でトレーニングを積み、総合格闘技の経験もありと、須藤と同じようにバーリ・トゥード殺法を繰り出す期待は十分にあった。

しかし、実はこのラドウィック、典型的なムエタイファイターだった。しかもアメリカ予選では、10キロもの減量を敢行し、参戦。体力的にも魔裟斗を上回り、ムエタイファイターとしても完成された実力者だったのだ。その実力は、試合後に魔裟斗が、「1回戦は、遊びのつもりでリングに上がった」と強がりを言うほどである。これでは、小比類巻VS須藤のような、K－1的な異種格闘技戦を作れるはずがない。

それでも、魔裟斗は興行に火を付けるために何をすべきか心得ていた。倒しにいくことだ。予想以上に強かったラドウィック相手に、ようやく3ラウンドでダウンを奪ってみせたのはさすがだ。しかも、それが最終ラウンドにもかかわらず、最後までKOを狙っていったのだから、他の選手とはリングに上がる意識が違う。それをハッキリと見せてくれたのが、この第1試合だった。

（小松魔裟夫）

クラウスの『世界一』への道の

K-1 WORLD MAX 2002 ～世界一決定戦～

5・11★日本武道館

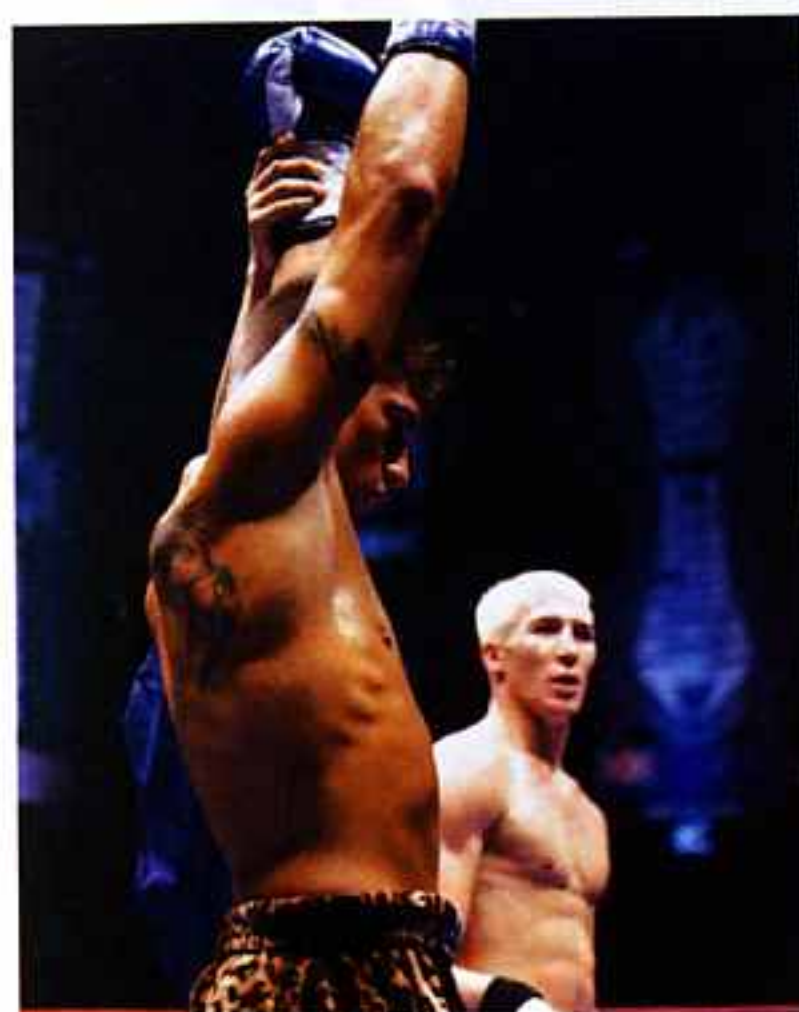
強靭、強引、クラウスの連打に 豪州ムエタイ戦士チャップマン初戦敗退

クラウスの激しいパンチ攻撃に、後退するチャップマン。常に前に出て試合を作っていたのは、やはりクラウスだった

チャップマンのコメント

「思っていたほど、クラウスにはパンチはなかった。正直に言って、オレが勝っていたと思う。たしかにクラウスは常に前に出ていて、攻勢をかけているように見えたかもしれないが、オレの攻撃は十分にダメージを与えられていたはずだ。こういう判定は理解に苦しむ。もちろん、リマッチしたい。そして完璧にぶちのめしてやりたい」

あまりにも苦しい王座へのスタート、オランダ人の闘志が全てを救う

▲判定は僅差ながら3―0でクラウスへ。チャップマンは明らかに不満そうだった

◀本場タイでも武者修行を重ねてきたチャップマン。その風貌はムエタイ戦士そのままだ

▶大会一の美男子クラウスが、評判どおりの美顔だったのは、1回戦を闘う前までだった

▲クラウスの肩越しに、ニュージーランド人は右クロスを打ち込む。この男は来年、もっと強くなっているに違いない

チャップマンの鋭いハイが襲いかかる。大会直前に評価が急上昇したチャップマンは、たしかにそれだけの技術を見せた

★第3試合/K-1 WORLD MAX 2002 1回戦（3分3R）
○アルバート・クラウス（3R判定3-0）シェイン・チャップマン●
<オランダ/リング ホージム> <ニュージーランド/フィリップラム リー ガー ジム>
※採点…30-29、30-29、30-29

クラウスの『世界一』への道のりは、最初にこんな苦難の扉が用意されていた。なんとも分厚く、その上、鍵穴の作りは緻密だ。オランダ人得意のパンチでぶち破ろうにも、錠前をこじ開けたくとも、この壁は堅牢で精巧だった。チャップマンは、それほど強かった。

大会出場メンバーが発表された頃、このチャップマンは無印に近い存在だった。ところが、直前になってその評価は急上昇してくる。「なかなか上等に仕上がったムエタイ戦士らしい」「一撃必倒のパワーも秘めた、技の使い手だ」。そんな噂をあちらこちらから聞いた。本場タイで修行を重ね、母国では香港からやってきたコーチに、拳法の奥義も習ったという。噂がでまかせではないことは、開始と同時にすぐに分かった。

183センチの長身から、鋭いキックを連発してくる。ミドル、ハイと実に柔らかな線を描いて、クラウスの体に襲いかかる。クラウスは初回に蹴り込まれた急所のあたりをやたらと気にして、なんだかもう、精神的に追いつめられたようにも見えた。

しかし、この苦境を救ったのは、クラウスの闘志と粘り強さだった。初回から左のボディフックを叩き込み、その後も前進に次ぐ前進。常に一歩前にと出てくる相手に、ベストのタイミングで攻撃を集めることは難しい。チャップマンの力強いキックも、どうしても決定打にならない。

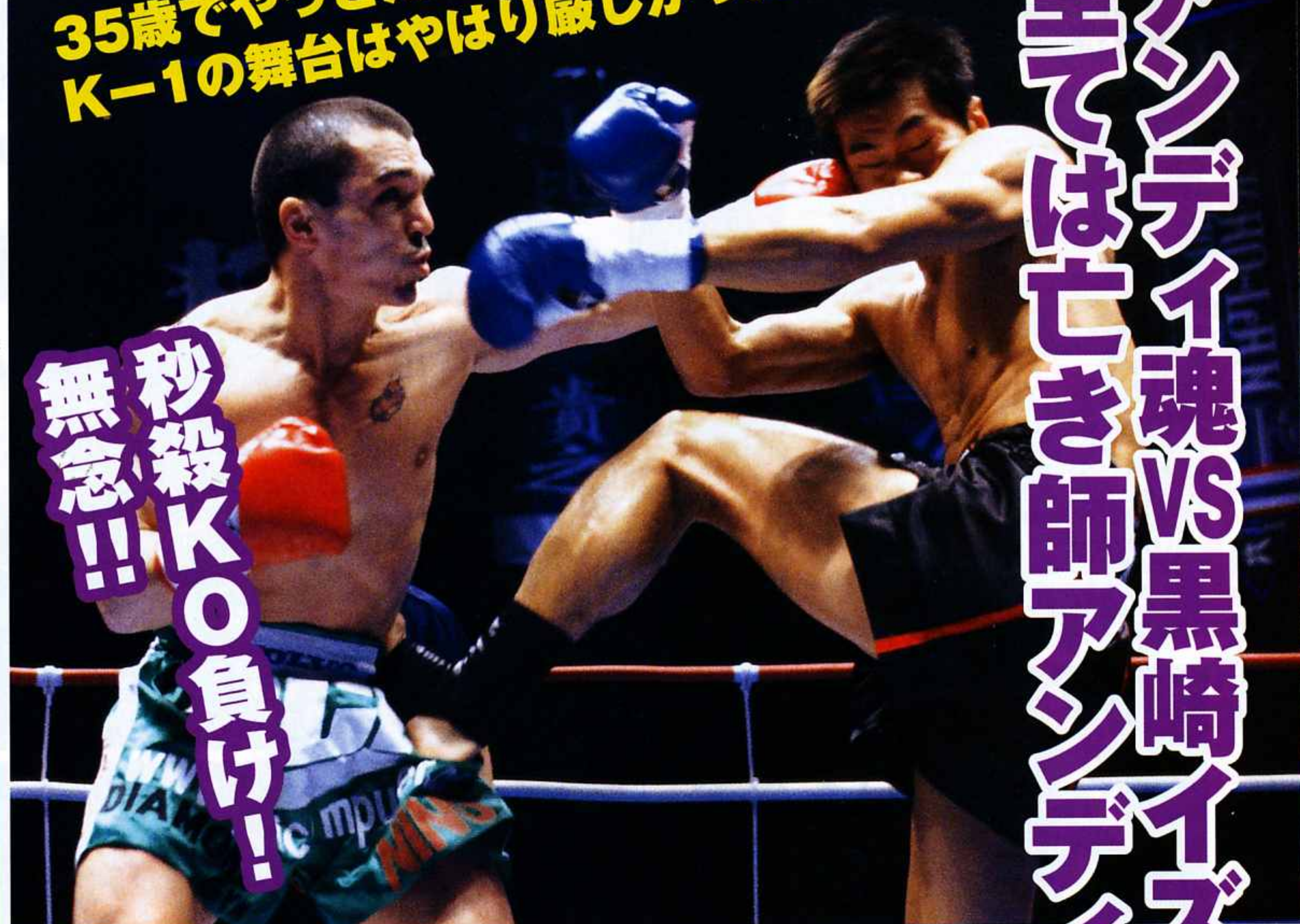
3R、勝負を賭けたクラウスの強引とも思える攻撃を、チャップマンはコントロールできないまま試合は終わってしまった。（宮崎）

アンディ魂VS黒崎イズム勃発！全ては亡き師アンディのため!!

35歳でやっとたどり着いたK−1の舞台はやはり厳しかった

秒殺KO負け！無念!!

マリノのコメント

「コヒルイマキはとても強い選手だった。素晴らしい勝ち方だと思う。ヒザの攻撃については2、3回もらって息ができなくなってしまった。完全に参ってしまったな。私もまだ選手生活を続けていきたいと思うし、ヨーロッパでの試合の予定もある。まだまだ上を目指していきたい」

▲一度は小比類巻に勝っているマリノ。積極的に攻撃を出していったのだが……

◀全ての技を解禁した小比類巻はいきなりヒザ蹴りを繰り出していく

▲マリノのパンチに合わせて出したヒザがボディに突き刺さる。たまらず、マリノは身体をくの字に曲げる。小比類巻はさらにミドルキックを放ち、倒れたあとも蹴りを出していく。その気迫も凄かった

★第4試合/K-1 WORLD MAX 2002 1回戦（3分3R）

○小比類巻貴之（1R1分12秒、KO勝ち）マリノ・デフローリン●
＜日本/黒崎道場＞　＜スイス/チーム・アンディ＞
※左ヒザ蹴り

▲アンディの入場曲が流れる中、空手衣を着て花道に登場したマリノ。切迫感あふれる、いい入場シーンであった

小比類巻がやってきた！〝ミスターストイック〟小比類巻貴之がやってきた！

まったくこのご時世に、〝朝5時起床＆裸足で掃除〟が必須という鬼の黒崎道場に入門した、見ていて心地よいキックバカの彼。その背中には、黒崎イズムという看板が背負われているのである。

だが、対戦相手のマリノもそれは同様。今は亡き師アンディ・フグの遺志を継ぐという決意を持ってこの舞台に上がっているのだ。

互いに看板がかかった負けられない闘い。だが、入場シーンを見る限り、妙に踊っているような足取りで花道を歩いてきた小比類巻より、アンディの曲が流れる中、空手衣着用で入場してきたマリノのほうが明らかにミスターストイックであり、切迫感があった。

それはそうだろう。アンディの遺志を継ぎたくとも、マリノの身体はミドル級。どう考えてもヘビー級のK−1には出場できない。その悔しい思いを何年も抱えながら、35歳にしてやっとこのチャンスを得たのだから、何がなんでも勝ちたいに決まっている。

だが、勝負は非情なもの。マリノは開始早々から小比類巻のヒザをボディに食らい、秒殺KOされてしまったのである。

試合後、控室に入る手前で大きく叫んだマリノ。彼はこれからどうするのか？　再び、K−1に出るのか？　それとも黒崎先生がしたように弟子を育ててK−1リベンジを果たすのか？　いずれにせよ、こういう男たちの意地と意気地がリングを輝かせるのである。

今後のマリノに期待大！（ブチ）

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜

5・11★日本武道館

木村健吾がスカウトに動くか？
手からイナズマを出す男・ジャポー大健闘!!

イナズマ!!

サイドキックも多用したジャポー。変則的な動きでムエタイチャンプの牙城を崩そうとする

ジャポーのコメント

「ガオランは非常に強かったよ。散打のルールでやれば勝てると思うけど、自分の技術が出せなくて残念だ。散打のルールではヒザ蹴りが禁止で投げがある。だから、このルールだったら勝てたと思うよ。だけど、また、K－1に参加したいと思うんで、次回、機会があればもっと訓練を積んで散打の素晴らしさを見せたいと思うよ」

▶サテン地の衣装を身にまとい、『プロジェクトA』の曲で入場してきたジャポー。いやが上にも期待感が高まるリングインであった

これがイナズマだ！　まあ、非常に反則気味のオープンパンチであったわけである

▲バックハンドのイナズマ？　でたらめな攻撃だがジャポーはガオランの猛攻をなんだかんだでよくしのいだ

▶この異様なガードを見ても分かるとおり、ジャポーは本能で闘っている感じであった

▲結果は危なげなくガオランの判定勝利。とはいえ、よく3R闘い抜いたものだ

◀本場ムエタイのヒザ蹴りは強烈。散打ルールではヒザが禁止であり、この攻撃には相当翻弄されたジャポー

★第5試合/K-1 WORLD MAX 2002 1回戦（3分3R）
○ガオラン・カウイチット（3R判定3-0）張加潑●
＜タイ/ペッチンディー ボクシング プロモーション＞＜中国/中国武術協会＞
※採点…30-28、30-27、30-27。張は2R、3Rにホールディングによる警告あり

手から稲妻を出す男、ジャン・ジャポー。イロモノ系格闘家の香ばしい匂いがプンプンするこの男が、ムエタイ・チャンプのガオランと対戦したら、1Rも保たないんじゃないか？　きっと誰もがそう思ったはずだ。

　実際、ゴングが鳴って早々にガオランが繰り出した顔面への鋭い前蹴りや、首相撲からのヒザ蹴りを見て、さらにその思いは深まるばかりであった。

　だが、ジャポーはよく粘った。それどころかオープン気味のパンチを振り回して攻める場面すらあったのだから怖れ知らずだ。

　とはいえ、2Rになってからはクリンチを多用して試合をダレさせてしまったジャポー。観客からは「手から稲妻を出せ！」とか、無茶な要求をされたりはしたものの、結局、ムエタイ王者を相手に3Rを闘い抜いてしまったのだ。もちろん結果は0―3の判定負け。とはいえ、2回戦で小比類巻を1RKOしたガオランの強さを考えれば、ジャポーのタフさは大したものだったと言えるだろう。

　ガオランのどこかオドオドした顔つきとは対照的に、訳もなく自信満々だったリング登場時の顔つきも含めて、中国4000年の歴史を良くも悪くも背負い切った闘いぶりだったと改めて思うのだ。

　そして願わくば、新日本プロレスのスカウト部長・木村健吾氏（足からイナズマを出す男）が、ジャポーの闘いぶりを見て、新日入団へと動いてくれたりしたら、さらに一層面白いと思ったりしたのである。

　永遠なれ、イナズマ！　（ブチ）

KO賞30万円が夢と散る

大野を包んだ"ため息と歓声" 「あ～っ、あと一発当たっていればなぁ……」

◀「最初は雰囲気に飲まれて酔っぱらっているような感じだった」とチャンプア。大野のパンチに何度ものけぞりながらもギリギリのところで持ちこたえた

▶一度ダウンを奪われてからも守ることなく打ち合いを挑んでいった大野。そのファイトはリザーブマッチとは思えないほど、観客を熱くした

▲大野のパンチからのハイキックも惜しかった。チャンプアが倒れなかったのは賞金への執着か

▶KO賞の30万円は、あと一歩のところでチャンプアに行ってしまった

「もう倒れるだろうと思ったら自分が倒れていた」（大野）。まさにその言葉どおりの紙一重の激闘だった

2月の日本代表決定トーナメントでは初戦の新田明臣をKOで下し、準決勝の小比類巻には惜敗したものの、倒すか倒されるかのド突き合いで観衆を魅了した大野。その大野がリザーブファイトで出場した今大会のオープニングマッチでも、またまたやってくれた。対戦相手は、チャンプア・ウィラサクレック。ラジャダムナンとルンピニーでランカーになっている、ガオランと比較しても遜色ない実力者だ。そんな強豪を相手に、大野は真っ向勝負を挑んだ。開始直後からパンチやハイキックでチャンプアをグラつかせ、一気にヒートアップする観客。次の瞬間には、逆にマットに這わされ、それでも立ち上がるや防御もせずに攻める大野に、観客は完全に釘付けだ。「距離を取れ、ガードしろ！」そんな周囲の声など耳に入らない。「KO賞の30万円はオレのもの」と言わんばかりに、ひたすらKOを狙うのだから気持ちいい。惜しくも30万円は逃したが、大野が多くのファンを得たのは間違いない。（林）

★第1試合/K-1 WORLD MAX 2002 リザーブファイト（3分3R）
○チャンプア・ウィラサクレック（1R1分48秒、KO勝ち）大野 崇●
<タイ/ウィラサクレック ムエタイジム>　<日本/BENEC>
※2ノックダウン。大野は1Rに右ストレートと左ストレートでダウン

8450人が初のK-1中量級王座決定戦に熱い声援！

▲開会式では8人が舞台の上に。司会はもちろん渡辺いっけいが務めた

テレビ中継のゲスト解説は畑山隆則

▲休憩時間にはテコンドーの見事な演武が行われた。テコンドーの選手が中量級GPに出てきたらどんなファイトをするのか、ちょっと見たい気もする

▲K-1ジャパンのトップ2？　中迫剛と武蔵も並んで観戦

『プライド』やヘビー級のK-1ともまた違った客層と思われるが、日本武道館は完全に満杯。8450人超満員札止めと本当によく入っていた。若い女性客もかなり多かった

これだけ中量級が面白いんだったら、総合の中量級も絶対に面白いと思う

石井館長総括

―日本人選手はいかがでしたか？

石井館長　いや、コヒを1回戦見た時は「これは行くなぁ」と思ったんですけど、あれやっぱりボディが効いたのかな、最初のヒザ蹴りが。ずっと後ろ向いてたでしょ。リズムが狂っちゃうんだよね。まあ、コヒはなんだかんだこれから発展途上ということで、たしかにローキックとかいろんなものは発達してるけど、これからK―1で勝つにはパンチをマスターしなくちゃいけないということでしょうね。

―ガオランの闘い方というのは、ムエタイ独特な感じですか？

石井館長　そうですね。ムエタイの闘い方ですから。だから、ガオランとコヒはがっぷり四つというか、手が合うんですよ。手が合うとやっぱりガオランには勝てない。つまり、ガオランに勝つにはああいう中国武術みたいにまったくリズムを乱すか、それか、いわゆるパンチで倒すか。タイ人に勝つにはパンチですね。だから、魔裟斗のほうがまだガオランを倒すチャンスがあったかも分からないですよね。

―初めての大会でクラウスが優勝したという結果についてはいかがですか？

石井館長　いや、僕は全然満足してますけどね。やっぱり彼は強いブロックで、チャップマン、魔裟斗そしてガオランを破っての優勝なので、本当に3人とも強いのと当たったので文句のない優勝なんじゃないですか。だから、終わってTBSの人が矢継ぎ早にインタビューしてたけど、放心状態だと思いますよ。だから、あそこに決勝のリングに立てるという精神力は凄いと思いますね。たぶん、両目ももう少ししたら下が腫れてるから見えないだろうし。あの状態で立って、ガオランを倒しに行ったんで、本人は絶対に速攻だと思ってたと思うんですよ。たぶん、魔裟斗のローキックも効いてたでしょうし、あのローキック効かされて、ヒザ蹴り食らうとダメなのでその前に行っちゃおうっていう感じで、あの辺の勝負勘と度胸というか、文句なしの優勝じゃないかと思いますね。ガオラン選手があんなにパンチの連打をもらったことなかったと思うんですよね。まあ、魔裟斗選手はガオランを破ったクラウス選手とホントに僅差だったんで。あれは左のショートストレートというか、足が揃ったところにもらっちゃったんで、すぐに立てなかったと思うんですけど。出会い頭のカウンターなんですけど、あれが致命的なやつですね。

―5Rあるとどうでしょうかね。

石井館長　5Rあると、足も効いてたでしょうし、あとはボクシングの選手に外側を蹴っていったんで、できれば内側をね、技術的なことになりますけど内側を蹴っていくと右が流れちゃうんで、パンチが打てないんですね。ミドルを蹴る作戦は良かったと思いますけど。やっぱり、クラウス選手の圧力が結構あったなぁと思いました。ローキックを蹴るとですね、バランスが崩れるんで、すぐに自分のパンチの体勢に戻れないんですね。それに比べてクラウス選手はどっしりと構えてパンチしか狙ってませんでしたから。薄いメキシコ製のグローブの特徴をよく考えて、パンチで倒しに行ってましたね。だから、魔裟斗選手がじっくりクラウス選手とローを捨ててパンチだけで向き合ってたら分からなかったと思います。魔裟斗選手もクラウスを倒せるだけのパンチ力がありますから。その辺のちょっとしたことだなぁと。最後効いてたんで、あれが最初から出とけばなぁと思いましたけど。ローで行ってて、バランス崩してパンチでバッと押されちゃうとパンチで自分が負けてるような錯覚を起こしちゃうんですね。だから、逆にローを蹴るんだったら、パンチを捨ててガードしてローに徹してないといけないし、昔、小比類巻が闘ったみたいに。あんなにパンチの連打で来る選手に、ローとパンチのコンビネーションで倒すっていうのはなかなかできないと思いますね。

―いろいろ選手の課題も出てきましたね。

石井館長　そうですね。だから、5Rあれば、最後の4、5Rと効いてきますけど、3Rではなかなか。まあ、でもクラウス選手をあそこまで追いつめたんですけど、魔裟斗選手も世界まであと少しのところにいるんで、ちょっとした努力と思うので諦めないで頑張ってほしいなと。やっぱり初めての大会で優勝しちゃうっていうのは、あまりにも手に入れすぎってもんですよ。やっぱり彼が初めて味わった挫折だと思うんで、この挫折でホントに反逆のカリスマだったら、これをどういうふうに自分で立ち上がっていくかがスタートだと思うんで、こんな悔しいことないと思うんですよ、本人は。終わって泣いてたんですけど、あの涙が彼を成長させてほしいなと思います。中量級の闘いは始まったばっかりなんで、もっともっと世界中から強いヤツが出て来ますから。あとキックの団体の人たちがムエタイ神話だけじゃなくて、もっと世界に目を向けて、日本発世界に強い男をっていうのを目指してほしいなと思いますし。日本のキックのレベルはそれくらい高いと思いますよ。

―次回は来年ですか？

石井館長　そうですね、ちょっとじっくり育てたいなというふうには思ってるんですけど。まあ、見たいのは見たいんですけど、もう1回ワンマッチでゆっくりと。クラウス選手と魔裟斗選手のリマッチも見たいし。見たい試合はいっぱいあるんですけど。

―ワンマッチをどこかの大会に組み入れるとか。

石井館長　いや、K―1のヘビー級の中では組み入れないで、中量級は中量級で分けて独自にやっていきたいと思います。このクラスで定着させたいなと考えてます。そのほうが面白いですから。これでヘビー級の試合を1試合入れたり、ヘビー級の中に入れたら死んじゃいますから。この目線のこの大きさに慣れてお客さんは見てるんで面白いと思うので。

―これから中量級をこうしていきたいというのはありますか？

石井館長　中量級はやることがいっぱいありますよね。今まで10年間のK―1のノウハウがありますから、それをそのまま中量級に持ってきて、こんだけ選手層が厚いわけですから後は誰が強いのか、誰を目指すのかというベスト3とかベスト8が見えてくるとお客さんが感情移入しやすくなりますから。そこへいろいろ空手の人とか、あるいはまだ見ぬブラジルのバーリ・トゥーダーとかですね、いっぱい出てきてね。またプロレスラーの中量級が出てきたら面白くなると思うし。誰よりも見ている人たち、僕でも出れるし。ウェイト落とせば出られるじゃないですか（笑）。ミドル級ってみんなが闘えるというか、誰でも出れるクラスなんですよね、頑張れば。だから等身大というか、面白いなと僕は凄くいいと思いますね。ヘビー級の神に選ばれたというか、凄い奴らが闘っているというのはないんですけど、このスピード感とか動きはブラウン管スポーツとしては優れてるんじゃないかと思います。

―判定が多かったのは実力が競っていたからですか？

石井館長　そうですね。それとみんなよく頑張ったと。1回戦の中国武術だってあれは効いてましたよ、ボディ。ホントに。チャンプアだって大野のハイキックがまともに入ってるのに、なんで倒れないのと思って（笑）。コイツ化け物かと思ったんだけど（笑）。一発で逆転したからあれはビックリしたね。日本人が負けて残念でしたけど、逆に負けたんでこれから目指すものができたし。だから、今回出て来なかったキックボクシングのチャンピオンの人たちも、武田幸三君とかいっぱいいるんですけど、次はぜひ出てほしいなと。1年掛けてみっちり練習して勝ってほしいなと思います。K―1のジャパンのMAXが楽しみになってきたし、世界のMAXが楽しみになってきた。

―時期はジャパンが2月で世界が5月に定着させるんですか？

石井館長　そうですね、できれば定着をさせていきたいなとは思います。春に中量級をやって、年末がヘビー級って2つに分ければいいし。中量級はこれからどういうふうになっていくのか、僕はくると思いますね、結構。

―ミドル級でこれだけ盛況になりましたが、他の階級は？

石井館長　それをやるとね、分からなくなると思うんですよ。僕はまずヘビー級と中量級を確立して、これをホントに確立してから軽量級でいいと思うんです。みんな体重下げてくるか、申し訳ないけど上げてくるかっていう。僕はこれだけ中量級が面白いんだったら、総合の中量級も絶対に面白いと思うんですよ。あるいはプロレスの中量級でもいいんですけど。そういうのもぜひ中量級の人たちにもっとスポットを当ててほしいなと思いますけどね。まあ、あと作っても軽量級というか、60キロ以下のクラスで3クラスぐらいですよね。60キロ以下のクラスを価値観を持たせてどういうふうに展開していくかっていうのは、まだまだ自信がないんで。自信があるところから1つずつやっていきたいなと思ってます。■

総評

魔裟斗と小比類巻、自力という涙、他力という涙、二つの悔し涙……

文◎ターザン山本

人から期待されるということは、いったいどういうことなのだろうか？　5月11日『K—1 WORLD MAX 2002』の日本武道館大会が終わった時、私はそんなことを考えていた。

一つ言えることは、期待されて誰も悪い気持ちはしないだろう。問題は期待する側と、期待される側の関係だ。

5月11日、日本武道館。この日『K—1 WORLD MAX 2002』の大会が行われた。中量級の選手による世界一を決めるトーナメント。

その第1回大会である。K—1はヘビー級がメジャーである。だが、K—1のプロデューサーである石井館長は、中量級がお気に入り、中量級の競技人口の多さと、人材の豊富さを強調してきた。

だからといってスター選手がいるとは限らない。今回に限って言うなら主役は魔裟斗と小比類巻の2人の日本人選手だった。彼らをスターと言っていいのかは現時点では、まだNOだろう。

そうなるためにはこの『K—1 MAX』で勝つしかない。要するに期待度においては、スター級だったということである。それとスターであることとは違う。

魔裟斗に関して言うと、ある部分で彼はスターである。日本一を決める大会で優勝しているからだ。一応、日本人選手の中では、すでに無敵である。

しかも彼の場合、言うことは言うタイプの男。強くて口のほうも達者。久しぶりに格好いいワルが出てきた。何より顔がいいのが彼の一番の武器だ。

一方の小比類巻は全ての点で魔裟斗には劣る。ただ一点、黒崎道場に入ることで、彼は幻想を獲得した。そこが魔裟斗にとっては、唯一の脅威でもある。

我々がこの2人の選手に見ているのは「魔裟斗というフィクション」であり、「小比類巻というフィクション」なのだ。魔裟斗のフィクションは植物にたとえると〝根〟がしっかりしている。

土から十分な栄養を吸収する力があり、しかも地上に出た幹や茎をガッチリと支える力もある。これだと美しい花が咲く可能性は、非常に高い。

小比類巻はその〝根〟の部分を黒崎道場の黒崎健時に求めた。そこから栄養分を摂らないことには、小比類巻は小比類巻になることはできない。

それも一つの手である。今時、珍しい戦略だ。黒崎イズムを自分に乗り移そうとしているからだ。まるで血液を全部、交換するようなもの。

格闘技の世界ではこれは〝あり〟だ。なぜなら倒し倒されることが基本になっている試合では〝狂〟の部分が、絶対に選手には必要になってくるからだ。

黒崎イズムとは〝狂〟のことである。狂という字は獣偏（けものへん）に王と書く。もとは神意をもって邪悪をただすものなのだが、その霊力は獣性なので誤って作用すると、制御しがたいものとなり、それを〝狂〟と呼ぶ。

神意、霊力、獣性の三つを内包しているものが、すなわち〝狂〟なのだ。魔裟斗は自力でそれに近い存在になろうと思っている男。あくまでこの男は自力なのだ。そこが魔裟斗の魅力でもある。

それに対して黒崎師範に下駄を預けている小比類巻は他力である。彼らはいずれも『K—1 MAX』では、準決勝で敗れて決勝には残れなかった。

その時、悔しがって流した涙は当然だが違う。魔裟斗の場合、それは〝自力の涙〟であり小比類巻の涙は〝他力の涙〟と言えるのではないだろうか？

おのずと流した涙の質まで違うところが、非常に面白いのだ。自力に敗れた涙と他力に敗れた涙。いい対称である。小比類巻は「先生、負けてすいません」と言えるが、魔裟斗にはそれを言う人間がいない。いる必要が初めからないのだ。

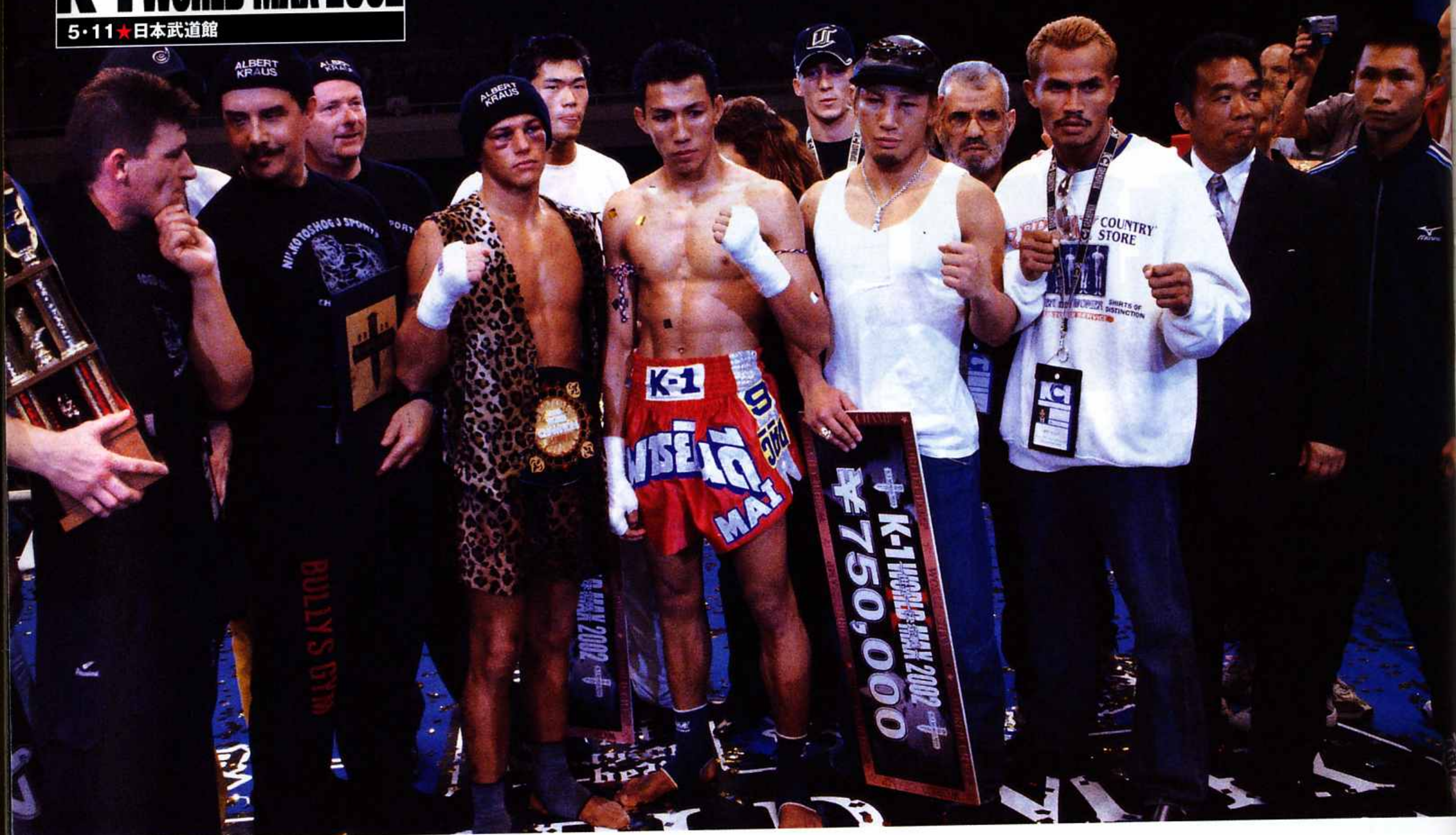
このへんのところを比較すると、この2人は実に興味深い。『K—1 MAX』で優勝したアルバート・クラウスとムエタイ最強の男でクラウスに決勝で敗れたガオラン・カウイチットも、魔裟斗と小比類巻に食われている。

クラウスはただ勝っただけの男。この選手をK—1中量級世界一と呼ぶにはちょっと抵抗がある、それを言うなら石井館長が「ムエタイのヒクソン・グレイシー」と言ったガオランも今回は、ただ負けただけの選手だった。

格闘技の試合では〝ただ〟勝ったりあるいは〝ただ〟負けたりしてはならないのだ。〝狂〟を見せろと言いたくなってくる。それは神意と霊力と獣性が混じりあったものでないとならない。

格闘技をやるということは、どういうことかというと、等身大の人生を歩んで

K-1 WORLD MAX 2002 〜世界一決定戦〜

5・11★日本武道館

いる自分から、違った人格になることなのだ。もう一つの自分、もう一つの人格になる快感。それしかない。

もちろん、それは世間的な価値観からすると、はみ出した人格、突き抜けた人格、吹っ切れた人格になることだ。

それが四角いリングの中では唯一、許されているのだ。外国人の選手はスポーツとして、競技として『K—1 MAX』に関わってもいい。

日本人選手はそれではダメ。スポーツとしてK—1中量級をやったら、身体能力と体格面の両方からみても、外国人選手には到底、勝てない。

〝狂〟でぶつかるしかないのだ。私からするとクラウスとガオランこそ、存在が等身大そのものである。勝利と敗北は彼らにとって常に等身大的なのだ。

そいつらをいかにして〝狂〟の精神でやっつけるか？　叩き潰すか？　それがK—1中量級に出る日本人選手のモーストインポータントのテーマなのだ。

そのことを本能的、無意識にやったのが小比類巻。K—1中量級のコンセプトは、小比類巻の中にある。残念だったのは、せっかく生き方と方法論が正しかったのに、それをリングで実践できなかったこと。ここに小比類巻の失敗がある。

要するに黒崎イズムを移植して、違った人格になった自分を、小比類巻は試合で証明できなかった。

惜しい、本当に惜しい。ガオランに勝って決勝にいくチャンスは、十分すぎるほどあった。やっぱりイズムの移植はそう簡単にはできないということだ。

外国人ファイターの中にも〝狂〟の素質を持ったものは、必ずいるはず。できることなら、それを探してきて『K—1 MAX』に出場させるべきだ。トーナメント8人の選手による闘い。

その中にスポーツ的等身大のスピリットで臨んでくる選手と、ムチャクチャな〝狂〟のスピリットで挑んでくる選手がいると、これはハッキリ言って盛り上がらないほうがおかしい。

そういう対立構造、対立概念を作るべきだ。どうせと言ったら選手に怒られてしまうが、中量級は中量級、ヘビー級やスーパーヘビー級のクラスには、体の大きさではとても勝てない。

これは決定的である。だからといって玄人や専門家が喜ぶ高度で分かりにくいテクニックを見せることで対抗しても果たして、ファンにそれが面白いかといったら、そうとは言い切れない。

K—1はK—1なのだ。同じ立ち技の打撃格闘技でもキックボクシングやムエタイとは違うのだ。観客が楽しめる格闘技を目指してきたからだ。それは格闘技に詳しい知識がなくても、面白く見ることができる、それがK—1なのだ。

5月11日、日本武道館ではまた一段と若いファンが多かった。彼らはみんな正直言って素人のファン。K—1はその素人のファンを動員できるのだ。

そして観客の人生は等身大、その彼らがリングに何を求めているかと言ったら〝過剰なる精神〟〝狂なるスピリット〟の二つしかない。自分にはない人格。自分ではなることのできない人格。それを見たいのだ。体感したいのだ。

過剰なる存在を目指している魔裟斗と狂なるスピリットになりたいと願っている小比類巻。この2人はK—1中量級の基本理念を偶然にも持ち合わせていた。

この偶然は貴重である。2人の悔し涙がK—1中量級の未来を必ず作るはずだ。■

正真正銘の“美獣”誕生！

初代K-1ミドル級王者アルバート・クラウスのシャイで真面目な素顔に迫る

Albert Kraus

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

初代K-1ミドル級王者 が決まった。トム・クルーズ似の甘いマスクを持つアルバート・クラウスが激戦を勝ち抜いたのだ。しかも、大本命と言われたムエタイ王者ガオランを決勝戦でKOしての優勝という、文句ない勝ち方。強くて顔がいいこのクラウスとはどんな男なのか、その素顔に迫ってみたいっ！

——優勝おめでとうございます。最高の夜を経験した朝はどんな気持ちですか。

クラウス 勝ったことはとても嬉しいですけど、ちょっと身体が……。

——たしかに決勝戦の時には、目の周りが腫れ上がってましたからね。

クラウス 目は腫れてますけど痛くないです。痛いのは足とヒザで、他にはちょっと筋肉痛ですね。

——筋肉痛（笑）。なにしろ、一晩で3試合ですからね。トーナメントはやはりハードでしたか。

クラウス はい。普通、3試合こなす場合は3カ月から4カ月かけるんですけど、それを一晩でやるんですから。

——この喜びを奥さんのパトリシアさんと息子さんにはどんなふうに伝えます？

クラウス 勝ったよって。

——例えば、玄関開けてなんていいますか？

クラウス う～ん、「ハロー」かなぁ（微笑）。

——ずいぶんあっさりしてますね（笑）。でも、その腫れあがった顔で「ハロー」って言われたら、奥さんも驚くでしょ？

クラウス でも、こんな顔になるのはこれまでも何回もありましたから、慣れてると思います（笑）。

——息子さんも慣れてます？

クラウス いえ、彼が生まれてからはこんなことはなかったんで、どうなるんだろう？

——楽しみですね（笑）。

クラウス そうですね（笑）。

——なんかとてもシャイですね、クラウスさんって。オランダの選手って、どちらかというと強面のイメージがあったんですけど全然違いますね。

クラウス オランダ人選手でもピーター・アーツやアーネスト・ホーストのような選手もいますから。中には、目に指を入れるような選手もいますけど。

——ギルバート・アイブルとか（笑）。

クラウス はい。人それぞれですよ。

——ちなみにアイブルはこう言ってたんですよ。「オランダには男が欲しいモノが全部ある。女とドラッグとガンさ」って（笑）。

クラウス え？ もう一回言って。

——女とドラッグとガンです（笑）。

クラウス はぁ～。彼がどういうことを言いたいのか知らないけど、そんなことないよ（笑）。だって、ボクは酒も飲まないし、ドラッグだってやらないし、ボクシングを始めてからは喧嘩だってしたことないんですから。

——とはいえ、21歳で妻子のあるクラウスさんですから、女の子には結構、モテた気がするんですよ（笑）。

クラウス 男にとって女性は素晴らしい存在ですから（笑）。でも、ドラッグや銃みたいものはいけないことだと思いますね。

——パトリシアさんとはいつ頃からの知り合いですか。

クラウス 話せば長くなるけど、13歳の頃から知ってるんだよ。

——13！ じゃあ、もしかして初恋の人？

クラウス う～ん、真剣なっていうことで言えば彼女が初めてです（微笑）。

——ということは初恋の人と今、一緒に住んでるわけですね。クラウスさんらしい可愛いエピソードだなぁ（笑）。

クラウス いやぁ、はい（微笑）。

——クラウスさんの人となりがなんとなく分かったところで、そろそろ試合の話なんですが、決勝戦の時はどんな気持ち

で試合に臨んだんですか?

クラウス　決勝戦の前にトレーナーから言われたことは「最初から持ってるものを出せ」ってことだったんです。ボクはその言葉どおりにしただけですよ。

――でも、相手はムエタイチャンプじゃないですか。強敵ですし、そもそもこのトーナメントの前にアーツと一緒にタイ修行してるから余計にガオランの怖さを知ってると思ったんですよ。

クラウス　いや、タイでガオランとは練習はしてないし、会ってもいないんですよ。

――え?　でも、アーツはタイでガオランと練習したんですよね。

クラウス　してないです。ガオランと同階級の選手と練習してたんですよ。

――そうだったんですか。じゃあ、もう一つ。日本には「ガオランが出るということでクラウスがやる気をなくしてる」という情報も入っていたんですけど。

クラウス　いや、そんなことはないです。ガオランもボクと同じように手は2本だし、足も2本。勝てる可能性はボクにもあると思ってましたよ。

――ただ、決勝では目の周りも腫れ上がっていたし、ムエタイのチャンプとはやりたくないって気持ちは出てきませんでした?

クラウス　それは全然ないです。早めに倒せということはトレーナーから言われましたね。

――実際、速攻でKOしましたね。

クラウス　あれが唯一のチャンスだったと思います。

――あの時は最初からボクシングの技術で闘おうと思ってたんですか?

クラウス　たまたま結果的にああなったと思います。

――倒した時はどんな気持ちでした?

クラウス　「ふぅ〜」ですね（笑）。嬉しさもありましたけど、ホッとした感じですね（笑）。

――2回戦の魔裟斗戦では後半押されてましたけど、彼はどんな選手だと感じましたか?

クラウス　あの時はポイントは取っていたという計算がありましたから、リスクを背負ってやる必要はないと思ってました。

――第3ラウンドでローキックが入って効いてるように見えたんですけど。

クラウス　う〜ん、詳しいことはよく覚えていないんですよ。

――じゃあ、一番印象に残った選手は誰でした?

ガオランをKOした時は「やっと終わった」って気持ちでした（笑）

クラウス　3人ともみんな強い選手だったので。

――慎重な性格ですね（笑）。例えば、魔裟斗はトーナメント前にこういうことを言っていたんですよ。クラウスさんはK−1広島大会を見に行ったじゃないですか。でも、「試合1カ月前のあの時期にK−1見物しているような選手には絶対負けない」って。

クラウス　でも、負けましたね。だから、試合の前に勝つとか負けるとか言わないのは、こういうことになるからなんです。

――そうなんですけどね（笑）。ただ、もうチャンピオンですから、大きなことを言える資格はあると思いますよ。

クラウス　でもボクは言わないです。

――慎重にもほどがあるなぁ（笑）。では、賞金の1000万円はどういうふうに使いますか。

クラウス　とりあえずは銀行に貯金して使い道はゆっくり考えます。

――堅実ですね（笑）。家族のためにとかっていうのを考えないんですか?

クラウス　いやぁ、今はまだ何に使うか考えていないんですよ。

――10カ月の子供にはいろいろ買ってあげたくないですか。

クラウス　それはそうですけど、やっぱりまだ何に使うかは考えてないですね。

――ホントに父親ですか（笑）。

クラウス　う〜ん、だって10カ月の子供に何を買ってあげたらいいんですか（笑）。

――ベッドとかオモチャとか。

クラウス　だって、オモチャももう買ったし、ベッドもあるし。それにこれだけの賞金を全部オモチャに使ったら家の中がオモチャだらけになっちゃいます。

――いや、全部買えって言ってるわけじゃないんですけどね（笑）。まあ、分かりました、とりあえず貯金して自分のために使うと。

クラウス　いや、将来のための食料も買わなきゃね。

――からかわれてるのかな、俺（笑）。最後にムエタイの技術ってどう思いました?

クラウス　ヒザ蹴りも含めてですけど、そういうものをタイでの修行で身に付けました。

――凄いっていうのは感じました?

クラウス　ボク自身としてはキックボクシングというよりはボクシングを中心に闘いたいですね。

――では、ムエタイの技術をあまり凄いとは思わなかったってことですか?

クラウス　ムエタイがどうというわけじゃなくて、その良いところを学んでいきたいですね。

――ところで背中にあるタトゥーはなんですか。ボクにはカッパに見えたんですよ（笑）。

クラウス　（Tシャツをめくって背中を見せるクラウス）

――ビキニの女?　なんだよ、結構、女好きじゃねぇか（笑）。

クラウス　フフフ（笑）。

――これは奥さん?

クラウス　彼女は金髪です（笑）。

――ワハハハ!　なんだかホントにとらえどころのない人です、あなたは（笑）。■

▲彼の背中にはなんとビキニの女が！　この男、真面目なのか、女好きなのかよく分からない

〝鬼の黒崎〟は『K-1 W・MAX』をどう見たのか？

「今回は魔裟斗が勝てばいいと思っていたんだがね」

予想外の結末を迎えたK-1ミドル級世界大会。期待の日本人2名は揃って準決勝で敗退してしまったが、これを黒崎健時はどう見たのか？　愛弟子・小比類巻の闘いぶりを含めて、大会を総括してもらった。

聞き手◎橋本宗洋　撮影◎中島ミノル

――先生、先日の小比類巻選手の試合はいかがでしたか？

黒崎　試合？　やったのかい？（笑）。

――はい（笑）。小比類巻選手は準決勝で負けてしまったんですが……。

黒崎　あれで良かったんじゃないのかねぇ。というのは、どうしても世の中というものを知らないから。若いから天狗になってしまうんだな。

――今回もし勝っていたら、ということですか。

黒崎　あれで勝ったら天狗になるよ。天狗になったらねぇ、これはもう始末が悪い。一生ダメになるだろうな。それを考えたら良かったんだな。関係者やファンの人たちがどう思うか分からないけども。

――先生は大会はＴＶでご覧になったんですか。会場へは行かずに。

黒崎　なんで子供のお遊びを見に行かなくちゃいけないの（笑）。6チャンネルの人から試合ごとに電話がかかってきたんだが、電波の状況が悪くてね。準決勝の時に「30秒です」って言うんだよ。だから30秒で勝ったんだと思ったら、なんのことはない「あと30秒で試合です」と（笑）。

――では、ガオランにも30秒で勝つ可能性があると思われていたんですね。

黒崎　勝つんなら1試合2分で、全部で6分もあれば終わるんだから。前も話したけども、本当の真剣勝負はそんなに長い時間がかかるもんじゃないんだ。ただ勝ってしまったらまずいなとは思っていたけどもね。まぁ、天狗になったら首切るしかないな。カッと切ってあの世へ行ってもらうしかない。

――えっ、首を切るって、道場を辞めさせるってことじゃなく……？

黒崎　本当に首切っちゃうよ。私もまさかと思ったんだが、昔、厳しく鍛えてた人間が、後から聞くとみんな天狗になってたんだなぁ。私が不出来な人間を作ってしまっていたんだよ。

——強くなったのはいいけども、という。

黒崎　だからコイツは今回、負けて良かったと思ってね。小比類巻に勝ったタイ人、ガオランか？　あれが新聞で「小比類巻はいい選手だった」とコメントしてたらしいんだ。何か一発食らって「これは」というものがあったんだろう。小比類巻が完全に仕上がれば、ガオランのレベルにならまず負けないんだ。ただ今回はね……。

——不完全な段階では、勝たなくて良かったと。

黒崎　早く完成したほうがいいんだけれども、そのために人間的にマイナス面が出てきたんでは困るから。ただ、アイツは可哀想なことしたなと思ってね。日本人がどっちか一人、残らなきゃいけないと思ってたから。

——アイツって、魔裟斗選手ですか？

黒崎　そう。魔裟斗が残ればいいなと思ってたんだがね。アイツも負けちまいやがってなぁ。

——魔裟斗選手が残ればいいと思ったというのは、どういう……？

黒崎　アイツは今が一番いい時なんだろうから。負けて泣くのも分かるよ。可哀想だったな、あれは。

——ああ、魔裟斗選手は今が一番乗ってるというか。泣いたというのも、それだけ期するものがあったんだと思います。

黒崎　試合前に吹きすぎたからねぇ。キツかったと思うよ。だが人間的にはそれで大きくなるからいいんじゃないかな。勝って変な人間になるよりはいいよ。

——先生は魔裟斗選手の試合はどう見られましたか？　意気込みは凄く感じられたと思うんですが。

黒崎　力みすぎだな。筋肉は力むと収縮するし、呼吸も変わってくるしね。呼吸が少し変わっただけでも、動きはかなり違ってくるもんなんだよ。

——そうか。僕たちが見て「気合い入ってるな」というのは先生からすると……。

黒崎　気合いも入りすぎると固くなるんだな（笑）。思い込みがキツすぎるんじゃないかね。「オレは勝てるんだ」という。しかし困ったもんだな。日本人で強いのがいないというのは。これっていうのがいないな、今は。

▲準決勝。首相撲の体勢になると、ガオランに背中を向けるようにしてしのいでいた小比類巻。この段階で、すでに負けていたということなのか……

準決勝の小比類巻は、心の中で「早く倒してくれ」と思ってたんじゃないか

——そういう意味でも、小比類巻選手に期待がかかると思うんですが。今回の試合ぶりはいかがでしたか？

黒崎　（側にいた小比類巻に）おまえ、どのあたりで苦しくなった？

小比類巻　はい、あの、倒れた時にヒザを入れられてからです。

黒崎　そんなのは目に付いただけのもんなんだよ。パッパッと2、3回（ヒザを）入れられた時に、もうイッちゃってたんだよ。

——軽いヒザだけでですか。

黒崎　タイ人の（首相撲の）抑えってのはハンパじゃないんだから。決定的にやられたのは倒れた時だろうけども、その前からやられてたんだよ。組まれた時に後ろを向いてただろう？

——はい。

黒崎　あれは気が弱いから後ろを向くんじゃないんだよ。苦しいから、本能的に背中を向けてしまうんだ。無意識で正面を外そうとする。

——ということは、倒れ際にヒザを落とされる前の段階で、もう追い込まれていたという。

黒崎　追い込まれたというより、体が効かなくなってたんだよ。

——あの倒れた時にヒザを落とすっていうのは、ムエタイの選手がよくやる裏技ですけども。逆に小比類巻選手があれをやりたかったんじゃないかなと思ったんですよ。黒崎先生ならそこまで教えてるんじゃないかという。

黒崎　（笑）。だから倒れた時に安心してしまうというのがね……。だが、あの試合の小比類巻は、それよりも「早く負けないかな」という気持ちのほうが先だったんじゃないかねぇ。

——え？

黒崎　「早く倒してくれ、徹底的に決めてしまってくれ」と。心の中でそういう気持ちがあったんじゃないかな。

——気持ちが萎えるというか、折れるというか。

黒崎　力を削がれてしまっているわけだよ。ダメージというんではなくね。本能の部分なんだ。それをごまかして勝ったって、また同じことをしてしまうしね。弱点を晒して、それをきちんと防御できるようにならなければ本当の強さとは言えないからね。

——小比類巻選手は、具体的に何が足りないんでしょうか？

黒崎　「これだけは絶対にやってはダメだ」ということを言っていたのに、いいかげんに聞いてたんだな。私の言うことを聞かなければ絶対に勝てないよ。タカをくくってたんだろうが、試合してみて分かったと思うがね。打たれるたびに思い出すんだよ。それとも思い出しもしないかな、身に染みてないから（笑）。

——先生が言われてたことというのは、どういうことなんですか？

黒崎　言わないでおこうと思ったんだがね、言わないと分からないから。水を飲みすぎなんだ。

——水、ですか？

黒崎　あれではボディを一発触られただけでもダメになるんだよ。それをタカくくってるからねぇ。それさえなけりゃガオランにも勝ててたんだが。まだまだ力はないけども、ガオランならまだ間に合う。大言壮語するわけじゃないがね。

——実際、1Rの動きは悪くなかったと

思いました。それが2Rになって落ちていって。水を飲みすぎというのは、例えばインターバルにも……。

黒崎　ガーッと飲んじゃうだろう？　それにね、毎日の生活の中でもそういうことをキチッと守ってなきゃいけないんだ。まず意志が弱いんだな。まあ意志の弱さときたら見事なもんだよ。

――見事な意志の弱さですか（笑）。

黒崎　「こんなことも辛抱できないのかなぁ」とね。瞬間的に辛抱したって、そういうもんじゃないからね。試合だけじゃないんだ。カードを組まれた時点からが勝負なんだから。だから、負けてもなんとも思わなかったね、今回は。「好きにやっとけ」と。

――普段の生活の時点で「これは負けるな」という感じがあったわけですか。

黒崎　昔から「コイツはいかんな」と思ったのが勝ったためしがないよ。「案の定だな」というのばかりでね。ノドが乾いたからスイカを食ってね、それで走って水分を落としてきたって、そんなことでごまかしても分かるんだよ、何発か蹴ってるのを見れば。

――じゃあ小比類巻選手もまだ完成には遠いと。

黒崎　完成なんてまだまだ。壊れた車で旅をするようなもんでね、なかなか辿り着けないんだよ。第一、今が完成型だったら「やってもムダだから田舎へ帰れ」って言うよ。人間なんてのは鍛えればどこまでも強くなるんだから。ただ、その鍛えるのに耐えられるかどうかが意志の問題なんでね。「水を飲むんじゃないぞ」と言われたら、そのまま実行できるようじゃないと、思うような選手には仕上がっていかないな。

――言われたことを、ひたすら守れる、実行できるというのも才能ですよね。

黒崎　それも強くなる一つの方法なんだな。嫌なことを我慢したり、行きたくない所へも行く。ただ道場へ来てサンドバッグを叩くのが稽古じゃないんだ。風呂に入るのだって稽古。そのことが頭から離れることを「怠ける」と言うんだ。

――それと、小比類巻選手の準決勝で思ったのは入場のことなんです。凄くこう、いい感じというか、ノリノリだったんですよ（笑）。そこで、日本人が一人しかいないという重圧、悲愴感はどうだったんだろう？　と。

黒崎　あんまりそういうのはなかったんじゃないの？

あえて不摂生な生活をしなければ頑強な身体を作ることはできない

――怖さは感じなかったんでしょうか。

黒崎　悲愴感はないよな。1回戦で勝って勢いに乗ってる時だから。「はい、いただき」という気持ちもあったろうよ。私も「まずいな」と思ったよ。そんな簡単にいくもんではねぇ……。あそこで勝たなくて良かったんだ、だから。もし決勝に行っても、魔裟斗だろうとオランダのクラウスだろうと簡単だったろうから。それこそシャドーやってるみたいに倒せたんじゃないの？　でもそれではまずいんだな。

――今後のために、ということですね。優勝したクラウス選手は、もし決勝で当たってたら簡単だったと。

黒崎　ワンツーしかないからな。ワンツーとロー。オランダは稽古の仕方がそうなんだ。「1、2、蹴り」といったような反復で。アーツやホーストなんかが混戦に強いのは、その稽古から脱皮してるから。「1、2、3」だけのリズムじゃなく、どう動いても変化できるのがアーツとかホーストなんだな。

――クラウス選手は、その基本の段階でやってると。

黒崎　まあ、優勝したのは交通事故だからな。

――クラウス選手は、準決勝までのダメージが大きかったので、短期決戦で必死にラッシュをかけたらしいです。

黒崎　そうそう。あれはもう下手も上手もないよ（笑）。魔裟斗とやった時もワンツーしかなかっただろ？　もしそれ以上の攻撃ができればKOできてたんだよ。

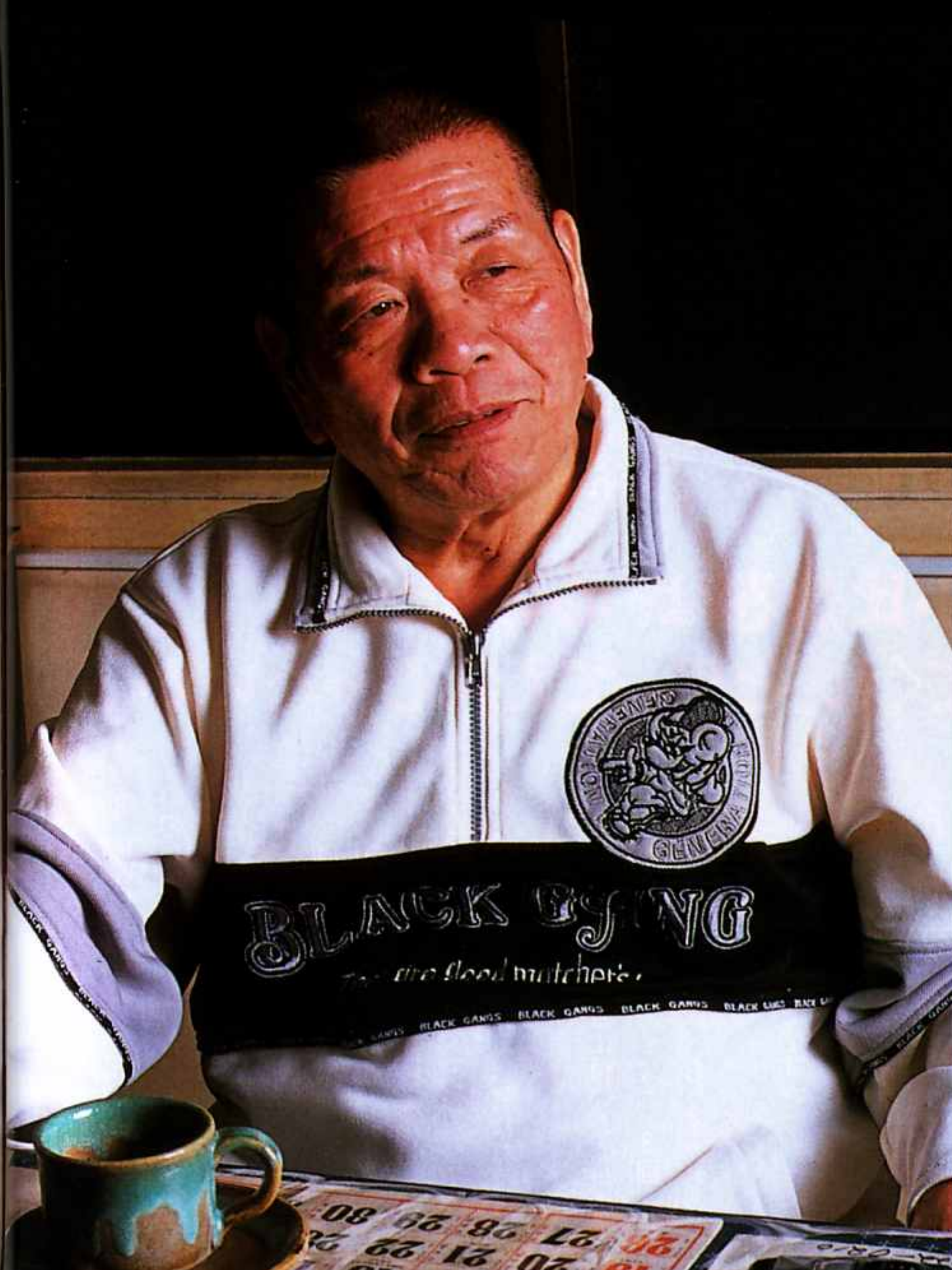
――では大会を通して、先生がいつもおっしゃるような「見ていて涙が出るような試合」は見られなかったと。

黒崎　なかったねぇ。

――ただ、小比類巻選手には、それができる可能性はありますか。

黒崎　それはあるよ。成長もしているしね。ただケガばっかりしてるから、なかなか（練習で）追い込めないんだ。まずは「何をやらせても壊れない」という頑強な体を作らないといけない。夜、寝る時でもコツコツ運動してね、2時間しか寝てなくても翌朝は知らん顔で普通に練習すると。そういう不摂生をしなけりゃ。

――強くなるには不摂生が大事ですか。普通は体に良くないことですけど。

黒崎　それを乗り越えなきゃ。「試合前だから」なんて休んで調整してるようじゃダメよ。ベストの状態で勝つなんて誰だってできるんだから（笑）。「これで万全な状態なら、どこまで強いんだ？」と。小比類巻がその境地まで行くのにどれだけかかるか……。まぁ、これからが勝負だな。■

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・ガイド
No.71　6・13&6・27号

CONTENTS

特集

完全詳報

K-1 SURVIVAL 2002 富山大会 直前情報！

ゴールデンウィーク前後の大会大特集！

格闘技パーフェクトガイド

連　載

※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

日本の若者よ！
有事にどうする座談会

K-1 WORLD MAXに日本の将来を見ろ！

出席者◎ターザン山本（ミスター・ダンディ）
サダハルンバ谷川（本誌ぽよよん編集長）
小松魔裟夫（本誌領事館員的編集部員）
司会◎柳沢忠之（本誌ドロドロ発行人）

山本　おい、谷川ぁ！　見てみろぉ。今日の俺はカッコイイだろう!!
谷川　な、なんかダンディですねえ。どうしたんですか？　その帽子は。
山本　一揆塾の生徒たちが俺の誕生日にプレゼントしてくれたんだよぉ。
谷川　カッコイイなあ、僕もそういう帽子を被ろうかなあ。
——んあ〜！（笑）。
小松　でも良かったですね。今年も無事に誕生日を迎えられて。
谷川　き、き、キミぃ！　僕の師匠に失礼なことを言うなと何度も言ったろう。
山本　いやあ、今年も無事に一つ歳を重ねることができたよぉ。
——とりあえず、おめでとうと言っておきましょう（笑）。
谷川　でも、ホントにカッコイイなあ。
山本　そうだろう？　この帽子を被ってから最近やたらとモテるんだよねぇ、いろんな女性たちに。
——いや、俺たちはそこまでは褒めてないですけどね（笑）。
山本　なんか体調が悪くなってから、やたらと女性から薬とかをもらうんだよぉ。
小松　それはモテてるんじゃなくて、身体のことを心配されてるんですよ。
山本　…………あ、そうかあ。
——ダハハハッ！
山本　えーっと…、小松モグ……だっけ？
小松　あ、小松です。でも、最近「小松魔裟夫」と改名しましたので、今日からは「モグ」とか「モグタン」とか「スモー」とか呼ばないで「魔裟夫」と呼んでください。
山本　で、今日のテーマはなんだぁ？
小松　それはやっぱり『K—1 WORLD MAX』ですよ。
谷川　ええーっ！　今日のテーマはK—1中量級なのお？
山本　そんなの当然ですよぉ！
——ダハハッ、確実にモグ＆ターザンのコンビが確立してきたなあ。で、あの大会を見てどうだったんだ？　魔裟夫は。
小松　僕は観ていて面白くはなかったですけど……。
——おまえ、相変わらずクラッシャーだなあ（笑）。これから話を始めようってのに、なんでいきなり「面白くなかったですけど」なんて言えるんだよ。
山本　それはやっぱり魔裟斗が優勝した前回のジャパン大会と比較してるからでしょ。柳沢氏はどう見たの？
——まあ、一言で語ってしまえば、大会前から予想していた以上のハプニングは何もなかったって感じですね。「可もなく、不可もない」という感じで。
山本　ヘビー級の大会だったらさぁ、世界VS日本っていうテーマとかが見えてくるんだけど、中量級ではいくらあれで世界一といっても「世界」という概念が見えてこないんだよねぇ。それだったら「日本一」を決めるジャパングランプリのほうがはるかに面白いというパラドックスが出てしまったんだよぉ。だからといって、あの大会を否定してるわけじゃないんだよぉ。石井館長が「中量級は物凄く層が厚くて、人材もたくさんいて、等身大の王者が決まる」と言ったけど、でも、俺はそうだとは思わないんだよねぇ。
——ダハハハハッ！　あなたがおっしゃったことを館長が具現化しただけじゃないですか（笑）。
山本　いや、リング上で館長が「等身大」と言った、あの一言で俺はあの大会が結果的に「可もなく、不可もなく」になってしまったと思うんだよぉ。
谷川　でも、その「等身大」っていうのは山本さんが言ったことなんですから。
山本　…………そうだっけ？
小松　あ！
山本　どうした！　モ……、いや魔裟夫。
小松　いや、今、ターザンイズムを少し体感できました。
——ぷぷぷぷっ。
山本　いや、「等身大」というのは身体とか形の大きさを言ったんじゃないんだよねぇ。中量級だから等身大と言ったんじゃなくてぇ、よ〜するに精神の爆発力とかエネルギーの度合いというものを言ったんであってぇ。石井館長の挨拶で身体の部分が「等身大」と言われたから「今日の大会は大丈夫かなあ？」と、悪い予感がしたんだよぉ。よ〜するに俺は過剰性の反語として「等身大」と言ったわけよぉ。
——ああ、なるほど（笑）。
山本　「過剰さ」というのが昭和のプロレスファンが愛する言葉というかさぁ、大きな手応えだったわけよぉ。それを超えるものを見たかったんだけど、全てが等身大で終わってしまって、言ってみれば「可もなし、不可もなし」で終わってしまったんだよぉ、あの大会は。
——つまり山本さんが言いたいのは「つつがない世界」っていうことですね。
山本　そーゆーことですよぉ。俺にはあの大会からグローバルな世界は見えなかったんですよぉ。
谷川　山本さん、石井館長はこの座談会だけはしっかり読んでますからね。その意味でもちゃんと総括してください。なんで世界が見えなかったんですかねえ。
山本　それは「等身大」に終わってしまったからですよぉ。ヘビー級だったらゴージャスさとか、ダイナミズムとか、見栄えとかがあるので、そこに強さがプラスされると世界が見えてくるんだよねぇ。でも、中量級の選手だとどんなに過剰性があっても「世界」とゆー2文字と合体しないんだよぉ。
——要はキャラクターに幻想が生まれないってことですか。たとえば、あの中にジョー・サンみたいな選手が一人入ってたりね、昔でいったらパトリック・スミスみたいな選手が入っていたら違う気はしますよね。
谷川　豪華にするんだったら辰吉とか、シュガー・レイ・レナードみたいな存在を入れたりとかね。今回の『K—1 WORLD MAX』はどうだったかといえば『K—1 アジア・グランプリ』みたいな感じでしたよね。
山本　ヘビー級だったら文明開化後の解放感みたいなものがあるんだよねぇ。谷川がアジア的だと思ったのは、まさにそのとおりなんだよぉ。

「等身大」と言ったけど、俺はそうだとは思わないんだよねぇ

谷川　だから、ジャポーなんかはもっと社会主義とか共産主義国家を背負って出てきたり、ガオランもムエタイの歴史とかをもっと背負って、「負けたら国に帰れない」みたいなものがあったら面白かったんですけどね。
小松　「負けたら帰国後に即射殺」とか。
谷川　そう。だって、散打なんて国に帰れば6000万人くらい競技人口がいるジャンルなんですよ。
――それに対抗すべきキャラクターがいなかったってことだよね。
谷川　ガオランにしたってタイではメチャメチャ伝説の選手なんだけど、K―1で負けたらこの先の選手生命がどうなっちゃうんだみたいなのが明確に見えないからね。
――クラウスもヨーロッパ代表って感じがしなくて、キャラクターが確立してなかったしね。だから、優勝した選手がアメリカ代表なのか、ヨーロッパなのか、オセアニアなのかまったく分からなくて、ただ白人が勝ったっていう印象しかないよね。
小松　無国籍チャンピオンですね。
――そういう意味で、あんまり世界観を見られなかったっていう印象がありますよね。
小松　結果的には、そういう結論に落ち着きますね。
――……もう結論か。早いな（笑）。さあ、山本さん、話を膨らませてください（笑）。
山本　俺はねぇ、あの大会に何を求めたかというと魔裟斗と小比類巻の二人を見に行ったわけですよぉ。
谷川　それは今の日本の若者を見に行ったということですか？
山本　そうっ！　日本の若者の実態というかさぁ、それがいかなるものか、と。大ゲサな言い方をすると、あの二人を通してぇ、日本の将来を見たかったわけですよぉ！
――ダハハッ、随分と大きなテーマで見てたんですね。
山本　あの二人を通して日本の将来に期待できるのかというか、俺は日本の将来をあの二人に託して、あの場でこの国の将来を見定めよう、と。よ～するに一人はワルぶってる青年で大金をつかんでいい生活をしたい、と。片や「ミスター・ストイック」という幻想で売ってるわけでしょ。その彼らの自己主張と宣言というのは以前（69号）の座談会で話題に上ったけど、彼らは『ウォーターボーイズ』の頂点に君臨しようと思ってるのか、それとも脱『ウォーターボーイズ』を目指してるのかという一点！
谷川　あ、それは重要だあ！
山本　この視点で捉えた時に魔裟斗はどうなのか？　小比類巻はどうなのか？『ウォーターボーイズ』化したいのか、断固として否定したいのか。これを確かめるために武道館に行ったんだよねぇ。
谷川　で、山本さんが見た日本の若者の結論はどうだったんですか？
山本　やっぱり『ウォーターボーイズ』だったよぉ。
――ダハハハハッ！
山本　一番重要だったのは、結果を出せなかったことですよぉ。二人とも決勝まで行けなくて、準決勝で脱落したのは決定的な出来事なんですよぉ。それと二人とも致命的だったことが二つある！
小松　あ、二つ。
山本　一つは負けた後の翌日の会見で二人とも言い訳をしたんだよねぇ。魔裟斗は「ワンマッチでやったら絶対に自分が負ける相手じゃない」と。で、小比類巻は「アバラを負傷しなかったら、決勝に行って勝っていた」と。この言い訳のスタイルが今の若者たちの典型というかねぇ。格闘ファイターが言っちゃあいけないことを翌日の会見で堂々と言ったわけでしょ。その言葉を聞いた時に、俺は完全にあの二人に対する幻想が切れたというか、腹ぁ立ったというか。
谷川　なるほどぉ。
山本　で、もう一個があの負け方。よ～するに小比類巻は黒崎道場で練習して、徹底的に鍛えているわけでしょ。でも、もつれて倒れた時にヒザを落とされて、あれはムエタイの裏技だよなぁ。それでやられたのがみっともないというか、バカバカしいというか、世間ズレしてないというかさぁ。鬼の黒崎道場で稽古していながら、ああいう技に対する警戒心が皆無というかさぁ。ミスター・ストイックといいながら、一皮剥けば100％『ウォーターボーイズ』だったということだよぉ。
谷川　それに対して、魔裟斗はどうだったんですか？
山本　魔裟斗は修羅場の厳しさというか、怖さということがまだ自分の思考に入りきってないので、わりと余裕を持って試合してるんだよねぇ。だけど、K―1の試合ってたった3Rしかないんだよぉ。ちょっとしたミスや油断で偶発的なパンチとかを食らう怖さがあるんだよなぁ。で、それから取り返そうとしても難しいんだよぉ。だから紙一重の差で魔裟斗は地獄に落ちたわけよぉ。でも、K―1ではあの紙一重がオールすべてぜ～んぶなんだよねぇ。その意味を知らずに「ワンマッチでやったら勝てる」という発言は、やっぱり『ウォーターボーイズ』なんだという感想を持ったわけですよぉ。
谷川　なるほど、さすがは山本さん。素晴らしい感想ですねぇ。
山本　でも、二人とも勝つチャンスはメチャメチャあったわけよぉ。
谷川　たぶんコヒに関して黒崎先生は、ガオランがコヒにやったようなことしか教えてないと思うんですよ。それを逆にやられて黒崎先生は笑ってると思うんで

あの二人を通して日本の将来を見たかったわけですよぉ！

すけどね。ムエタイに勝つっていうことで考えれば、たぶん黒崎先生はああいう裏技的なことしか教えてなかったと思いますよ。

山本　それを逆に食らって負けたらマンガじゃねえかぁ！

谷川　だから黒崎先生も山本さんと同じ視点で、コヒに対して「こいつは『ウォーターボーイズ』じゃないだろう」という期待をしていたんだと思うんですよ。自分の本を読んで、線香の束を腕に押しつけて、門を叩いてきたわけですからね。

山本　それはそうだろう。だって黒崎先生はハナから『ウォーターボーイズ』を相手に教えるつもりなんかないわけだろう。

谷川　ええ。で、小比類巻は実は『ウォーターボーイズ』だったんだけど、脱『ウォーターボーイズ』という意識が自分の中でファッションになってるんですよね。そこで、魔裟斗はよく見れば『ウォーターボーイズ』じゃないんだけど、『ウォーターボーイズ』の中でカリスマになろうっていうタイプだと思うんですよ。だってストイックって言うんだったら魔裟斗のほうが絶対にストイックだと思いますからね。

——つまり、『ウォーターボーイズ』の頂点を目指すことのほうが、脱『ウォーターボーイズ』になってるんですよ。

山本　まあ、それが一番手っ取り早いんだよぉ。そして、それを宣言してるのが魔裟斗だよなぁ。

——それがなぜ成就しないかといったら、頂点のハードルが低いからなんですよ。たとえば「優勝賞金でベンツのSLを買おうと思っていた」とか、そのちっちゃさがね（笑）。

山本　ファンという存在は選手に対して幻想が拡大するし、ハードルが高くなるんだけど、当の本人が「ベンツ」となると応援のテンションが下がるんだよぉ。

——たとえば「賞金で永久発電機を作りたい」とか言ったら、「こいつは凄い！」ってなるんだけどねえ（笑）。

山本　つまり「ベンツが欲しい」っていうのは等身大的価値観を代表する言葉でしょ。

——「それが目指している頂点か」と思った瞬間に、幻想は確実に崩れますよ。

谷川　でも、魔裟斗は脱『ウォーターボーイズ』になれる素材だと思いますよ。コヒの涙よりも魔裟斗の涙のほうが、こっちに届くものが大きいですからね。だから、魔裟斗がベンツじゃなくて永久発電機みたいなことを言った瞬間に凄い選手になると思うんですけどねえ。

——コヒにしても1回戦の勝ちを見ると、半分くらいは黒崎イズムが刷り込まれてるんだけど、真の意味では理解できていないっていうかね。

谷川　まずね、コヒが一番ダメだったのは入場だよね。黒崎道場に行ってたら、あんなリズムで入場できないですもんねえ。

——それを見た瞬間に、コヒは黒崎イズムっていうものをファッション的にカッコイイと思ってるんだなって見えちゃうからね。

小松　えーっと、黒崎イズムってカッコイイものじゃないんですか？

谷川　んあ〜！

小松　えーっと、どういうものなんでしょう。教えてください。

——表現しづらいけど、「グチャグチャ」とか「ドロドロ」とか、「おどろおどろしい」とかね（笑）。

小松　サダハルンバ・イズムとは確実に違うわけですね。

——表現しづらいけど、サダハルンバ・イズムは「ふわふわ」とか「ぽよよん」とかだろう（笑）。

谷川　んあ〜。

山本　まあ、俺は魔裟斗にしても切羽詰まった領域に入ったことがないという感じがしたなぁ。

——俺は今回の『WORLD MAX』に対する期待感とかテーマは、まさに魔裟斗の本当の意味での脱『ウォーターボーイズ』ができるかどうかだと思ってたんですよ。

山本　そうでしょ。そこの一点に絞ってやってくれるか、結果が出せるかどうかでしょ。

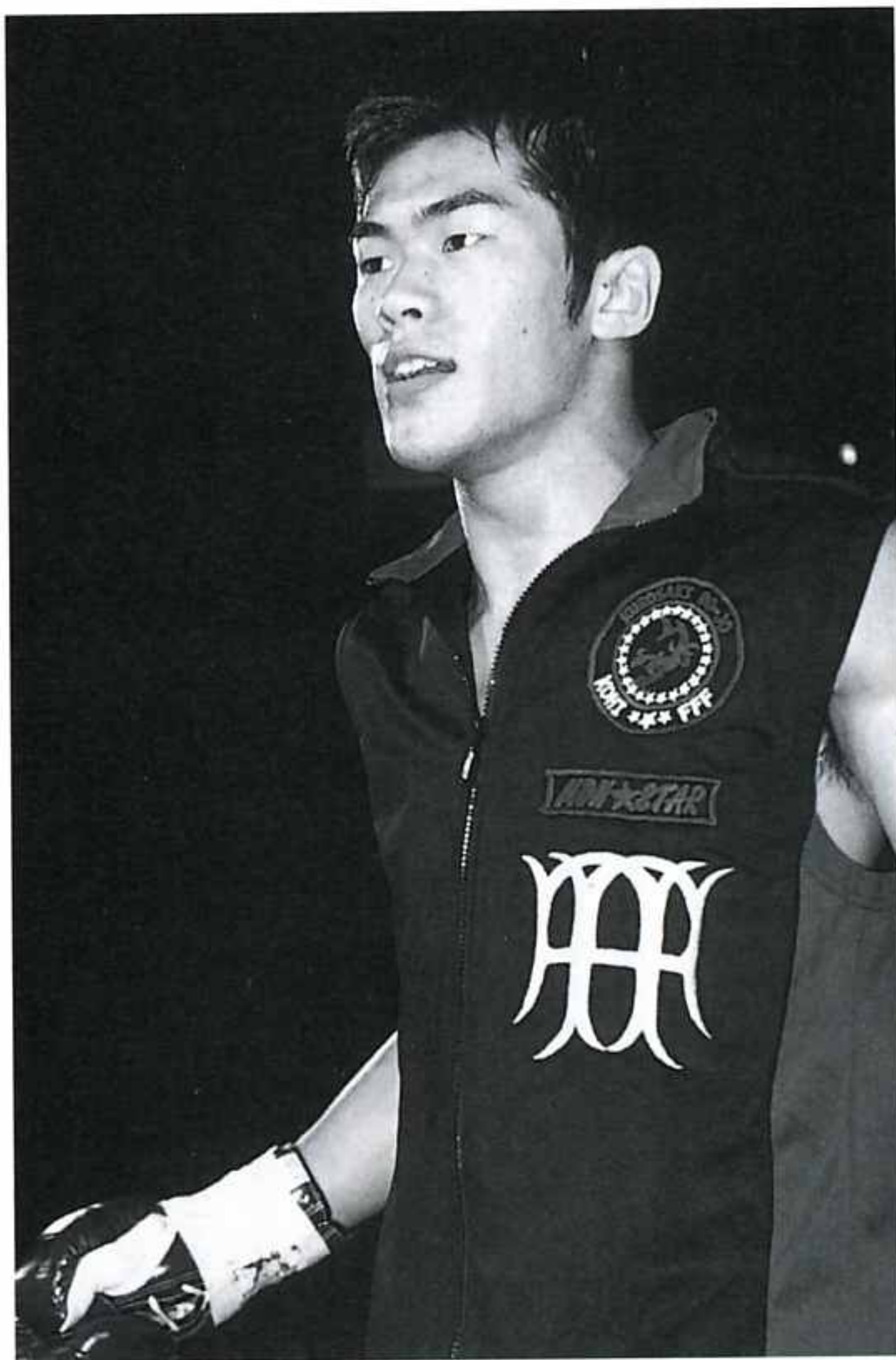
——で、選手のレベルから言って魔裟斗はどっちにしろどこかで負けると思ってたんだけど魔裟斗が唯一、殻を破れるとしたら、それが直接的じゃなくてもコヒに負けることだったんですよね。そうなった時に、それが今の魔裟斗にとっての最大の屈辱だと思うんですよ。だから間接的にでもコヒが魔裟斗よりも上に行くことが重要だったと思うし、そうなったら魔裟斗は一皮剥けるっていうかね。

山本　そーゆーことだよなぁ。

——等身大のレベルで小比類巻っていう存在はライバル視できるじゃないですか。つまり魔裟斗が準決勝で敗れて、小比類巻が決勝に進むことで、コヒのキャラクターを際立たせるというより、それによって魔裟斗を変えるという意味でね。あのトーナメントの組み合わせで魔裟斗が変わるにはそれしかないですから。そこでコヒのほうがみっともない負け方をしたから、翌日の会見で魔裟斗はああいう発言をしちゃったんだと思うんですよ。とにかく俺の興味は魔裟斗と小比類巻の関係性がどうなるのかでしたからね。

山本　つまり小比類巻が魔裟斗を脅かす存在にならないことには、魔裟斗のハードルは低いままで変わらないということだなぁ。

小松　………難しいですねえ、格闘技を見るということは。

山本　そのくらい考えて試合を見ろよぉ。でも惜しかったよなぁ、魔裟斗は。

俺は「日本を捨てるな！」と言いたいわけよぉ

谷川　僕はまだ見捨ててないですけどね、魔裟斗に関しては。

山本　今はサッカーの中田英寿とか、日本人メジャーリーガーとか、み〜んな日本を捨てて海外で活躍してるだろう。でも、俺は「日本を捨てるな！」と言いたいわけよぉ。魔裟斗なんかは日本の土壌でしか、自分を築くところがないでしょ。そういうところが俺にとっては魅力的なんだよねぇ、ホントは。海外でいくら活躍しても、日本を背負ってないことには俺の心には響かないからなぁ。そういう意味で、魔裟斗を刺激するようなもっと強い選手が出てきてほしいねぇ。

谷川　準決勝でクラウスにダウンを取られてからの魔裟斗は良かったですからねえ。あれ、他の選手だったらあそこで「もうダメだ」って感じで終わっちゃいますからねえ。

――1回戦でもダウンを取ったから逃げ切れば判定で勝ちなんだけど、最後まで相手を倒しに行ったでしょ。やっぱりそれがいいんですよ、魔裟斗は。とにかく今回、唯一失敗があるとしたら魔裟斗に完璧な屈辱を与えられなかったことだよね。

山本　魔裟斗に屈辱を与えられるような選手は出てこないのかぁ？

谷川　いや、中量級は層が厚いから、まだまだ出てくる可能性はありますよ。だって、リザーブ・マッチの大野だってガンガン前へ出てたでしょ。

山本　あ、あいつはノーガードで前へ出て行ったもんなぁ。

谷川　で、思いっきり一撃食らって倒れましたからね（笑）。で、立った後にリング下から中迫と武蔵が「休め！　休め！　もうすぐゴングが鳴るから」って言ってたんですよ。

――ダハハハハッ！

山本　その思考こそが最も『ウォーターボーイズ』を象徴してるよなぁ。

谷川　それでも大野は前へ出て行ってやられましたからね。

――要はああいう一発勝負ができるかどうかだよね。負けてもその姿勢や精神が見えれば、確実にこっちに届きますからね。

谷川　でも、中量級はいいソフトの一つになりましたね。

――おい魔裟夫、おまえの目から見た魔裟斗はどうだったんだ？

小松　魔裟斗は良かったですよ。

――同世代としてコヒと魔裟斗はどう見えたの？

小松　今になってよく考えれば、コヒはさっき言ってたように、ファッション感覚が見えましたね。なんか、イズムに浸って酔っているという感じが。でも、魔裟斗は負けて本気で悔しがっているのが見えましたから。

――本当にこのままだと黒崎先生そのものがファッションになっちゃうんじゃないかって不安があるんだよなあ。

山本　前日にTBSで大会の煽り番組があったでしょ。黒崎先生が「今度の試合はどうなんだ」って聞いたら、小比類巻が「楽しんできます！」と言ったんだよね。次に「勝負とはなんだ」って聞かれて、「耐えることです！」と言ったんだよぉ。でも、楽しむことと耐えることはまったく小比類巻に似つかわしくないことなんだよねぇ。俺から見たら、それは本心から発せられた言葉じゃなく、よそ行きの言葉というか、物凄くギャップが感じられたんだよぉ。

――どうしても我々日本人の中には「星一徹感覚」みたいなものがあるでしょ。

谷川　うん、それはある。

――まあ、若者の世代はどうか分からないけど。でも、その感覚があるんだったら、やっぱり黒崎先生は今回の結果を踏まえて、次は魔裟斗に教えるべきだと思うんですよ（笑）。もし小比類巻という人間を鍛える気があるんだったらね。もし、この時点で黒崎先生がコヒを切って、魔裟斗に「おまえに打倒ガオランの秘策を授ける！」って教えたら、弾かれたコヒが断然に輝くじゃないですか。

山本　ああ、そうだよなぁ。

――逆にコヒを魔裟斗より上に持っていって、魔裟斗を悔しがらせるとかね。そのどっちもできていないからね、今は。でも、そういうことがスター作りに最も重要なことですからね。

山本　小比類巻は一回破門されたら確実に輝くよなぁ。

――もし、黒崎先生がコヒのことを可愛いと思うんだったら、魔裟斗をオズマにすべきだと思うんですよ。

山本　とにかく何度も言うようだけど、俺はあの二人を見ると、「日本の未来はどうなるんだろう？」と思っちゃうんだよぉ。

谷川　まあ、それは黒崎先生というより、その下の層の大人が悪いんですけどね。

山本　「それはダメだ！」と怒る大人がいないし、何が正しいかを教える大人がいないんだよぉ。俺は最近、それを身に染みて感じたんだよねぇ。

谷川　何かあったんですかあ。

山本　この前さぁ、俺の家で一揆塾の生徒と鍋パーティーをやったんだよぉ。で、少しずつ生徒たちが帰っていって、最後に残った二人がテレビを見てたんだよぉ。で、テレビを見ているうちに俺は居間で寝てしまったわけ。普通だったらどうする？

――おい、どうするんだ、若者（笑）。

小松　……どうすればいいんですかね。

山本　朝、パッと起きたらそいつらはもういないわけよぉ。それで俺は怒りが爆発したんだよぉ。

小松　なんで怒るんですか？

山本　常識的に考えてみろぉ！　普通だったら書き置きをするか、風邪ひかないように俺に布団をかけて帰るか、何かをするはずなんだよねぇ。

――ぷぷぷぷっ！

山本　朝起きたら寒くて身体がガタガタ震えているわけよぉ。何も言わないで帰

小比類巻は一回破門されたら確実に輝くよなぁ

っていって、書き置きもない。ホントに失礼なヤツらだなあと思って。

谷川　彼らにしてみれば暇つぶしだし、山本さんをファッションにしてるんでしょうねえ、それは（笑）。「ターザン山本の家で鍋を食って、テレビを見た」というファッションだけで、何も学んでないですよ。

――それはコヒの話と一緒ですね（笑）。

山本　普通は一個言ったら、別のことに応用できそうなものなんだけど、それができねえんだよぉ、今の若者たちには。一個のマニュアルを与えても一つの対応しかできねえというかさぁ。

谷川　そういうのが大人になると、瀋陽の日本総領事館事件みたいな、あんな形になっちゃうわけですよね。

山本　ああなっちゃうよぉ、自分の中に判断力がないんだからぁ。

――ぼーっと静観しちゃうというか、静観という対処しかできないんですよね。

山本　何が起ころうと対処できないわけよぉ。瞬時にしてその場における即興性とか判断力が出てこないわけでしょ。そういう人間には人生の有事がないわけよぉ。小松モグにしても日常生活での有事に対する危機感がないだろう。

小松　あ、魔裟夫です。

――おまえには有事がない（笑）。

山本　有事がないから、こいつらには安全保障も必要ないんだよぉ。でも、格闘技というのは1秒ごとが有事でしょ。そのために安全保障をやってるわけだから。

――だから、あの瀋陽の事件は『WORLD MAX』につながっていますよね（笑）。小比類巻と魔裟斗を見比べた時に、小比類巻は帽子を拾う領事館員タイプですよ。でも、魔裟斗は何かをするタイプですよね。

山本　咄嗟の判断力があるということでしょ。人が生きるか死ぬかって時に何をしなければいけないかというのは、人間である以上あるはずなんだよぉ。

谷川　結果としてそれが間違っていたとしても、何かはやりますよね。

山本　そこで何もしないというのが『ウォーターボーイズ』の典型なんだよぉ。

小松　はあ………。

山本　おまえにも精神の有事性がない。国家も有事も安全保障もない。市民権を剥奪すべきだ！

谷川　つまり中量級でいえば、魔裟斗が判定で負けた後、小比類巻の精神性が有事じゃないんですよね。同じ日本人が負けて、自分しかいないという危機感が感じられないんですよね、それは入場してきた時に。

――おまえは今回の領事館問題をどう思うんだ。

小松　実は昨日知ったばかりなんですよ。

――はあ？　あの事件から何日経ってるんだよ（笑）。

小松　ホントに全然知らなかったんですよ。

谷川　んあ～！

――本当に有事知らずだね、おまえは（笑）。

谷川　見事なヤツだなあ、キミは。

小松　なんか会社でみんながザワザワと話してたんで、『内外タイムス』を読んだんですけどね。

――なんで、そこで『内外タイムス』なんだよ（笑）。

小松　あ、有益な風俗情報とかがあるんで。でも、読んでみて凄い事件だなあと思いました。

谷川　き、キミはマスコミなんだから、ああいう事象を見た時に、何かに結びつけるとか、そういうことを考えなくちゃダメだろう。

――所詮は他人事なんだろう。

山本　同じ世代から見て、魔裟斗の悔しさっていうのはどういうところにあると思う？

小松　………う～ん、分かりませんねえ。僕が知りたいですよ。

――青年、恐るべしだなあ（笑）。

谷川　僕は贔屓目に見て魔裟斗はストイックさとか、頑張りとか、悔しさを知ってると思うんですよねえ。ただ、その表現方法とか身の置き方が間違ってるだけで。

――その魔裟斗の中の根拠は小比類巻にあるんだと思うよ。価値観のどこかに小比類巻という存在やジャンルがあるんだと思いますけどね。だから、魔裟斗は自分の存在のまま勝ちたいという部分がより明確に見えるんでしょう。

山本　そうすると魔裟斗からすれば、小比類巻の存在は嫌がらせに見えるわけ？

――嫌がらせとは感じないくらい余裕はあると思いますけどね。対立概念としては存在していると思うんですよ。小比類巻という概念に対立しているっていう意識はあると思いますけどね。でも、悲しいかな今のところ魔裟斗にはそれぐらいしかモチベーションがないと思うんですよ。

山本　そういうことかぁ。

――プロ的な感覚からいっても、ジャパングランプリで勝って小比類巻に水を向けちゃうのも、そういうところだと思うんですけどね。

山本　対立構造としては面白いんだけど、小比類巻のほうはやっていることがアングルに見えちゃうんだよなぁ。

――それも無自覚なアングルですよ。それに比べて魔裟斗のほうはやっぱり自覚があるわけですよ。

山本　これからも期待できるのかぁ？　あの二人には。

――魔裟斗はまだまだ期待できるでしょ。でも、そのためには対立概念としての小比類巻は大事ですよね。

山本　俺はやっぱり格闘家に求めるものは精神の世界なんだよねぇ。精神の物欲というかさぁ、そういうものが見たいわけですよぉ。小比類巻は形としてはやってるんだけど、でもそれは魔裟斗のほうに強く感じるんだよねぇ。精神は物欲化した時に爆発するからねぇ。中量級にはそれがないとダメだよぉ。

――とにかく重要なのは精神の価値観ですよね。精神の物欲化という意味でいえば、魔裟斗が本当の意味ではベンツが欲しかったとは思わないじゃないですか。もっと、自分では言葉にできない何かがあったというかね。でも、そういう向上心みたいなものがガオランとかクラウスからは見えてこないですからね。

谷川　賞金はモチベーションの一つになるでしょうけど、それでもガオランの中ではまだムエタイのほうが概念としては

何が起ころうと瞬時にして対処できないわけよぉ

上ですからね。

――つまり、タイの中ではぁそこで優勝して「ムエタイとＫ―1の二冠王」っていう価値観まで、Ｋ―1が行ってないってことでしょう。

山本　それは一刻も早くＫ―1の価値観を世界的に高めるべきだよぉ。

――それはクラウスも同じで、ピーター・アーツと一緒に練習しているのに、Ｋ―1に対する価値観を理解しているように感じられないよね。

谷川　そう見えちゃったよねえ。おい魔裟夫、キミの価値観ももっと僕たちに対して上げてみろよぉ。

――何か感想とかないのかよ、おまえは。

小松　………いや、ないです。

――「それは違います！」とか「山本さんはもうろくしてますよ」とかさ（笑）。

小松　いやいや、もうろくはされてないじゃないですか。

山本　面白くねえヤツだなぁ（笑）。若者なんだから、もっと噛みついてこいよぉ。

谷川　まあでも、中量級の世界大会をやっていくと魔裟斗が徐々に小比類巻的に見えてくるかもしれないですね。

――そう考えさせるってことは、あの8人の中でプロは魔裟斗だけだったのかもしれないね。

小松　………………。

――会話に入ってこい（笑）。

山本　歳はいくつなんだ？

小松　25歳です。魔裟斗より上です。

――えっ！　魔裟斗より上なの？　何やってんだ、おまえ（笑）。

山本　おめでたいヤツだなぁ、おまえは。意識も無意識もない状態みたいなもんだよぉ。

――ブラックホールみたいなヤツだなあ。

小松　まあ、メシを食った後でちょっとぼーっとはしてるんですけど、それもサダハルンバ・イズム継承者として重要なことだと思うんですけどね……。

谷川　んぁ～！　■

日本の若者よ！
有事にどうする座談会

5/23THU～6/6THU

CALENDAR

5/23 THU
★『SRS・DX』71号発売日

5/24 FRI
●フジテレビ『SRS』(26:15～26:45) ⬅p69

5/25 SAT

5/26 SUN
■新日本キック協会/東京・後楽園ホール (17:00～) ⬅p49
■MAキック連盟/東京・北沢タウンホール (17:00～) ⬅p50
◆PRIDE.21/チケット一斉発売⬅p46
◆PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR/チケット発売⬅p47

5/27 MON

5/28 TUE
■パンクラス/東京・後楽園ホール (18:30～) ⬅p47
■修斗/東京・北沢タウンホール (18:00～) ⬅p48

5/29 WED

5/30 THU
■全日本キック連盟&J-NETWORK合同興行/東京・後楽園ホール (18:00～) ⬅p49

5/31 FRI
●フジテレビ『SRS』(26:15～26:45) ⬅p69

6/1 SAT
■SMACK GIRL/東京・ディファ有明 (18:30～) ⬅p47

6/2 SUN
■K-1 SURVIVAL 2002～富山初上陸～/富山市総合体育館 (13:00～) ⬅p46
■掣圏道アルティメットボクシング定期戦/北海道・帯広市総合体育館 (13:00～) ⬅p46
◆PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR/チケット発売⬅p47

6/3 MON

6/4 TUE

6/5 WED

6/6 THU
★『SRS・DX』72号発売日

格闘技パーフェクトガイド
Perfect Guide

GUIDE & TICKET
大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

PRIDE

PRIDE.21
6月23日(日)　さいたまスーパーアリーナ

◆開場/14:00　試合開始/16:00(予定)
◆入場料/VIP席100,000円(専用入場ゲート、グッズ付) RRS席25,000円　スタンドS席15,000円　スタンドA席7,000円
◆チケット発売/下記の表を参照
◆会場アクセス/JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分、JR埼京線北与野駅から徒歩7分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

6・23『PRIDE.21』チケット発売情報

〈一斉発売〉
5月26日(日) 10:00〜
ドリームエンターテインメント(10:00〜19:00)
☎03-5775-5700
PRIDEオフィシャルサイト
(http://www.digiseat.net/pride)
PRIDE i-mode/J-PHONEオフィシャルサイト
チケットぴあ(Pコード:594-700)
ローソンチケット(Lコード:35942)
CNプレイガイド(10:00〜18:00)
イープラス(http://eee.eplus.co.jp)
新日本プロモーション
(http://www.shinnichi-pro.co.jp/)
チケットgaburi(http://www.gaburi.com/)

◎店頭販売
サークルK、サンクス、レッスル渋谷、レッスル池袋、板橋大山アメリカン、書泉ブックマート、フィットネスショップ水道橋、後楽園ホール

グレート・アントニオ　☎03-3219-9550
高田道場　☎03-5749-5030
チケット&トラベルT-1　☎03-5275-2778
TOKYO文庫TOWER　☎03-5784-4900
BCG　☎03-3560-7911
さいたまスーパーアリーナ　☎048-600-3037
相鉄ジョイナスプレイガイド　☎045-319-2456
公武堂　☎052-241-2511

掣圏道

掣圏道アルティメットボクシング定期戦
6月2日(日)　北海道・帯広市総合体育館

◆開場/12:00　試合開始/13:00
◆入場料/R席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/本間興業帯広支社☎0155-23-6696、勝海サロン☎0511-27-0077、ウサギヤプレイガイド☎0511-24-3837、玉光堂帯広店☎0155-24-3837、藤丸チケットぴあ☎0155-24-2101　MINAステーション☎0155-25-1137、長崎屋サービスカウンター☎0155-21-7737、ローソンチケット
◆会場アクセス/JR帯広駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

DEEP2001

DEEP2001 5th IMPACT in DIFFER ARIAKE
6月9日(日)　東京・ディファ有明

◆開場/14:00　試合開始/15:00　◆入場料/SRS席10,000円　アリーナA席7,000円　アリーナB席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス(http://eee.eplus.co.jp)、ディファ有明☎03-5500-3731、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、デポマート☎03-3515-6507、パンクラス☎03-5792-0815、DEEP2001　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分　◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

決定対戦カード

和田良覚 vs MAX宮沢
(リングス・ジャパン)　(荒武者 総合格闘術)

"ランバー" ソムデート吉沢 vs アリソン・メロ
(M16ジム)　(ノヴァ・ウニオン)

伊藤崇文 vs 日高郁人
(パンクラスism)　(フリー)

ミドル級1DAYトーナメント表

- 村浜天晴(ワイルドフェニックス)
- 星野勇二(RJW/CENTRAL)
- 梁正基(スタンド)
- 上山龍紀(U-FILE CAMP)
- 久松勇二(TIGER PLACE)
- 窪田幸生(パンクラスism)
- 石川英司(パンクラスGRABAKA)
- 長南亮(U-FILE CAMP)

"club DEEP" first Challenge in club OZON
7月14日(日)　名古屋・club OZON

◆開場/14:00　試合開始/16:00　◆入場料/オールスタンディング3,000円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/6月8日(土)　◆チケット発売所/チケットぴあ、公武堂☎052-241-2511、DEEP2001事務局　◆会場アクセス/地下鉄桜通線久屋大通駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

出場予定選手

坂田亘(EVOLUTION)
山崎剛(Team GRABAKA)
土居龍晴(スリーティー)
岩間朝美(名古屋ブラジリアン柔術クラブ)

K-1ジャパンシリーズ

K-1

K-1 SURVIVAL 2002 〜富山初上陸〜
6月2日(日)　富山市総合体育館

◆開場/12:00　試合開始/13:00
◆入場料/SRS席20,000円　S席12,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ローソンチケット(Lコード:53011)、チケットぴあ、キョードー北陸チケットセンター☎025-245-5100、インフォマート(cic店/市民プラザ店)、富山大和、高岡大和
◆会場アクセス/JR北陸本線富山駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

決定対戦カード

〈K-1他流試合5番勝負〉
中迫剛 vs ボブ・サップ
(ZEBRA244)　(アメリカ)

〈K-1 JAPAN GP 2002 出場決定戦〉
ノブ・ハヤシ vs 森口竜
(ドージョーチャクリキ)　(チームTBC)

〈K-1 JAPAN GP 2002 出場決定戦〉
富平辰文 vs グレート草津
(SQUARE)　(チーム・アンディ)

他流試合出場予定選手

ピーター・アーツ(オランダ/メジロジム)
レイ・セフォー(ニュージーランド/アメリカンプレゼントボクシングジム)

中迫　剛 vs ボブ・サップ

ピーター・アーツ　レイ・セフォー

パンクラス

美濃輪と佐々木が急きょ参戦！

5・28後楽園大会に美濃輪育久と佐々木有生の参戦が決定した。美濃輪の相手は、対戦予定だった鈴木みのるが左手中指亜脱臼のため、試合が中止になった佐藤光芳だ。佐藤は、1・27後楽園大会での近藤有己戦に続いて、またもメインを張ることになった。そして、佐々木の相手には、10戦無敗でパンクラス初参戦となるジョン・グローバーが決定。未知なる強豪を相手に、佐々木はどう闘うのか!?

美濃輪育久　佐々木有生

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
5月28日（火）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:30　◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　C席4,500円　D席3,500円　立見席3,000円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY ☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F ☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

決定対戦カード

美濃輪育久 vs 佐藤光芳
（パンクラスism）（パンクラスGRABAKA）

佐々木有生 vs ジョン・グローバー
（パンクラスGRABAKA）（アメリカ/I.F.アカデミー）

佐藤堅一 vs 矢野卓見
（土道館ジム）（烏合会）

〈パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント1回戦〉
國奥麒樹真 vs 岩崎英明
（パンクラスism）（ストライプル）

〈パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント1回戦〉
大石幸史 vs 割田佳充
（パンクラスism）（チームPOD）

〈パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント1回戦〉
長岡弘樹 vs 太田洋平
（ロデオ・スタイル）（A³）

ジェイソン・ゴドシー vs 多田尾秀樹
（アメリカ／I.F.アカデミー）（RJW/CENTRAL）

〈パンクラスゲート〉
富山浩宇 vs 西野聡
（P's LAB横浜）（和術慧舟會東京本部）

〈パンクラスゲート〉
カツオ vs 大場裕司
（ロデオ・スタイル）（P's LAB東京）

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
7月28日（日）・昼　東京・後楽園ホール

◆開場/12:30　試合開始/13:30　◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　C席4,500円　D席3,500円　立見席3,000円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/6月2日（日）　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
7月28日（日）・夜　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:00　◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　C席4,500円　D席3,500円　立見席3,000円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/6月2日（日）　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
8月25日（日）　大阪・梅田ステラホール

◆開場/15:00　試合開始/16:00　◆入場料/SS席8,500円　A席6,500円　B席5,000円　◆チケット発売/5月26日（日）　◆チケット発売所/P's LAB大阪☎06-6649-8530、チケットぴあ（Pコード：594-040）、ローソンチケット（Lコード：39910）、イープラス（http://eee.eplus.co.jp）、チャンピオン大阪☎06-6645-5186、バディ・スラム☎06-6645-1378、エース☎06-6636-5468、神戸住吉・富万☎078-811-6222、パンクラス☎03-5792-0815　◆会場アクセス/JR大阪駅中央北口より徒歩10分　◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

スマックガール実行委員会

藪下めぐみが遂にスマックのリングに！そして、篠原光が第1試合で復帰！

『ReMix』やJ'dのマットで格闘技戦を闘ってきたプロレスラー・藪下めぐみが、遂に『スマックガール』のリングに登場する！　気になる対戦相手は、前回の「SMACK vs KICK 5対5全面対抗戦」で『スマックガール』初参戦を果たしたキックボクサー・彩丘亜紗子だ。彩丘は、藪下と同じJ'dのマットで活躍するプロレスラー亜利弥'に判定勝ちしているだけに、藪下としては敵を討ちたいところだ。そして、前回の開会式で篠代表に復帰を嘆願した篠原光は、第1試合で張替美佳と対戦することが決定した。

VS
藪下めぐみvs彩丘亜紗子

女子総合格闘技・AX

『AX』初の国際試合が開催予定！

第2回から第3回開催まで4カ月の期間が開いてしまった『AX』だが、第4回が早くも決定！　次回大会では、国際試合が行われる予定だ。まだ、カードは発表されていないが、5・4後楽園大会に参戦した選手を中心にカードが組まれる模様。どの国から、どんな選手が来るのかが期待される。

AX Vol.4
6月26日（水）　東京・後楽園ホール

◆開場/18:00　試合開始/18:30　◆入場料/ロイヤルスーパーシート10,000円　スーパーシート6,000円　レギュラーシート5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、米里倶人満☎03-3639-8605、チケット&トラベルT-1☎わ03-5275-2778、AX公式ホームページ（http://www.kk-aile.co.jp/ax）　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/女子総合格闘技・AX☎03-5286-7921

出場予定選手

星野育蒔（米里倶人満）
ジェットイズミ（Jネットワーク）
岡裕美（フリー）
ドレイク森松（フリー）

格闘技エンターテインメントSMACK GIRL SMACK LEGEND 2002
6月1日（土）　東京・ディファ有明

◆開場/17:30　試合開始/18:30
◆入場料/SS指定席4,500円　自由席3,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ディファ有明、書泉ブックマート
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/スマックガール実行委員会☎03-5447-8483

決定対戦カード

藪下めぐみ vs 彩丘亜紗子
（J'd）（PALM）

張替美佳 vs 篠原光
（GF2）（チーム南部）

出場予定選手

しなしさとこ（GIRL FIGHT AACC）
渡邊久江（LIMIT）
Lay-ho（ボディプラント）
Eika（拳士館）
ナナチャンチン（チーム南部）

格闘技エンターテインメントSMACK GIRL 最強タッグトーナメント2002
7月6日（土）　東京・ディファ有明

◆開場/18:00　試合開始/18:30
◆入場料/指定S席6,500円　指定A席4,500円　自由席3,500円
※当日券は500円増し、小学生以下無料
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ディファ有明、書泉ブックマート
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/スマックガール実行委員会☎03-5447-8483

キックボクシング

シュートボクシング協会

SHOOTOBOXING WORLD TOURNAMENT "S-cup"
7月7日（日） 神奈川・横浜文化体育館

◆開場/13:00 試合開始/15:00
◆入場料/SRS席20,000円 RS席15,000円 SS席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザKINGS☎03-3462-1001、シュートボクシング協会
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

S-cupトーナメント出場決定選手

土井広之（シーザージム）
後藤龍治（STEALTH）
ダニエル・ドーソン（オーストラリア）
マヌエル・フォンセカ（ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー）

出場予定選手

ヴォルク・アターエフ（リングス・ロシア）
緒形健一（シーザージム）
雷暗暴（フリー）

日本キックボクシング協会

2002年破壊シリーズ
6月29日（土） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円 指定A席5,000円 指定B席3,000円
◆チケット発売/未定
◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

決定対戦カード

〈NBKウェルター級決勝戦〉
小野瀬邦英vs石毛慎也
（渡辺） （東京北星）

〈NBKバンタム級決勝戦〉
中野智則vsX
（パシフィック）

海老沢朋和vs獅子丸修平
（平戸） （小国）

中岡秀夫vs馳大輔
（大阪真門） （JK国際）

高野洋一vs飯田誠一
（神武館） （町田金子）

修斗

アベ兄vsノゲイラがノンタイトル戦で激突！

7・19後楽園大会で、ライト級4位のアベ兄こと阿部裕幸が、ライト級王者ノゲイラと対戦する。今回は、タイトルマッチではないが、ここで勝利して、次期挑戦者に名乗りを上げたいところだ！

アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラvs阿部裕幸

SHOOTO GIG EAST 09
5月28日（火） 東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00 試合開始/18:00
◆入場料/S席6,000円 A席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/KEEL CAFE☎03-5725-7338、パレストラ東京
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

決定対戦カード

ABKZ vs X
（パレストラ東京）

川尻達也vs杉江"アマゾン"大輔
（総合格闘技TOPS） （ALIVE）

弘中邦佳vs原弘文
（SSSアカデミー） （TEAM JUNFAN）

風田陣vs小松寛司
（ピロクテテス新潟） （総合格闘技道場コブラ会）

〈02年度新人王トーナメント フェザー級準決勝〉
横山宜行vs木部亮
（総合格闘技STF） （ALIVE）

〈02年度新人王トーナメント ウェルター級準決勝〉
飛田拓人vs尾松賢
（インプレス） （総合格闘技道場コブラ会）

井上正也vs安達明彦
（パレストラ加古川） （パレストラ松戸）

鹿糠智樹vs中西裕一
（パレストラ岩手） （シューティングジム横浜）

ニュージャパンキックボクシング連盟

DREAM RUSH 5
7月14日（日） 東京・後楽園ホール

◆開場/16:45 試合開始/17:00
◆入場料/SRS席12,000円 RS席10,000円 特別指定席7,000円 指定A席5,000円 指定B席4,000円 指定C席3,000円 立見2,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング事務局☎03-5625-2371

総合格闘技&ノールール系

プロフェッショナル修斗公式戦
6月29日（土） 大阪・堺市金岡公園体育館

◆開場/14:00 試合開始/16:00
◆入場料/SRS席15,000円 RS席12,000円 PS席12,000円 SS席10,000円 P席10,000円 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、ローソンチケット、CNプレイガイド、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線新金岡駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

出場予定選手

佐藤ルミナ（K'zファクトリー）
池本誠知（ライルーツコナン）
須田匡昇（クラブJ）

プロフェッショナル修斗公式戦
7月19日（金） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:30 試合開始/18:30
◆入場料/RS席10,000円 SS席7,000円 S席5,000円 A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、書泉ブックマート、後楽園ホール、フィットネスショップ水道橋、大盛堂書店☎03-5784-4900、KEEL CAFE☎03-5725-7338
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ガッツマン・プロモーション☎03-3325-1500

決定対戦カード

アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラvs阿部裕幸
（ブラジル/ワールド・ファイト・センター） （AACC）

廣野剛康vs久保山誉
（和術慧舟會） （K'zファクトリー）

生駒純司vs阿部マサトシ
（直心会格闘技道場） （AACC）

出場予定選手

ドゥドゥ・ギマラエス（ブラジル/ワールド・ファイト・センター）
トリコ・ジュニオール（ブラジル/ワールド・ファイト・センター）

topic!
日本修斗協会設定 3月、4月度月間賞発表！

〈3月〉
◆月間MVP／八隅孝平（パレストラ東京）

◆ベスト・バウト（プロ部門）
阿部裕幸vsバレット・ヨシダ
（AACC） （アメリカ/グラップリング・アンリミテッド）
※3月15日／東京・後楽園ホール

〈4月〉
◆月間MVP／川尻達也（総合格闘技TOPS）

◆ベスト・バウト（プロ部門）
椎木努vs溝口直右
（直心会格闘技道場） （誠流会）
※4月21日／東京・北沢タウンホール

新日本キックボクシング協会

LOCK ON！～奪還～

5月26日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:00　◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　A指定席7,000円　B指定席5,000円　立見席4,000円（当日のみ）　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/治政館ジム、チケットぴあ、後楽園ホール　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/治政館ジム☎048-953-1880

主な対戦カード

―5回戦―

〈泰国ラジャダムナンスタジアム認定Jrミドル級タイトルマッチ〉

サゲッダーオ・ギャットプートンvs武田幸三
（タイ）　（治政館）

〈日本フェザー級タイトルマッチ〉

小出智vs鈴木敦
（治政館）　（尚武会）

深津飛成vsトーンパンチャン・サックテーワン
（伊原ジム）　（タイ）

石井宏樹vs朴炳圭
（藤本ジム）　（韓国／博光）

北沢勝vs頼信
（藤本ジム）　（トーエルジム）

マサルvsジャッカル黒石
（トーエルジム）　（治政館）

小川和宏vs金受煥
（治政館）　（韓国／博光）

勇者の挑戦 PART3

6月30日（日）　東京・ディファ有明

◆試合開始/16:00（予定）
◆入場料/RS席15,000円　A席7,000円　B席5,000円
◆チケット発売/未定　◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/新日本キックボクシング協会☎03-3780-1350

主な対戦カード

―5回戦―

鷹山真吾vsナーティー・ソーカムシン
（尚武会）　（タイ）

風神和昌vsジャワリット
（野本塾）　（タイ）

モンチーエシマvsスダッチ
（治政館）　（ホワイトタイガー）

IKUSA事務局

IKUSA―初陣― KICKvsTECHNO

6月16日（日）　東京・CLUB Byblos

◆試合開始/15:00　◆入場料/プラチナ@30,000円　スタンディング@7,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ファミリーマート　◆会場アクセス/都営大江戸線・営団南北線麻布十番駅より徒歩1分　◆お問い合わせ/IKUSA事務局☎03-5213-7331

主な対戦カード

―5回戦―

梅下湧暉vs大宮司進
（谷山）　（シルバーウルフ）

ナルンチャイvs井上哲
（谷山）　（山木）

BREAK A WAY！～開拓～

7月27日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席4,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/治政館ジム、チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/新日本キックボクシング協会☎03-3780-1350

決定対戦カード

〈日本ライト級タイトルマッチ〉

石井宏樹vs井場洋貴
（藤本）　（治政館）

菊地剛介vs小出智
（伊原）　（治政館）

出場予定選手

武田幸三（治政館）

深津飛成（伊原）

松本哉朗（藤本）

米田克盛（トーエル）

庵谷鷹志（伊原）

全日本キックボクシング連盟&J-NETWORK合同興行

全日本キックvsJ-NETWORK MOVEMENT

5月30日（木）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席10,000円　S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円　立見席3,500円（当日券のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、Bout Review、全日本キック電話予約☎03-3365-1171
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キック☎03-3365-1171、J-NETWORK☎03-3419-0536

主な対戦カード

―5回戦―

金沢久幸vs蔵満誠
（TEAM-1）　（JMTC）

新開実vs浦林幹
（青春塾）　（ソーチタラダ）

〈サドンデスマッチ〉

山本優弥vs北野ユウジ
（空修会館）　（アクティブJ）

〈サドンデスマッチ〉

ラスカル・タカvs吉本光志
（月心会）　（アクティブJ）

〈サドンデスマッチ〉

平谷法之vs牧裕三
（空修会館）　（ソーチタラダ）

全日本キックボクシング連盟

花戸忍、全日本キックに入団！

東金ジムから高橋道場に移籍し、6月1日より全日本キックのリングに上がることとなった、前MA日本スーパー・フェザー級王者の花戸忍。その花戸の全日本キック第一戦目の相手は、同じくMAキックで活躍していた砂田将祈だ。今後、ライト級を主戦場にして闘っていく花戸は、全日本キックでも王者の地位に就いてしまうのか!?

Who's Next 02

6月16日（日）　東京・後楽園

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　立見席3,500（当日のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック電話予約☎03-3365-1171
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キック☎03-3365-1171

主な対戦カード

―5回戦―

〈MA日本フライ級タイトルマッチ〉

安川賢vsアンドレア・モロン
（S.V.G.）　（イタリア）

砂田将祈vs花戸忍
（はまっこムエタイジム）　（高橋道場）

池田好治vs加藤督朗
（藤原ジム）　（PHOENIX）

西田和嗣vsアントニオ・メデリン
（S.V.G.）　（イタリア）

J-NETWORK

J-BLOODS Ⅲ

7月12日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30（予定）
◆入場料/RS指定席12,000円　S席9,000円　A席7,000円　B席5,000円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/未定
◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/J-PROMOTION☎03-3418-5248

決定対戦カード

増田博正vsノッパガオ・ソーワンチャー
（ソーチタラダ）　（タイ）

空手

極真会館（松井派）

2002オープントーナメント 第19回全日本ウェイト制空手道選手権大会
6月8日（土）、9日（日）　大阪府立体育会館

◆開場/10:00
◆入場料/自由席3,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/極真会館☎03-5992-9900、☎03-5992-7739、チケットぴあ、ローソンチケット
◆会場アクセス/南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/国際空手道連盟極真会館☎03-5992-9900

Ticket Present！

6・8、9『2002オープントーナメント第19回全日本ウェイト制空手道選手権大会』の両日の観戦チケットを、『SRS・DX』読者各5組10名様にプレゼント！　希望者はハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、今号の感想、希望日を明記して、下記のあて先までご応募を。締め切りは6月4日（火）必着。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆あて先／〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12　神田NSビル8F　SRS・DX編集部「第19回全日本ウェイト制空手道選手権大会チケットプレゼント」係

真樹道場

2002オープントーナメント 第3回全日本空手道選手権大会
9月22日（日）　愛知・豊田市体育館

◆開場/9:30　試合開始/10:00
◆入場料/自由席2,000円（当日券3,000円）　小学生1,000円
◆チケット発売/未定
◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/名古屋鉄道豊田市駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/世界空手道連盟真樹道場・愛知本部☎0565-24-3861

大道塾

THE WARS Ⅳ
7月17日（水）　東京・後楽園ホール

◆詳細未定　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

出場予定選手

藤松泰通（大道塾）
山崎進　（大道塾）
小川英樹（大道塾）
飯村健一（大道塾）

正道会館

第4回オープントーナメント全日本ジュニア空手選手権大会
5月25日（土）　大阪市中央体育館 メインアリーナ

◆開場/9:15　試合開始/10:00　◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄中央線朝潮橋駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本ジュニア大会事務局☎06-6357-1654

ブラジリアン柔術

コパ・パレストラ サウス・ジャパン
5月26日（日）　福岡・北九州パレス

◆試合開始/10:30　◆入場料/無料
◆会場アクセス/西鉄バス96番系統乗車「北九州パレス前」下車、徒歩1分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

第3回全日本ブラジリアン柔術選手権大会
5月31日（金）～2日（日）　東京・台東リバーサイドスポーツセンター体育館3階第一武道場

◆試合開始/10:30　◆入場料/無料
◆会場アクセス/東武伊勢崎線・都営浅草線・地下鉄銀座線浅草駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/日本ブラジリアン柔術連盟☎03-5984-3209

キックボクシング

MA日本キックボクシング連盟

SHIMOKITA GROUND ZERO PT2
5月26日（日）　東京・北沢タウンホール

◆試合開始/17:00
◆入場料/A指定席6,000円　B自由席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/全席自由4,000円　※当日券は1,000円増し
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟☎03-3485-7063

主な対戦カード

―5回戦―
泉雄策 vs 水町浩
（山木ジム）　（士魂村上塾）

愛媛松山興業 VOL.3
6月23日（日）　アイテム愛媛

◆開場/13:30　試合開始/14:30
◆入場料/SRS席12,000円　RS席6,000円　自由席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/紀伊国屋書店、フジグラン松山、マーシャルワールド愛媛、武勇会館
◆会場アクセス/松山空港より車で10分、またはJR松山駅より車で15分、または松山市駅より定期路線バスが30分毎に運行
◆お問い合わせ/武勇会☎089-921-7909

主な対戦カード

―5回戦―
〈MA日本フライ級タイトルマッチ〉
森岡タカシ vs 山下大輔
（武勇会）　（山木）
〈MA日本バンタム級王座決定戦〉
アトム山田 vs 高橋拓也
（武勇会）　（習志野）
チャンデット・ソーペァンタレー vs 後藤誠
（タイ）　（後藤）

第5回梶原一騎杯 キック ガッツ 2002
6月30日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/SRS席20,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席3,000円
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟☎03-3485-7063

アマチュア

U-FILE CAMP

STYLE-U
6月22日（土）　東京・大田区体育館 本館

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/全席自由2,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売所/U-FILE CAMPオフィシャルHP（http://www.u-filecamp.com）まで
◆会場アクセス/JR京浜東北根岸線、東急池上線・目蒲線蒲田駅より徒歩15分、京急本線梅屋敷駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/U-FILE CAMP☎044-932-0282

主な対戦カード

長南亮 vs 上山龍紀
（U-FILE CAMP）　（U-FILE CAMP）

T.A.M.A

格闘技サミットトーナメント
6月23日（日）　東京・ニューシティホール国立特設コート

◆開場/11:00　試合開始/11:30
◆入場料/前売り2,000円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売所/送料500円をプラスして、希望枚数×2,000円を下記の住所に現金書留で郵送
〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5　長瀬正和
◆会場アクセス/JR国立駅より徒歩1分
◆お問い合わせ/T.A.M.A☎0425-72-6795

ワールドシュートボクシング協会

アマチュアシュートボクシング選手権 第21回関東大会
6月2日（日）　神奈川県立体育センター

◆開場/9:00　試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/小田急線善行駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ワールドシュートボクシング協会　☎03-3843-1212

テコンドー

第13回全日本テコンドー選手権大会
6月9日（日）　東京・国立代々木競技場第二体育館

◆開場/8:45　試合開始/9:00
◆入場料/1,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/テコンドー大会事務局☎042-360-1289、チケットぴあ、ローソンチケット、久保アートプロデュース
◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/テコンドー大会事務局☎042-360-1289

主要チケット発売所一覧

チケットぴあ ☎03-5237-9999	板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443
ローソンチケット ☎03-3569-9900	チャンピオン ☎03-3221-6237
CNプレイガイド ☎03-5802-9999	書泉ブックマート ☎03-3294-0011
オデッセー ☎03-3408-0331	フィットネスショップ水道橋 ☎03-3265-4646
渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513	後楽園ホール ☎03-5800-9999
レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078	e+（イープラス） http://eee.eplus.co.jp ☎03-5749-9911
レッスル池袋店 ☎03-3989-0056	

バックナンバー インフォメーション

これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）

《2・14　63号》

- 2002年、早くも始まったマット界の大地殻変動！/田村潔司、髙田延彦、武藤敬司、ドン・フライインタビュー
- 大会詳報/1・11「一撃」代々木第2体育館旗揚げ大会
- 新春三大特集！/「K-1 J・MAX」、ルチャ・リブレ、女子総合格闘技特集
- SRS・DXの注目/「SRS・DX」公式HP集計結果大公開！、12・31「猪木軍vsK-1軍」の余波…石井館長、永田裕志、堀辺正史、尾崎社長インタビュー
- 噂の三面記事/「K-1 J・MAX」トーナメント組み合わせ決定！　ほか
- 大会レポート/1・11「UFC35」、1・12修斗後楽園大会　ほか

《2・28　64号》

- 緊急特集/揺れる猪木イズム　21世紀のプロレスとは？　アントニオ猪木、蝶野正洋、馳浩、週刊ゴング・金沢克彦編集長インタビュー
- K-1特集/ミルコ、ハント、中迫インタビュー、特別寄稿「プロレスマスコミから見たK-1」…紙のプロレスRADICAL・山口日昇編集長、週刊ファイト・井上義啓元編集長
- 「プライド19」直前情報/エンセン井上、ブッカーKインタビュー
- 「SRS・DX」特別企画/夢の競演！　ヤノタクvsルチャ
- 大会レポート/2・1SB後楽園大会、1・27K-1 JAPAN静岡大会、1・27パンクラス後楽園大会、1・27新日本キック後楽園大会、1・26NJKF後楽園大会　ほか

《3・14　65号》

- 大会速報/2・24「プライド19」さいたまスーパーアリーナ大会
- 大会詳報/2・11「K-1 WORLD MAX日本代表決定トーナメント」代々木第2体育館大会、2・15リングスラストマッチ横浜文化体育館大会
- ターザン山本復活！「K-1 WORLD MAX」座談会
- SRS・DXの注目/小比類巻貴之&黒崎健時インタビュー、カーロス・ニュートンインタビュー、3・30DEEPに向け佐伯代表がメキシコ視察「これが噂のルチャ最強軍団だ！」
- 大会レポート/2・11修斗神戸大会、2・15全日本キック後楽園大会、2・17パンクラス大阪大会、2・22THE BEST後楽園大会

《3・28　66号》

- 特集「次は「K-1vsPRIDE」か？」/ミルコ・クロコップ、桜庭和志インタビュー
- 徹底検証/WWF緊急座談会、武藤敬司、島田裕二インタビュー、石井館長、鈴木健想、村浜武洋、篠原光に聞く「あなたはWWFをどう見ましたか？」
- 大会詳報/3・3「K-1 ワールドGP2002」名古屋レインボーホール大会
- 3・30「DEEP2001」名古屋大会情報/和田良覚、横井宏考、エル・ソラールインタビュー
- SRS・DXの注目/ホドリゴ・グレイシーインタビュー、前田日明vs山崎一夫トークショー
- 大会レポート/2・24K-1オランダ大会、3・2ZERO-ONE1周年記念両国大会、3・2SMACK GIRLディファ有明大会　ほか

《4・11　67号》

- 《緊急特集K-1vs「プライド」》/K-1&「プライド」ファイターを徹底検証、セーム・シュルト、山本憲尚インタビュー、ボブ・サップとは何者か？、ブッカーKが語る総合ファイターの打撃力　ほか
- 大会速報/3・22「UFC36」ラスベガス大会
- SRS・DXの注目/田村潔司、女子中学生ファイター・Eikaインタビュー
- 3・30「DEEP2001」最終情報/滑川康仁、渡辺大介インタビュー
- 大会レポート/3・15修斗後楽園大会、3・17全日本キック後楽園大会、3・24コンバットレスリング選手権大会、3・24新日本キック後楽園大会

《4・25　68号》

- 特集「「K-1vsPRIDE」ルール問題こそエンターテインメントだ！」/ミルコvsシウバ戦のルールはどうなる!?、関係者に聞く「ルール問題」、ギルバート・アイブル、ヴァンダレイ・シウバインタビュー　ほか
- 大会詳報/3・30「DEEP2001」名古屋大会
- SRS・DXの注目/3・17「2H2H・SIMPLE IS THE BEST 4」オランダ大会、マルコ・ファス、ユセフ・トルコ、闘魂カメラマン原悦生インタビュー、PRIDE公認・BCGオープンセミナー情報
- 大会レポート/3・25パンクラス後楽園大会、3・31修斗名古屋大会、3・30MAキック後楽園大会、4・7スマックガール、3・31SB後楽園大会

《5・9&5・23　合併号　69号》

- 完全速報/4・21「K-1 BURNING 2002」広島大会
- SRS・DXの注目/ヴァンダレイ・シウバインタビュー、編集部トーク覆面座談会Special、郷野聡寛インタビュー、中井祐樹&主催者に聞く日本初のプロ柔術大会「GI um」の見方
- 4・28PRIDE.20横アリ大会最終情報/アレクサンダー大塚vsターザン山本対談、菊田早苗、パンクラス尾崎社長インタビュー
- 5・11K-1ミドル級世界一決定戦直前情報/魔裟斗、小比類巻貴之、アルバート・クラウスインタビュー
- 大会情報/4・12全日本キック後楽園大会、3・23極真バリ大会、4・14修斗下北沢大会

《6・13　臨時増刊号　70号》

- 完全速報/4・28「PRIDE.20」横アリ大会
- 直前情報/5・11「K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～」、黒崎健時インタビュー、ガオラン・カウイチットとは何者か？
- これからどうなる？　K-1vsPRIDE/セーム・シュルト、武蔵インタビュー
- SRS・DXの注目/5・11パンクラス直前情報…DDT橋本友彦インタビュー、ノゲイラ兄弟&マリオ・スペーヒーvsターザン山本対談
- 大会レポート/4・21J-NETWORK後楽園大会、4・25木口道場下北沢大会、4・21極真全アジア空手選手権大会

バックナンバー　通信販売方法

定価／各680円　送料／1冊＝110円、以下一冊増えるごとに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。61号のみ720円です。ご注意願います。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　「SRS・DX　バックナンバー係」まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

次号予告 NEXT ISSUE

注意！

次号は6・2 K-1富山大会速報のため、通常より1週間早い

お買い忘れにご注意ください！

6/6 木 発売

完全速報 **6・2 K-1 SURVIVAL 富山大会**

最新情報 **6・23 PRIDE.21 たまアリ大会**

詳報 **5・25 K-1 WORLD GP パリ大会**

バンナ、地元フランスでハントにリベンジできるか!?

K-1、他流試合5番勝負

中迫剛 VS ボブ・サップはどうなるのか？
そして、アーツは？　セフォーは？

SRS DX スペシャル・リング・サイド

2002 7/11増刊号
No.72
毎月第2・第4木曜日発売
定価 680YEN

発行/フジテレビ出版・ローデス　発売/扶桑社

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.asakusakid.com

キッドがGWの大会ラッシュを総括！
やっぱり話題の中心は尾崎社長!!

博士 プロレス・格闘技も超過密だったゴールデンウィークも終了！ 期間中のイベントを総括しようじゃないか！

玉袋 一番印象に残った興行は和泉元彌の中国公演だったな。

博士 そんなワイドショー的な記憶じゃないよ！ まずは『プライド20』からいこうじゃないか！

玉袋 なんと言ってもSRS・DX、注目は、当日新横浜駅前の文教堂で行われた浅草キッドゲリラサイン会ですよ！

博士 思いっきり「テキヤ商売だ」って笑われてたろ！ でも、試合前にもかかわらず、アレクサンダー大塚選手が手伝いに来てくれたのにはビックリしたな。

玉袋 でも、ソラールとウルトラマンを連れていたので、俺はサイン会をキャンセルするって粘ったんですけどね。

博士 パンクラス尾崎社長になってどうするんだよ！

玉袋 アレクのセコンドを強行した、エル・ソラールたちを中国武装警察が立ち入って強制連行されましたね。

博士 ルチャ・リブレ軍団は北朝鮮の亡命家族じゃないよ！ そのアレクサンダー大塚VS菊田早苗は個人的に心の奥底の感情を鷲掴みにするファイトとなった。

玉袋 お互い、知ってる選手同士の対決ですからね。

博士 アレクはあのマルコ・ファス戦の大番狂わせの感動を忘れぬため、生涯ファンを誓った、旧知の仲。一方で、菊田選手は俺も通っている、ジムのスネークピットジャパンで何度となく会話もしている間柄だったからな。

玉袋 この闘いは過去に行われたボクシングの江口兄弟対決ぐらい、観るのがつらい対決でしたよ！

博士 まぁ、この試合については喧々諤々の議論になっているが、浅草キッドとしては、これほど感情を逆撫でする格闘技も、その感情を引き出すことにおいて「あり」なのだ。

玉袋 そのパンクラスの尾崎社長が『プライド』と何やらもめているでしょ？

博士 尾崎社長あるところ、必ず何かもめ事があるな！ 今回のアレクの裏にはルールディレクターの島田裕二レフェリーが暗躍してるってことだ。

玉袋 これに対して『プライド』側は過去のパンクラスのリングで行われたマット・ヒュームとシャムロックの試合は申し合わせがあったと反論！

博士 そのもめ事は三島★ド根性ノ助のパンクラス大阪大会出場を巡って勃発した修斗VSパンクラスの泥沼のもめ事だよ！

玉袋 せっかくパンクラス勢が『プライド』に上がって、素晴らしい選手たちが注目を浴びて輝けるチャンスなのに、このままめて撤退ってのもねぇ〜。

博士 まぁ噛み付くにしても、方法論を考えてほしい。せっかくなら、今後の面白い展開になるようなプロの噛み付きしてほしいよな！

玉袋 噛み付き方が違うんですよ！ フレッド・ブラッシーを見習え！

博士 本当に噛み付くわけじゃないよ！

玉袋 でも健介VS鈴木みのるの「VTしかやらない」ってのは、ちょっとワクワクしてるんですけどね。

博士 「正直スマン」でおしまいかもしれないぞ！ しかし、菊田も「こういう下らないことやってないで、今いるチャンピオンのノゲイラ、ヴァンダレイ・シウバとかいい選手いるんで、そっちのほうに何とか勝つように、みんなで頑張っていけばいいなと思います」って言ってるんだから、『プライド』撤退なんてするのは、絶対、もったいない。対世界の日本代表って概念で見たら、欠かせない逸材だ。

玉袋 もめ事も選手がリングで結果出せば、吹っ飛ばせると思うんだけどな。

博士 そんなもめるんだったら、リングで白黒つけろ！

玉袋 それでも信用できないリングだと言うんでしょうけど、それなら結果出してからのほうが、クレームも通りが良くなる気がするんだけどね。

博士 もはや格闘技界は政治力の時代じゃない！ 完全実力社会の時代になったんだからな。ずばり、今回勃発した島田「有事立法」問題も男らしくリングで結果出してから発してほしい！

玉袋 そうですよ！ 離婚問題を新日本プロレス30周年のリング上で片つけたアントニオ猪木と倍賞美津子を見習え!!

博士 あれは離婚の調停じゃないよ！ とっくに成立してるだろ！

玉袋 そうですよね、猪木様の新しい奥さんは元WWFの現WWEの元チャイナこと現ジョアニーですもんね。

博士 ややこしい説明だけど、あれは新しい奥さんじゃないよ！ でも、アントン&ミッコの2人1・2・3ダァーッ！ は感動的だった！

玉袋 あれを見れただけであの日はOKでした！ こうなると全日本プロレスの30周年の時はジャイアント馬場と元子さん2人揃って……。

博士 揃いようがないだろ！

玉袋 セーム・シュルトを特殊メイクして馬場さんになりすましてね。

博士 ならないよ！ 『プライド』の話に戻せ！ とにかく『プライド20』はいい仕事してたよ！

玉袋 『プライド』はすでに柔道引退後の吉田を獲得して試合開始前に三味線弾かせてましたからね。

博士 あれは三味線の吉田兄弟だろ！ ミルコVSシウバは観ていてヒリヒリしたな。

玉袋 ぜひ、もう一丁してほしいカードですよ！

博士 でも、『プライド』の外国人選手も充実してきたな。

玉袋 ティト・オーティズ、ケビン・ランデルマン、リコ・ロドリゲス、カーロス・ニュートン！

博士 UFCになってるだろ！

玉袋 TKがリコに負けたのがショックで!!

博士 今回は『プライド』の話だから放っておけ！ ボブ・サップは最高だったよ！ なにしろ「肉弾暗黒魔人」だからな。

玉袋 相手をしたヤマノリは、あまりの恐怖に目をつぶってしまい、山憲というより山拓になってましたよ！

博士 なんで、愛人に変態プレイを暴露された山崎拓幹事長のベッド写真になってるんだよ！ サップの勝利にコーチのモーリス・スミスは「彼はやっと童貞を失ったんだ」とコメント。

玉袋 ずいぶん遅い経験だったんですね。

博士 モノのたとえだよ！ そして注目されたTBSのK―1MAXは期待された日本人が敗退。

玉袋 まさか、試合中にあの2人の上に大きな玉が落ちてくるとは。

博士 そりゃ筋肉番付で事故起こした「力島」だよ！

玉袋 それが原因で鉄人ルー・テーズさんが亡くなったんですよね。

博士 違うよ！ しかし、また1人、往年の名レスラーがこの世を去った。俺は「スネークピット・ジャパン」の代表、宮戸優光さんの結婚式の仲人で来日した時にお会いする機会があった。生きる伝説を目の当たりにして、本当に畏敬を感じた後だけに、本当にまさかって気分だよ。

玉袋 ルー・テーズさん本当にお疲れさまでした！

博士 鉄人は伝説になった！ ご冥福をお祈りします!! ■

微妙
K-1
UFO
この夏、
ビッグイベント相関図
全面
対抗戦へ
微妙
PRIDE

UFO、8・8 東京ドーム進出へ！

1億円要求でこじれた
小川直也の猪木祭りの
しこりは今も残っているが……

K-1とPRIDE、参戦するのか？

本誌でも再三お伝えしたように、UFOが8月8日、東京ドームでビッグイベントを開催することがほぼ決定した。かつて、UFOは横浜アリーナ等でプロレスのイベントを行っているが、東京ドームでの自主興行となると話はデカくなる。果たして、どんなコンセプトのイベントを行うのか？　格闘技界の勢力図はどう動くのか？　注目だ！

大バクチ

ポイントはやはり、K—1&『プライド』とのからみ。小川の対戦候補にアーツ、ノゲイラの噂が……

日本テレビが全面協力！テレビ戦争も再び勃発か？

本誌でも噂していたUFOの自主興行が、8・8東京ドームでの開催の線で動き出した。UFOは元々、98年10月24日、両国国技館で旗揚げ戦を行い、その後、横浜アリーナ、大阪城ホールといった大会場で自主興行を開催。しかし、どの興行も苦戦を強いられ、今は事実上の休眠状態にある。UFOの小川直也らはプロダクションとして、ZERO—ONEのリングを中心に、他団体のリングに上がっているのが現状だ。

そんなUFOが3年ぶりの自主興行として東京ドームに打って出るからには、かなりの大バクチだと言えよう。しかし、UFOの川村龍夫社長は、大手芸能プロ「ケイダッシュ」の代表取締役を務める業界の実力者で、今回、日本テレビの全面協力を取りつけたという情報があり、UFOが自主興行を行うのではなく、主催＝日本テレビとなり、内容次第ではゴールデンタイムで放送するべく動き出しているという。それが、UFOが東京ドーム大会開催に踏み切った原動力になっているのはまず間違いないだろう。

そうなると問題は日本テレビが自信を持って主催するに至った企画内容はどういうものかということだ。特に小川直也の試合については、最大の焦点と言えるだろう。と言うのも、現状で予測できるカードはどれも確信が持てないからである。

まず、一番目は最近になって再び復帰戦が話題となっているヒクソン・グレイシー。昨年は愛息の事故死もあってリングから遠ざかっていたが、そのショックからも立ち直り、現役復帰を宣言した。しかし、ヒクソンは試合が決定してから約6カ月間の準備期間を設けるのが常識となっており、現段階で決まってないのに、8月に小川と対戦することは考えづらい。また、ヒクソンは以前から関係者に「オガワとはやらない」と言っているという噂があり、小川VSヒクソン戦が実現するのは難しいのでは。

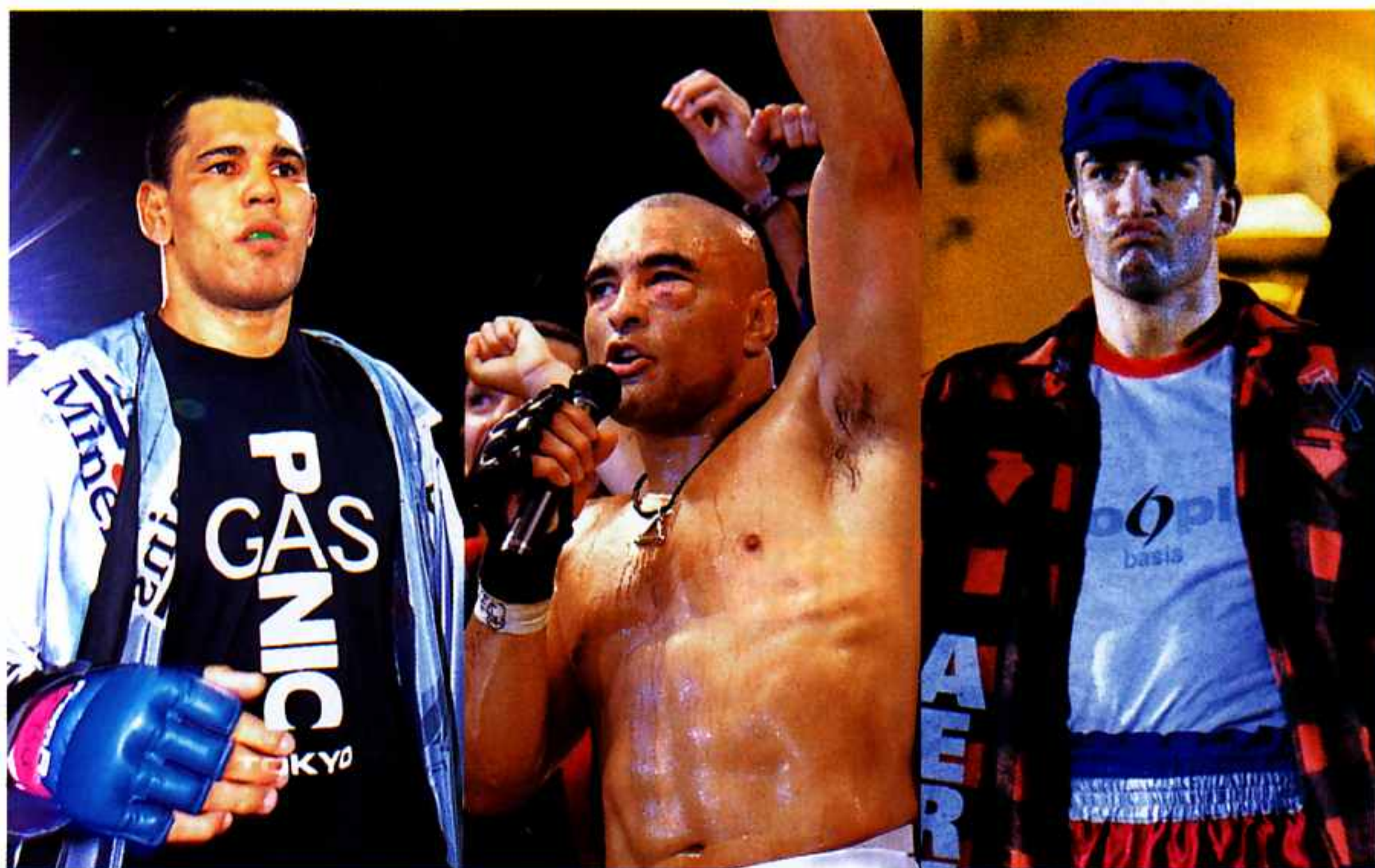
ただし、ヒクソンは川村社長のことを「ボス」と呼ぶほど心酔しており、様々な芸能活動のサポートを受けている。その線で、ヒクソンがUFOのリングに上がることだって十分あるのかもしれない。

二番目に噂されるのが、K—1ファイターとの対戦だ。昨年末の『イノキ・ボンバイエ』の頃に話題になったように、小川はK—1のピーター・アーツとの対戦をアピールしている。もし、K—1ファイターと対戦するのなら、そのアーツか、いまだに総合格闘技負けなしのミルコ・クロコップだろう。

ただし、小川VSK—1戦士の対決に関しても、いくつかの障害がある。昨年末の『イノキ・ボンバイエ』では、石井館長自ら乗り出した折衝に対し、小川は「ファイトマネー1億円以下なら出場しない！」と、ガンとして譲らなかった経緯がある。もし、石井館長がK—1ファイターの出場要請を受けたら、逆に1億円は譲らないだろう。

もちろん、川村社長は石井館長とも旧知の間柄なので、大人の話し合いとして、両者の対決は前向きに進むかもしれない。しかし、石井館長は現在、『プライド』との全面対抗戦に対しても動いており、いまだ夏に国立競技場クラスでの開催の噂は絶えない。もし、それが実現すれば、日本テレビとは違う局での放送になるので、そのバランスをどうとるかという難しい問題も出てくる。

そして、三番目に『プライド』王者のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとの対戦についても同じく『プライド』との関係があるので微妙だ。それについても、これまで小川がことあるごとに『プライド』とは絶縁！ と口にしているだけに、あっさりと出場が可能になるのは難しいだろう。

そうなると、猪木の調整次第になるが、猪木自身もいまだUFOの自主興行に、どう関わるかは口にしていない。それとも、明大柔道部の後輩である吉田秀彦を担ぎ出すのか？ 8・8UFOドーム大会に注目だ！■

▲東京ドーム開催となると、やはり小川はビッグネームとの対戦が実現しないと成功しない。対戦候補としては、ピーター・アーツ、ヒクソン・グレイシー、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの名が挙がっているという

▲小川はいったどんな試合をやりたいのか？ 気になるところだ

他流試合

K―1ジャパンに再びシュートボクセ、ゴールデン・グローリーの『プライド』勢が来襲！

メインはニコラスVSブラガに決定　最大注目は中迫VSサップだっ！

武蔵VSセーム・シュルト戦をはじめとするK―1VS『プライド』の開戦となったK―1ジャパン広島大会は、これまでのK―1ジャパン・シリーズのイメージを大きく変えるほどの盛り上がりを見せた。

K―1ジャパン・シリーズというと、何度も日本VS世界というコンセプトで行われてきたが、実際ベスト8ファイタークらいの世界の強豪が出てくると惨敗を喫する場面が多かったが、『プライド』勢との他流試合となると、緊張感も高まるし肌も合う。つまり、K―1ジャパン戦士とは、実力的にもちょうどいいマッチメイクが組め、どれもメインになるほどの興味が湧くことが、今回はっきりと分かったと言えよう。

その勢いをかって行われるのが、6・2K―1ジャパン富山大会である。当初、富山大会はK―1VS『プライド』5対5マッチ第2弾を実現する予定だったが、コンセプトをK―1の他流試合5番勝負に変更。中でも、ファンの間で発表と同時に大ウケなのが、中迫剛VSボブ・サップの一戦である。

ボブ・サップと言えば、205センチ、160キロもありながら、その全身は筋肉の固まり。身体能力も高く、キャラクター性もあり、石井館長が一目惚れした逸材だ。先の『プライド20』では髙田道場の山本憲尚を殴り倒し、戦慄のデビュー戦を果たしている。その人間離れした怪物が、シマウマのような中迫と闘うんだから、インパクトは大きい。

この試合、技術と経験で上回る中迫を、ボブ・サップがパワーでネジ伏せるんじゃないかと期待しているが、焦点は中迫がビビらずに、ボブ・サップに真っ向勝負ができるかどうかということ。シュルト戦で武蔵の精神性が見られたように、追い込まれた中迫が気持ちで負けなかったらエキサイティングな試合になることは間違いないだろう。

メインイベントは、極真のニコラス・ペタスVSエベンゼール・フォンテス・ブラガに決定した。ブラガは『プライド』でも活躍する総合ファイターだが、K―1のリングでも十分通用することはすでに証明されている。というよりも、武蔵とも引き分けており、まだジャパン戦士は誰も勝っていない。ジャパン王者のニコラスさえも破れば、K―1ジャパン完全制覇となる。

『プライド』勢ももちろん参戦してくる。ミルコ・クロコップを圧倒したヴァンダレイ・シウバの所属するシュートボクセからは、前回のネルソン・デ・カストロに続き、ヘビー級のフリオ・シーザー・サンタナが参戦。前回、ジャパンの子安慎悟が止められなかったことで、今回はベスト8ファイターのレイ・セフォーが迎え撃つ。セフォーは子安、ミルコ戦で受けた屈辱を晴らすことができるか。

シュルトやギルバート・アイブルが所属するゴールデン・グローリーからは、NHB4勝1敗で、ボクシングでは24勝もしているルーキー、チャリド・ダイ・ファウストが参戦。天田ヒロミとボクシング対決を繰り広げる。ピーター・アーツの対戦相手は、掣圏道のスーパーヘビー級王者キルサノフ・アンドレイに決まった。

また、ジャパンGP代表決定戦として、ノブ・ハヤシVS森口竜、グレート草津VS富平辰文の2試合が行われる。■

6・2K―1ジャパン富山大会決定カード
K―1、他流試合5番勝負

ニコラス・ペタス〈デンマーク／極真会館〉 VS エベンゼール・フォンテス・ブラガ〈ブラジル／アカデミア・ボクセタイ〉

ピーター・アーツ〈オランダ／メジロジム〉 VS X

レイ・セフォー〈ニュージーランド／アメリカン・プレゼント・ボクシングジム〉 VS フリオ・シーザー・サンタナ〈ブラジル／シュートボクセ〉

天田ヒロミ〈TENKA530〉 VS チャリド・ダイ・ファウスト〈オランダ／ゴールデン・グローリー〉

中迫　剛〈ZEBRA244〉 VS ボブ・サップ〈アメリカ／モーリス・スミス・キックボクシングセンター〉

K-1 JAPAN GP 代表者決定戦

グレート草津〈チーム・アンディ〉 VS 富平辰文〈SQUARE〉

ノブ・ハヤシ〈チャクリキ・ジム〉 VS 森口　竜〈チームTBC〉

リベンジ

K—1フランス初上陸はヨーロッパの拠点となるか？ 純K—1でワールドカップ、F1と勝負だ

ヨーロッパ56カ国で放送決定！ バンナ、ハントともに超ナーバス

K—1ジャパン・シリーズが『プライド』勢らと他流試合を行うとすれば、フジテレビ系のK—1ワールドGPシリーズは、純K—1で勝負する。しかも、今年2回目の興行は、フランス・パリに初上陸。アンディ・フグ亡き後、スイスでのK—1が休眠状態にある現在、ヨーロッパの新拠点となるかどうか重要なイベントとなる。

K—1フランス大会は、フジテレビのパリ支局と本誌とも提携しているフランス格闘技雑誌『カラテ・ブシドー』が組んでの開催。特に『カラテ・ブシドー』は年に一度、パリのベルシー体育館で格闘技フェスティバルを開催したり、極真ヨーロッパ大会を手掛けるなど、格闘技イベントの実績も高い。当日はベルシー体育館に1万人以上の観客を集めて行われる予定だ。

しかも、ユーロ・スポーツを通じて、このK—1フランス大会はヨーロッパ56カ国にテレビ放映が決定している。K—1としては、ヨーロッパで一気に知名度を上げる絶好のチャンスと言えよう。

そんなK—1フランス大会だけに、メインイベントはフランスが生んだK—1のスター、ジェロム・レ・バンナが務めるが、対戦相手は昨年のK—1ワールドGP決勝大会の1回戦で屈辱のKO負けを喫したマーク・ハントに決定。バンナにとってはリベンジマッチとなるのだが、地元での開催ということで、かなりナーバスになっているという話が伝わってきている。

バンナにとっては、ハントに対して連敗は許されないし、そのハントもミルコ・クロコップに敗れているだけに余計に負けは許されない。しかも、アンディと同様、バンナは地元フランスにK—1が定着するためにも凄い試合を見せつけなければならない。プレッシャーがかかるのも無理はないだろう。

そうなると敵地に乗り込むハントが断然有利かと思いきや、ハントのほうもここ数カ月の間、かなりナーバスになっているという情報が伝わってきた。それもそのはず。わずかファイトマネー5万円の世界から、ハントは昨年、K—1王者になることで、一夜にして40万ドルの大金を手にした。しかし、今年に入ってからは倒れないハントが、中迫とミルコのハイキックでダウンを奪われている。それがショックで、一時は心療内科にまで通っていたというのだ。ハントにしても、ミルコとバンナに連敗するのは、K—1王者のプライドが許さない。

その他には、UFCの出場が噂されるステファン・レコが、昨年のGPのリベンジ戦として、アーネスト・ホーストと対戦。ベスト8ファイターでは、〝毒さそり〟アレクセイ・イグナショフがドイツの期待の大型ファイター、ビヨン・ブレギーと対戦する。

昨年、レイ・セフォーを破ったオランダ・メジロジムのルーキー、レミー・ボンヤスキーはワールドGPシリーズのデビュー戦を、アンディ・フグの弟子で、今年のK—1クロアチア大会で優勝している空手家ペーター・マイストロビッチと闘う。そして、注目のシリル・アビディは、K—1イギリス大会の優勝者ニック・マレーと対戦。K—1版英仏戦争として、オープニングマッチを盛り上げる。

サッカーのワールドカップ、F1のモナコGPで盛り上がるヨーロッパで、K—1フランス大会がどんな注目を集めるか、見ものだ！■

5・25 K-1 WORLD GP in PARIS 決定全6カード

ジェロム・レ・バンナ〈フランス／ボーアボエル&トサジム〉 VS マーク・ハント〈ニュージーランド／リバプール・キックボクシングジム〉

アーネスト・ホースト〈オランダ／ボスジム〉 VS ステファン・レコ〈ドイツ／マスターズジム〉

アレクセイ・イグナショフ〈ベラルーシ／チヌックジム〉 VS ビヨン・ブレギー〈スイス／ボスジム〉

レミー・ボンヤスキー〈オランダ／メジロジム〉 VS ペーター・マイストロビッチ〈スイス／正道会館〉

トニー・グレゴリー〈フランス／イブリーキックボクシングジム〉 VS アゼム・マクスタイ〈スイス／ウィングタイジム〉

シリル・アビディ〈フランス／〝チーム・ロメアス〟ボクシング・プラネット〉 VS ニック・マレー〈イギリス／ビーストマスターズジム〉

リングス

大山峻護、マーク・コールマン復帰戦が濃厚
桜庭和志、藤田和之は出るのか？
6・23『プライド21』に元リングス金原弘光、ヒョードル参戦が浮上！

4・28『プライド20』ではミルコ・クロコップVSヴァンダレイ・シウバの頂上決戦を実現し、横浜アリーナに立ち見まで出させた『プライド』。もはや、その勢いは格闘技界の中心軸となっていると言っても過言ではない。

そんな『プライド』が次に開催するのが、6・23さいたまスーパーアリーナ大会。もはや『プライド』の平均観客動員数は2万人以上と見られており、横浜アリーナでも入りきれないといった感じだ。

しかし、『プライド』のキツイところは、毎回旬なカードを提供し続けなければならないこと。『プライド19』では田村潔司VSヴァンダレイ・シウバを実現し、『プライド20』ではミルコVSシウバ戦を実現させた。こうした夢のカードを作り続けるところに『プライド』の真骨頂がある。

では、『プライド21』ではどんな目玉カードが組まれるのだろうか。このページの締め切り時点では、まだ主催者のDSEからはなんのカードも発表されていないので、ここでは本誌の掴んでいる情報をお届けしよう。

まず、噂されている吉田秀彦の参戦は現時点でまずありえない。4・29柔道の全日本選手権大会が終わって日が浅いこともあり、吉田がプロに転向して6月に『プライド』のリングに上がることは考えにくいからだ。もし、吉田が本当に総合格闘技に進出するなら、プロモーションも必要だし、それなりの闘いの準備も必要。そうなると、いよいよ桜庭和志か、藤田和之の復帰戦がメインとなるのではないだろうか。

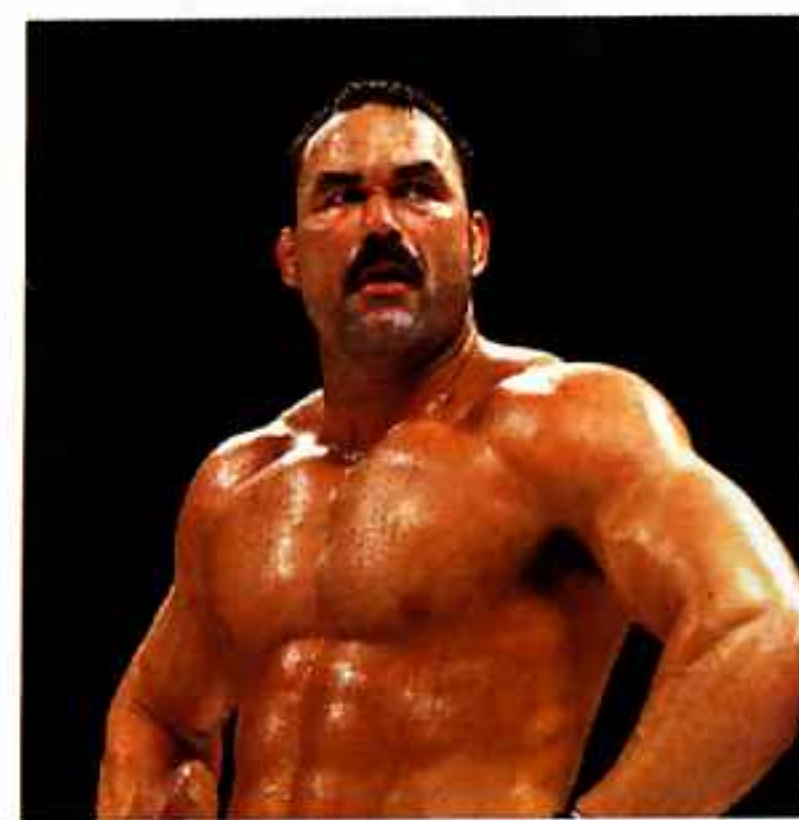
ところが、桜庭、藤田の復帰以外で噂されているのが、旧リングス勢の参戦である。『プライド』出場を熱望していた実力派・金原弘光やリングス・ロシアのエメリヤーエンコ・ヒョードルが『プライド』に上がるんじゃないかという噂がそれだ。

金原は桜庭も尊敬する世界に通用する日本人ファイターの一人で、今の手薄となった『プライド』日本人ファイターの救世主になるやもしれない選手。日本人でもしシウバに勝てるとしたら、パンクラスの菊田早苗か、金原じゃないかとさえ言われている。

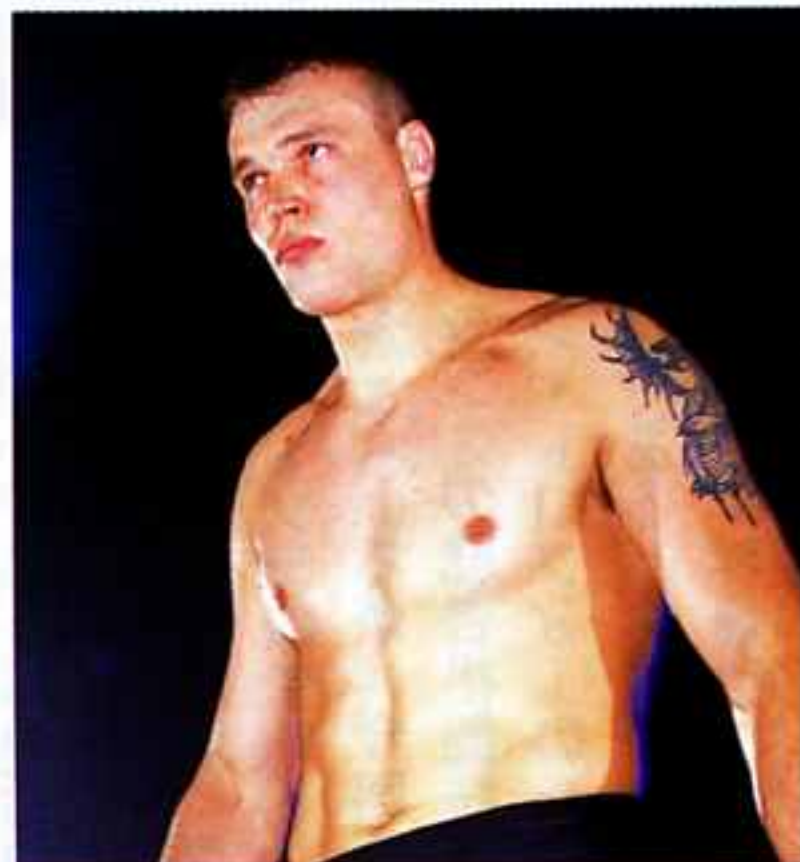
ヒョードルは、リングスのアブソリュート級、ヘビー級の2冠王で、リングス最強の男。柔道とサンボをベースにし、柔道ではレベルの高いロシア王者に就いている。リングス時代は、ヒカルド・アローナやレナート・ババルを下しているから、その実力は折り紙付きだ。

そうなると、金原&ヒョードルに注目が集まるが、『プライド』常連選手では、GP王者のマーク・コールマンが復帰。また、『プライド19』でのケン・シャムロック戦で男を上げたドン・フライ、『プライド17』東京ドーム大会で新日本プロレスの小原道由を金縛りにさせたヘンゾ・グレイシー。K―1でも十分通用することを証明したセーム・シュルトらの名前が挙がっている。今回もまた、オールスター揃い踏みだ。

そして、期待されながらも網膜剥離で戦線を離脱していた大山峻護が約1年ぶりの復帰戦。他にもメジャープロレス団体からまた、『プライド』向きの大物が参戦するという噂もある。その中で、メインイベントは何になるのか？ 『プライド』ならではのドリーム・カードに期待したい。■

▲『プライド21』の目玉の一つは、リングス・ロシア勢の参戦。エメリヤーエンコ・ヒョードルらの名前が挙がっている

▲ドン・フライは、K－1のシリル・アビディやケン・シャムロックを破り、目下、ノゲイラのヘビー級王座挑戦最有力候補となっている

▲マーク・コールマンは『プライド16』で、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラに敗れて以来の復帰戦

▲ヘンゾ・グレイシーも参戦。グレイシー復活の威信を賭けて闘う！

▲K－1のリングで武蔵に勝ち、さらに知名度を上げたセーム・シュルト

▲『プライド15』のヴァリッジ・イズマイウ戦以来、網膜剥離で約1年間の戦線離脱していた、大山峻護が復帰へ

提携継続

SBが〝立ち技VT〟トーナメントで大勝負
ワンマッチで緒形、アターエフが総合マッチ出場へ
7・7S―cupで『リングス提供試合』
〝クラウスに勝った男〟もブッキング？

5月17日（金）、夜11時からという異例の時間にシュートボクシングのビッグイベント『S―cup』(7月7日、横浜文化体育館）の記者会見が開かれ、大会のワンマッチとしてリングスの試合が行われることが発表された。

日本での興行活動は休止してしまったリングスだが、SBのリングで一夜限りの復活を果たすことになる。

もともと、SBのシーザー武志会長と前田日明はUWF時代からの旧知の仲。昨年からは団体間の交流も行っていた。リングスが活動休止してからもそれは続いており、『S―cup』にも試合を提供することとなった。出場選手としては、リングス側からはヴォルク・アターエフの参戦が発表されている。

KOKルールとしてはもう1試合、SBのエース・緒形健一の出場も決定。緒形は昨年10月のリングス代々木大会に出場。カナダの柔術家カーティス・ブリガムにわずか43秒でスリーパーを極められ惨敗しているだけに〝総合へのリベンジ〟は重要となる。

「今のままでは『S―cup』のトーナメントに出る資格もないと思う。まずは総合でSBの技術が通用することを見せなければ」と緒形。SBというジャンルを背負っての他流試合で、連敗は決して許されないだろう。なお、緒形の対戦相手はブリガムではなくなるとのこと。

「キャリアのある選手だし、今度は何に気を付ければいいか分かっているはず。もっとレベルの高い選手とやらせたい」（前田）

よりリスキーな闘いになることは確実だが、緒形の活躍に期待したい。

『S―cup』トーナメントのほうはというと、同じ70キロ級のワンデイ・トーナメントということでK―1ワールドMAXとの比較は避けられないが、シーザー会長は「K―1よりレベルの高い選手を揃えようと思ってます」と自信満々。打撃プラス投げ、立ち関節技もある〝立ち技VT〟のSBらしい、バラエティに富んだ顔ぶれを揃える方針だ。試合にはKO賞だけでなく、シュートポイント（投げ）、ギブアップ勝ちにも賞金を用意。SBイズムあふれる闘いが見られるだろう。

参加選手としては、すでに土井広之、後藤龍治、ダニエル・ドーソンのエントリーが決定しているが、今回新たにフランスの総合格闘技ゴールデン・トロフィーのチャンピオンであるパスカル・ラフレール、VT界最強のストライカー集団シュートボクセからマノエル・フォンセカの出場が発表された。

SBとシュートボクセは昨年11月にも3VS3の対抗戦を行い、SBが3勝3KOと圧勝。雪辱に燃えるシュートボクセのフジマール会長が「今度はウチの一番強い選手を出す」として送り込んでくるのがフォンセカなのである。フジマール会長は早くもトーナメントの枠順まで気にしているそうで、トーナメント制覇にかける意気込みには並々ならぬものがある。

その他には散打、ロシアの格闘技ドラッカの選手が出場予定だが、さらにオランダのキックボクサーで、K―1ワールドMAXに優勝したアルバート・クラウスに勝ったこともある強豪選手とも交渉中だとか。

昨年からシュートボクセやボブチャンチン軍団などとの対抗戦、他流試合路線が大ウケ、勢いを感じさせてくれるSB。設立16年目の大ブレイクをかけた『S―cup』には、関係者筋の注目もひと際高まっている。■

▲記者会見にはシュートボクシング協会のシーザー武志会長、前田日明、緒形健一が出席

▲トーナメントにはシュートボクセ中量級最強の男と言われるマノエル・フォンセカがエントリー決定

▲リングス提供試合の出場選手として、緒形と共にヴォルク・アターエフの出場も発表された

《S-cupトーナメント出場決定選手》

土井広之（シーザージム）
後藤龍治（STEALTH）
ダニエル・ドーソン（オーストラリア）
マノエル・フォンセカ（ブラジル/シュートボクセ）
パスカル・ラフレール（フランス）

前田日明のコメント

「第2次リングスは、格闘技と関係ない分野を経営基盤にしたい」

「(S-cup以後の予定は？) 今のところないです。いろんな話があるんで、選手のことを真剣に考えてくれているところがあるんだったら、前向きに話をしましょうと。(『一撃』に出るという噂があるが) それはあり得るんじゃないですか。(UFOの東京ドーム大会の話はきてませんか？) UFOってのはプロレスでしょ？　総合でやるんですか。今のところ聞いてないですね。(『プライド』にロシア勢が出るという話は？) まだ交渉のテーブルについてないんで、まだじゃないですか。どういう話になるのか分からないですね。交渉の過程で、いろいろ彼らと話し合っていきながらやっていくんで。(『プライド』はダメという感じではない？) 前向きに、選手についていろいろ考えてくれているような条件があるんであれば。(第2次リングスの準備状況は？) 準備で言えばいろいろやってます。格闘技そのものに関係ない分野を経営基盤にやっていこうというのを考えているんで。秋に間に合うかは、やってみないと分からないですね。的の大きな話なんで。やることが多岐にわたるんで、その中の一部分が先発的に秋からオープンということはあります」

連続出場

6・9『DEEP2001』で和田良覚VSMAX宮沢(元ニーハオ)戦決定!

3・30『DEEP2001』名古屋大会で選手デビューを果たした和田良覚レフェリーの2戦目が、6・9『DEEP』ディファ大会でのMAX宮沢戦に決定した。

MAX宮沢とは、キャプチャーなどで〝ニーハオ〟のリングネームで活躍した選手。キングダムに参戦した際には和田がレフェリーを務めたこともあるという。レスリング出身で全国社会人選手権優勝。コンテンダーズ、製圏道などに出場したこともあり、VTの下地は充分の選手だ。

2大会連続出場となる和田は、5月7日の記者会見でも「なんてコメントしていいのか、複雑と言えば複雑なんですけども……」と控え目なコメントだったが、2戦目ということで前回以上の内容を期待したくなるというもの。〝和田最強伝説〟に新たな1ページが加わるか!?

また、この会見ではミドル級トーナメントの組み合わせ抽選も行われた。若くてイキのいい選手が揃っているが、特に注目なのが田村潔司の一番弟子・上山龍紀と、梁正基の対決。梁は昨年夏以来、久々の試合となるが、勝負度胸のいいケンカファイトは大器の片鱗を感じさせる。

『DEEP』は9月にも関東の会場でビッグマッチを開催。ドス・カラスJrも出場予定で、佐伯代表によれば「相手はVT経験もあるプロレスラー。『SRS・DX』さんなら大喜びしてくれそうな選手ですよ」とのこと。こちらも気になるところだ。■

《DEEP JAPAN 1DAYトーナメント》

村浜天晴(ワイルドフェニックス)
星野勇二(RJW/CENTRAL)
梁正基(スタンド)
上山龍紀(U-FILE CAMP)
久松勇二(TIGER PLACE)
窪田幸生(パンクラスism)
石川英司(パンクラスGRABAKA)
長南亮(U-FILE CAMP)

▲トーナメントの出場選手と佐伯代表。ブレイク間近の有望選手たちがズラリと揃った

準主役

須藤元気が映画『狂気の桜』であの窪塚洋介と共演!

今秋公開の東映映画『狂気の桜』(薗田賢次監督)に須藤元気が出演。4月26日に行われた記者発表にも、窪塚洋介、原田芳雄らとともに出席した。『狂気の桜』は『GO』で昨年の映画賞を総ナメにした窪塚自らが原作に惚れ込み、企画を持ち込んだという注目作で、若きナショナリスト集団〝ネオ・トージョー〟の暴走を描くというもの。

元気が演じるのは〝ネオ・トージョー〟の一員で窪塚扮する主人公の片腕的存在でもあり、準主役的な役どころだ。マット界でここまで大きな役に抜擢されるのは『光る女』の武藤敬司以来かも? 共演者たちとはプライベートでも仲がいいらしく「窪塚くんとは、よくお茶しに行ったりしてます」と元気。

アクション、バイオレンスシーンも満載で、元気は映画の中でも得意の飛びつき十字を連発しているとか。元気は早くも今年の映画賞レースに意欲満々。「新人賞、マジでイケルかなと思ってるんですけど。それと映画の話題で格闘技雑誌の表紙を飾ってみたい」と語っている。もちろん、最大の目標は東スポ映画大賞である(?)。■

▲4月26日、東映東京撮影所で行われた記者発表にて。窪塚洋介(写真中央)、RIKIYAと3ショット

復活

大道塾が3年ぶりに『WARS』開催 〝着衣総合〟で世界の強豪と対戦

〝格闘空手〟大道塾が、7月17日、後楽園ホールで『THE WARSⅥ』を開催することとなった。『THE WARS』とは大道塾のワンマッチ大会で、トップ級の選手が北斗旗以外のルールに実験的にチャレンジするもの。90年代前半にはグローブルール、UFC以後はVTと、時代の潮流の中で大道塾空手の強さと有効性を試してきた。前回の大会(99年)では、パンクラスの美濃輪育久も参戦して山崎進と対戦している。

3年ぶり6度目の開催となる今回のテーマは〝着衣総合武道の確立〟。路上の現実を踏まえ、裸ではなく着衣での技術、強さを追求していくことになる。5月中旬には同じ着衣格闘技であるゴールデン・トロフィーの選手を招聘すべく東孝塾長が渡仏、選手の選考に当たっている。

大道塾からは藤松泰通、山崎進、小川英樹、飯村健一らトップ選手の出場が決定。中でも小川は、パンチを当てると同時に相手の道衣を掴んだり、帯を使った絞め技を使うなど〝着衣総合武道〟の申し子的な存在だ。小川に限らず、大道塾はアマチュアということで目立つ機会が少ないが、実力も個性も十二分に持っている選手ばかり。この大会をきっかけに、改めてその魅力をアピールしてほしいところだ。■

▶本誌注目の小川英樹は、昨年11月の世界大会でも軽量級で優勝。桜井〝マッハ〟速人とともに「グラン・トロフィー」にも出場したことがある

K-1にゴリラ降臨

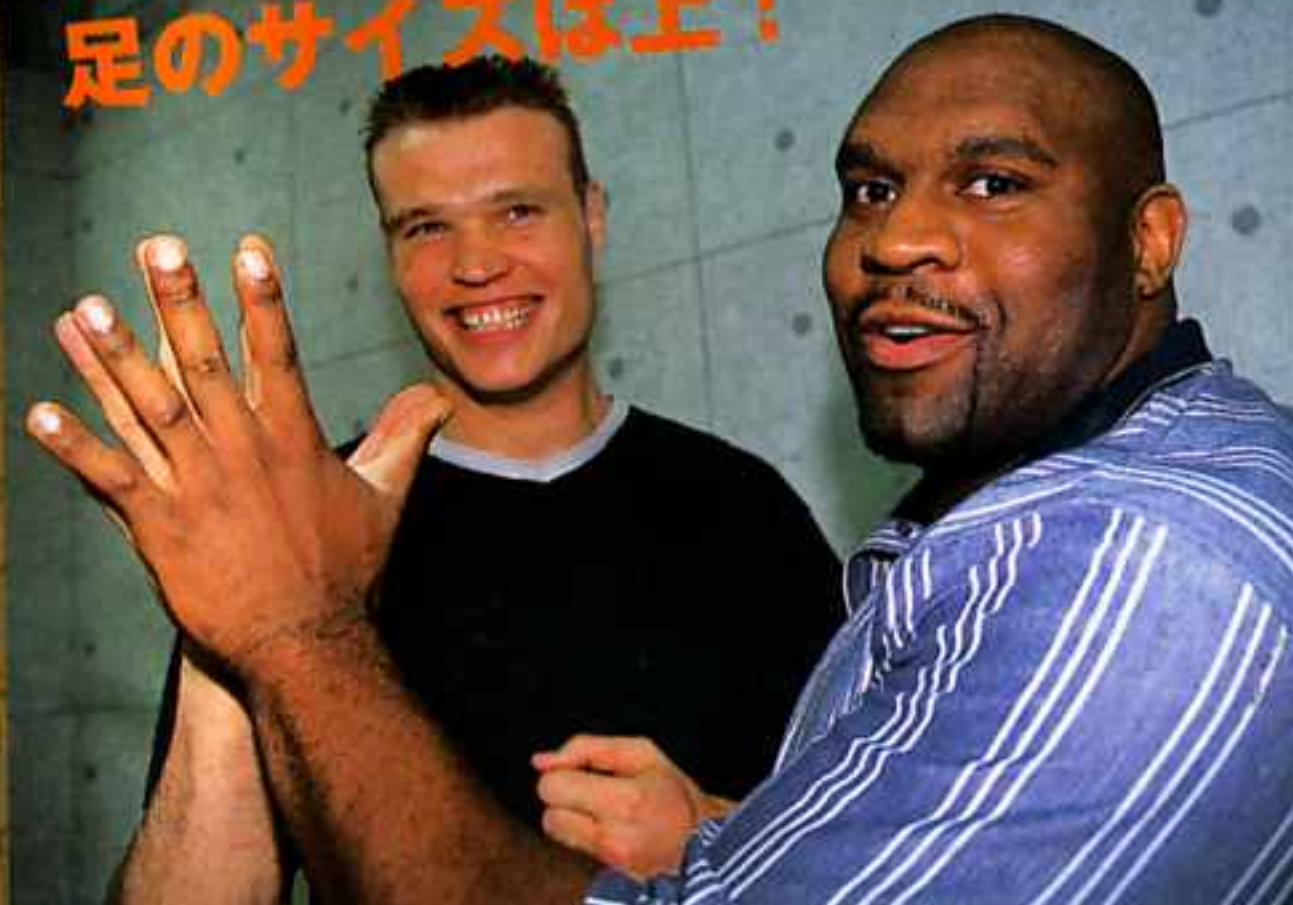
「ナカサコなんて知らねえけど、心を折るだけだっ!」

ボブ・サップ インタビュー

205センチ、160キロ以上（測定不能）の体格をもつボブ・サップ。その肉体はまるでゴリラそのものだ。先の『プライド20』では山本憲尚を豪快にKOしてデビュー。いきなり注目を集めたが、その勢いをかって、なんとK－1のリングで中迫剛と闘うという。そんなゴリラの素顔に迫る！

聞き手◎谷川貞治
写真◎乾晋也

6・2 K−1ジャパン富山大会で
超注目カード実現！

なんと、手の大きさは大巨人シュルトと同じで、足のサイズは上！

▲K―1にあるグローブがまったく入らなかったシュルトと同じ大きさの手を持つサップ。足のサイズはシュルト36センチに対し、サップ37センチだ

――あの〜、その大きな体は子供の頃からですか？

サップ　そうだ！　中学生の頃にすでに180センチ、100キロはあった。

――はぁ〜、よく食べるんでしょうね。

サップ　そうだな、今でも1日6〜7食は食べるな。好物はビッグステーキだ！

――うらやましいですねぇ。僕は最近、年を取ったのか、あまり肉を食べる気にならないんですよぉ。

サップ　まあ、俺たちのようなスポーツマンは、肉をたくさん食べないと、相手を叩き潰す気にならないからな。

――じゃあ、ちょっとプロフィールを聞きたいんですけど。

サップ　出身はアメリカのコロラド州だ。俺は4人兄弟姉妹の3番目で、上には兄と姉、下に弟がいる。両親は180センチと160センチでそれほど大きくないぜ。兄弟の中でも、俺だけデカくなったというわけだ。

――それでフットボール部に誘われて…………。

サップ　そうだな。高校生までコロラド州にいて、大学はワシントンで特待生として迎え入れられた。ポジションはもちろんタックルだ。でも、大学でも運動生理学の勉強はしっかりやったぜ。こう見えても勉強はよくできたほうなんだ。将来は健康食品を開発したいと思ってたくらいだからな。

――いやいや、結構、インテリに見えるし、優しそうに見えますよ。

サップ　そうかぁ（ニカッ）。

――で、プロフットボールNFLのミネソタバイキングに入ったわけですね。

サップ　そういうことだ。

――フットボールを辞めた理由はなんだったんですか？

サップ　チームスポーツが馴染まなくて、喧嘩で仲間を半殺しにしたからだ。俺は野獣だからカッとなると、誰も手がつけられない。気が付いたら、そんな性格なんでクビになったというわけだ。

――ホ、ホントですか？

サップ　まあ、そういうことにしておいてくれ。本当は試合でアキレス腱を切ってしまったんだ（笑）。今はなんともないけど、NFLは厳しいんで、そういうケガをしてしまうと、チャンスはなかなか巡ってこない。それで、プロレスラーになろうと思ったんだ。

――あ〜、やっぱり。とても凶暴な性格には見えないですよ、素顔は。

サップ　本当はこれでもリーダーシップがあって、キャプテンを務めるほど信頼の厚い男だったんだぜ。フォッホホホホ。

――でも、プロレスラーでやっていくには強烈なキャラクターが必要ですもんね。

子供の頃からプロレスのファンだったんだ　アイドルはハルク・ホーガンだ（笑）

サップ　そうだ。特に俺はエンターテインメントの世界に入りたかったからな。やはりプロのファイターというのは表現者でなければならない。そこで俺自身は血に飢えた野獣のようなキャラと、凄ぇマザコンのキャラを考えたというわけだ（笑）。

――マザコン！（笑）。ガッハハハハハ。

サップ　だけど、やっぱり野獣キャラにすることにしたよ。さっき、気が優しそうだと言ったけど、本質的に俺は自分の肉体が優れていると分かっているし、ガンガン相手を潰すのが格闘技だと思っているから、優しいだけの男ではないぜ。前に前に出て相手をブッ潰し、心を折ってしまうのが俺のファイトスタイルだから。

――なぜプロレスラーになりたいと思ったんですか？

サップ　もともとプロレスファンだったからな。子供の頃のアイドルは、ハルク・ホーガンだ。ハルク・ホーガンのようなプロレスラーになろうと、WCWに入ったというわけだ。

――プロレスの試合は何試合くらい経験しているんですか？

サップ　30試合くらいかな。でも、正直言ってローカルの試合ばかりで、サム・グレコらと闘いながら、プロレスというものを勉強していたという段階だ。で、これからという時にWCWが倒産しちまったんだ。エースはゴールドバーグだったよ。

――日本のプロレスのことはよく知ってるんですか？

サップ　ミスター・イノキには挨拶をさせてもらった。日本のリングでは、いつかニュージャパンに上がれるかもしれんな。けれど、レスラーではムタ（武藤敬司）しか知らないんだ。彼はオールジャパンに移籍したんだろ？　ムタのようなアメリカでも通用するプロレスラーと、ぜひ闘ってみたい。

――『プライド』やK―1については知ってたんですか？

サップ　もちろんだ。K―1は立ち技で最高の選手が集まっているし、『プライド』は非常に強い選手が揃っている。本当に厳しい世界だと思うけど、俺もいつかはあのリングに上がりたいって思っていたんだ。だけど、正直言って、どういうふうにしたらK―1や『プライド』に出れるか分からなかった。そんな時にサム・グレコを通して、石井館長とミスター・イノキを紹介してもらい、こういうチャンスが訪れたというわけだ。

――なるほど、なるほど。格闘技の経験は何かあるんですか？

サップ　実は俺の親父が格闘技の道場を開いていたんだ。そこでは、カラテ、ジュードー、テコンドー、アイキドーなど、様々な格闘技を教えていた。だから、俺も見よう見まねでやっていたよ。それに親父はセキュリティーを派遣する仕事をやっていた。だから、体の大きかった俺は14歳でディスコのバウンサー（用心棒）もやっていたよ。

――じゃあ、実戦の喧嘩経験も多い？

サップ　この体なんでストリートファイトの挑戦者はあまりいなかったぜ。そうだなぁ、あってもいざこざってところかな。頭を殴られたり、唇を切ったりはしたけど、大きなケガも、負けたこともない。俺の仕事は21歳以下の若いヤツらを店から追い出すことだったんだ。

――あ〜、そんなに大きかったら、喧嘩も売られないでしょうね。格闘技の試合経験はあるんですか？

サップ　タフマンコンテストで、ボクシ

ングの試合をやったくらいかな。だから、俺は自分の肉体には自信があるけど、経験が足りない。プロスポーツの試合には慣れているけど、『プライド』にしても、K―1にしても競技としての経験はまだないんで、どんどん試合をこなしていかなければならないと思う。

——ずっとモーリス・スミスのところでトレーニングしているんですよね。

サップ ああ。モーリスからは「ポテンシャルが高いので、1年くらいかけてノゲイラを倒そう」と言われてるよ。

——1年でノゲイラを！

サップ やるからには、チャンピオンになりたい。

——モーリスさんには、どんなことを言われてるんですか？

サップ 「体のサイズの割りにはスピードがある。非常に俊敏で、反応が速い」とは言われるね。あとは、パワーかな。足りないのは経験だけだと言われるよ。

——「100メートルを10秒台で走れる」って石井館長は言ってたんですけど。

サップ 10秒台というのは大げさかもしれないけど、11秒台では走れると思うよ。体が大きい割りには速く走れると思う。あと、体が柔らかいほうなんで、股割りとかできるぜ。

——握力でリンゴを潰してたし、バスも引っ張れそうですね。

サップ ああ。

——山本戦を振り返ってどうですか？

サップ とにかく勝てて嬉しい。モーリスや石井館長の期待には応えられたからな。ただ、初めてなんでさすがにナーバスになった。そういう意味じゃあ、トレーニングしてきたことの何分の1も出なかったな。

——いやぁ、でもガンガン攻めて、とても良かったですよ。

サップ 俺の性格はアグレッシブで、決して控え目じゃないからな。本当はアドレナリンを出しまくりながら冷静に闘いたかったんだけど、そこまでの余裕はなかった。ただモーリスからは「ガンガンいけば、ヤマモトの心は折れ、弱気になるはずだ」と言ってたから、そういう気持ちで闘ったよ。

——それだけの体でガンガン来られたら、誰だってビビリますよ。

サップ だから、今度はK―1のデビュー戦なんだけど、相手の名前も知らないけど、俺はガンガン行って、相手の心を折るだけだ。相手がガンガン来てくれたら、いい勝負を見せられると思う。

——相手の選手は〝ゼブラ〟っていうニックネームなんですけど。

サップ ゼブラ？

——まぁ、シマウマのように美しい日本人で、逃げ足も速いっていうことらしいんですけど。

サップ ファッホホホホ（笑）。逃げ足が速いっていうのは要注意だけど、相手が気が弱いんだったら、一気にブッ潰してやりたいね。

——心を折る？

サップ そうだ。技術では俺のほうが劣っているから、ガンガン攻めるしかないだろう。俺はK―1ルールなんてまったく不慣れだけど、潰し合いのつもりでやる。今、モーリスやマイケル・マクドナルドと一緒にトレーニングしているところだ。

——楽しみですねぇ。この日の一番の注目カードですよ。

サップ 俺もだ。

14歳からバウンサーをやっている
親父は格闘技道場を経営してたからな

——ところで、そんなに大きいのは、ボブさんにとって、いいことですか？ それとも嫌なこと？

サップ そうだなぁ。やっぱり、いいこともあるし、悪いこともある。たとえば洋服とか靴は全て特注で作らなければならない。それには金がかかるし、食費もバカにならないからな。そういうところは大変だ。また、イスがよく壊れる。さっきもホテルのレストランでパスタを食べていたら、食べてる最中にイスが壊れてしまった。でも、あまりにも大きいので、飛行機のエコノミーには乗れないんだ。だから、ビジネスとかファーストで日本にも呼んでくれるんで、それはいいところかな。ファッハハハハ（笑）。

——イスは本当に壊しそうですね（笑）。趣味は何かあるんですか？

サップ こう見えても若いんで、テレビゲームは好きだ。俺の日本のイメージと言えば、K―1と『プライド』とテレビゲームがある国ってところだ（笑）。あと日本は食事がうまい！

——どんなゲームをやるんですか？

サップ 格闘ゲーム、シューティングゲーム、ロールプレイングゲーム、なんでも好きさ。あと、そうだなぁ、趣味と言えば犬が好きさ。

——犬！ 僕も大好きなんですよ。でも、それはまさか食べるんじゃないでしょうね（笑）。

サップ フォッホホホホ（笑）。今は飼ってないけど、本当はウサギがほしい。かわいいからなぁ（笑）。

——ウサギ！ 実は僕、ウサギも飼ってたんですよ。ピョンとウサっていうんですけどね。いやぁ～、ボブさんとは気が合いそうですね。まさか、それも食べるんじゃないでしょうね（笑）。

サップ フォッホホホホ（笑）。

——じゃあ、好きなタイプの女性は？

サップ レディ？ そうだな、小さい子が好きだな♥

——あ、やっぱり！ 大きな人はよく、体の小さい人が好きだって言いますよねぇ。

サップ まぁ、小さいと言っても、63キロから90キロくらいの女性かな。それ以上小さいと、壊れちゃうから。

——かぁ～、うらやましいこと言いますねぇ。でも、また随分、細かい区分けをしますねぇ（笑）。

サップ まぁ、そういう女性と付き合ったことがあるってことだ！（笑）。

——でも、K―1とか『プライド』で活躍すると、どんどんモテるようになると思いますよ。ボブさん、意外とかわいいですから。

サップ そう？ でも、夜は格闘技のように野獣になりたいねぇ（笑）。

——んあ～。うらやまし～。■

▲ガンガン前に出てヤマノリをブッ潰したサップ。K－1でもそのケタ外れのパワーは炸裂するか？

6・2 K−1ジャパン富山大会で
超注目カード実現！

遂に目覚めたか！
静かに燃え上がる中迫剛の 闘志を見よ!!

「言われなくても分かってます！ 今度の試合は勝ちっぷりを見せつけますよ！」

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

本誌公式サイト『Webゴング』で調査
ゼブラ・中迫VS暗黒大魔人・サップの一戦、勝敗はどうなる？

回答	票数	割合
ヤマノリを破壊したパンチで中迫もブッ壊す！サップのKO勝ち！	258	52.4%
K-1ルールじゃなくて『プライド』ルールで見たい！	84	17.1%
KOを奪えなくても経験の差で中迫の判定勝ち！	64	13.0%
意外や意外に膠着してドロー	40	8.1%
K-1初参戦で実力を出し切れずにサップの判定勝ち！	25	5.1%
ハントを倒したハイキックでゼブラ魂大爆発！中迫のKO勝ち！	21	4.3%

勝つのは当然。絶対にブッ倒します。ブチ殺しますよ！

——ボブ・サップ戦が決まりましたね。どうですか、あのデカいヤツは（笑）。

中迫　身体だけって感じですよね。ああいうタイプは基本的に認めたくないんで倒すしかないですよ。

——余裕ですね（笑）。まあ、技術的にはなんの問題もないと思うんですよ。ただ、ウチのネットでは逆に中迫さんが倒されるっていう意見も結構あるんですよ。

中迫　まあ、ボブ・サップは『プライド』ルールでは結構やるんじゃないですか？　でも、K—1では通用しないでしょ。

——っていうか、K—1ルールで負けるわけにはいかないでしょう、やっぱり。

中迫　倒さなきゃダメでしょ。あれに負けたら、それこそホーストに怒られるでしょ。ミスターK—1に（笑）。

——実際、勝つことだけを考えて試合したら勝てると思うんですよ。ローキックでコツコツ削っていくとかしたら。だけど、それはお客さんは見たくないだろうなとは思うんですね。

中迫　だから、それは作戦の一部でしょうね。逆に、それオンリーじゃ勝てないと思うんですよ。

——だから、どういくのかですよね。

中迫　1ラウンドからいきますよ。ガンガンいかなきゃスタミナも削れないだろうし。でも、未知との遭遇なんで最初からガッていくのはどうかなって思うんで。バカですからね、それじゃ（笑）。どの程度なのか探りは入れると思うんですよね。そこだけですよ。

——例えば、武蔵さんとシュルトの試合では結果は判定負けでしたけど、武蔵さんの評価は上がったじゃないですか。だから、今回は中迫さんの闘いぶりというものが注目されてると思うんですよね。

中迫　やっぱ勝ち方にはこだわりたいですね。豪快に倒したいですよ。

——はっきり言って、初っぱなから殴り合いにいってほしいっていうのがあるんですよね（笑）。

中迫　でも、打たせずに打ちますよ。それがたぶん一番疲れると思うんで。

——ただ、ルール的に考えれば、ハンディがあるのはサップのほうですよね。そこで技術で勝ちにいくっていうのはちょっと寂しい気がしますね。

中迫　ハハハハ！　無理でしょ、どう考えても（笑）。60キロの体重差なんて普通の格闘技ではありえないですからね。

——館長が言ってたようなんですが、この試合によってジャパングランプリに推薦するかどうかを決めるみたいですよ。

中迫　いや、それはもう気にしないです。それを気にしてたら勝てるものも勝てなくなりますから。やってれば結果はついてくると思うんで。

中迫　前回のホースト戦で痛感したのはパワー不足だったんで、今、体重を上げてるんですよ。自分でもパワーが付いてきて動きの切れも出てきたんで豪快なところは見せられると思いますね。

——じゃあ、その成果を試す上でもちょうどいい相手ですね。

中迫　もってこいの相手ですね（笑）。

——パワー対決してほしいですね（笑）。

——でも、問われるのは内容ですよね。

中迫　それはもう十分分かってます。善戦していい相手じゃないんで。圧倒的に勝たなきゃいけない相手なんで。

——じゃあ、どういうふうに倒しましょうか？

中迫　なんで倒しましょう？　チャンスがあればなんでもいいです。だけど、やっぱりパンチで倒したいですね。ガンガンガンと（笑）。

——何ラウンドぐらいに倒したいですか？

中迫　できれば早いうちに倒したいですね。殴り返されるとこっちも疲れるんで。そういう意味では圧力はあると思うんで、その辺の警戒はしてますよ。

——ちょっと話は変わりますけど、K—1MAXで大野さんの試合があったじゃないですか。あの時って結構倒せそうな場面があったものの、逆にパンチをもらって倒されたりしてたじゃないですか。で、その時に武蔵さんと中迫さんは「そこで休め」って言ってたみたいですね。

中迫　そうですね。あそこは無理して倒しにいく必要はなかったし、大野さん自身もパンチが効いてたんで。だから、無理しないで、2ラウンド以降にチャンスを待ったほうが的確だったと思うんですよ。

——よく分かります。だけど、観客の立場に立ったらの話ですけど、あそこではいくべきだとも思うんですよ。

中迫　でも、勝ちにこだわれば、あそこは休めですよ。

——でも、観客としてはあそこでいくべきだって気持ちも理解できますよね。

中迫　分かりますけど、でも、やってるのは選手本人なんで。で、勝ちたいのも選手本人なんで、やっぱりあそこは下が

やっぱり自分への苛立ちは溜まってますよ！

らないとダメですよ。それに2ラウンドで倒せばいいじゃないですか。

――まあ、そうですねぇ。

中迫　2ラウンドで豪快に倒せばいいじゃないですか。そのほうが盛り上がるじゃないですか、1ラウンドに倒されてるわけですから。結局、結果論ですよ、全部。

――そりゃそうなんですよね。でも、なんか冷静というか、醒めてるというか。ジャパン勢と観客の間の温度差って、その辺で一番浮き彫りになる感じがするんですよ。勝手な話だと思うんですけど。

中迫　ですね。やっぱ、結果を残してナンボの世界なんで難しいですよ、両立は。でも、それはプロでやってる以上、目標ではありますよね。

――だから、今度のボブ・サップ戦っていうのはその両立を求められてる試合だと思うんですよ。

中迫　はい。面白くて勝つ試合っていうのはやっぱり最終的なテーマですよ、プロでやってる以上。アマチュアでやってれば勝ちにこだわればいいだけですけど、それで金をもらってる以上は内容の部分でもやらなきゃいけないんで。ただ、今、自分ができることって限られてるんですよ。でも、その中でできることは全部やっていきます。

――先ほど未知との遭遇って言ってましたけど、未知の選手シュルトとやった時の武蔵さんって限られた範囲以上のものを出しましたよね。あれだけ技術にこだわってたのに最後には感情で闘ってたと。中迫さんにも、それは絶対あると思うんですよ。

中迫　やっぱり、武蔵さんの場合は今までモヤモヤと溜まってたものがあって、あまりにもデカ過ぎる相手と闘うことになって、開き直ってああいういい形になったと思うんですよ。

――そういうモヤモヤしたものは中迫さんにもありますよね。

中迫　それは溜まってますね。だから、ホースト戦で練習していたことが今回できるなっていう楽しみがありますから。それが出せれば絶対倒れると思うんで。

――中迫さんってどこか飄々としたというか、スカした感じに見えちゃうところってあるじゃないですか。だけど、どう考えたって内心イライラする部分ってあると思うんですよ。それをぶつけてほしいなって思うんですよ。

中迫　はい。だから、今回は前回のフラストレーションが結構溜まってるんで、自分でもそれは十分感じてるんで。

――ある意味、あのホースト戦は……。

中迫　情けないですよ。ハント戦の負けは悔しかったんですよ。でも、ホースト戦は情けなかったですよ、自分で自分が。終わった直後はわけが分かんなかったんですよ。だけど、だんだん情けなくなってきて……。でも、すぐ次の試合が決まったんで、じゃあ、次でやろうという気持ちが芽生えたんでホントに良かったです。

――じゃあ、もう次こそは（笑）。

中迫　絶対、ぶっ殺してやろうっていうぐらいの勢いで、ズッと練習してましたから。

――では、今度こそと（笑）。

中迫　はい！　絶対に倒します！

――いいですね（笑）。そういう感情の部分を聞きたかったんですよ。なんか、次の試合は感情のおもむくままにとんでもないことしてほしいですね。タックルからマウント取ったりとか（笑）。

中迫　そうですね、できるだけのことはやりたいと思います。

――え！　ホントにやるんですか（笑）。

中迫　いや、タックルは別にしても、今回は結構燃えてるんですよ。あんまりこういうことを言うのは苦手なんですけど（笑）。

――ホントに苦手ですよね、燃えてるとか言うのが（笑）。

中迫　嫌ですね（笑）。だから、言わないですよ、普段。だけど、ホントに今回はもう……。

――いや、静かに燃えてることは非常に分かります（笑）。で、もう一つ館長が言ってたのは、結果よりも熱い感情が見たいというようなことらしいんですが、それもいけそうですね（笑）。

中迫　気持ちが高まっていけば結果はついてくると思うんで。これまでも気持ちを出そうとしてたんですけど、出す前にコロッといっちゃったんで（笑）。

――ホースト戦で（笑）。

中迫　そう。だから、今回こそはって（笑）。

――だって、あの試合はその前のハント戦でダウンを奪って評価を上げた後でしたから、もの凄く乗ってたと思うんですよ。

中迫　ホント、乗ってましたね。向かいあっても全然大丈夫だと思ったし。でも、そっから覚えてないですね（笑）。

――ワハハハ！　厳しい世界ですね（笑）。技術のホーストがいて、次には体格的にバケモノのサップが出てきて。

中迫　そうですね。

――あと試合と同日にサッカーのワールドカップがあるじゃないですか。

中迫　同じ日に開幕戦がありますよね。

――ですから、そういう部分での勝負って……。

中迫　いやもう十分、分かっております（笑）。

――しつこかったですか（笑）。

中迫　分かってます！　何をしなきゃならないかはホント分かってますから。絶対KOで勝ちますから。何度も言ってますけど、ブッ殺します！　■

広告有効期間　広告掲載日より1ヶ月間　　バーゲン品につき返品・交換はご容赦下さい。商品がなくなり次第完売とさせて頂きますので、その際はご了承願います。

マックス・クラブ MAX CLUB

50% OFF

ふくらはぎの鍛錬に

ももの鍛錬に

商品番号:LL-2000
商品名:**レッグカールブーツ**
1コ 定価¥5,800→**¥2,900**
■プレートは別売です。

商品番号:CTY-1458
商品名:**マウスガード**
定価¥2,800→**¥980**
■2ヶ入(ケース付)
■アメリカ製

熱い湯でやわらかくし、口に合わせて形成するタイプです。

65% OFF

商品番号:LFM-1
商品名:**フォーアームマスター**
定価¥3,500→**¥1,500**
■重量/1kg　■台湾製

●バーベルセットのバーの長さは160cm,180cmのどちらかをお選び下さい。200cmの場合は900円増です。●B:バー　DB:ダンベルバー　P:プレート

45% OFF

商品番号:HRC-200　商品名:**レギュラーバーベルセット**

セット	内容	価格
35kgセット	B10kg×1, DB2.5kg×2, P2.5kg×4, P5kg×2	¥11,400→**¥6,600**
55kgセット	B10kg×1, DB2.5kg×2, P1.25kg×4, P2.5kg×4, P5kg×2, P7.5kg×2	¥15,400→**¥9,600**
75kgセット	55kgセット+P10kg×2	¥19,400→**¥12,600**
105kgセット	75kgセット+P15kg×2	¥25,400→**¥16,500**
145kgセット	105kgセット+P20kg×2	¥33,400→**¥21,700**

プレート	定価	価格
1.25kg	¥250→	**¥160**
2.5kg	¥500→	**¥330**
5kg	¥950→	**¥650**
7.5kg	¥1,500→	**¥980**
10kg	¥2,000→	**¥1,300**
15kg	¥3,000→	**¥2,000**
20kg	¥4,000→	**¥2,600**

45% OFF　焼付塗装

商品番号:HRC-300　商品名:**ラバーバーベルセット**

セット	内容	価格
35kgセット	B10kg×1, DB2.5kg×2, P2.5kg×4, P5kg×2	¥14,100→**¥7,600**
55kgセット	B10kg×1, DB2.5kg×2, P1.25kg×4, P2.5kg×4, P5kg×2, P7.5kg×2	¥20,500→**¥11,600**
75kgセット	55kgセット+P10kg×2	¥26,900→**¥15,600**
105kgセット	75kgセット+P15kg×2	¥36,500→**¥21,600**
145kgセット	105kgセット+P20kg×2	¥49,300→**¥29,600**

プレート	定価	価格
1.25kg	¥400→	**¥250**
2.5kg	¥800→	**¥500**
5kg	¥1,600→	**¥1,000**
7.5kg	¥2,400→	**¥1,500**
10kg	¥3,200→	**¥2,000**
15kg	¥4,800→	**¥3,000**
20kg	¥6,400→	**¥4,000**

45% OFF

商品番号:HRC-1000
商品名:**50Φオリンピックバーベルセット**

50Φバーベルバーの長さは218cmになります。

セット	内容	価格
61kgセット	B16kg×1, P1.25kg×4, P2.5kg×4, P5kg×2, P10kg×2	¥29,400→**¥19,100**
91kgセット	61kgセット+P15kg×2	¥39,000→**¥25,400**

プレート	定価	価格
1.25kg	¥400→	**¥250**
2.5kg	¥800→	**¥500**
5kg	¥1,600→	**¥1,000**
10kg	¥3,200→	**¥2,000**
15kg	¥4,800→	**¥3,000**
25kg	¥8,000→	**¥5,000**

超超特価

商品番号:**HRC-100**
商品名:**クロームメッキプレート**

プレート	定価	価格
1.25kg	¥400→	**¥100**
7.5kg	¥2,400→	**¥600**
10kg	¥3,200→	**¥800**
15kg	¥4,800→	**¥1,200**

商品番号:CN-510
商品名:**オリンピックベンチ**
定価¥22,000→**¥12,000**

オリンピックベンチ+50Φオリンピックバーベルセットをセットでご購入された方は上記価格よりさらに15%OFF!!

セット	定価	価格
オリンピックベンチ+61kgセット	¥31,100↓	**¥26,400**
オリンピックベンチ+91kgセット	¥37,400↓	**¥31,800**

■バーベル部:耐荷重量/221kg バーベルの高さ5段階調節可能(85〜121.5cm)
■ベンチ:耐荷重量/100kg

■重量/56kg
■サイズ/H145×W112×D185cm
■中国製
■プレートは別売です。

●基本的にレギュラーダンベルセットにはレンチ式シャフト(スプリングカラー4ヶ付)、クローム、ラバーダンベルセットにはスクリュー式シャフトがセットされます。

ダンベルセット

セット	片手	内容	レギュラー	クロームメッキ	ラバー
10kgセット	片手5kg	DB2.5kg×2, P1.25×4	¥4,000↓ **¥2,600**	¥4,800↓ **¥2,000**	¥4,800↓ **¥3,000**
20kgセット	片手10kg	DB2.5kg×2, P1.25×4, P2.5kg×4	¥6,000↓ **¥3,900**	¥8000↓ **¥3,200**	¥8000↓ **¥4,600**
30kgセット	片手15kg	DB2.5kg×2, P1.25×4, P2.5kg×8	¥8,000↓ **¥5,200**	¥11,200↓ **¥4,500**	¥11,200↓ **¥6,600**
35kgセット	片手17.5kg	DB2.5kg×2, P1.25×8, P2.5kg×8	¥9,000↓ **¥5,850**	¥12,800↓ **¥5,200**	¥12,800↓ **¥7,600**
40kgセット	片手20kg	DB2.5kg×2, P1.25×4, P2.5kg×4, P5kg×4	¥9,800↓ **¥6,370**	―	¥14,400↓ **¥8,600**

商品番号:MAX-3
商品名:**MAX28Φレンチカラー**
1組**¥200**
レンチ式のダンベルバーにご使用ください。

商品番号:MAX-1
商品名:
1本**¥500**
■素材/鉄
■重量/1本300g
■スプリングカラー付
★プレートは1本20kgまでOK

MAXレギュラーダンベルセット

セット	内容	価格
10kg	DB×2, P2.5kg×4	**¥2,200**
15kg	DB×2, P2.5kg×4, P1.25×4	**¥2,800**
20kg	DB×2, P2.5kg×8	**¥3,400**
25kg	DB×2, P5kg×4, P1.25kg×4	**¥4,000**
30kg	DB×2, P5kg×4, P2.5kg×4	**¥4,600**
40kg	DB×2, P5kg×8	**¥5,800**

DB:ダンベルバー　P:プレート

40kgセット例

三代目格闘ビジュアルクイーン

長谷川京子(はせキョー)の超SRS宣言！

第26回

4・28 PRIDE.20 横浜アリーナ大会

みんな『九龍で会いましょう』＆『ビッグマネー』見てる？　今、女優としても大忙しのはせキョーだけど、『プライド』やK−1のレポートだって、もちろん頑張っているゾ。みんな応援ヨロシクねっ！

試合中にシウバがウィンク！ やっぱりちょっと嬉しいですよネ

『プライド20』はいろいろな試合があって、ホントに面白かったですネ。でも、私の個人的な事情なんですけど、今回は時間的にあまり余裕がなくて、焦り焦り見ることになってしまって、試合を存分に堪能できなかったんです。それがとっても残念で。やっぱり試合は、ゆっくり落ち着いて見たいですよね。

今回、私が一番期待していたのは、やっぱりミルコ選手とシウバ選手の試合。ドキドキしましたよね。試合前も、それから試合が始まってからも、ずっと緊張してました。私としては、シウバ選手に勝ってほしかったんですけど、ミルコ選手が勝つんじゃないかとずっと思っていたんです。なんかシウバ選手が勝つ姿が全然想像できなくて、逆にミルコ選手のハイキックが入って、シウバ選手がやられてしまうところばかり想像しちゃって、とても怖かったんです。

でも、試合が始まって2Rか3Rに、シウバ選手が私のほうを見て、ウィンクしてくれたんです。それで、そのくらい余裕があるなら大丈夫なのかなぁと思ったんですよ。でも、そういうのって、女の子としてはちょっと嬉しいですよネ。

この試合を見て感じたのは、K−1と『プライド』の打撃の差。やっぱりありますよね。ミルコ選手のパンチやキック一発一発の重さや迫力が、シウバ選手に比べてかなり違うなって感じました。あんなに重そうな打撃は『プライド』では見たことないです。シウバ選手のアバラは大丈夫だったんでしょうか？

ルールについては、詳しいことはよく分かりませんけど、あれはあれで、私は「あり」かなと思います。でも、3分5Rは、K−1ではそんなに短く感じないのに、『プライド』の試合ではとても短く感じましたね。なんででしょうか？　K−1の試合とは違った緊張感で、3分があっと言う間でした。

結果的にはドローだったんで、私としては、良かったような悪かったような、ちょっと複雑な気持ちです。シウバ選手に勝ってほしかったけど、でも、負けなくて良かったというのもあるし。

それにしても、ミルコ選手って、会う度に大きくなっているような気がするんですよね。自信なんかもドンドンドンドン大きくなっているみたいで、ちょっと怖いくらい。あんなに早くグラウンドのテクニックも吸収しちゃうし、凄く素晴らしい選手だとは思うんですけど、私としては人間味のあるシウバ選手のほうが好きかなって感じです。

その他の試合では、やっぱりアレク選手と菊田選手の試合に注目していたんですが、正直に言うと、あまり気持ちの良い試合ではありませんでした。

アレク選手が試合前からあんなに怒っていることにもビックリしたんですけど、二人がなんであんな、ケンカみたいな感じになってしまっているのか、よく分からなくて。私としては、何度かお話したこともあるアレク選手に、なんとか勝ってほしいなぁという気持ちもあったんです。最近、ずっと負けが続いてしまっているし。でも、やっぱり技術で菊田選手が勝つのかなぁと思って見てました。

試合は、やっぱり菊田選手のほうが勝っていたと思います。それなのに「内容では俺が勝っていた」というアレク選手の発言は、どうなんだろう？　って思いましたネ。あれはちょっとなぁ…って感じでした。

ニンジャ選手とマリオ・スペーヒー選手の試合は、勝ったほうも負けたほうも、本当にがんばったと思います。『SRS』のVTRで、試合後、ニンジャ選手がブラジルのお母さんに電話しているところを見たんですけど、ニンジャ選手が感極まって大泣きしちゃって話せなくて。ペレさんが代わりにお母さんと話していたんですよ。なんかジーンときましたネ。

アローナ選手VSヘンダーソン選手の試合は、思わず見入ってしまうほど、本当にレベルが高くて面白い試合だったし、それから、なんと言っても凄かったのが、ボブ・サップ選手。あんな凄いキャラ、日本にはいないですよネ、ホントに驚きました！ ■

はみだしはせキョー　長谷川京子（はせがわ・きょうこ）1978年7月22日生まれ。『CanCam』（小学館）専属モデル。Beauty labo（Hoyu）、『FreshLook』（チバビジョン）OA中。『九龍で会いましょう』（ANB系金曜 23:15〜）、『ビッグマネー！』（CX系木曜 22:00〜）出演中

SRS SPECIAL RING SIDE

番組インフォメーション

5/24、5/31の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によって放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは5月15日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

『SRS』は金曜日深夜26時15分～26時45分（時間は変更することがあります）フジテレビ系で絶賛放映中。

決戦直前のバンナの最新インタビューは必見

5/24 5・25 K-1フランス大会直前情報！

5月24日（金）26:15～26:45

やってまいりましたK-1フランス大会。K-1本戦が遂に花の都・パリに初上陸します。今大会のメインはもう、皆さんご存知のとおり、昨年のK-1 WORLD GP王者マーク・ハントと地元フランスが生んだハイパーバトルサイボーグ、ジェロム・レ・バンナの対戦。昨年のK-1 WORLD GP決勝大会の初戦で対戦し、決勝大会初出場のマーク・ハントにまさかのKO負けを喫したバンナにとっては、待ちに待ったリベンジのチャンス。しかも地元での対戦ということで、絶対に負けられないところ。果たして当のバンナは、決戦を前にどんな練習をし、何を思うのか？　SRSでは、バッチリと現地取材をしてきています。26日の中継を前に、まずは直前情報をチェック！

ムエタイ2階級制覇なるか！？

5/31 武田幸三、ムエタイタイトルマッチ

5月31日（金）26:15～26:45

昨年1月にムエタイのラジャダムナン・ウェルター級タイトル奪取という偉業を成し遂げた武田幸三。その後、防衛戦で敗れてタイ人にタイトルを奪い返されましたが、来る5月26日、後楽園ホールで、サゲッターオ・ギャットプートンの持つ王座に再びチャレンジします。王座奪取が難しいことは言うまでもありませんが、それを防衛することや、2度王座に立つことの難しさは半端ではありません。今度、武田が挑戦するのはジュニアミドル級。武田がタイトル奪取を成し遂げれば、日本人初の2階級制覇となり、まさに快挙中の快挙。SRSでは試合前の武田に密着、さらに相手選手の直前取材もしました。当日、会場に見に行く人も、行けない人もこの日の放送は必見です。

SRSホームページのアドレスはこちら → http://www.fujitv.co.jp/

SRSのホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。エッセイ、観戦記、プチ情報などお送りください。『はせキョーのメッセージ』もあるよっ！

フジテレビ系列の番組から

5・25『K-1WORLD GP in パリ』中継＆直前情報番組

5月25日（土）13:00～13:50『K-1 & F1連続決戦！！』

5月26日（日）16:00～17:25
『K-1 ワールドシリーズ Part1 K-1パリ まもなくゴング！』
※2002年度の海外予選の模様をたっぷり含めてお送りします。

**5月26日（日）23:55～25:25
『K-1 WORLD GP in パリ』中継放送**

5月20日（月）～5月24日（金）
「すぽると！」内にてK-1パリ連続企画！

5月26日はフジテレビが誇る2大スポーツイベントが連続でオンエアー！　直前のパリ、モナコの模様を含めて、K-1 & F1の情報を満載でお届けします。

CS 721
5/25（土）27:30～5/26（日）7:00
『K-1 WORLD GP 2002 in パリ』生中継

6/8（土）16:00～17:20 K-1ワールドシリーズPart 1
17:30～ K-1WORLD GP 2002 in パリ 再放送

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
5/23（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	バット・ミレティッチ特集。vsチャック・キム戦ほか3試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	13：00～13：30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。再放送5/25・8：30～
	Jスカイスポーツ1	SHOOT 3/60	15：30～16：30	15分のショートドキュメンタリー3本で構成する“60分3本勝負”の格闘技専門スポーツドキュメンタリー番組。第一回は桜井“マッハ”速人、五味隆典ほかを放送
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	17：45～19：45	➲Pick Up1
	GAORA	角田信朗のすぼ魂	18：00～18：30	『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送5/24・11：30～、25・17：30～、26・12：30～
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 26：00～28：00	5.12に板橋産文ホールで開催のGMCコミュニケーションズの大会を放送予定。再放送5/24・9：30～、29・14：00～
	GAORA	週刊格闘JAM！	25：10～25：20	毎回、K-1、PRIDEなどから活躍が期待される選手や格闘技界の旬な話題から、選手個人の特集など格闘技界の様々な話題を取り上げる。再放送5/25・9：35～
5/24（金）	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	➲P69
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	27：00～28：00	4.14に京都で開催の『第3回新空手道京都大会』
5/25（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	10：00～11：00	海外で行われた修斗の大会を放送。内容未定
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	20：30～21：00	5/23を参照。再放送5/26・4：30～、27・8：30～と18：00～、28・23：30～、30・13：00～、6/1・8：30～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	5.11大阪・梅田ステラホール大会。後編
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：40～26：40	5.24後楽園ホール大会を放送。『BEST OF THE SUPER Jr.Ⅸ』公式戦、ライガーvs柴田、ブラック・タイガーvsカレーマン、田中vs成瀬など
	GAORA	全日本キックボクシング	26：00～28：00	4.12後楽園ホール大会
5/26（日）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	4.26久留米県立体育館大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	ch.01（チャンネルZERO-ONE）	19：00～21：00	➲Pick Up2
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	19：45～21：55	3.30「DEEP2001 名古屋大会」
	テレビ東京	ハマラジャ	21：00～21：54	K-1中量級で活躍する魔裟斗が出演するバラエティ番組
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	24：55～25：25	5.26札幌メディアパークスピカ大会を放送。ノーフィアーが3年ぶりにタッグ対決、GHCヘビー級選手権試合小川良成vs田上明ほか
5/27（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	18：30～19：00	5/23を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	19：00～20：00	5/23を参照。内容未定。再放送5/28・13：00～、29・23：30～、6/1・10：00～
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	内容未定
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	内容未定
5/28（火）	スカイパーフェクTV	新日本プロレス30周年記念 正規軍vsT-2000	18：30～終了まで	➲Pick Up3
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	『プレ・プライド3』に出場した中国武術の長屋が上京。その様子をインタビューを含め放送
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	5.6プレミアムチャレンジの近藤VS百瀬戦、5.11梅田ステラホール大会の謙吾VS橋本戦を中心に放送
5/29（水）	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
	TBSテレビ	闘魂筋肉	24：55～25：25	➲Pick Up4
5/30（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	アーロン・ライリー特集。vsシェーン・ギャレット戦ほか3試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 26：00～28：00	5.11に大阪・梅田ステラホールで開催のパンクラス「PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR」を放送予定。再放送5/31・9：30～、6/5・14：00～
	GAORA	週刊格闘JAM！	21：40～21：50	5/23を参照
5/31（金）	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	➲P69
6/1（土）	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	18：00～20：00	3.30「DEEP2001 名古屋大会」
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	18：30～20：30	5月3日に東京武道館で行われた第13回全日本新空手道選手権大会を放送。再放送6/4・20：00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	20：30～21：00	5/23を参照。再放送6/2・4：30～、3・8：30～と18：00～、4・23：30～、6・13：00～
	GAORA	LADY GO！　女子ボクシング中継	24：00～25：00	4.29北沢タウンホール大会を放送。ライカvsレイラ他。再放送6/2・17：00～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	5/28のテレビ東京と同内容
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：40～26：40	5.28宮城県スポーツセンター大会を放送。新日本vsT2000・5大シングル綱引きマッチ、30周年記念“闘魂遭遇”中西学vs谷津嘉章ほか
6/2（日）	日本テレビ	「K-1 SURVIVAL 2002」	15：00～16：25	➲Pick Up5
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	内容未定
	FIGHTING TV SAMURAI!	6人の侍　タイを往く	19：00～21：00 26：00～28：00	5.9ラジャダムナンスタジアム＆5.10パタヤ。修斗の植松直哉や、キックの山口元気、大道塾の飯村健一など、6人の選手のタイ遠征の模様を放送。再放送6/4・9：30～
	Jスカイスポーツ3	プロフェッショナル修斗	20：00～22：00	5.28北沢大会。再放送6/5・25：00～、6・15：00～
	テレビ東京	ハマラジャ	21：00～21：54	5/26を参照
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	24：55～25：25	5.25札幌メディアパークスピカ大会を放送。GHCジュニアヘビー級王座決定トーナメント準決勝
6/3（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、TOKYO FMホール大会（00.6.19）
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	18：30～19：00	5/23を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	19：00～20：00	5/25を参照。内容未定。再放送6/4・13：00～、5・23：30～
	GAORA	2002北斗旗全日本体力別選手権大会	20：00～22：00	➲Pick Up6
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	内容未定
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	6.2K-1ジャパン富山大会ダイジェスト放送
6/4（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、IMPホール大会（00.7.20）
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	『プレ・プライド5』の練習生たちの練習模様を放送。高田道場などでの練習風景をお届けする
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	お休み
6/5（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、札幌テイセンホール大会（00.8.20）
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	19：00～21：00	5.28後楽園ホール大会を放送。再放送6/6・22：00～
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
	TBSテレビ	闘魂筋肉	24：55～25：25	魔裟斗インタビューを通して、5.11「K-1 WORLD MAX」を振り返る
6/6（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	ミハエル・アビティシャン特集。vsレオニード・クルコフ戦ほか7試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、後楽園ホール大会（00.9.7）
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 26：00～28：00	5.12に後楽園ホールで開催のニュージャパンキック連盟「DREAM RUSH4」を放送予定

ON THE AIR 5/23～6/6
格闘技番組ガイド TV&RADIO

Pick Up 1
『パンクラスハイブリッドアワー』
スカイA
5月23日(木)/17:45～19:45

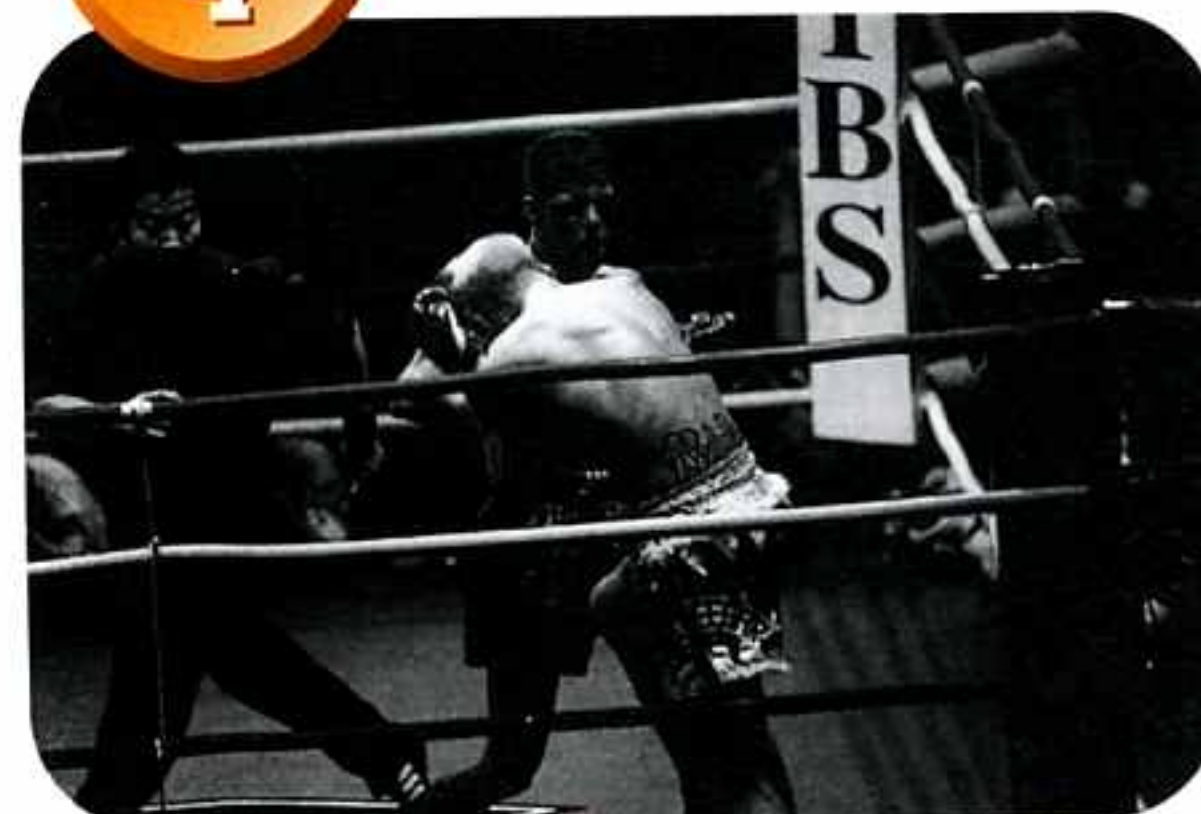
5月11日に行われたパンクラス大阪・梅田ステラホール大会を放送。注目のカードは3月のDEEP2001でドス・カラスJrにリベンジを果たした謙吾と、プロレス団体DDTより初参戦となる橋本友彦の試合だ。プロレスラーとの対戦が続く謙吾の勝ちっぷりをしっかりチェックだ。また、スカイAがパンクラスの初回放送権を獲得。今後は生中継も検討中とのこと。ファンには何よりの吉報だ！

Pick Up 2
『ch.01(チャンネルZERO-ONE)』
FIGHTING TV SAMURAI!
5月26日(日)/19:00～21:00ほか

破壊王・橋本真也率いるプロレス団体・ZERO-ONEのバラエティ番組。内容は、破壊王や熱すぎる男・大谷晋二郎が、ZERO-ONEの興行同様、やりたいことをやり、会いたい人に会うというハチャメチャなもの。第1回放送となった前回は、破壊王と小池栄子が対談したが、今回はどんな内容となるのか？　破壊王の「いつまで、こんなことやってんだぁ！」という雄叫びそのままの内容が楽しめるぞ！

Pick Up 3
『新日本プロレス30周年記念　正規軍vsT-2000』
スカイパーフェクTV
5月28日(火)/18:30～試合終了まで　再放送あり

新日本プロレス『仙台闘魂記念日』を当日PPVで生中継する。今年30周年を迎えた新日本プロレスの記念企画として、ビッグマッチごとに組まれている他団体提供試合。今回はかつて新日本プロレスで活躍し、最近は『プライド』でも男を上げている谷津嘉章が、野人・中西学と対戦する異次元カードが実現した。「オリャッ！」の掛け声と野人のダンスの競演を心ゆくまで堪能せよ！

Pick Up 4
『闘魂筋肉』
TBSテレビ
5月29日(水)/24:55～25:25

K-1中量級世界最強を決めた『K-1 WORLD MAX 2002』の舞台裏を放送。今回は、強烈なパンチで魔裟斗に「こんな痛いパンチは初めて」とまで言わしめた、アルバート・クラウスを中心にバックステージの様子を紹介する。顔に痛々しいあざを作りながらも、決勝戦で大本命のガオランを得意のパンチでKOし、栄えある第1回の王者となったクラウス。その優勝するまでの軌跡を見届けよう。

Pick Up 5
『K-1 SURVIVAL 2002』
日本テレビ
6月2日(日)/15:00～16:25

今年、3回目となるK-1ジャパンを即日放送。静岡、広島に続き、今回は富山にK-1が初上陸することになった。今大会の目玉は、4月28日に行われた『プライド20』でデビューしたボブ・サップのK-1初参戦と前回の汚名をそそぎたい中迫剛の試合だ。このカードをはじめとして、K-1他流試合が5試合組まれるということなので、富山に行けない人も、必ずこの放送を見逃さないようにしよう。

Pick Up 6
『2002北斗旗全日本体力別選手権大会』
GAORA
6月3日(月)/20:00～22:00

5月5日に仙台で開催された大道塾の『2002北斗旗全日本体力別選手権大会』を放送。昨年の第1回世界大会後、初めての全日本大会ということで、抜けてしまった主力級に続く新しい力の登場が期待されたが、なぜか突如として長田賢一が復活した。しかもその強さはいまだに衰えておらず、超重量級に参加して準決勝まで勝ち進むというから驚きだ。この38歳の強さをぜひとも見るべし。

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888
(10：00～20：00)

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
(月～金10：00～18：00)

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
(10：00～18：00　土日祝除く)

■WOWOW
☎0570-008-080
(9：00～20：00)

■スポーツ・アイ-ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
(月～金10：00～18：00)

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
(16：00～21：00)

■Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
(9：30～18：00)

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
(月～金10：00～18：00)

BOOK
話題の本&新刊情報

〈新刊紹介❶〉 It's HOT!

『新日本プロレスリング30周年記念出版企画 公式復刻版パンフレットシリーズ 燃える闘魂　格闘技世界一決定戦・編』

エンターブレイン
本体価格2,857円/発売中

甦る感動、異種格闘技戦・猪木伝説！

現在、「猪木軍対K-1」や「K-1対プライド」など、異種格闘技戦が大ブームである。しかし、その人気は今に始まったことではない。若かりし頃のプロレスラー・アントニオ猪木が「格闘芸術をさらなる高みへと昇華させる」という試みとして始めたのが元祖なのである。異種格闘技戦の原点はアントニオ猪木にあり！　今回、新日本プロレス創立30周年記念として、これまで猪木が行ってきた格闘技世界一決定戦のパンフレットが復刻された。昭和51年のウイリエム・ルスカ戦から昭和55年のウィリー・ウィリアムス戦まで、計9試合分が1冊に完全集結されているのだ。伝説とまで言われたモハメド・アリとの試合も入っているぞ。それだけでなく、「闘魂インタビュー」としてアントニオ猪木本人が当時を振り返り、思い出話や昔の異種格闘技戦と今の総合格闘技の違いについて語っている。あまり語られることのなかった逸話も含まれているぞ。また、当時や今の格闘技を語る証人として藤原喜明や永田裕志、ターザン山本、永島勝司といった豪華メンバーのインタビューも収録されている。彼らにとっても、異種格闘技戦は大きな存在だったのだ。昔からの異種格闘技戦ファンに大満足なのはもちろん、昔を知らなくても、異種格闘技戦好きな本誌の読者なら勉強になるし、読み応え充分！

〈新刊紹介❷〉 It's HOT!

『プロレス・格闘技の？？』

プロレスマスコミ精鋭チーム著/東邦出版
本体価格1,200円/発売中

プロレスの裏ドラマ、公開！

「プロレスというのは『リング上の出来事』だけに留まらない。リング外での出来事も、すべてひっくるめて『プロレス』なのである。プロレスは薄っぺらいものではない」。筆者たちは、リングを降りている時のプロレスラーたちの人生劇場があるからこそ、プロレスは面白いと語っているのだ。本書はリングの外で起きた、プロレス・格闘技ファンの誰もが知りたがっていた事件の真相や、あまり表に出ることのなかった隠れたエピソードなどを紹介している。「新日本を退団した武藤が全日本入団を望んだ真相は？」「馳浩黒幕説の真相は？」「桜庭と田村の確執の原因は？」といった旬のネタが盛りだくさん。さあ、今すぐ書店へ向かうのだ！

〈新刊紹介❸〉 It's HOT!

『驚異の意念パワー　発力』

久保勇人著/発行＝気天舎、発売＝星雲社
本体価格　2,500円/発売中

「意念」、それは意識の力！

作者である久保勇人師範は、拳聖とまで謳われた太氣至誠拳法宗師・澤井健一氏の薫陶を受け、意拳・太氣拳を極めた実力者だ。彼の秘密の技と理念を全公開すべく、技術書3部作（最強中国拳法技術書シリーズ）が発刊されることとなった。その第1弾が本書である！　筋力トレーニングでは得られない〔驚異の意念パワー〕の実際が、理論と連続写真を駆使した実演で懇切丁寧に解説されているのだ。「意念を重視した訓練により、身体能力を有形無形の域まで高め、且つ瞬間的な爆発パワーである発力により自然に相手を制することが拳の核心」と久保師範は語る。読めば、きっとこの言葉の持つ大きな意味が分かるはずだ！

BOOK RANKING（5/1～5/15調べ）

❶『日本ボクシング年鑑2002』
ベースボール・マガジン社
本体価格2,000円

❷『八極拳 2』
張世忠監修/福昌堂
本体価格1,800円

❸『剣道上達BOOK』
井上秀克著/成美堂出版
本体価格1,200円

❹『ボクサートレーニング（カラダ快適BOOKS）』
辰巳出版
本体価格1,300円

❺『空手』
数見肇著/旺文社
本体価格1,100円

1位『日本ボクシング年鑑2002』

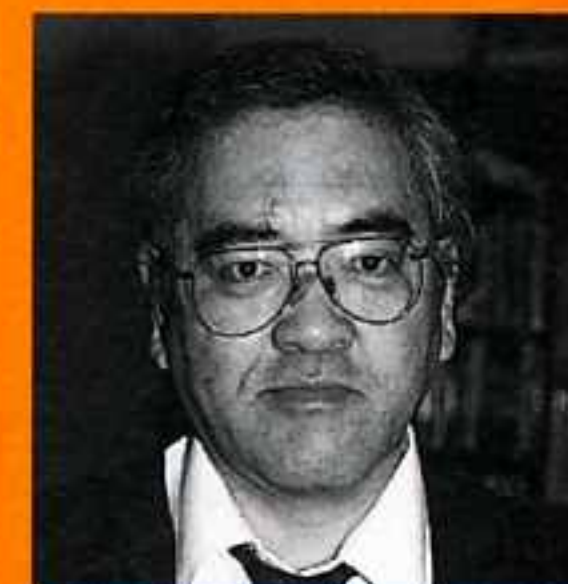
本書は、2001年の日本ボクシング界を記録したものだ。タイトルマッチや、数々の名言を集めた「トップ・ボクサー語録」などが収められている。日本だけでなく、海外で行われたビッグマッチも紹介しているぞ！

書泉ブックタワー

東京都千代田区神田佐久間町1-11-1
☎03-5296-0051（代）

▲プロレス・格闘技の本を探すならここ、『書泉ブックタワー』！　本誌のバックナンバーも常備しているので、探している本があったら秋葉原の書泉へGO！

書泉ブックタワー 後藤　実副主任

「今月のランキングは、先月もランクインしていた書籍の順位が変わった程度で、特に大きな変動はありませんでした。プロレス関連に目を移すと、元FMW社長の荒井氏の本などが順調な売れ行きですね」

※表示価格は全て税別価格

GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介！

〈新作紹介〉 It's HOT!

『ヘラクレス　ヘビーウェイトベルト』&『ヘラクレス　ヘビーウェイトアンクル』

イサミ/ベルト1,800～5,000円（税別）、アンクル2,600～3,300円（税別）

みんなに差を付けろ！

ベルトは3キロ～10キロまでの4種類、アンクルは4キロ（片足2キロ）と6キロの2種類。これを身に付けて普段の生活ができるようになれば、筋力&スピードアップ間違いなし！

〈おすすめグッズ❶〉 Recommend

『ブラジリアン柔術教則本〈衣・裸〉』

グレイシーマガジン/衣1,800円（税別）、裸1,500円（税別）

伯語ながらイラスト図解が分かりやすい

グレイシー柔術の基礎を分かりやすくイラスト解説している本書。説明はポルトガル語だが、イラストだけでもよく分かる。道衣バージョンと裸バージョンがあるのも嬉しい。東京イサミには「グレイシーマガジン」もあるぞ！

〈おすすめグッズ❷〉 Recommend

『ミノタウロスパッツ』&『アローナスパッツ』

ビタミン&ミネラル/ミノタウロ8,800円（税別）、アローナ8,500円（税別）

スパッツ履けば気分はBTT。キミはミノタウロ派、それともアローナ派？

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラモデルとヒカルド・アローナモデル、『プライド』で活躍中の柔術家2人のスパッツが登場したぞ！　これを履いて練習すればキミの上達間違いなし（？）。サイズはM～XLまで。

東京イサミ
前田道範店長

「2年に1度の全日本ブラジリアン柔術選手権大会が5月31～6月2日に開催されます。各道場のトップたちが日本一を目指しています。柔術はいま一番熱い！　目指せ、富士山（日本一）！」

東京イサミ
東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F ☎03-3352-4083
通信販売受付 ☎03-3295-4450 or 0570-007800
ホームページアドレス http://www.isami.co.jp/
営業時間/11:00～19:00（火曜、祝日定休）

Et cetra

魔裟斗がトークショー＆サイン会を開催！

『K-1 WORLD MAX 2002』の前日、5月10日に発売された『魔裟斗フォト＆エッセー』の発売を記念して、魔裟斗がトークショー＆サイン会を開催する！　現在、ラフォーレ原宿5階の山下書店ブックスラフォーレで先着150名に整理券を配布中。人気のため今にも定員に達する勢いだが、オープンスペースでの開催を予定しているので、足を運んでみよう！
◆日時/6月1日（土）15:00～
◆場所/山下書店ブックスラフォーレ（ラフォーレ原宿5階）
◆お問い合わせ/山下書店ブックスラフォーレ☎03-3475-0447

『鈴木みのると行く“KAZEツアー”in沖縄』参加者募集！

『鈴木みのると行く“KAZEツアー”in沖縄』の参加者を募集しているぞ！　期間は、7月20日から7月22日の2泊3日。沖縄の名所観光はもちろん、ツアー最後の夜にはゲーム大会、ビデオ上映、内容充実のトークなどのアイディア企画が予定されている。また、パンクラス認可ジム『ハイブリッドレスリング∞武限』の旗揚げ5周年記念大会の観戦もコースに含まれている。鈴木みのると旅行できるなんて、またとないチャンス。先着20名までなので、希望者は早めに申し込もう！
◆期間/7月20日（土）～7月22日（月）の2泊3日
◆料金/88,000円（消費税、諸入場料、朝食2回、昼食1回、夕食2回の食事料を含む）
◆募集人員/先着20名
◆お問い合わせ/ワイエムオーツアーズ（担当：菊田）☎03-6781-5599

プロレスの入場曲を多く手掛ける鈴木修がソロライブを開催！

橋本真也のテーマ『爆勝宣言』や、小橋建太のテーマ『GRAND SWORD』など、プロレスラーの入場テーマを数多く手掛けているギタリスト兼作曲家の鈴木修氏のソロライブが、あのロックの殿堂・目黒鹿鳴館で行われる。どの曲が演奏されるかは、行ってみてのお楽しみだ！
◆日時/6月1日（土）
◆開場/18:00　開演/19:00
◆会場/目黒鹿鳴館（JR目黒駅西口より徒歩5分）
◆入場料/前売り券2,700円　当日券2,900円
◆チケット発売所/目黒鹿鳴館、水道橋チャンピオン
◆お問い合わせ/目黒鹿鳴館☎03-3494-1801

ブロードバンドで格闘技観戦！

近藤有己がまさかの敗退を喫してしまった、5・6『プレミアム・チャレンジ』。その大会の模様を動画専門サイト『trans.tv』（http://bbdreams.dream.com/twp）で配信中だ！　今後は、3月16日に行われたU-FILE CAMP『Style-G』の配信も予定されている。
◆料金/1,500円
◆お問い合わせ/trans.tv☎03-5362-0987

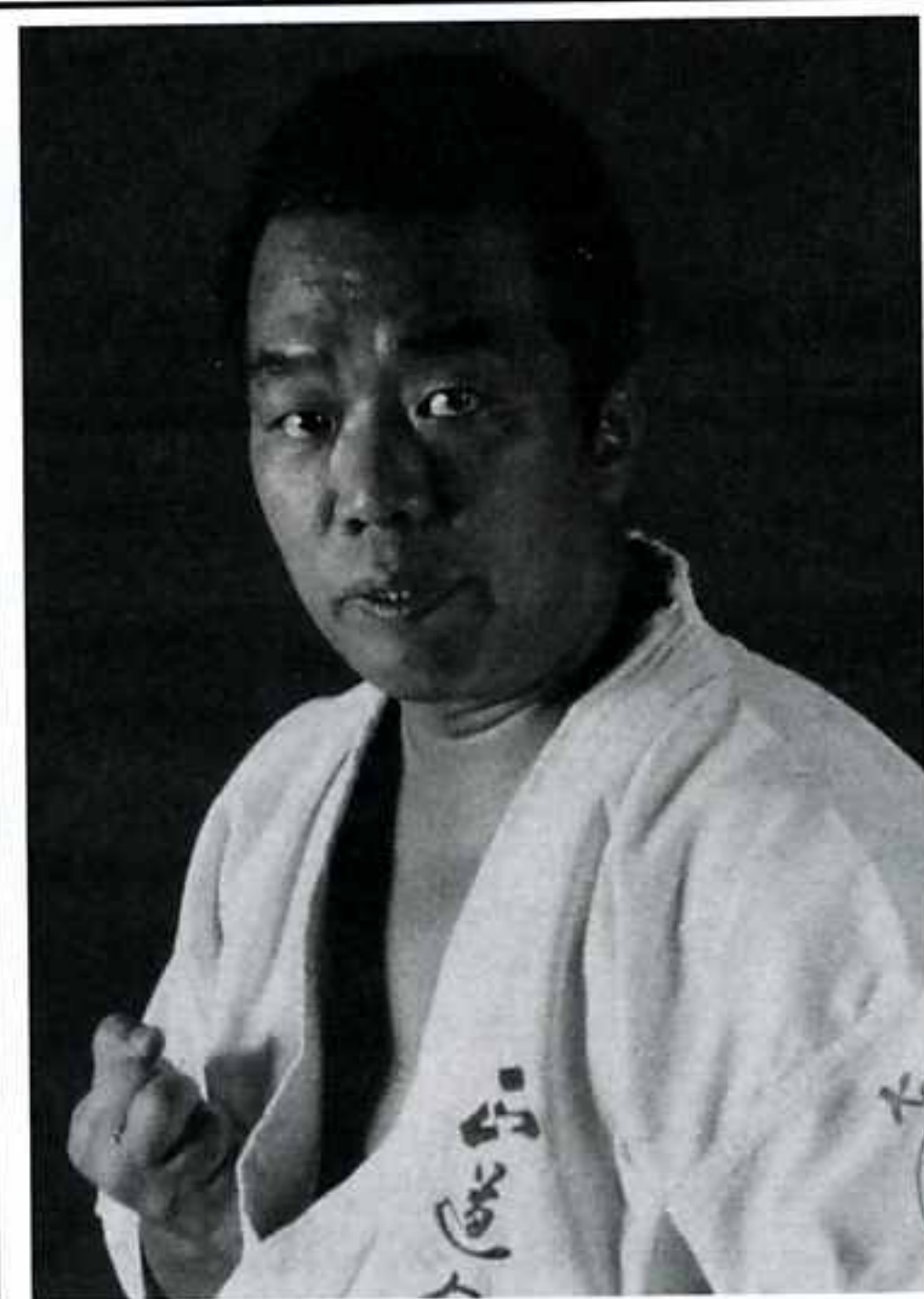
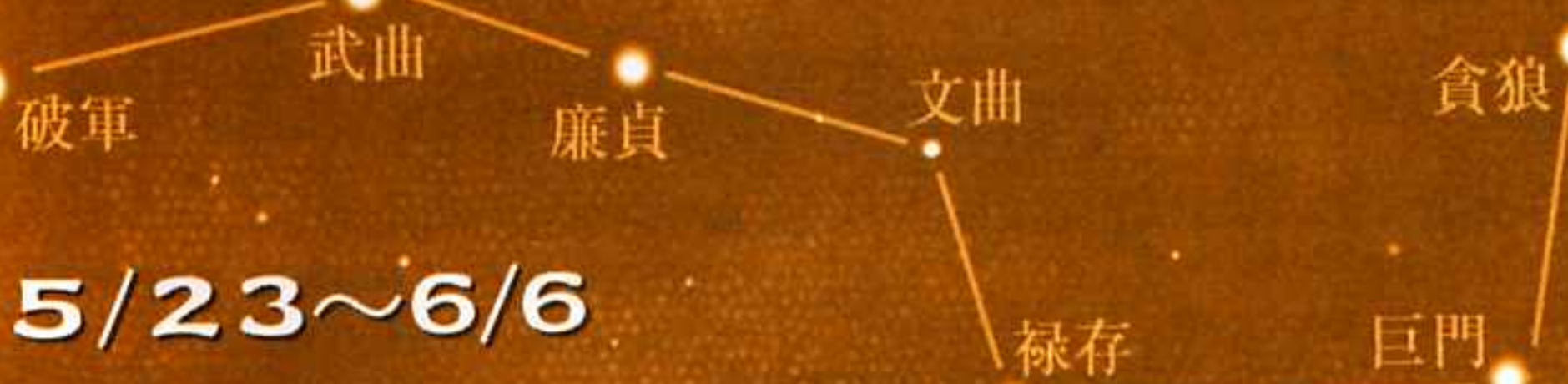
出場者募集

【第6回ライトアマチュアシュートボクシング選手権東京大会】
◆日時/7月14日（日）12:00～
◆場所/東京・台東リバーサイドスポーツセンター体育館3階第一武道場（東武伊勢崎線・都営浅草線・地下鉄銀座線浅草駅より徒歩10分）
◆対象/あらゆる格闘技のプロの試合経験、または、あらゆる格闘技のアマチュア大会における入賞経験歴を持たない、心身ともに健康な男女
◆階級/軽軽量級（～52キロ）、軽量級（～57キロ）、中量級（～67キロ）、中重量級（～77キロ）、重量級（77キロ～）　※5キロ以上の体重差がある場合は2オンスのグローブハンデ
◆試合形式/2分×1Rとし、勝敗がつかない場合、1分×1Rの延長ラウンドを1回のみ行う
◆参加費/5,000円
◆締め切り/7月8日（月）
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

【グラップリング-Bタッグバトル vol.2】
◆日時/7月7日（日）14:30～
◆場所/越谷・[B-CLUB]（東武伊勢崎線越谷駅西口より徒歩30秒）
◆対象/18歳以上の健康なアマチュアの選手（男女を問わず）
◆階級/男子…140キロ以下級、150キロ以下級、160キロ以下級（チームトータル体重）　※女子は基本的に階級はなし。応募チームの中から、体重の近いチーム同士を選抜し、試合を行う
◆参加費/[B-CLUB]会員2,000円（1チーム）、一般5,000円（1チーム）
◆応募方法/参加希望者は、代表者が電話にて申し込みの上、下記住所まで100円切手1枚を郵送。折り返し、参加申し込み書を発送
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43　[B-CLUB]内「グラップリング-B」運営事務局
◆電話申し込み締め切り/6月26日（水）
◆お問い合わせ/バトラーツジム[B-CLUB]☎048-963-7515

宇月田麻裕の北斗占い

Mahiro Utsukita

破軍　武曲　廉貞　文曲　貪狼　禄存　巨門

5/23〜6/6

★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の１つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の１つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。
この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。
絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

ホクトホンミョウジョウ
北斗本命星早見表

貪狼星	巨門星	禄存星	文曲星	廉貞星	武曲星	破軍星
	1959	1958	1957	1956	1955	1954
1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966
	1971	1970	1969	1968	1967	1978
1972	1973	1974	1975	1976	1977	
1984	1983	1982	1981	1980	1979	
	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1996	1995	1994	1993	1992	1991	

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンゴク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ。聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです。
武曲（ブゴク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

貪狼星

全体運
コツコツと努力していくことで、そのマジメさが評価の対象となる時。でも実は、アクティブに行動したくても、何かと雑務に追われ、動けないというのが真実。この２週間は待ちの姿勢で、信頼関係を作っていくと、好展開の暗示。

恋愛運
恋人を焦らすような作戦を実行してみると、二人の関係に変化が起きそう。フリーはグループ行動をしてみよう。運の強い人のおこぼれがもらえるかも。

勝負運
得意なカテゴリを追求していくと勝運ＵＰ。

健康運
病気再発の恐れ。完治させることが大切。

金運
笑顔を絶やさないでいるとラッキーあり。

★ラッキーカラー★
オフホワイト
★ラッキーアイテム★
コロン
★ラッキースポット★
銀行

巨門星

全体運
自分の殻から、スポっと抜ける感じがある時。自己表現をしたくてもできなかったアナタ、練習では実力が出せても本番で弱かったアナタ。ちょっとしたキッカケで「な〜んだ、こんなことか！」と明るい光が射してくるハズ。

恋愛運
ラブラブ状態から、冷静になれる変化の時。二人の関係や環境をちゃんと見れるようになるので、あなたのプライベートな時間が充実してくるハズ。

勝負運
色々なことを整理してみると答えが出そう。

健康運
スキンケアや健康キープを心掛けて。

金運
自己アピール次第でゴチしてもらえそう。

★ラッキーカラー★
シルバー
★ラッキーアイテム★
スキンケアグッズ
★ラッキースポット★
ファッションビル

禄存星

全体運
仕事でも試合でも、完璧すぎるくらいにトレーニングを積んでおこう。そこまでやったという事実が、知らない間にアナタの自信につながっているハズ。また、理想と現実をよく見ていく必要がある時。目標をワンランク下げてみては。

恋愛運
フリーは、周囲にタイプの人がいないからといって、友達の恋人に手を出すようなルール違反をしてはＮＧ。最終的にアナタが窮地に追い込まれることに。

勝負運
他人の振りを見て我が振りを直すとＯＫ。

健康運
にぎやかなスポットにいってエネルギーＵＰ。

金運
貸し借りのお願いはやめたほうが無難。

★ラッキーカラー★
ブラック
★ラッキーアイテム★
コーヒーカップ
★ラッキースポット★
飲食街

文曲星

全体運
自己コントロールが利かなくなるキケンが。まるで、糸の切れた凧のように宙を飛び回ってしまいそう。職場では、人の好き嫌いをしてトラブルを起こす可能性も。言動する前に自問自答して、紳士的に対応していくことがポイント。

恋愛運
感情的になって、恋人に八つ当たりしていない？　特にエッチの最中のヒステリーは、致命傷になりかねないので要注意。フリーは好きな人に接近できそう。

勝負運
耳寄りな情報やアイディアが役立つ時。

健康運
つまずかないよう、足元に気を付けて。

金運
幹事や責任者をしたりするとラッキーあり。

★ラッキーカラー★
レッド
★ラッキーアイテム★
Ｔシャツ
★ラッキースポット★
レンタルショップ

廉貞星

全体運
凶兆星が徐々に接近してきます。マイナス思考になりそうになったら、トレーニングの時間を増やしたりして、忙しいくらいの生活のリズムを作ってみよう。生活が充実し筋力もＵＰして、ついでにプラス思考になり、一石三鳥。

恋愛運
恋人のことでイヤな噂が耳に入ってきそう。でも噂よりも、本人からの情報を信じることが大切。フリーは、ターゲットが見つかったらアプローチ開始！

勝負運
期待が大きすぎるとプレッシャーに。

健康運
野菜不足に注意。意識的に摂るようにして。

金運
お釣りのチェックをして。損しているかも？

★ラッキーカラー★
イエロー
★ラッキーアイテム★
ＣＤ
★ラッキースポット★
カラオケボックス

武曲星

全体運
吉兆星が輝いています。色々なことがクリアになっていくので、新しいアナタに変身してみてはいかが？　ファッションや肉体改造、性格、仕事ぶり、どれをポイントにするかはアナタ次第。きっと周囲の目を釘付けにできるハズ。

恋愛運
モテモテ運到来！　アナタが輝いて見える時なので、積極的に合コンやサークル活動に参加してみよう。カップルは、今までにない熱〜いエッチ体験の予感。

勝負運
新しいスタイルに注目するとグッド。

健康運
高タンパク、低カロリーの食事をしては？

金運
部屋の掃除をしてみるとお宝が見つかりそう。

★ラッキーカラー★
ライトブルー
★ラッキーアイテム★
ボヘミアンファッション
★ラッキースポット★
リバーサイド

破軍星

全体運
気転が利かない時。上司や先輩、さらにはクライアントに接する際に、軽はずみな言動が命取りになる恐れあり。行動する前に、シミュレーションしてみよう。また、ライバルがアナタに対して闘志を燃やしているので要注意。

恋愛運
環境が変わりやすいので、愛情が冷めつつあるカップルは要注意。大きな問題が起きた場合、乗り越えられなかったり、恋人がチェンジする可能性あり。

勝負運
何をするにもシミュレーションが大切な時。

健康運
自然のスポットにいって英気を養おう。

金運
なるべく人任せにしないほうが良い時。

★ラッキーカラー★
イエローグリーン
★ラッキーアイテム★
バッグ
★ラッキースポット★
プール

宇月田麻裕プロフィール
ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、
などで活躍中。NTT Vポータル tel.0570-0033-03「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/

イラストレーション＝松本晴夫

ザッツ・ムチャリブレ ③

山本隆司

"格闘技"とは神が降格した闘技である

私は"格闘技"という言葉が大好きである。日本語における漢字は、つくづくよくできていて、それは一つの小宇宙を示しているとも言われている。だから漢字はしっかり見つめろと言いたくなる。

見つめるとイメージがわいてくる。その際、重要なことは漢字は必ず分解してみることだ。格闘技の場合は"格"と"闘"と"技"の3つに分けることができる。

なるほど格闘技は格と闘と技の3つによって成り立っていることが分かってくる。ここで問題になってくるのは"格"という一字である。この言葉はある意味で必要ない。

"闘技"でいいではないか？『プライド』もK－1もあれは"闘技"である。

その闘技を広辞苑で引くと「力やわざの優劣を競うこと。競技」と書かれている。一方、格闘は「組打ちして争うこと。懸命に取り組むこと。とっくみあい」と説明されているが、格闘技という項目は残念ながらない。

こうなると漢字の元の意味を知るには『字通』（白川静著）を引っ張り出すしかない。格という一字をさっそく調べてみた。格は「枝が伸びてからむことをいう」そうだ。さらに「各には"いたる"意があり、神の降格する意。神意によってただす、それより格式、規格の意となる」とある。

よって格は①からむ。あたる。たたかう。いりくむ。②いたる。きたる。ただす③はかる。のり。規格。地位。身分。④架と通じ、衣かけ。そういう意味なのだ。

そこで注目しなければならないのは「神の降格する意、神意によってただす」とある部分。格は"からむ""いたる""ただす"の3つの意味があるが、格闘技という言葉における格は"ただす"ととらえるのが正解かも。

闘技の上に格の一字を加えることで、神が降格してその闘いと技を"ただす"のだ。なるほど、そういうことだったのだ。

それが格闘技の本来の意味なのだ。非常に神聖な言葉であることが分かってくる。よって格闘技や格闘家という言葉は、気楽に使ってほしくない。神が降格していないものは、全て闘技というべきだ。私はそう断言する。

だから今は闘技が全盛の時代。特にバーリ・トゥードの概念が浸透して、強さを試合で証明する必要が出てくると、神のいない闘技が中心になってくる。

逆説的に言うと、試合はしないで練習と稽古に励んで、それを修行の場にしている世界には神がいる。試合をした瞬間、格闘技は闘技になってしまうのだ。

ここの所をみんなにはぜひ分かってもらいたい。最近の闘技で最も美しかったのは"巨人"セーム・シュルトと闘った武蔵。

5月11日『K－1　WORLD　MAX　2002』の日本武道大会では私を見つけた武蔵が近付いてきて「どうです？　言ったとおりにやったでしょう」とシュルト戦を自慢していた。「うん、あれは君が勝っていた素晴らしい試合だったよ」と私も彼の主張を支持した。本当に武蔵はいい顔をしていた。自分がイメージしたとおりの試合ができたからだ。闘技のポイントはそこにあるのだ。■

ABNORMAL★MOGUTAN

あぶもぐ

大阪場所

中日

親方◎小松モグタン

まんが 闘魂スペシャル

by ゴキ太郎

VOL. 5

猪木さん あの…

ヒロ

ボクも実はプライドに出たいんです。

でもホラ、オレは例の毒電波発信機の方がな。開発というか発明の方な。

だから早くタイホしろ！ってな。

現場はオレが仕切る！

つづく

柔道界が吉田秀彦なら、角界は元若乃花の花田勝。アメフトがダメなら、『プライド』に上がるもよし。ZERO-ONEで破壊王とアンコ型タッグを組むもよし。ミスター・フレッドの高速カウントのように、早く今後の進路を決めてくれ！

講道学舎時代中学1年で寮に入った時、高校3年生で吉田先輩がいて鍛えてもらった記憶がよみがえりました。ちらっと噂は前から耳にしていたのですが、『SRS・DX』を読んで真相が分かり良かった反面、『プライド』進出も期待していたので残念です。学舎出身者が2人になるチャンスで応援のしがいがあったのですが、今の段階では大山オンリーなのでもしかしたらに期待して終わりにします。
（町田陽弘・群馬県勢多郡・27歳）

◆どうなる、吉田問題？　アメフトに挫折した花田勝もこっち方面で話題になってほしい！　『プライド』のリングで土俵入りする姿を早く見たい！　ドスコイ！

ヤマノリ！　佐竹！　メチャクチャ格好良くなってて感動したよ。5歳は若返っていた。佐竹よ、絶対にリストラされんなよ！　着実に進化してるよ。怪獣覚醒はもう近い。柔術習って、体もしぼって、日焼けサロンにも行って、頑張って!!　ヤマノリよ、君は愚直すぎる！　ステキだ！　だけどもっとコズルくなってよ。せっかくサクが側にいるんだから手本にしてくれ。
（アゴ三郎・東京都北区・34歳）

ミルコ・クロコップ
（真杉哲也・東京都東久留米市・25歳）

ボブ・サップ
（小川徹・埼玉県八潮市・16歳）

◆アゴさん、早くうつ病治してください。ところで、佐竹は安田と試合をした時には、あんなに相撲が強く感じたのに、ランペイジには簡単に投げられていたなぁ。やっぱり花田勝の出番かな？　ハッケヨイ！

面白かった記事は『プライド20』の菊田VSアレク戦のリポートです。前号では「養子にしたい」とまで言っていたアレクに対して、「お前こそプロレスを舐めている」と言い切るターザンの振り幅は凄い。つまりはターザンの求めるプロレスのハードルがとてつもなく高くなっているのではないでしょうか。でも、「『プライド』のリングでは、勝った菊田が正しい」と言うのはおかしいと思う。それなら髙田延彦は全然評価されないことになってしまうから。ところで、69号に載っていた柔術の中井祐樹選手はAV男優の加藤鷹さんに似ていると思う。
（春名義行・兵庫県明石市・35歳）

◆人間、振り幅が大事。腰の振りも幅の大きさが大事。柔術家も、力士もAV男優も腰使いには十分振り幅を付けよう。

菊田VSアレクの記事はまったく同感です。アレクは結果は残せていなかったけど好きな選手でした。しかし今回のアレクは格好悪かった。今村選手はアッと言う間に負けてしまいました。今村選手を見て、あのジョー・サン（私的にはもの凄い思い出したくない）の姿がよみがえってきました。話は変わりますが、桜庭選手が『あずみ』というマンガに推薦文を書いていましたが、暗殺してほしい太った後輩というのは今村選手のことなんでしょうか？　でも私的にあずみにはジョー・サンを暗殺してほしい。あの肉付きのいい艶やかな体が今も忘れられません。あずみ、切り裂いてくれ。あと、今村選手にお願い。太った体を見るたびに思い出すので、ダイエットしてください。
（上條信彦・福岡県田川市・31歳）

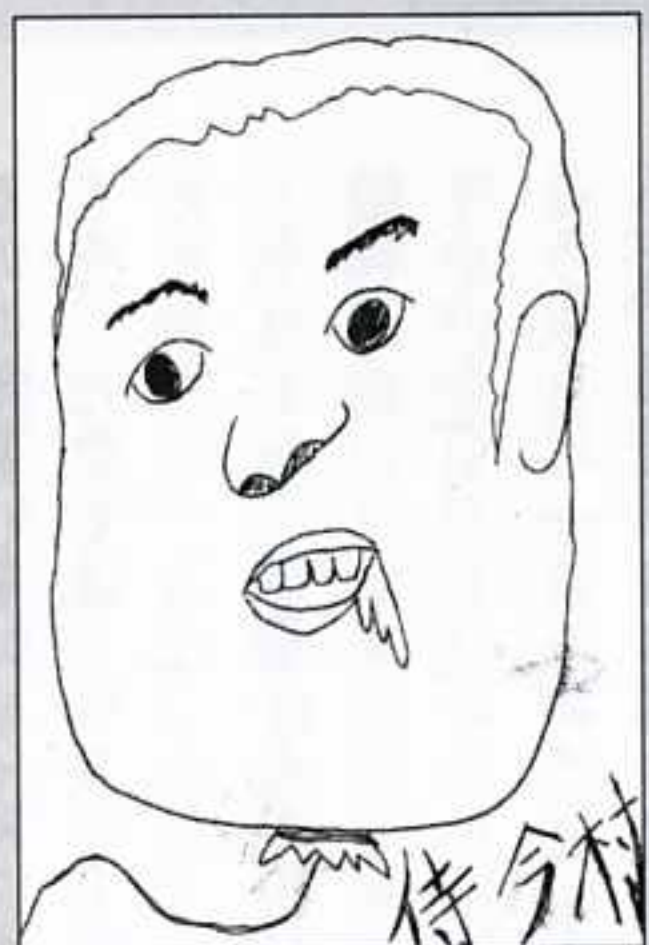
◆なぜ、ジョー・サンを思い出したくないと言いながら、ジョー・サンにここまでこだわるのか？　それはあなたがジョー・サンに対して、潜在的に相撲を感じているからなんです。ジョー・サン、今村、そして花田勝。相撲のニオイを感じる男たちを『プライド』に上げよう。ごっちゃんです！

今回の『プライド』で菊田VSアレクの試合は本当に腹が立つ試合でしたよ。あのアレクの態度にはビックリしたし、本当に腹が立ちましたよ。アレは完全に菊田選手をバカにしていますし、それと同時に『プライド』をもバカにしています!!　いったいどっちがプロレスをバカにしているのか？　と思いました。「菊田VSアレクどっちが正しいかハッキリしろ」なんて、菊田選手のほうが正しいに決まってんじゃねぇかよ!!　本当にアレク、人をナメんのもいい加減にしろよ。
（藤井佑樹・埼玉県さいたま市・18歳）

◆内容では負けてないと言ったアレクだが、相撲では完全に負けていた。あの菊田を見ていると、やっぱり『プライド』にも相撲が必要だなぁ。

タニーに一言モノ申す!!　シウバVSミルコの記事を読んだけど、あれは明らかにシウバの勝ちでしょう!?　なのにタニーは「ミルコは『プライド』ルールでも通用する」だの「シウバはビビッていた」など、どうしてミルコ、いやK−1ばかり肩を持つんだよ。今回のルールは完全にミルコ有利だったし、シウバはミルコと同じ打撃を得意としている選手。あのルールの中で引き分けただけでもシウバは勝ちだと思うし、なんてったって、シウバはミルコを圧倒してたよ!!　もし、対戦相手がサクやノゲイラといったグラップラーだとしてミルコが引き分けたら、素直に「ミルコは強い」と認めるよ。でも今回はシウバがよくやったと思うけどな〜。最後にミルコに一言。「あのデカイ態度はどこへ行ったのかなぁ!?　負けを認めろ!!　新言い訳番長」
（谷雄介・茨城県取手市・？歳）

◆引き分けは引き分け。ルールで時間内に決着が付かなければドローとした以上、どっちの勝ちでもねぇんです。そんなにすっきりしたければ、相撲を見ろ。ドローなんてないぞ。

今村雄介
（長南憲司・千葉県流山市・？歳）

魔裟斗
（斉藤妃富美・新潟県中蒲原郡・17歳）

船木誠勝
（やざま優作・東京都小平市・29歳）

あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！　強烈なぶちかましをお待ちしております。

最強を求めて!! MAキック
出陣・決戦
4.28★後楽園ホール

この男、何をやらせてもデキる!

撮影◎吉澤晃

後藤龍治、MA王者山上に競り勝つ さあ、次はS-cupだ

▲判定勝利を収め、小川英樹直伝というポーズでキメ！ キックのリングでスパッツ着用というところに、今の後藤の"立ち位置"が表れている

★第8試合/メインイベント（3分5R）
○後藤龍治（5R判定2-0）山上健吾●
〈STEALTH〉〈花澤ジム〉
※採点…49-48、49-49、49-48

▶ファイティング前沢の持つスーパーフェザー級王座に挑んだのは、3月の60キロトーナメントで優勝したモンゴル人選手・花戸忍。パンチ、ヒザはもちろんカカト落とし、バックキックなどで豪快に攻めまくった花戸は、なんと計4度のダウンを奪った末、レフェリーストップで勝利（5R2分7秒）

◀晴れてタイトルを獲得した花戸だが、直後に全日本キックへの移籍が決定。新天地で新たな敵を求めることになった

K－1ミドル級大会でブレイクした後藤が次の舞台に選んだのはMAキックだった。伸び盛りのMAミドル級王者・山上健吾との対戦に競り勝ち、改めてその実力をアピール

▲対する山上は長身を利したミドルとヒジ、ヒザが持ち味。派手さはないが確実に攻めていく。今回は後藤に屈する形となったが、4Rにはパンチを効かせて動きを止めるシーンもあった

▲軽快なステップワークから鋭い踏み込み、そしてパンチ。後藤のテクニックを評価する格闘技通は多い

それにしても、後藤龍治というのは何をやらせてもデキる男である。

2月のK―1ミドル級日本一決定戦で名を上げたのは記憶に新しいところ。今の主戦場はシュートボクシングで、元はMAキックのチャンピオンでもあった。去年はフランスの総合格闘技『グラン・トロフィー』に出たり、そういえば一昨年は正道会館の全日本大会にも出てたな。しかも、その全てで高水準な試合を見せてくれるのである。

そして今回、K―1を終えての初戦に選んだのは古巣・MAキックのリングだった。相手は山上健吾。ミドル級の現王者であり、MA中量級の看板選手でもある。もちろんK―1出場も視野に入れている選手で、それを期待されるだけの実力だってある。後藤にとって厳しい相手であるのは間違いないし、K―1で名前を売った今では、リスキーな感じさえする。

それでも、後藤はキッチリ山上に勝利。ロングレンジのミドルキックをかいくぐってパンチをヒットさせるうまさは「さすが」といったところだ。最終5Rは真っ向からの意地のぶつけ合いとなったが、これも競り勝ってみせた。

次はいよいよ、本人が「このスタイルが一番好き」というSB、その大一番である『S―cup』。なんでもデキるこの男が、どんな闘いを見せるのか今から楽しみだ。■

全日本キック

HEAVY GUN

5.4★北沢タウンホール

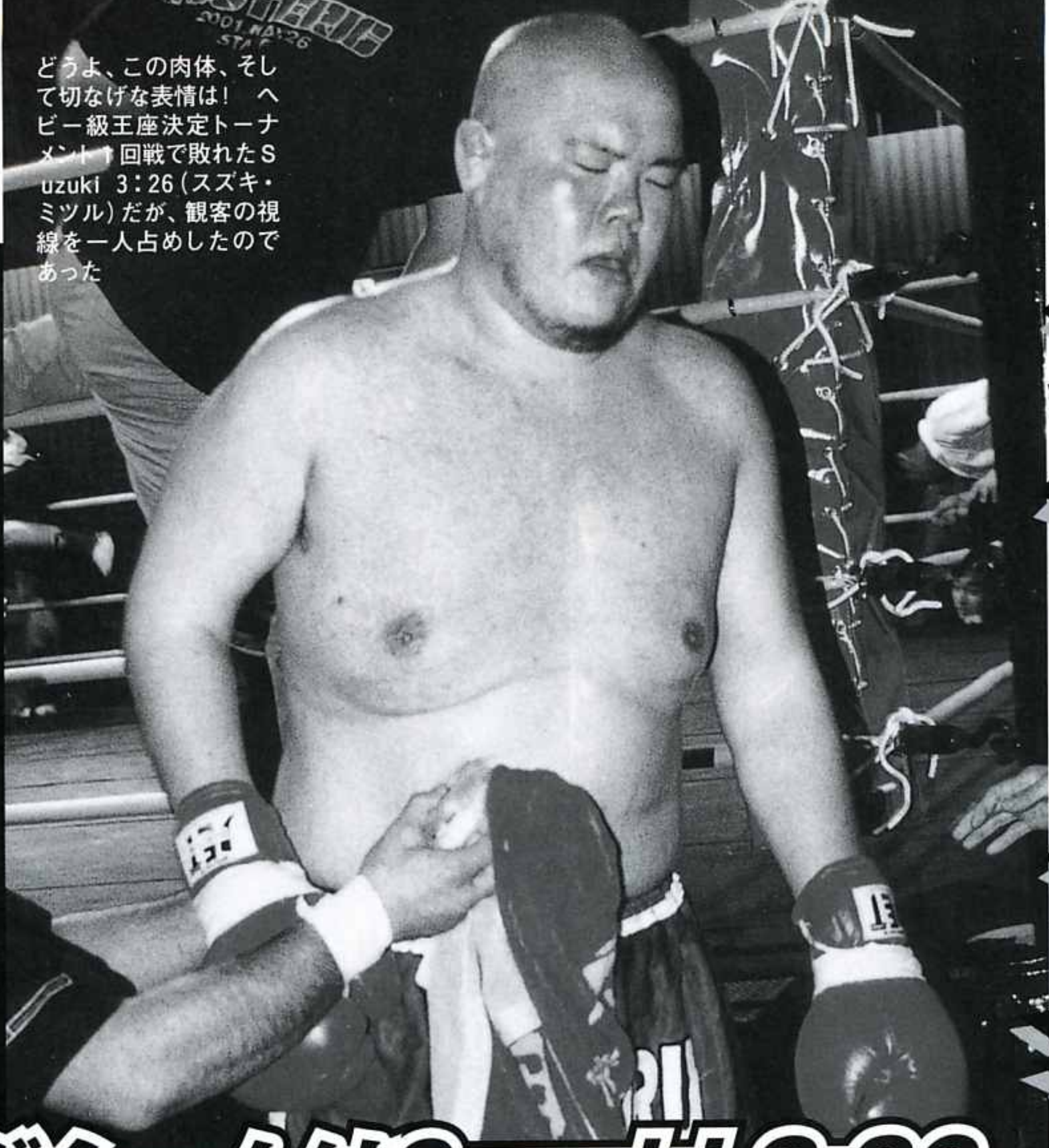
これがキック界最強の癒し系デブだ！

ヘビー級トーナメントは下馬評どおり安部が優勝！

リングネームはSuzuki 3:26 ストーンコールドが好きなのか？

どうよ、この肉体、そして切なげな表情は！ ヘビー級王座決定トーナメント1回戦で敗れたSuzuki 3：26（スズキ・ミツル）だが、観客の視線を一人占めしたのであった

◀トーナメント優勝を果たし、全日本ヘビー級王者となった安部。K－1ジャパンGPで3位になったこともある実力は、今回のメンバーの中では図抜けていた。「絶対に負けられないという気持ちでした。いい試合をして『ヘビー級は面白い』と言われるようになれば、このベルトの価値も上がると思います」（安部）

◀もう一つの1回戦は、安部康博VS長谷川康也。さすがに地力で勝る安部が、2Rに右フック、左フック、そして最後は左ヒザと3度のダウンを奪ってKO勝ち

◀決勝戦。ここでも安部はDEIONを相手に横綱相撲。動きはやや固かったものの、3Rに右フックで2度のダウンを奪い、文句なしの判定勝利で優勝を決めた

▶3：26が1回戦で闘ったのは、かつて対戦したこともあるDEION。肉体と肉体がゴツゴツとぶつかりあう激しい攻防となったが、1Rのパンチによるダウンが響いて3：26の判定負け

全日本ヘビー級王座決定トーナメント

- Suzuki 3:26（GENESIS）
- DEION（REX JAPAN）
- 安部康博（建武館）
- 長谷川康也（J-NETWORK/アクティブJ）

「泣くな！」

この男、鈴木ミツルはセコンドにそう怒鳴られたことがある。それも、負けて悔しかったからとか、勝って嬉しかったからではない。ローキックを受けて、あまりに痛くて泣いてしまったのである。たしか相手はグローブ初戦の富平辰文だった。しかし、痛くて泣いちゃうプロ格闘家ってどうなのよ……。

でも、ミツルの場合はそんなところも含めて魅力というか。ポテッとした体でバタバタッと闘うところがなんとも愛くるしいんですな。

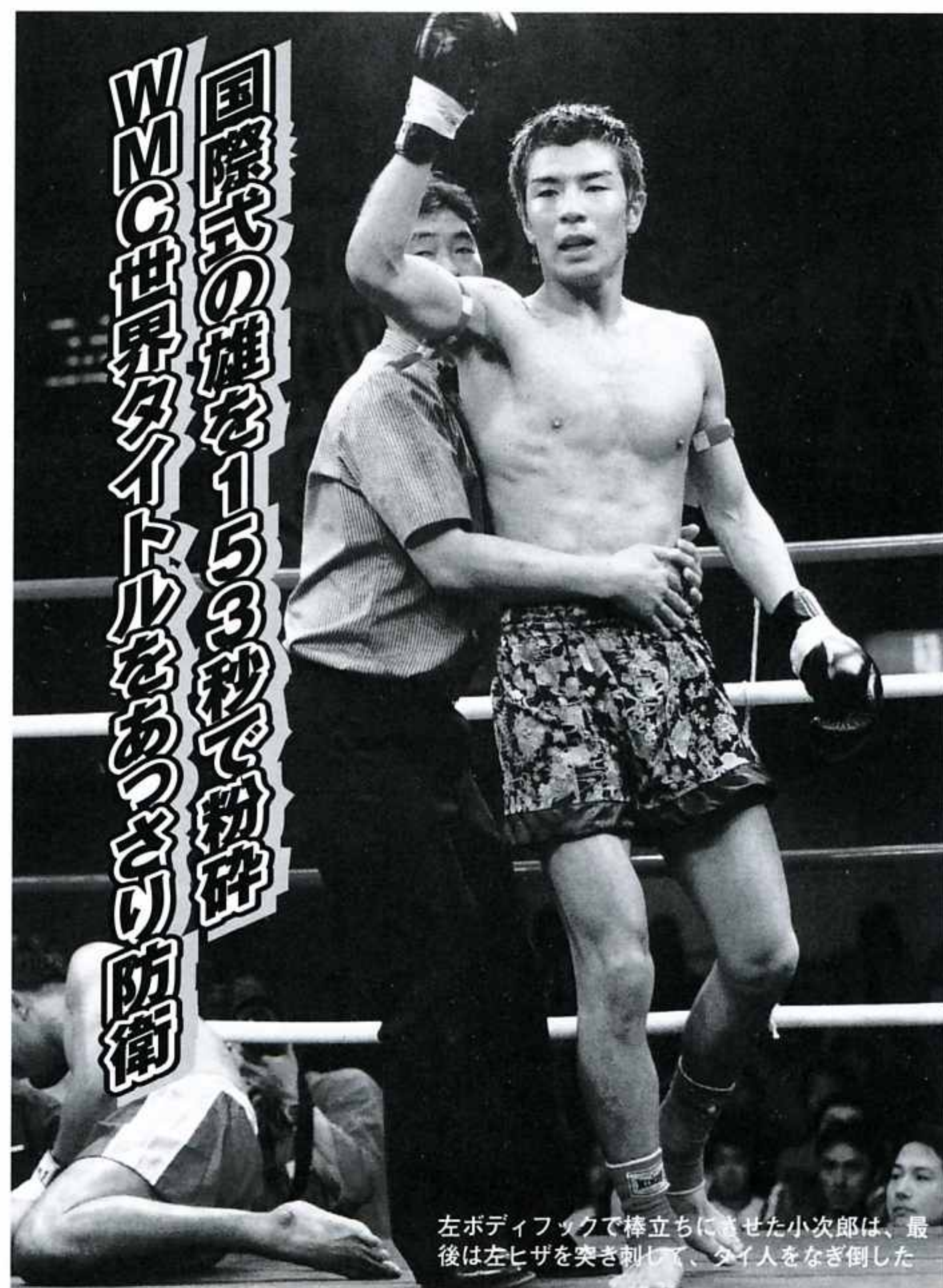
さて、今回ミツルはリングネームを『Suzuki 3：26（読み方は変わらず）』とストーンコールドばりに改名してヘビー級トーナメントにエントリー。坊ちゃん刈りだった髪もスキンヘッドにし、テーマ曲もオースチンのものにして再出発を図った。大会前にスタッフに聞いたところでは、優勝したら缶ビールをリングに投げ込む準備もあるというから楽しみだったのだが、惜しくも1回戦で敗退。

とはいえ息も絶え絶えにリングを降りる3：26の姿は、隠れ女性ファンが多いという噂も納得の可愛さ。石塚や三瓶にも負けていない癒し系デブっぷりだった。愛されるデブはかくあるべし。体格的には3：26にヒケを取らない筆者も、改めて肝に命じた次第である。今度、オレも徹夜の時に泣いてみるかな……。（橋本）

痛快KOに小次郎が吼えた!!
「チャラチャラしたK−1野郎を一人ずつぶちのめす」

撮影◎吉澤晃

ニュージャパンキック
DREAM RUSH4
5.12★後楽園ホール

国際式の雄を153秒で粉砕 WMC世界タイトルをあっさり防衛

左ボディフックで棒立ちにさせた小次郎は、最後は左ヒザを突き刺して、タイ人をなぎ倒した

小次郎のコメント

「以前、タイでスイットを見た時は、ファイターでローが強かったから、それだけを警戒していました。ボディを狙うのが作戦だったし、ヒジも当たったから、今日は良かったと思います。まだまだ100％とは言えないけど、自分のやりたいことにはだんだんと近付いていきたんでしょう。いずれK−1に出て、ガオランとやりたい」

スイットのコメント

「飛行機に酔って調子が悪かったし、緊張して力が出なかった。20日前にヒザを手術したんで、今も痛いんだよ。相手はパンチが強かったね。試合は久しぶりで、ベストウェイトも130〜135ポンドだから、今日は重かった。ガオランが負けたのはＴＶで見たよ。考えられないことだ。自分もああなるのか、と意識してしまった」

▶フェザー級に転向したＮＪＫＦのエース、桜井洋平は、無敗の岩井伸洋にやや手こずったが、終盤は圧倒。明白な判定勝ちを手にした

◀立嶋篤史のキック魂が燃え尽きることはあるのか。ただの前座ファイターになった今も闘い続ける。清水カーとの乱暴な殴り合いを制して、判定勝利をものにした

▲最初のダウンでスイットはもう戦意喪失。立ち上がっても背を向けたままで、そのままＫＯが宣せられた

▲不格好な横蹴りしか出せないスイットを、小次郎は難なく追い詰めていく

★第8試合・メインイベント/WMC世界ウェルター級タイトルマッチ（3分5R）
○小次郎（1R2分37秒、KO勝ち）スイット・ウォースティラ●
〈王者/ウィラサクレックジム〉　〈挑戦者/タイ〉
※ボディへの左ヒザ蹴り

はっきり言って、私はこういうマイク・パフォーマンスが大好きである。見るからにタフそうなスイットを157秒で粉砕した後、小次郎はリング上から猛々しく宣言した。

「K—1に出てチャラチャラしているヤツらをひとり一人ブッ倒し、自分が一番だということを証明します」

この2月、小次郎はK—1ＭＡＸのリングに立った。本戦ではない。リザーブマッチだった。1回戦で負傷者が出たら、準決勝で闘えたのだが、結局、1回戦に勝利した全員が無事だった。あまりにも華やかな舞台を間近に経験しただけに、小次郎の野心はなおさら燃え上がったのだろう。この日、保持するＷＭＣタイトルの防衛戦に迎えたスイットは、国際式でタイ・ランキング1位という猛者だが、意気に燃える小次郎は実にあっさりと料理してしまう。

左フックからの右ストレートで、スイットをロープに追い込むと、左フックでレバーを狙う。国際式でも最強の技術の一つに数えられるこのパンチの角度が素晴らしい。棒立ちになったタイ人に、さらに同じパンチ、鎌を振り下ろすような右ヒジ。とどめは左ヒザをやはり肝臓に突き刺した。たまらず崩れ落ちたスイットは、そのままレフェリーのカウントに応じなかった。

見事な勝利だった。迫力も切れ味もあった。来年のK—1ＭＡＸに早くもニュースターが誕生だ。（宮崎）

女子ボクシング
FIGHTING GIRL PT2
4.29★北沢タウンホール

負けちゃったけど、ライカにゃ、『明日』も『明後日』もある！

世界チャンピオン相手に、内容的には完敗。でもその差はわずかなのだ

マッカーターのコメント

「とてもうれしい。ライカ？効いたパンチはない。いつも男相手に練習しているから、女のパンチで効いたことはない。まあ、7戦目にしてはいい選手だと思う。経験を積めば、もっと強くなる。今度はタイトルをかけて闘いたい。でも、今日はやりやすかった。まっすぐにしか来ないんで。サイドに動けば、パンチももらわないし」

ライカのコメント

「悔しい‥‥正直言って、よく分かりません。とりあえず世界王者と闘って、終わったばかり。考えることもできません。ただ、正直言って自分では勝ってたかな、と。テクニック的なことは分からへんけど、パワーじゃ負けてなかった。世界の壁というのも、感じなかった。ぜひ、もう一度闘いたい。今日の試合じゃ、消化不良です」

★第6試合・メインイベント/国際戦（2分8R）
○レイラ・マッカーター（8R判定2-0）ライカ●
〈アメリカ／リングサイドジム〉　〈日本／山木ジム〉
※採点…79-77、78-78、79-78

▲マッカーターの右カウンターを浴び、立ち尽くすライカ。確かに技術の差はあった

▶左ジャブがヒット。試合後、マッカーターの右目上は腫れていた。やはりライカのパンチは重い

◀マッカーターの手が挙がる。判定は小差だったが、内容的には、米国人の危なげのない試合だった

▶日本王者同士のノンタイトル戦は、マーベラス森本のパワーに八島有美が何もできないまま。森本が判定で圧勝した

▲「相手が単調でやりやすかった」というマッカーターは、最初から最後までマイペースに闘った

▲強引に右を振っていくところに、逆に世界王者の左フックを打ち込まれてしまう

撮影◎菊地奈々子

「本当は勝ったと思いました。パワー的には負けてはいない」

試合後にライカは言っていたけれど、そのまま本音だったろう。たしかに、キャリア6戦にもかかわらず、世界チャンピオンを相手によく闘った。時折、強い右ストレートを打ち込んで、ラスベガスからやって来たマッカーターを脅かしもした。だが、内容を検討するなら、完敗なのである。それが、ボクシングの難しさであり、面白さでもある。

ライカは前に出た。マッカーターは左ジャブで突き放したり、ステップワークでかわしたり、巧妙に距離をとっていく。たぶん、ライカにはその意図を理解し切れていない。世界王者はライカが強引に攻め込むのを待って、カウンターアタックを狙っている。3Rには右パンチを浴びて、動きが滞ったライカに、マッカーターは猛然とラッシュをかける。4Rにライカの右がヒットしたものの、その後はうまくごまかされて追撃はできない。中盤から後半戦、ライカは懸命にパンチを振って出るのだが、ここまで世界戦4度を含む19戦を経験しているマッカーターに、上手にあしらわれてしまった。

この日出会った国際式関係者の何人かに印象を聞いた。意見はほぼ私と同じ。ただ、一致して認めていたのは、ライカの能力の高さ。この先何が必要なのか、世界を照準に彼女は考え始める季節にある。（宮崎）

SRS·DX Editor's Talk
編集部トーク 裏事情

新日本惨敗！ テレビ視聴率戦争の結果

A ゴールデンウィーク中は、格闘技イベントが目白押しだったけど、大きな大会でも小さな大会でもそれなりのインパクトがあったなぁ。この数週間は格闘技の大きなイベントはなかったけど、確実に動いてるんだって感じはしたね。

B うん。たとえばミルコVSシウバ戦なんて、結果如何でその後の動きが大きく変わったからな。確実に動いてはいるんだけど、次の一手が見えにくくなっている感じがするよ、俺は。それは、新日本のドーム大会にしても、K—1のミドル級GPだって同じこと。つまり、どれも大きな勝負の結果が出てこなかったところに原因があるんじゃない？

A それは言える。蝶野VS三沢にしても、ミルコVSシウバにしても最初から引き分けるんじゃないかという要素があった。ドラマを作るには、中途半端な結末よりも、大きな勝ち、大きな負けがあってこそ「次はどうなるんだろう」って思うからね。魔裟斗と小比類巻の結果についても、それは感じるんだよなぁ。むしろ、凄くインディ的だったけど、プロ柔術の中井祐樹の惨敗のほうが、次につなげるドラマは作りやすいよ。

B もう一つ、視聴率戦争も注目されていたんじゃないの？

C まず一番良かったのが、日テレの4・21K—1ジャパン広島大会で、これは時間帯も良く、日曜の午後10時30分からの1時間半番組で17・3％をマーク。武蔵VSシュルトは20％を超える反響でした。で、逆に惨敗を喫したのが、新日本プロレスの東京ドーム大会で、金曜の午後7時からのゴールデンタイム2時間特番で、なんと7・1％。同時刻には日テレでサッカーの国際戦があって、19・7％という数字を出しているんですけど、今回ばかりは小川直也の神通力も通じなかったですね。逆にやっぱり凄かったのが、ゴールデンウィークの真っ只中の5月5日の夕方4時からフジテレビで放送された『プライド20』ですよ。天気も良かったんで、あの時間帯は若者がほとんど家にいないと思われたんですけど、それでも新日本のゴールデンタイムに勝って7・8％でしたからね。ミルコVSシウバ戦も、菊田VSアレク戦も10％以上の2ケタをしっかりキープしていました。

A 『プライド』はスカパー！のPPVで放送されているから仕方がないんだけど、ゴールデンタイムに放送したら、凄い数字が出るんじゃないの？

B TBSのK—1ミドル級の13・2％という数字も大健闘じゃないの？ 同時刻には日テレで首位攻防で一番盛り上がっている巨人VS阪神戦があったし、フジテレビの「めちゃイケ」なんかも強いからね。TBS的には満足している数字だということらしいよ。

A ということは、悪かったのは新日本のドーム大会だけってこと？ これはプロレスだからなのか、それとも何か原因があるのか？

B いや、格闘技のほうが、今はプロレスよりも視聴率が取れるという傾向はあるかもしれないけど、プロモーションの仕方にも差があるんじゃないかな。今回の新日本ドーム大会は猪木と蝶野で「まかせた！」という番宣をやってたんだけど、K—1ジャパンや『プライド』、K—1ミドル級はそれぞれレギュラー番組を持ってるからね。週1回の30分番組だけど、その効果は大きいと思うよ。現にK—1ミドル級は武道館を実券で満員にしたけど、明らかに客層が違ってたからね。あれは、TBSが作り出した、新しい客層だなと思ったもん。

C K—1や『プライド』なんかは、スポーツ・ニュースでも連日取り上げられていたのも大きいんじゃないですか？ 日テレ、TBS、フジは、ありとあらゆるスポーツ番組でイベントを取り扱ってもらっていましたからね。

B 要はテレビそのものが他のメディアにまったく不可能なプロモーションを行うメディアだからね。WWFなんかも、そこに気が付いてアングル番組を作っているから、プロレスでもブラウン管スポーツになっているんだよ。■

▲意外にも、最近の視聴率で一番高かったのが日テレのK-1ジャパン。武蔵の知名度はプロレスラーより上？

◎ゴールデンウィーク中、TBSの『筋肉番付』やK—1ミドル級GPを制作するスタッフが手掛けた『筋肉ミュージカル』を見に行った。『筋肉ミュージカル』には歌はなく、肉体のパフォーマンスと肉体を叩く音だけでミュージカルに仕立てる斬新なアイディアで約10日間の公演が行われていたが、プロモーションもうまかったのか、連日大盛況の様子だった。私がそれを見に行く気になったのは、ある人が、「これからのプロレスのヒントになるかもしれない」と言ってたからだ。たしかに見ると、凄いものを見たという驚きもあり、よく練習しているなぁという感動があり、笑いも含まれており、魅せるという要素が想像以上に詰まっていた。また、観客参加型のプログラムも入っており、完成度は非常に高かった。去年、ラスベガスで「O（オー）」というショーを見たんだが、それはまさに格闘技顔負けの命懸けのエンターテインメントだった。それに比べると『筋肉ミュージカル』は純日本的な感動だったのだが、結構海外でもウケるのではないだろうか。『筋肉ミュージカル』はゴールデンウィーク期間中に行われていた『プライド20』や新日本ドーム大会、そしてWWFなんかとも見比べることができた。問題は表現を作り出しているのは誰なのかということだ。『筋肉ミュージカル』やWWFのようなエンターテインメントには演出のプロがいる。新日本の場合は蝶野とか、三沢のやる側が表現の主体者になっていた。そして、ミルコVSシウバ戦はルールが闘いを生み出しているような試合だった。その表現の主体者がどこかで、全ての違いは表れるのだ。（谷川）

SRS·DX

次号の発売日は6月6日(木)です。

発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之　編集長：谷川貞治

DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su·plex、溝口真穂
モヒルイマキ、小林善夫、2in1、ナール企画

TK、1年半ぶりのUFC復帰戦でTKO敗

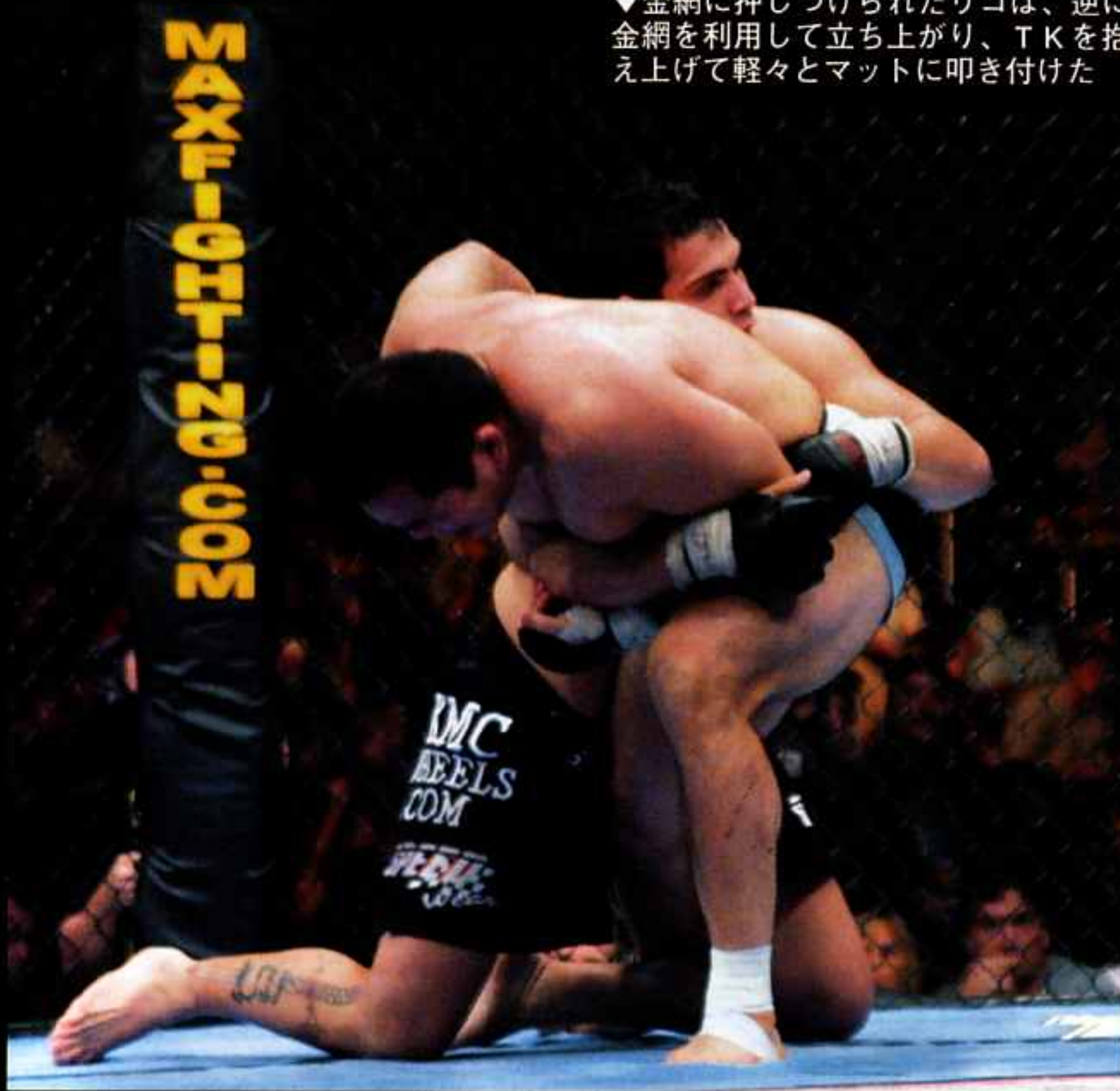
“チャンピオン（闘士）”である自分をイメージせよ！

～髙阪に足りない“あと一厘”の資格～

1年半ぶりにUFCに上がったTKだったが、結果はレフェリーストップのTKO負け。苦い復帰戦となった

取材＆撮影◎矢作祐輔

▼金網に押しつけられたリコは、逆に金網を利用して立ち上がり、TKを抱え上げて軽々とマットに叩き付けた

▼試合で先手を取ったのはTKだった。リコをタックルでテイクダウンし、金網に押しつけてエグイ攻めを見せた

1年半ぶりのオクタゴンでTKを待っていたのは 高田道場にいたリコ・ロドリゲスだ!

▲13キロの体重差を利用して抑え込んでくるリコを、TKシザースでピンチを切り抜ける

髙阪の試合はいつも面白い。これでもかと言わんばかりに、ひねった技術がてんこ盛りになっていて〝技のサーカス〟と言っても過言ではない。〝栴檀は藍より出でて藍より青し〟というが、格闘技術をエンターテインメントに高めたリングスのイズムを最も色濃く受け継いだのは、実は彼なのかもしれない。しかし、今回は「それだけでいいのか?」という疑問が残ったのも事実だ。理詰めで「巧み」ではあるのだが、リコ・ロドリゲスの強引な力技を跳ね返すだけの「強さ」はどこにも感じることができなかった。

ヘビー級王座への挑戦権がかかった大一番に、いつも髙阪は勝てない。99年のバス・ルッテン戦、ペドロ・ヒーゾ戦と、これまで2回、髙阪は同じチャンスを棒に振っている。いずれも王座挑戦の一歩手前での挫折だった。はっきり言って、これは偶然ではない。明らかにチャンピオンになるために足りないものがあるのだ。そして、その足りない何かが、王座への道を塞いでいる気がする。

さて、この取材の帰りの飛行機の中で「アリ」を見た。例のモハメド・アリの伝記映画だ。その中でアリはこんなセリフを口にする。「俺は人々の闘士（チャンピオン）だ。でも、アンタたちの望むとおりではなく、俺流のチャンピオンになる」と。CHAMPIONという単語は、単に〝王者〟というだけではなく、〝同じ価値観をもった集団を代表して闘う戦士〟という意味を秘めている。僕がこの試合で感じた髙阪への違和感はおそらくこの一言に集約されている

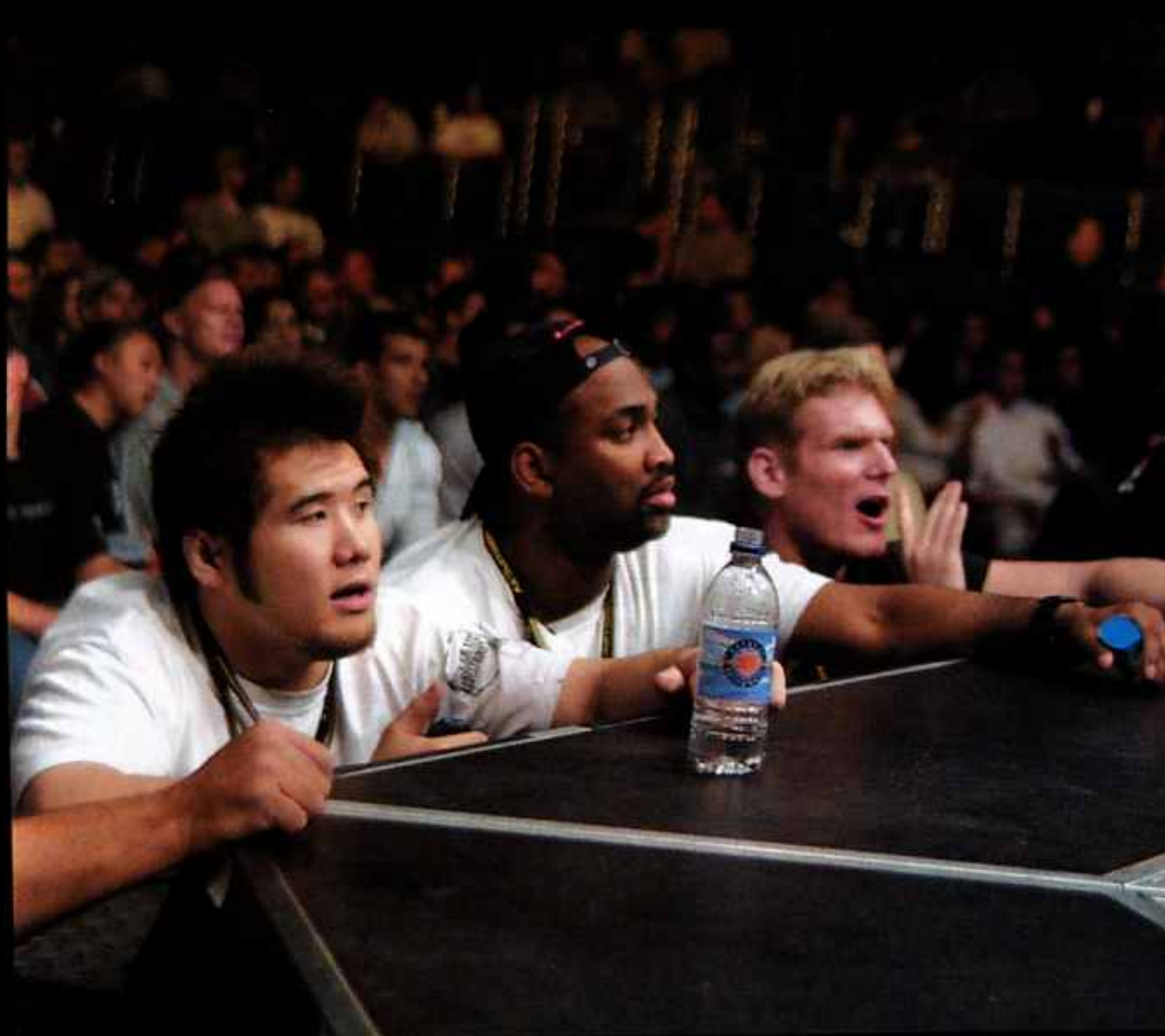
UFC37
—High Impact—

5.10★アメリカ・ルイジアナ州・ボザーシティー・センチュリーセンター

リコのコメント

「ＴＫは非常にテクニカルなので、ＴＫシザースなどを警戒して慎重に闘わなければならなかった。ジョシュは『プライド』に行くのだろうから、７月はクートゥアと闘うよ。私はフリーだから、ジョシュとはＵＦＣのベルトを取ってから、『プライド』で闘えばいいと思っている」

▼2Rに入ると3度目のマウントを奪ったリコは、TKシザースを封じて、ヒジとパンチをTKの切れやすい眉に狙い打ちしていく

TK、3度目の正直ならずまたもやタイトルマッチに手が届かなかった……

▲ＴＫのセコンドにはリングスの後輩・横井宏考、一緒に練習してきたモーリス・スミス、ＵＦＣヘビー級王者のジョシュ・バーネットが付いていた

▲大量に眉から出血をしたTKを見たレフェリーはたまらずに試合をストップ。王座挑戦者決定戦でTKが敗れたのは、今回で3度目となってしまった

★第7試合（ヘビー級5分3R）
○リコ・ロドリゲス（2R3分25秒、TKO勝ち）髙阪剛●
<アメリカ/チーム・パニッシュメント> <日本/チーム・アライアンス>
※マウントパンチ連打

気がする。

チャンピオンになるということは、すなわち世界の頂点に立つ、たった一人になるということだ。彼の巻くベルトは、彼を尊敬の目で見上げるファンの憧れと、頂点を目指す全ての競技者の可能性の全てを総取りした象徴である。チャンピオンは、表裏一体となった羨望と欲望の全てを引き受けなければならない。

黒人差別と政治活動の間に挟まれて、モハメド・アリの人生は激しい毀誉褒貶に晒された。その間も、彼は常に現代アメリカに生きる黒人としての信条を語り、その信念を貫くために拳を振るい続けた。勝つことで、自らの思いを貫き通す必要があったからだ。しかし、高阪にそれだけの強い信念やチャンピオンという存在への欲望があっただろうか？ 抽象的に過ぎるかもしれないが、運命の女神はそれを持たない者が世界の頂点に立つことを許さないと思うのだ。

この試合で高阪は執拗に抑え込みに来るリコ・ロドリゲスのポジションをTKシザースで切り返し続けた。技術としてはこの上なく見事である。しかし、それはあくまで危機を脱するカウンターの技術でしかない。頂点に立つために、リコの追撃をねじ伏せるために、高阪に必要だった攻撃のための武器を、僕は最後まで見ることができなかった。

もし、高阪に4度目の挑戦が許されるのならば、自分が何を成し、何を代表して王座を目指すのか。アリの言う〝俺流〟のイメージを固めることから始める必要があるように思えてならない。（矢作祐輔）

UFC37
—High Impact—

5.10★アメリカ・ルイジアナ州・ボザーシティー・センチュリーセンター

桜庭VSコナン戦以来の珍事発生！ ブスタマンチ、1試合2タップ奪取の快挙!?

★第8試合/UFCミドル級タイトルマッチ（5分5R）
○ムリーロ・ブスタマンチ（3R1分33秒、フロントチョーク）マット・リンドランド●
＜ブラジル/ブラジリアントップチーム＞　＜アメリカ/チーム・クエスト＞
※王者・ブスタマンチが防衛に成功

▲97年のUFC－Jで、桜庭が再試合をして以来のUFC史上に残る珍事と言えるブスタマンチの1試合2タップ奪取。せっかく極めた腕十字をブレイクさせられたブスタマンチは必死に抗議した

▶再開した試合で、なんとか一本勝ちを収めることができたブスタマンチ。苦労して守ったベルトだけに、喜びもひとしおだろう

▶これが問題のブスタマンチの腕十字。場内で再生された映像では、リンドランドのタップが確認され、会場中にブーイングが鳴り響いたという

ポルトガル語で「oh! my god」をどう言うのかは知らないが、その瞬間のブスタマンチの顔にはそんな表情が浮かんでいた。苦労して取った腕十字をレフェリーが無効にするという、不条理な事件が起きたからだ。ここまでの彼の格闘技人生はまさに不幸との闘いの連続だった。VTデビュー戦『M.A.R.S.』でトム・エリクソンと40分の死闘をドローで切り上げられたのを皮切りに、団体も消滅。続くペンタゴンコンバット大会では、柔術VSルタの暴動が勃発。UFCでも、チャック・リデルに不可解な判定負けでNHB戦初の黒星を記録するなど、これでもかという踏み付けエピソードが続く。ミドル級王座戴冠はそんな人生に訪れた初の晴れ間だった。幾多の苦難を乗り越えた35歳のベテランは、それでも3Rギロチンチョークで1試合2度目のタップを奪い、ベルトを守りとおした。「私はここが好きだ、いつ死んでも構わない」と、叫んだのも無理はないだろう。（矢作）

気性の激しい南部ルイジアナ州での開催にバイオレンスな決着が続出！

▶スロエフと共にロシアから参戦したアンドレイ・シモノフ（レッド・デビル・スポーツ・クラブ）も、ヘビー級王者ジョシュ・バーネットと同じAMC所属のアイバン・サラベリーに顔面パンチをサイドポジションから連打され負けてしまった

その他の試合の記録

★第6試合（ライト級5分3R）
○B・J・ペン（2R3分25秒、TKO勝ち）ポール・クレイトン●
＜アメリカ/ノバ・ウニオン＞　＜アメリカ/ヘンゾ・グレイシー・ファイト・チーム＞
※マウントパンチ連打

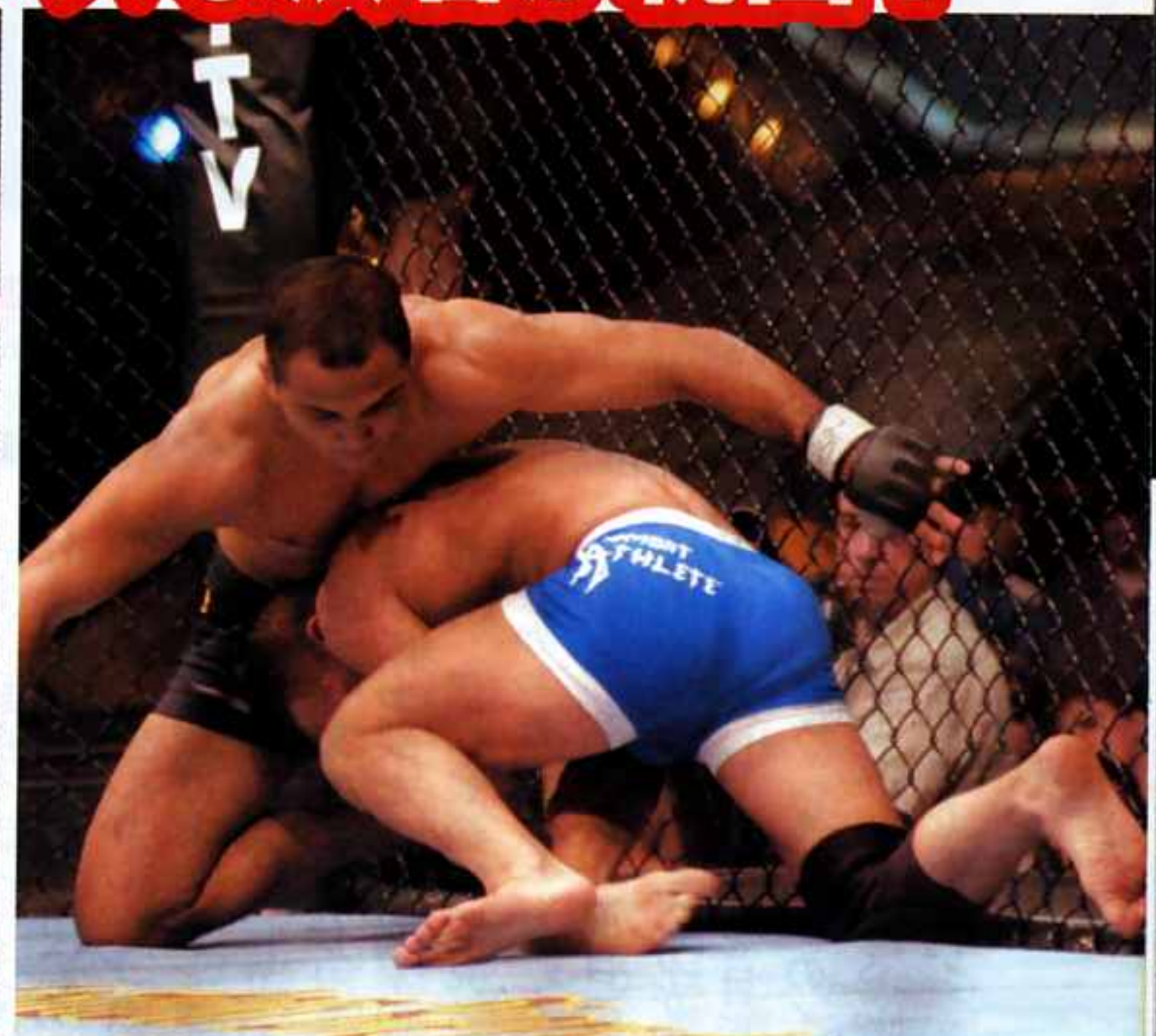
★第5試合（ミドル級5分3R）
○フィル・バローニ（1R2分55秒、TKO勝ち）アマール・スロエフ●
＜アメリカ/ヘンゾ・グレイシー・ファイト・チーム＞　＜ロシア/レッド・デビル・スポーツ・クラブ＞
※マウントパンチ連打

★第4試合（ライト級5分3R）
○宇野薫（3R判定3－0）イーブス・エドワース●
＜日本/和術慧舟會＞＜アメリカ/サード・コラム・ファイト・チーム＞
※29－28、30－29、29－28

★第3試合（ミドル級5分3R）
○アイバン・サラベリー（3R2分27秒、TKO勝ち）アンドレイ・シモノフ●
＜アメリカ/AMC＞　＜ロシア/レッド・デビル・スポーツ・クラブ＞
※サイドポジションからの顔面パンチ連打

★第2試合（ウェルター級5分3R）
○ベンジー・ラダッチ（1R27秒、TKO勝ち）スティーブ・バーガー●
＜アメリカ/ビクトリー・アスレチックス＞　＜アメリカ＞
※グラウンド状態での顔面パンチ連打

★第1試合（ウェルター級5分3R）
○ロビー・ローラー（3R判定3－0）アーロン・ライリー●
＜アメリカ/パット・ミレティッチ・ファイティング・システム＞＜アメリカ/AMC＞
※マウントパンチ連打

▲はるばる、ロシアからアメリカにやってきたレッド・デビル・スポーツ・クラブのアマール・スロエフは、ヘンゾ・グレイシー・ファイト・チームのフィル・バローニにマウントパンチでレフェリーストップ負け。ロシアの意地をアメリカで見せてほしかったが……

▲昨年、宇野薫を秒殺したことで日本でも有名になったB・J・ペン（ノバ・ウニオン）が、ポール・クレイトン（ヘンゾ・グレイシー・ファイトチーム）と対戦。マウントパンチの連打で、TKO勝ちをもぎ取った

日本初！プロ柔術大会

GI-UM

5・2★ディファ有明

日本の第一人者 中井が完敗！

これぞ、ブラジリアン柔術！

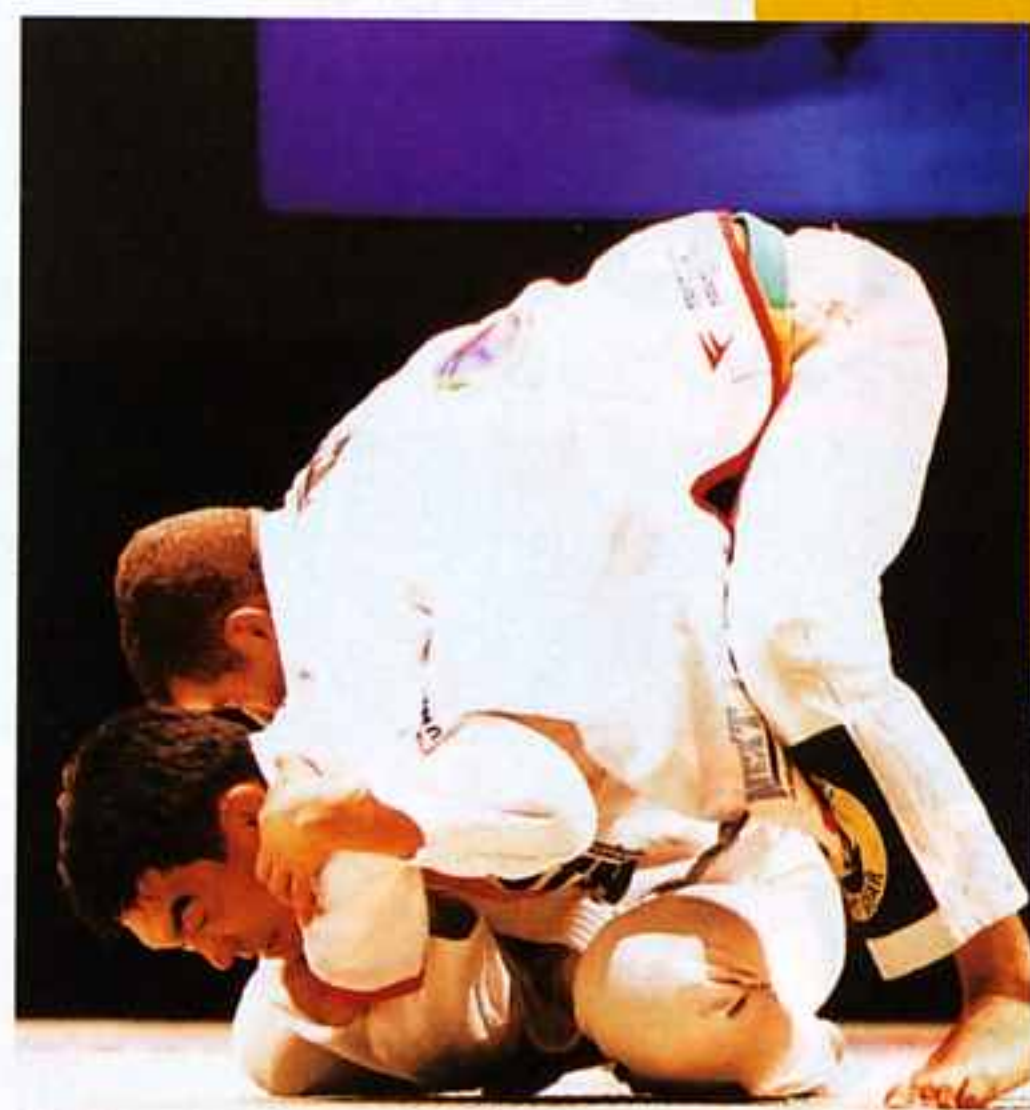
観客のド肝を抜いた本場のテクニック

▶右からレオナルド・ヴィエイラ、マルコス・バルボーザ、そして左端がヒカルド・ヴィエイラ。世界トップの実力を存分に見せつけた

ブラジリアン柔術協会の日本会長を務め、選手としても日本随一の実力者・中井だが、ブラジル柔術史で十指に入ると言われる強豪レオナルド・ヴィエイラ（通称レオジーニョ）には、次々にポイントを重ねられ、終了間際には襟絞めを完全に極められタップ。"本場"ブラジルの実力を自らの身をもって観客に見せる結果となった

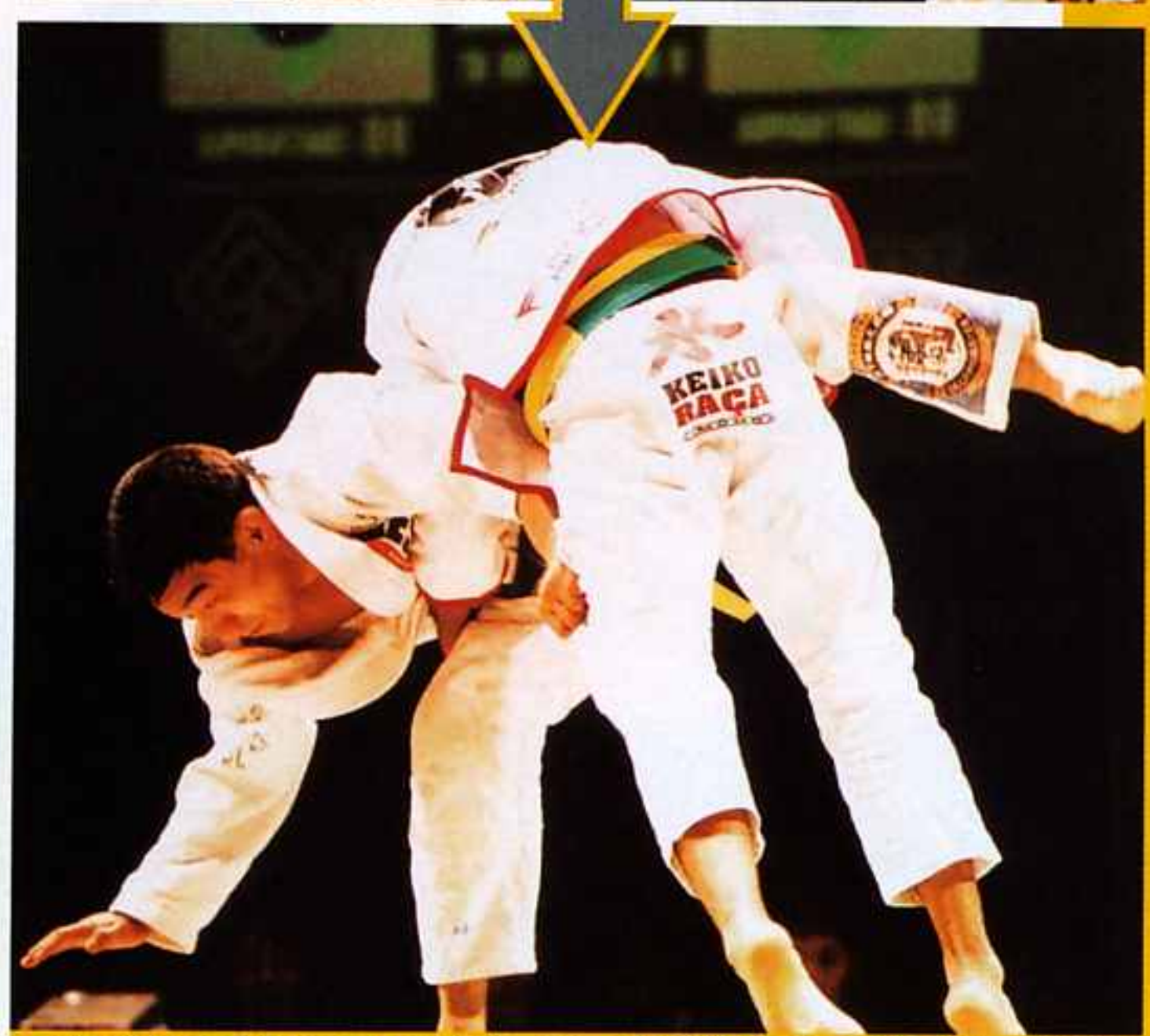
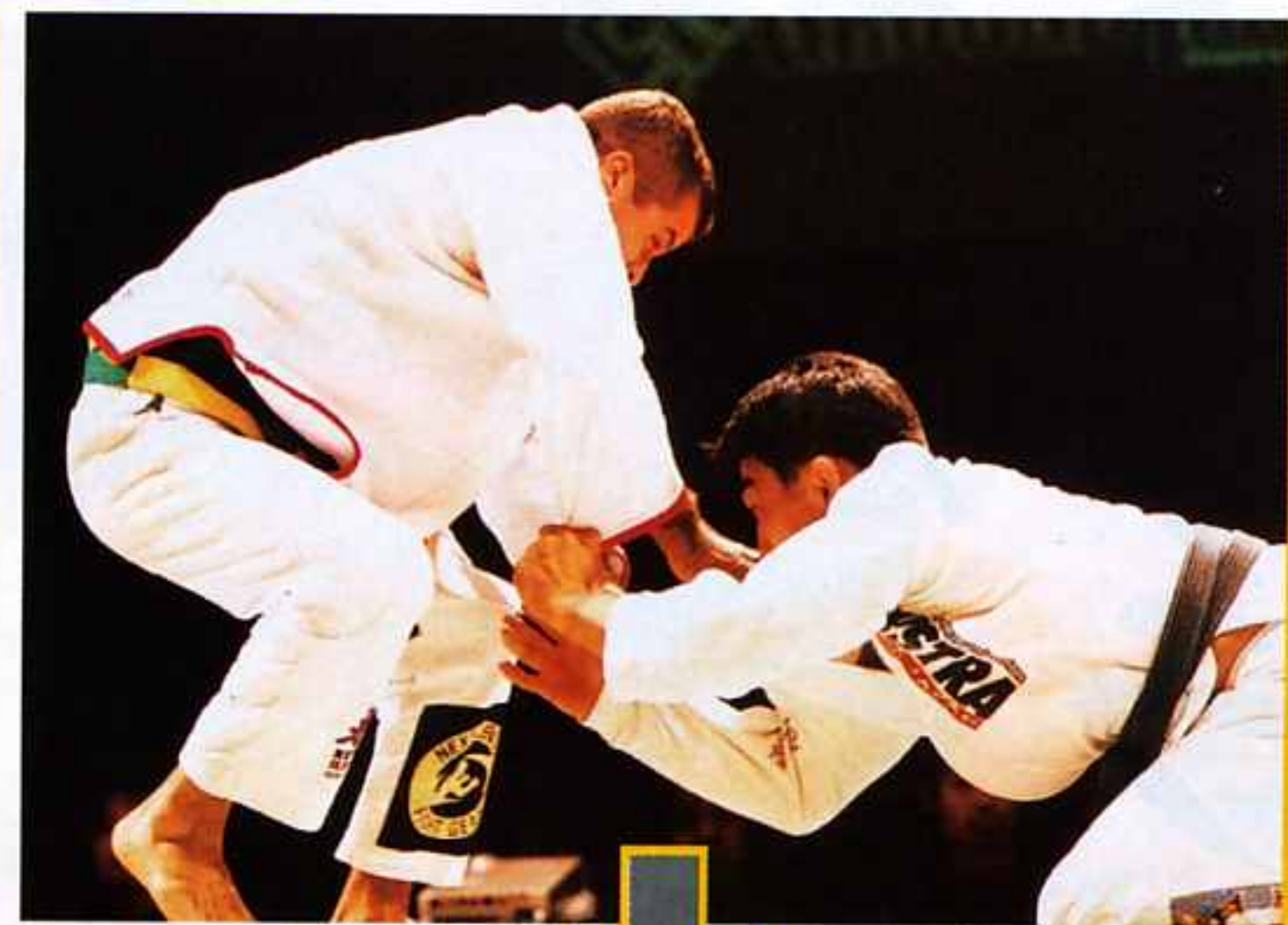
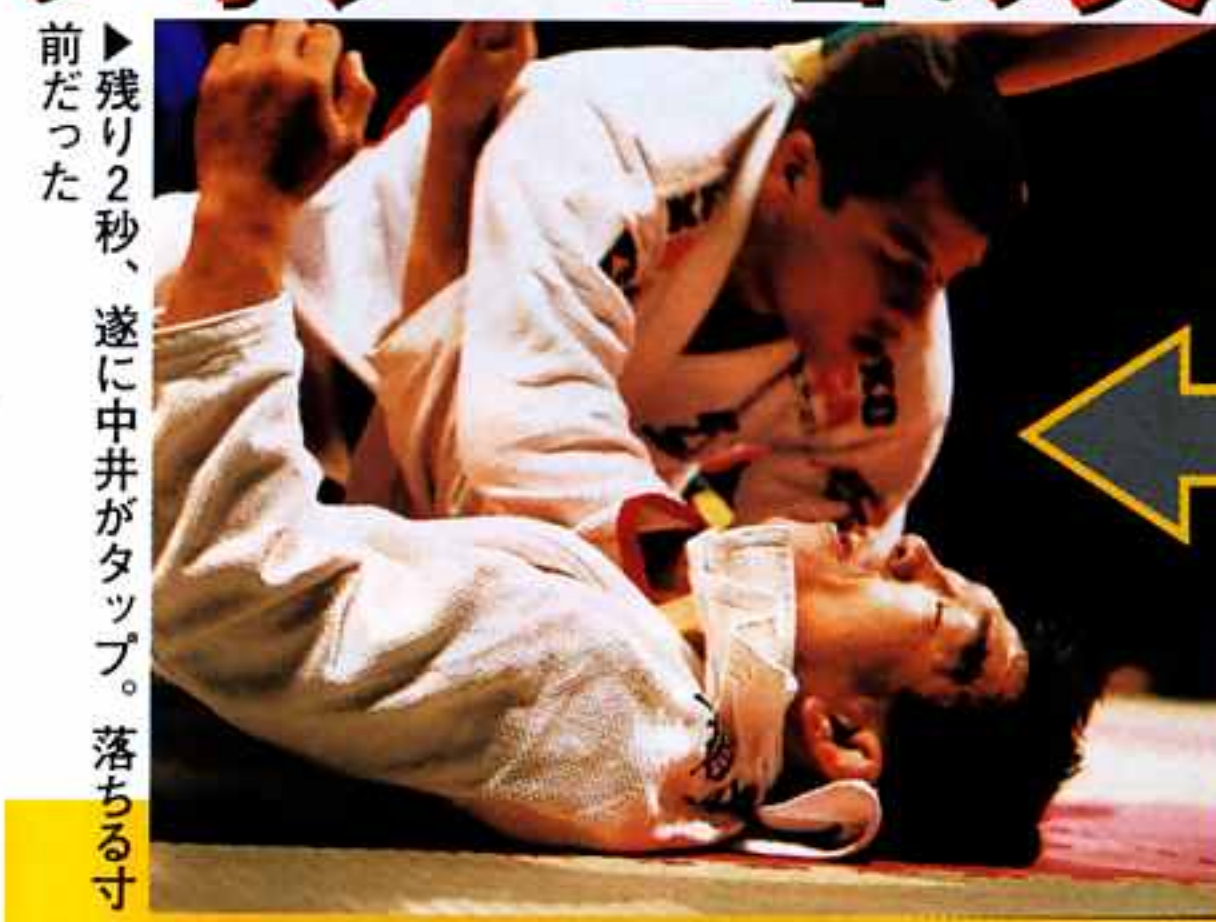
日本初のプロ柔術大会、内容的には大成功！

行の数々、マジで凄い!

◀写真ではちょっと分かりづらいかもしれないが、中盤に見せたこのレオジーニョの技術には場内大歓声。中井がガードポジションからカメになろうとしたところ、レオジーニョはバックからヘッドスプリングで中井の右側に一度右足を付き①、勢いをつけて中井の頭のほうに回転し②、ひっくり返して③そのままバックをキープ。パスガードの3点とバックの4点を連取した

▲柔道のように組み合っての立ち技の攻防から始まった中井VSレオジーニョ戦。中井は開始早々から果敢に一本背負いを仕掛けていった。しかし、この技以降、中井は一方的に攻め込まれることに

◀残り時間わずかとなり、ポイント13－0と圧倒的優勢のレオジーニョだったが、最後の最後まで一本狙い。中井が絞めを耐えるとみるや強引に体をひっくり返してさらに絞め上げタップを奪いにいった

中井が防戦一方!
そしてタップ!
これが世界の頂点
レオジーニョの実力だっ

▶残り2秒、遂に中井がタップ。落ちる寸前だった

▲寝技に定評のあるレオだが、立っても強いところを見せた。中井の襟を掴んで前後にあおって体勢を崩すや足を取ってテイクダウンに成功し2ポイントを先取

★第10試合/メインイベント アダルト黒帯ペナ級（10分一本勝負）
○レオナルド・ヴィエイラ（9分58秒、襟絞め）中井祐樹●
※ポイント13-0、アドバンテージ5-1

会場のディファ有明をあとにする観客が一様に満足顔をしていた。「今日はいいものを見せてもらった」そう顔に書いてある。

中井祐樹や吉岡大ら日本期待の選手が負けたとか、そんなことよりも、本物のテクニックを目の前で見られた満足感や興奮のほうが、はるかに大きかったのだろう。

5月2日、日本で初めてのプロ柔術大会『GROUND IMPACT01～GI um』が、ディファ有明で開催された。主催はIFプロジェクト。普段は柔術のトップ選手を呼んでのセミナーやアマチュア大会を行ったりしている組織だ。

そのIFプロジェクトの代表・浜島邦明氏が「柔術の普及と世界でも活躍している日本の柔術界のカリスマ・中井祐樹さんの、本気の試合を日本で見たい」ということで、今回日本で初めてのプロ柔術リーグの開催となったのだ。浜島氏自身、柔術の熱狂的な愛好家であり、今回の大会は自らの結婚資金を前倒しにしてなんとか開催にこぎつけたというから、その熱意には頭が下がる。しかし、熱意だけで成功するほど、プロ興行は甘いものではない。逆に、ビジネス的な側面から考えたら、手作り感覚この上ないと思われるこの大会は、プロ興行としてどうなの？と疑問を投げかけると同時に、本当に大丈夫なんだろうかと、他人ごとながら心配になったほどだ。

本誌69号のインタビューで、中井祐樹に話を聞いた際、「ブラジリアン柔術は敷居が低い競技なので、日本での競技人口はいま爆発的に増加中だ」と言っていた。そして、

日本初！プロ柔術大会

GI-UM

5・2★ディファ有明

観客を唸らせた技術の

ブラジル勢の先陣を切って登場したバルボーザ。朝倉の足取りをつぶし、そつなく送り襟絞め、横四方のアドバンテージを奪う

▲今年3月のパンアメリカン選手権では、ヒカルドにアドバンテージ3つを取られて敗れた吉岡。今回はそのリベンジが期待されたが、10－0という思わぬ大差を付けられてしまった

◀ブラジルをイメージさせる黄色の道衣に緑の頭という奇抜なスタイルで登場したヒカルド・ヴィエイラ。手、足、頭、自らの身体のいろんなパーツを器用に使う多彩な技術に観客の目は釘付けになった

右足で吉岡の左腕を挟んで十字に極めるヒカルド。世界王者のプライドか、ヒカルドは執拗なまでに一本を狙っていった

ヒカルド、バルボーザにも日本のトップ柔術家、歯が立たず

▲◀バルボーザがバックから送り襟絞めの体勢に入ってしばらくすると、朝倉の体から力が抜けた。落ちてしまったのだ

バルボーザも99年のブラジル選手権で優勝を果たしているトップ黒帯選手。ホイラー・グレイシーにも勝利しているその実力はやはり凄かった

▶手元が見えないのが残念だが、ヒカルドの得意技の一つ手首固めが完全に極まっており、普通ならばタップしていてもおかしくない状態。吉岡が耐え抜いたのには驚かされた

▲腕が極まらなければ、すぐさま絞め狙いに変更するヒカルドの攻めは変幻自在。日本屈指の実力者・吉岡も防御が精一杯だった

★第8試合/アダルト黒帯チャレンジ 69キロ契約（10分一本勝負）
○マルコス・バルボーザ（2分18秒、送り襟絞め）朝倉孝二●
※アドバンテージ 2-0

★第9試合/セミファイナル アダルト黒帯プルーマ級（10分一本勝負）
○ヒカルド・ヴィエイラ（判定勝ち）吉岡　大●
※ポイント 10-0、アドバンテージ 6-0

本場・ブラジルではプロの大会が時々行われ、7000人近い観客のほとんどは競技者だという話も聞いた。その方程式から考えた場合、競技者が急増中の日本において、プロ大会が行われるようになる可能性は非常に高く、今回の『GIum』は、日本におけるブラジリアン柔術の普及と、プロ柔術大会の今後を占う上で、非常に重要な役割を担っていたと言える。

今回の大会の目玉は、なんと言っても、中井祐樹とレオジーニョことレオナルド・ヴィエイラとの対戦。そして、レオナルドの弟で世界王者のヒカルド・ヴィエイラ、さらにホイラー・グレイシーを破ったことでも知られるマルコス・バルボーザら、いま現在、競技柔術の世界トップに君臨する選手たちの出場だ。日本に居ながらにして、こんなに凄い柔術家たちの試合が見られるなんてことは、今までは考えられない。まして、日本の誇る・中井祐樹との試合なんて言ったら、日本の柔術愛好家にとっては、まさに垂涎ものだ。

果たして、はるばるブラジルから来た3人の技術だが、これはもう筆舌に尽くしがたい。見ていない人は今すぐにでも、なんらかの手段でビデオを入手して見てほしい。本場、ブラジルで頂点に立つ柔術家のテクニックというものは、こんなにも凄く、こんなにも面白く、そして、こんなにも美しいものなのかと感心すること請け合いである。手や足はもちろん、頭や首、自分の道衣から相手の道衣まで実に器用に使い、驚くべき動きで相手を攻め込むのである。

とりわけヒカルド、レオナルド

日本初！プロ柔術大会

GI-UM

5・2★ディファ有明

ブラジルのレベルには近い将来、絶対に追い付ける

中井のコメント

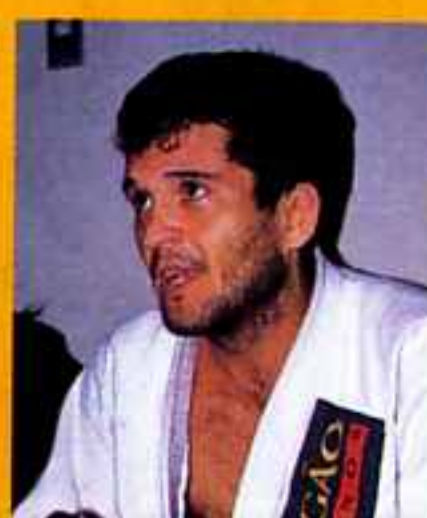
「自分のやりたいこと、その形を取らせてもらえませんでしたね。ワンテンポ、なんか読まれてしまって。自分のイメージどおりにいかなかったですね。僕には自分の形ってのがいっぱいあるんで、自分なりの攻める技につなぎたかったんですけど、あまりうまくいかなかった。ブラジルのトップ選手との力の差も確かにあるとは思うんですけど、自分のできること以上のパターンをもっともっと作っていかなきゃいけないと思います。やってる技に差があるわけじゃないし、使ってる技は同じなんですけど、そこでのせめぎ合う機会が作り出せてないというか。もちろん相手がやってくることは分かるし。自分の思いどおりにできる心技体が作れれば、闘えるとは思っています。結果は結果なんで、仕方ないです。真摯に受け止めて、次につなぎたいです。でも必ずイケルと思ってるんで。自分の中ではイケルと確信してるんで、頑張ります。今日はしょうがない。精一杯やったんですけど。（初めてブラジルに行った時と、差はどのくらい縮まってますか？）難しいですよね。凄い縮まったとは思うんですよ。紫とか青帯でウロウロしていた頃に比べたら。縮まってるとは思うんですけど、まだまだ。やんなきゃいけないことも多いですね。全体のレベルアップ。もっと世間的にも広めていかないといけないし。でもそれはできると思ってます。まだその過程なんで、こういった痛い目にも遭うと思うし、その度に考えて、今までやってなかったことと か、まだできることはいっぱいあるんで、ひとつ一つやっていきたいなと思います。（近い将来、あのレベルに追い付ける？）大丈夫です、それは。自分も含めて、みんな、あそこに行けると思ってやってるんで。ブラジルの表彰台に上がることを目指してやってるわけですから。できないと思ったらできませんし。できると思っていますんで、できます、絶対に。もちろん経験とかも積まなきゃいけないと思うんですけど、これもいい経験だったと思います。（プロの大会ということで、気持ちの上で変わったことは？）いや、僕には特に。競技をやる人間には変わりはありません。ただ勝つならより良い結果で勝ちたいとは思いましたけど。調整もしやすくて、非常に良いコンディションで臨めたと思いますし。でも、やりがいのある目標だと思います。今年のムンジアル（世界選手権）で良い結果を残せるように、またトレーニングしたいと思ってます」

速く動いて常に極めを狙うこれが本物の柔術だよ

レオジーニョのコメント

「ナカイはとてもいい選手だ。海外でも名のある選手だし。日本にはいい選手が多いし、年ごとに成長していってるから、これからもっともっと良くなるよ。（ダイナミックな試合だったが、それを心掛けた？）自分は柔術を7歳から始めて、柔術は体の一部になっている。今日見せたのが本物の柔術だ。速く動いて、常に極めにいこうとするのが本物の柔術だと思っている。ルールに規制されて止まってしまう試合も多いけど、私は常に極めを狙う。それが私の柔術だ。日本のレベルを上げるためには、まず、たくさんの柔術の大会を開催するべきだろう。今はVTや修斗が盛んだけど、競技として柔術をたくさんやっていけば必ずレベルは上がるよ。もともと柔術は日本のものなんだし。あと、柔術は血を見ない、きれいなスポーツだから、男女、年齢関係なしにできる。自分自身が子供の頃からやってきて、教わったのは柔術は凶暴なものではないということ。遊んでいるような感じでやれるんだ。子供に教える時にも、遊びの感覚を大事にしているよ。試合も、闘いというより遊びのような気持ちでやってるよ。ブラジルでは、ホームレスの子供にも教えているけど、柔術は誰もができるスポーツだよ。お金がなくてもいいし、サッカーのように世界的なスポーツになれると思う。私は本当に柔術を愛しているんだ」

ヒカルドのコメント

「試合前は不安があったけど、それを恐れず、10分間止まらずに攻めようと思っていたんだ。ヨシオカはとてもいい選手だったよ。ボクはブラジルで貧しい子供たちにも指導しているんだけど、その子供たちと同じ顔つきをしていて、ホントに素晴らしい選手だった。今回は十分に体重調整ができなくて一度計量で引っかかったけど、今日の試合には何の影響もなかったよ。今日は70～80％のデキ。もう少し余裕を持って来ていたら、良かったんだけどね。トーナメントでない、ワンマッチの試合は初めてだったけど、1試合だけだから10分間思い切りやることができたよ。ブラジリアン柔術は、サッカーのようにブラジルで発達した競技だから日本ではまだまだだと思うよ。黒帯の選手も数えるくらいだと思うし。でも、もうちょっと時間をかけて育てていけば、ブラジルに近付けるはずだよ」

バルボーザのコメント

「より良い試合を皆さんに見せられるように、いつもと同じ試合運びをしました。あとは、絞め、関節で一本を狙っていきました。アサクラ選手は素晴らしい選手だと思います。可能性に満ちた選手です。日本の柔術のレベルはだんだん良くなっていますし、時間をかければ、もっと良くなるでしょう。日本人の柔術家は、凄く努力をしてますから。ただ、時間はかかると思います」

修斗王者の大石は苦杯 植松、三島は僅差の勝利

▶修斗フェザー級王者の大石真丈は林秀徳（グレイシー・バッハ・シコク代表）と対戦。中盤、林がリバーサルで取った2ポイントを死守して判定勝ち。大石は下から極めを狙っていったが林に逃げ切られてしまった

▲◀ベースに柔道のテクニックもある植松直哉は、国内屈指の寝技師と言われる植野雄からアドバンテージを先取して優位に進め、終盤、焦りの見える植野からテイクダウンの2ポイントを奪って接戦を制した

◀修斗から参戦のもう一人・三島★ド根性ノ助は、テクニシャンの桑原幸一を抱え上げてグルグル回したり、トリッキーな闘いを見せながらも、開始直後に奪ったテイクダウンの2ポイントを守り切り判定勝利を収めた

兄弟の攻めと言ったら、10分間ノンストップ。どんな状態からでも一本を狙ってくるから、まさに一瞬たりとも油断できない。吉岡、中井の防御が優れていたからこそ、時間いっぱいの試合となり、その分、高度な技術の数々を見ることができたのだ。もし高度なディフェンス技術がなかったら、もっと簡単に仕留められていたのは間違いない。十字を狙っていたと思ったら、絞めに移行していたり、オモプラッタかと思ったら、足の間で関節を取っていたりと、ジッと見ていてもその攻めの速さについていけないくらい、変幻自在に仕掛けていくのだ。

関係者をも唸らせた素晴らしいテクニックの数々。それを身近で見られただけでも、このプロ柔術大会を見た価値は十分にある。

大会前、「修斗のチャンピオンの大石真丈や、三島★ド根性ノ助、植松直哉らが出るので、その選手たちを見に来るファンも多いだろうから、そういう人たちのことを考えた場合、ブラジル勢との3試合は逆にチャレンジだ」と中井は言っていた。たしかに第7試合までで、興味深く見られたのは修斗勢の出た3試合だった。しかし、最後の3試合を見てしまった後は、他の試合はすっかり記憶の片隅に飛んでいってしまった。それほど強烈な印象だったのだ。

プロ柔術大会をビジネスとしてやっていくには、まだまだ時間を要すると思われる。しかし、初めての試みとしては「大成功」と言っていいだろう。関係者を含め、大会を見た人たちの表情が、そう物語っていた。（林）

プロフェッショナル修斗
5・5★後楽園ホール

KID、流血TKO

ルミナ、マッハに続く修斗期待の新エース

一気にランクアップのはずが、無念のレフェリーストップ

タックルにヒザを合わせられ額をザックリと切られたKID。ダメージ自体はそれほどなかっただけに、レフェリーストップにはやり場のない無念さを露わにした

KIDの高速タックルにヒザがドンピシャ!

まるで「ミルコVS藤田」

▲開始のゴングとともに突進したKIDがいきなり飛びヒザにいくと、パーリングは落ち着いてボディにカウンターパンチ。KIDは大きく体勢を崩した

▲入場式ではメインイベンターとして「みんな盛り上げてくれれば、いい試合できると思うんで、よろしくお願いします」と笑顔であいさつをしたKID。表情には余裕がうかがえた

◀まるでKIDの高速タックルを待ち構えていたように、パーリングのヒザが額にヒット。「ガツーン」という乾いた音が場内に響き渡った

▲低く構えて攻撃のタイミングをうかがうKIDに対し、パーリングはジャブで牽制しながらカウンター狙い。緊迫感が場内を包む

★第7試合/メインイベント(5分3R)

ライト級3位		ライト級8位
○ステファン・パーリング	(1R0分30秒、TKO)	山本"KID"徳郁●
〈アメリカ/ジーザス・イズ・ロード〉		〈日本/PUREBRED大宮〉

※パーリングのヒザ蹴りによりKIDが額をカットし、レフェリーストップ

まさかの結末だった、KIDが負けるなんて……。

3月大会では、メインに抜擢されながら、相手選手の敵前逃亡とも思える来日拒否で試合がなくなってしまったKIDにとって、この日は待ちに待った試合だった。相手のステファン・パーリングはライト級3位。同級8位のKIDよりもランキング的にかなり上位に位置する実力者なのだから、負けることだって有り得る。というより、キャリアや実績から考えたらパーリングの勝利を予想するほうが普通なのかもしれない。

しかし、KID本人にとっても、ファンにとっても、パーリングは前回の憂さを晴らすための敵役。KIDの豪快な勝ちっぷりを見に集まった観客はKIDが負けるなんてことはこれっぽっちも考えていなかった。「きっと今回もスカッと一本、あるいはKOで勝ってくれるだろう。そしたら、チャンピオン、ノゲイラとの対戦だって見えてくるぞっ」と勝手に、期待に胸を膨らませていたのだ。

それも当然と言えば当然の話。KIDは、プロ修斗でのキャリアこそわずか3戦だが、今までの闘いぶり、勝ちっぷりを見れば、佐藤ルミナ、桜井〝マッハ〟速人に続く、新エースと言われるのも、プロデビューからわずか4戦目でメインを務める快挙も当たり前、それだけの期待を背負うにふさわしい実力とカリスマ性を、十分に持ち合わせているのだ。ある意味、いま修斗でもっとも客を呼べる選手と言っても過言ではないだろう。

修斗サイドからしても、KIDは、これから大きく飛躍してほし

KIDのコメント

「次、やったら絶対に勝てます。今すぐに（再戦を）やりたい。倍返ししてやります。テイクダウンした時に切れたのは分かったけど、そのままKOして勝てると思った。今はパーリングにやり返してやることしか考えられない。（どういう作戦だった？）作戦はいつも立てない。（次はパーリングと？）次やったら絶対に勝てる」

パーリングのコメント

「KID選手はとてもアグレッシブで、素晴らしい選手だった。彼の動きはよく見えていて、最初の飛びヒザには右のパンチを合わせ、タックルに来た時には一歩下がって右ヒザを入れたんだ。非常にうまくいったよ。チャンピオンのノゲイラとはぜひもう一度やりたい。次はきっとエキサイティングな試合になるだろうね」

豪快に抱え上げてテイクダウンしたものの

ヒザを入れられても、KIDは怯むことなく高々とパーリングを抱え上げてテイクダウン

無情にもレフェリーストップ！

KIDがいいポジションを取って場内が沸き返った瞬間、KIDの額から滴り落ちる血を確認したレフェリーが試合を中断。ドクターチェックの結果、試合がストップ

議員シューター秋本、秒殺でUFC出場を強烈アピール！

▲UFCの現王者ジェンス・パルバーとも好試合をしている実力者アルフィ・アルカレズに、開始わずか22秒、ヒールホールドで完勝した秋本は「足関節しか狙っていなかった。相手は実績のある選手なんで、これでUFCに出る資格はあるでしょう」とUFC参戦の意向を見せた

▲昨年より神奈川県津久井町の議員も務める秋本。試合後には愛娘の瑠薫ちゃんをリング上に上げ、自他共に認める親バカぶりを発揮した

「もう一度、オレとやってくれ！」

▲試合後、KIDはパーリングに再戦を申し込み、パーリングも「OK」の意思表示をしていた

▲無念さを押さえきれずに興奮していたKIDだが、兄であり師であるエンセン井上に抱きかかえられ、徐々に落ち着きを取り戻していった

◀初メインで、悔しい初黒星。控室に戻るKIDの目には涙があふれた

い、とびっきりの大器であり、不振が囁かれる修斗の起爆剤に他ならない。大事に育てたいという思いもあるだろう。しかし、同時に強い選手との闘いで結果を残さなければ、実績にはならないし、ファンの支持も得られない。それこそが勝負の世界なのだ。

そこで選ばれた今回の相手、パーリングは、今のKIDにとってかなりふさわしい相手だったことは間違いない。結果としてKIDが負けはしたが、勝利をもぎ取るだけの技術を持った選手であり、KIDは初めてプロの洗礼を受けたと言っていいだろう。勝負の怖さ、難しさを痛切に思い知らされたのではないだろうか。

そりゃあ負けないにこしたことはないが、絶対に負けないファイターなんているわけがない。おそらくKIDは、今回負けた気がしていないのではないかと思う。ボッコボコにやられての負けではない。逆に豪快にテイクダウンし、これからって時に、他人にストップされてしまったのだから納得いくわけがない。悔しいだろうなぁ。やりきれないだろうなぁ。でも競技である以上、負けは負けなのだ。

会場で見ていた観客にしてもそうだ。突如として試合が終わってしまったら、気持ちの昂ぶりはどうしたらいいんだ。文句の一つも言いたいところだが、仕方ない。

さて、KIDはこれからどう変わっていくのか。リベンジマッチはもちろん見たいが、かと言って発展途上のKIDが、パーリング一人にこだわる必要はない。今回の負けで、ますますKIDからは目が離せなくなった。（林）

どうなるパンクラス？こんなところで近藤が……

『プレミアム・チャレンジ』波乱のスタート 禅道会・百瀬善規が大金星！

マウントを取られるなど、終始押され気味の展開だった近藤。「調子は良かった」というが……

撮影◎中島ミノル

★プレミアムマッチ/スタンダードルール10分一本勝負
○百瀬善規（判定2-0）近藤有己●
〈禅道会〉　〈パンクラスism〉

▲判定は2－0。今大会の採点は『オーディエンスジャッジ』というシステムにより『週刊プレイボーイ』の記者やDEEPの佐伯代表など“専門職”ではない人が行った。ちなみに佐伯代表は百瀬勝利のジャッジ。「マズかったかなぁ。でもしょうがないもんなぁ……」

◎試合は『ガーディアン（すでに実績のある選手）』と『エクスプローラー（今後が期待される選手）』との間で行う。
◎一本、KOだけでなくスロー（投げ）、ホールド（極め技の形を30秒キープ）などポイント制も併用。全試合を通した『ガーディアン』と『エクスプローラー』の総合ポイントも争われる。
◎リングから伸びた花道は『プレミアムロード』と呼ばれ、勝者だけが凱旋する栄誉を得る。

……とまあ、今回から始まった『プレミアム・チャレンジ』は様々なアイディアが盛り込まれた大会だった。ただ、大会が盛り上がるかどうかは、あくまでリング上の内実、つまり魅力的な選手が魅力的な試合を繰り広げることにかかっているのだ。

その意味で、今大会はいくつかの魅力的なカードを含みつつも、そのコンセプトどおりのものだったとは言えないだろう。『ガーディアン』の中には「コイツはまだ『エクスプローラー』だろう」って選手もいたし、逆に「こりゃミスマッチじゃないか？」って試合もあった。

「格闘技の大会は企画書で作るもんじゃないんだよ」

正直、そんな言葉が頭に浮かんだりもしたわけである。

だが、メインのインパクトがそんなこんなを全て吹き飛ばした。なにせあの近藤有己が負けたのだ。

対戦相手の百瀬善規は、3月のパンクラス後楽園大会で美濃輪と引き分けた男。柔道ベースの組み技が持ち味で、つまり近藤とは正反対のタイプである。その百瀬の

PREMIUM CHALLENGE

5.6★
東京ベイNKホール

近藤よ、キミが闘う場所は本当にここで良かったのか？

百瀬のコメント

「信じられないです。名前負けしないように、それだけ思ってました。その時リングにいる相手と闘おうということだけで。研究はしてないです。“一発で倒れたりしないかな”と、自分が倒れるところだけ想像してたんですけど。これからも、大きな大会というより禅道会の小さな大会から大事にしていきたいです」

近藤のコメント

「予想外でしたね。試合の難しさを感じました。差し合いですね。敗因はそこにあると思います。ただ、今日は最後まで、その瞬間で一番いい動きをしようと試み続けたんで。そんなに落ち込んではいないですね。強くなるための一歩っていう感じで。ティトに負けた時とは違いますね。まだこんなもんなんで、しょうがないですよ」

▲百瀬はバックを取ると、後方へジャーマン気味に投げ捨てる。その後もバックをキープし、近藤をコントロール

▶打撃もうまく逃げられてしまう。百瀬は離れるにしろくっつくにしろ、近藤の間合いを慎重に潰していた

▲試合中盤に見せた近藤のアンクルホールドは惜しくも極まらず

▶差し合いから面白いように転がされてしまった近藤。いつもなら差し合いが不利でもリカバリーできるのだが。「敗因はそこ（差し合い）にあると思います」と近藤

◀美濃輪と引き分け、近藤に勝利と、プロデビュー以来破格の進撃を続ける百瀬。柔道ベースの地力はかなりのものだ

石井大輔、打撃戦から一転肩固めで初の一本勝ち

▶今大会、パンクラスからは石井大輔も登場。相手の富士大輔（U―FILE CAMP）が元プロボクサーということもあって打撃戦が期待された一戦だった。石井は序盤からテイクダウンし、マウント、ニーオンザベリーからパンチやヒジを打ち込んでいく

◀圧倒的な攻勢をかけた石井だったが「ヒジパットもあって腕がパンパンで」殴り勝ちから作戦変更。最後は3分28秒、肩固めでタップを奪った。「これがVTですから。僕が彼にそれを教えなきゃいけない」と試合後の石井

組み技に、近藤はしてやられた。「敗因は差し合いにあった」と本人も言うように、近藤は組まれた瞬間にペースを握られ、それを取り戻すことができないまま10分という試合時間を終えてしまったのだ。

「ガーディアンはやっつけられるためにいるようなもんですから。今日はそれが自分だったと」

と近藤は言う。近藤の試合ほど、事前の〝読み〟が通用しないものはないだろう。郷野に圧勝したと思ったら、今度はこれだ。以前から言っていることだけど、近藤は誰にでも負ける可能性があるし、誰にでも勝つ可能性がある。技術とか相性という要素を一瞬で無意味にしてしまうのだ。

ということは、だ。プロ2戦目の百瀬に負ける可能性は充分にあった。と同時に近藤は、ニンジャやアローナ、どうかするとシウバやノゲイラにも勝てる可能性があるのである。それでいて近藤は、今年に入ってから佐藤光芳、石川英司、キック・ボクサー、そして今回の百瀬と〝受けて立つ立場〟の試合しかしていない。

それにしても、パンクラスにとってこの負けは痛かったんじゃないだろうか。『プライド』で島田レフェリーと揉め、三島★ド根性ノ助の参戦問題を巡って修斗と揉めて、という今、せめてリングの上は威勢良くいきたいところだし。

近藤の敗北は今後のパンクラスの闘い模様にどんな影響があるのか。5・11大阪大会で尾崎社長に聞いてみた。

「特に影響はないですよ。ルールが違いますし」

あ、そうなんだ？

（橋本）

総合界の隠れ強豪・今成正和がメジャーデビュー
ヤノタクの次はコイツが来るぞ!

人呼んで"足関十段"!

今成のコメント

「打撃がちょっと怖かったんですけど、だいたい理想どおりというか。向こうが三角絞めとか結構耐えちゃったんで、ちょっと疲れましたね。三角が極まらなかったんで、しょうがねぇ、下でいいかなと。(今後の目標は?)立ち技をちゃんとやりたいですね。レスリングも打撃もまったくなんで、基礎からやっていこうと思ってます」

◀メジャーデビューとも言えるこの一戦を完璧な形で飾った今成。今後はパンクラス、DEEPなどでの活躍にも期待大である

▲あまりにも鮮烈だったフィニッシュシーン。猪木―アリ状態で顔面を蹴られるも、その足をすかさずキャッチしてヒールホールドへ。"足関十段"今成の魅力が爆発した試合だった

▶ヤノタク(矢野卓見)は元パワー・オブ・ドリームの所英男と対戦。コンテンダーズではヤノタクが勝っているが、今回は所に軍配が上がった。いつもどおりノラリクラリと攻めてくるヤノタクに、所も飛び蹴りを放ったりして必死でペースを奪われまいとする

▲中盤にヒザ十字、終了直前には三角絞めを見せたヤノタクだが、決め手にはならず。所のグラウンドパンチが評価されて判定3－0で所の勝利となった。「若いんで勢いよく打ってくるからタチ悪いですよ」と目を負傷してしまったヤノタクは苦笑い

▲マウントから岩間が起き上がろうとすると、その動きに合わせて流れるように三角絞め。常に極めを狙う姿勢は見ていて気持ちいい

▲試合開始すぐ、テイクダウンからサイド、そしてマウントポジションと岩間を攻め込む今成

★チャレンジマッチ/スタンダードルール10分一本勝負
○今成正和(3分24秒、ヒールホールド)岩間徳三郎●
〈チーム浪剣〉　〈禅道会〉
※今成に三角絞めで『ホールド』ポイント(4P)あり

実力はあるのに輝ける場を得ていない。そんな選手を発掘するというのが『プレミアム・チャレンジ』の意義だとしたら、まさに今成正和はドンピシャのファイターである。

今成は数々のアマチュア大会に出場しまくって総合マニアの間でその名を知られた男。その戦闘スタイルは足関節一本ヤリで、通称"足関十段"というから凄まじい。これはもう"鉄の爪"や"人間風車"の世界だ。

昨年のコンバットレスリング全日本大会では、同じく足関を得意にしている佐藤ルミナとも対戦(ルミナが足関合戦に付き合わずにサクッと勝利してしまったが)、かつて所属していたキングダムの道場では、その名も『足関コース』というクラスを持っていたこともある今成。通の間では「今成といえば足関、足関といえば今成」なのである。

そんな今成が、この『プレミアム・チャレンジ』でメジャーデビューのきっかけを掴み、そしてやっぱり足関で勝ったんだから素晴らしい。しかも、猪木―アリ状態で顔面を蹴られながらその足をキャッチしてヒールホールドを極めるという、実にスリリングかつテクニカルな勝ちっぷり。パンクラスの尾崎社長も「さっそくオファーかけますよ」と絶賛するほどだったのだ。

なんでもオールラウンドにできる選手が評価されやすい中、今成のような選手は見ていてすこぶる気持ちがいい。徹底的に一つの技を極めれば、それも"芸"へと昇華するのである。　(橋本)

PREMIUM CHALLENGE

5.6★
東京ベイNKホール

リングス勢の『プライド』参戦はあるのか?
前田日明に直撃!

構成◎中村カタブツ君

▲今大会に2選手を派遣、自らは会場内FM放送の解説を務めた前田日明

リングス・ネットワーク選手たちの去就についてさまざまな噂が流れる昨今、前田日明総帥が久々に公の場に姿を現した。しかも、場所はいわくつきのNKホール。いったい、総帥の口からどのような言葉が出てくるのか? 記者団は固唾を呑んで、その言葉を待ったのである。

――今大会の感想をお願いします。

前田 うん、そうだねぇ。まあ、舞台裏でボーッとしないようにね、それだけは気を付けて(笑)。●スポのカメラマンが来たらヤバイなって思って(笑)。

さすがだ。いきなり、あの事件のネタから入るのだから、やはり前田日明は面白い。とはいえ、ファンの関心は一部雑誌で報道されていたリングス・ロシア勢の『プライド』参戦について。

――今大会にはミーシャやヘイズマンが参戦しましたが、今後もこういった形で元リングスの選手が他のリングで活躍していく予定ですか。

前田 しばらくはね。

――話が来てるところはありますか。

前田 DEEPからはハンを貸してくれないかって話があってね、まだ決定してないけど。

――一部雑誌にロシア勢が『プライド』に出るという記事が出てましたが。

前田 あの記事は通訳がダメでね。内容が全然違うんですよ、はっきり言って。だから、その辺、誤解があるんで。まだ、どの部分も白紙なんですよ、正直言って。まあ、選手にとっていい契約であれば、やればいいと思うんですけど、この業界にはちょっと違うんじゃないかって感じの人が結構いるんで。今はまだ何もないですね。

ということで現時点では白紙の状態。リングス・ロシアのマネージャーも「今のところは他の団体からのオファーはないのですが、あったとしたら慎重に決めていきたい。それが利益のあるものだったらやりたいと思います」と語っており、他団体出場についてはもうしばらく時間がかかりそうな感じだ。ただ、ヘイズマンは「『プライド』に出場したい。アローナとやったら必ず勝てると思う」とはっきり明言しており、ファンの立場とすれば、『プライド』を含めた他団体参戦は胸が高鳴る思いとなるのは致し方ないところ。となれば気になるのは総帥の今後の動向だろう。

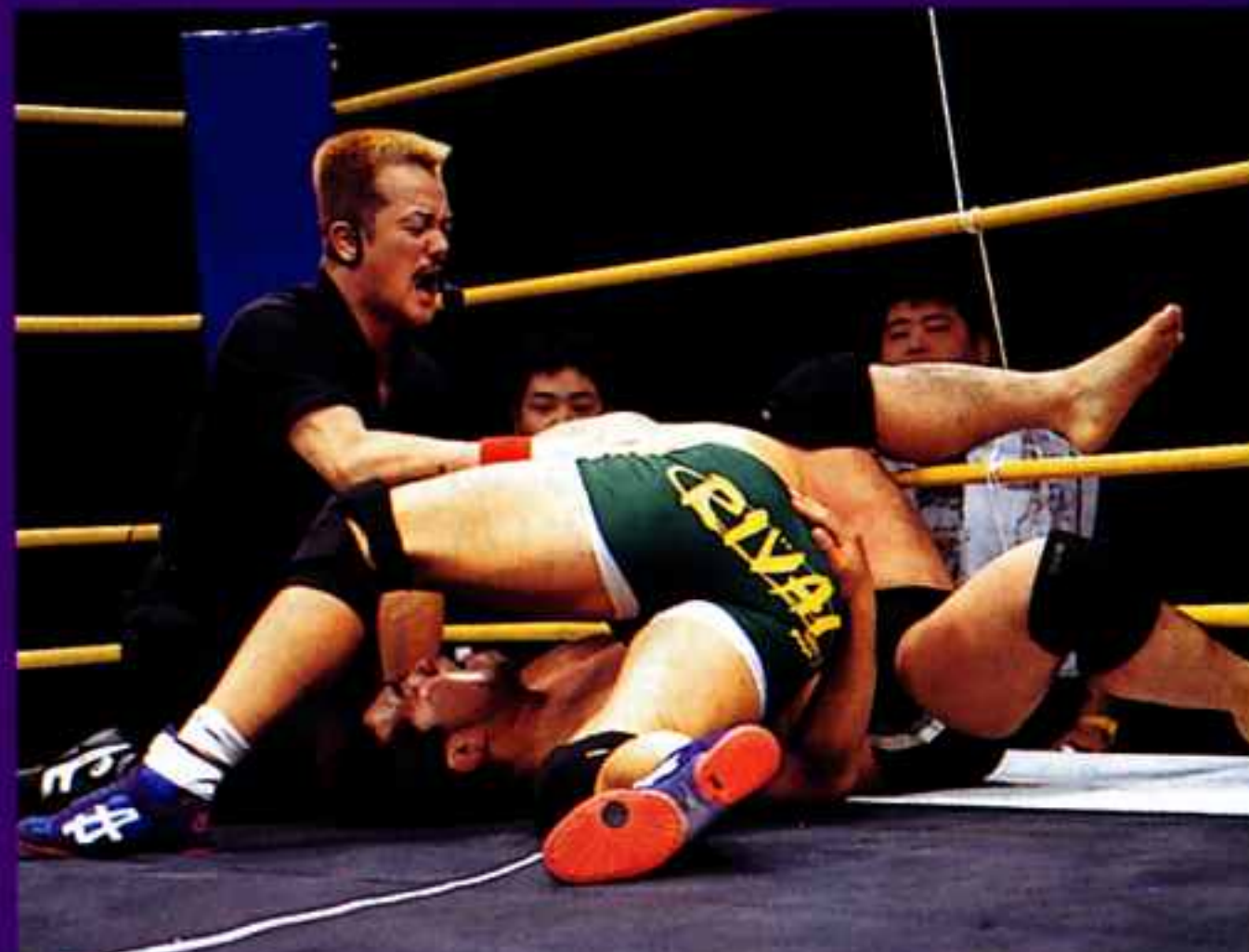
――前田さんは今後、どう動いていく予定ですか。

前田 それはボチボチやってますよ。年内は興行をやるとかっていうのは考えてないですよ。その前にしっかりした基盤作りをしたいんで、いろんな部分の。いずれ発表できるようになったらお知らせします。

今大会のプロデューサー趙顯夫氏と協力して「韓国で総合系を始めようと提案してるんだよね。選手の発掘も含めて。リングス・コリア? 名前はなんだっていいよ(笑)」という談話もあり、格闘技界の今後の方向性も含めてさまざまな道を模索している模様。今後の前田日明の動向に注目していきたいのである。■

ヒザのケガを押して出場のミーシャは辛勝!

▲来日前からヒザをケガしていたイリューヒン・ミーシャは藤井克久(スタンド)のローキックに悩まされ、なかなか懐に入っていけない。藤井の打撃にかなり苦しめられたのだが、組んでしまえばさすがはミーシャ。フロントチョークで一本勝ちを収めた(5分45秒)

『プライド』参戦を熱望するヘイズマンは余裕の勝利!

▲▶全日本サンボ選手権優勝の小澤幸康(チーム風)をスリーパーで捕らえたり、終始優勢に試合を進めたクリストファー・ヘイズマン。最後はアームロックで一本を取った(6分24秒)

拝啓　パンクラス代表・尾崎允実様
今、あなたの面白さには誰もかないません

島田氏に関しては、まだ話してない問題もある

みのるVS健介は……ガチンコが絶対条件!!

とにかく今、バツグンに面白いのがパンクラスの尾崎社長。この日も試合後、『プライド』問題や鈴木みのるVS佐々木健介、『プレミアム・チャレンジ』での近藤敗北などについて語ってもらったが、どれも見出しになりそうな言葉ばかり！

撮影◎糸井孝康

今、パンクラシストたちにとって最大の敵は誰なのか？　それは『プライド』ファイターでもルチャ軍団でもなく、パンクラス内部にいる。そう、他ならぬ尾崎社長なのである。はっきり言って、パンクラスのどの選手よりも尾崎社長のほうが面白い。業界的に言えば「見出しになる」という感じだ。

菊田が『プライド』に参戦すれば島田レフェリーと揉め、三島★ド根性ノ助がパンクラスに出場することになると、今度は修斗側と揉める。そういった部分でも、全方位外交なのだ。

もともと、この三島問題というのは、アマチュア選手の登竜門である『パンクラスゲート』マッチにコブラ会の選手が出場する予定だったことから始まっている。その選手がケガで欠場することとなり、そこでコブラ会のトップ選手である三島が「迷惑はかけられない」という責任感から出場に名乗りを上げたもの。

ところがそれが修斗サイドで問題となり、専門誌や修斗のHP上で論争が繰り広げられたというわけだ。修斗側がパンクラスを〝過去に不正試合があった〟として交流を否定するという競技・団体の根幹に関わる部分から〝言った、言わない〟のガキのケンカレベルのことまで、徹底的に（書面を通してではあるが）やり合い、ファンの間でも大きな話題となったのである。

謙吾、復帰後2連勝もまたジャーマンで投げられる！

初参戦の橋本友彦は、プロレス団体D2Tで活躍する選手だが柔道歴15年（三段）で、もともと総合志向。対する謙吾は昨年3月以来のフームリング出場だ。橋本は敵地でもなんら臆することなく柔道式の投げ技で攻撃し、なんとジャーマンも炸裂。一方、ドスJr戦でもジャーマンを決められている謙吾は「大丈夫です、慣れてますから（笑）。でも投げられ慣れてる自分がイヤですね、ちょっと」

▲コーナーでの差し合いから橋本が見せた大胆な大外刈りだが、惜しくも“場外”となってスタンドから仕切り直しとなった。ここが勝負の分かれ目だったか

▲自分から打ち合いを挑んできたりもした橋本に「ちょっとビックリした」という謙吾だが、最後は投げを潰して上になり、パンチを連打してレフェリーストップ勝ち

▶これで復帰後2連勝。なんとか軌道に乗ってきた謙吾だが「スッキリ勝ったとは思ってない。課題は多いんで」

★第4試合/無差別級5分2R
○謙吾（1R4分17秒、TKO勝ち）橋本友彦●
<パンクラスism>　<D2T>
※グラウンドパンチ連打でレフェリーストップ

スッタモンダの末……三島★ド根性ノ助、パンクラスマット登場

▶修斗ウェルター級のトップコンテンダー三島★ド根性ノ助が、三島睦智の本名でパンクラスゲート（アマチュアのプロ登竜門マッチ）に出場。同じコブラ会の選手がケガで欠場したことを受けて出場に立候補したものだが、パンクラスと修斗には過去にしがらみがあり、専門誌の誌面や修斗のHP上で公開されたように、かなりスッタモンダがあっての出場だった

▶76・3キロという体重（修斗では70キロリミットで出場している）、慣れないレガース着用ということもあって思うように動けなかったという三島だが、実力的には相手の安藤雅生より数段上。キッチリ三角絞めでタップを奪った

▲「あ～、良かった。終わりました……。気苦労がいろいろあって」と試合後の三島はホッとした表情。一番の目標は修斗のベルトだが「個人的には上がれるリングには上がりたい」

★パンクラスゲート5分2R
○三島睦智（2R2分22秒、三角絞め）安藤雅生●
<総合格闘技道場コブラ会>　<JWA>

VS『プライド』、VS修斗と、とにかく闘う姿勢を崩さない尾崎社長。試合内容でもコメントでもいいから、とにかく選手たちは尾崎社長より目立たなきゃいけない。

この大阪大会もそう。プロレス団体D2Tから参戦した橋本友彦が謙吾と闘って大健闘したり、そのセコンドに高木三四郎がついたりといった話題も、尾崎社長のコメントの面白さには到底かなわないのであった。メインで納得のいく試合ができなかった郷野なんて、尾崎社長の足元にも及ばなかった。

まず、三島問題に関しては「（専門誌上に）出ている以上のものも以下のものもないんで。引き抜きとかも考えてないし」と、あっさり気味に終了。まあ、この大会で三島がつつがなく試合を終えたのだから、それ以上言うこともないのだろう。

しかし、話が『プライド』島田レフェリー問題となると、尾崎社長の言葉も加速度的に勢いを増す。DSEサイドとは会談を持つ予定があり「今後も出るという前提で話をします。（マスコミの）みなさんにお話をするのはそれからということで」としながらも、「細かい話は今はしませんが、まだお話ししていない問題もいくつかあるんですけども……」と、さらなる火種を感じさせる発言。

さらに「彼（島田レフェリー）に関しては、ウチだけの問題じゃないような気がしますね」と話を膨らませ、本誌におけるインタビューでの「試合を作るのはレフェリー。選手が馬でレフェリーが騎手」という発言にも「根本的に間違ってると思う」と噛み付くからアグレッシブなことこの上なし！　そして、アレクの金的攻撃も「ビデオで何回も確認しま

PANCRASE HYBRID WRESTLING

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
5.11★梅田ステラホール

郷野、5カ月ぶりの実戦で青息吐息
「復帰の喜び？まったくない！」

◀ローキックやバックキックなど、スタンドでも郷野が優勢だったが、決定打にはならなかった。パンチもヒットする場面があったが、本人曰く「肩に力が入っちゃって。脱力の感覚を忘れちゃいましたね」

▲2R、タックルへのカウンターでドンピシャの三角絞め。だがこれも決まらず。「相手が逃げ方知ってましたね」（郷野）

▲セミファイナルではグラバカの石川英司が渋谷修身に判定2−0で勝利、6・9DEEPディファ大会でのトーナメントに弾みをつけた。石川はまだしぶといテイクダウンと抑え込みで勝っている状況で、鮮やかさはないのだが、このところ勝ちの味を覚えているだけに急成長が期待できそうだ

▲メインでは郷野聡寛が昨年12月の近藤戦以来のリングを迎えた。が、ブランクのせいか窪田幸生を攻め込みはするもののフィニッシュにまで持っていけない。この体勢から殴りまくり、立ち際に顔面を蹴るなどチャンスも多かったが……

★第6試合・メインイベント/ライトヘビー級5分3R
○郷野聡寛（3R判定3-0）窪田幸生●
＜パンクラスGRABAKA＞　＜パンクラスism＞
※採点…30-29、30-28、30-28

▲結局、試合は判定となり、郷野が勝利。だが納得のいかない郷野は勝ち名乗りもそこそこにリングを後にした。「前途多難ですね。一番レベルの低い勝ち方ですよ。ひらめきが出てこなくて、次の展開が作れなかった」とコメントスペースでも渋い表情だった

した。四つに組んでると下が見えないから、グローブの手の甲でファールカップ、金的を探してるんですよ。故意以外の何物でもない」と筆者のワキを差しながら実演してくれたのであった。

「細かい話はこれから」でありながら、ここまで喋ってくれればもう言うことはないわけだが、尾崎劇場はまだまだ続く。今度の話題は噂されている鈴木みのるVS佐々木健介戦である。

「おそらくできると思います。新日本さんとも順調に話してて、前向きに考えてくださってるし」

ということは、みのるが久々に〝純プロレス〟の試合をするってことか？　しかし、尾崎社長はこともなげにこう言ってのけるのだ。

「総合のルール、それが前提です。VTと考えてもらえれば。ウチはそれじゃないと受けないですよ」

健介がガチンコだって!?　さすがに〝ガチンコ〟や〝シュート〟という言葉は使わなかったものの、尾崎社長が言わんとしていることはそれだろう。

「本人同士が若い時に約束したことですから。揉めませんよ」

新日本プロレスは10月にも東京ドーム大会を行うようだが、そこで健介とみのるのリアルVTが実現したら……正直、凄い！

もう充分だろうか？　とにかく、今のパンクラスで一番勢いがあるのが尾崎社長だというのはお分かりいただけたと思う。

周囲の視線を気にしすぎておとなしい発言に終止する選手が多い中、尾崎社長の攻めの姿勢は頼もしい限り。「一生その姿勢で行け！」と言いたいのである。

（橋本）

SMACK GIRL 5.6★ディファ有明
～GOLDEN GATE 2002～

"奇抜なコンセプト"
SMACK GIRL

SMACK GIRL代表・篠泰樹

女子総合格闘技に興行戦争勃発！

"実力派対決"
AX

AX代表・木村浩一郎

女子総合格闘技 AX 5.4★後楽園ホール
AX Vol. 3

◀高田延彦と同じテーマ曲で入場してきた金子。生い立ちのこともあって、やたらと悲壮感に溢れていた

◀見よ、この形相を！ やはり本格的に鍛えられたキックボクサーは強い！

これは女子版“『プライド』VSK―1”か？
『スマックガール』は、コンセプトで勝負だ！

『SMACKvsKICK　5対5全面対抗戦 』

☆第5試合（SGS公式ルール）
○渡邊久江（3R判定3－0）大室奈緒子●
〈LIMIT〉　〈和術慧舟會〉

☆第6試合（SGS公式ルール）
○瀧本美咲（2R2分58秒、腕ひしぎ十字固め）大島椿●
〈禅道会〉　〈アクティブJ〉

☆第7試合（SGS公式ルール）
○彩丘亜紗子（3R判定3－0）亜利弥’●
〈PALM〉　〈フリー〉

☆第8試合（SGS公式ルール）
○虎島尚子（2R3分35秒、アームロック）大塚美弥子●
〈RJW／CENTRAL〉　〈アクティブJ〉

☆第9試合（SGS公式ルール）
○ウィンディ智美（3R判定2－1）金子真理●
〈全日本キック〉　〈禅道会〉

※3勝2敗で女子キックボクシング連合軍の勝利

撮影◎山口比佐夫

女子総合格闘技というジャンルには今、2つの興業が存在する。『スマックガール』と『アックス』だ。この両興業が、ゴールデンウィークの真っ只中で、仁義なき興行戦争を行った。

女子総合格闘技の元祖とも言うべき『スマックガール』は、男子を含めて他の総合格闘技団体では考えられない企画で勝負しているのが特徴だ。今年に入ってから導入したタッグマッチにしろ、前回行った時間差バトルロイヤルなど、通常の格闘技団体ではとても手を出さない代物。しかし、こういった奇抜な企画に批判を覚悟で、あえて挑戦しているのが『スマックガール』なのだ。

今回は、『アックス』と2日違いの日程で、まだまだ黎明期の女子総合格闘技界でこのバッティングは、かなり痛い。しかも、『アックス』は女子総合格闘技界の有名選手をズラリと揃え、実力派対決を売りにしたマッチメイク。一方の『スマックガール』は知名度のある選手を揃えられなかったために、マッチメイク的には『アックス』のほうが魅力的だった。

しかし、こういう不利な状況で『スマックガール』の篠泰樹プロデューサーが用意したのが、「『スマックガール』連合軍VS女子キックボクサー、5対5マッチ」という女子版「『プライド』VSK―1」だ。この試みはズバリ成功した。

禅道会を中心とした『スマックガール』連合軍に対して、一方の女子キックの面々はチャンピオンクラスをはじめとして、いかにも強そうな選手ばかり。しかし、この本格派のキックボクサーたちに

SMACK GIRL 5.6★ディファ有明

~GOLDEN GATE 2002~

『アックス』よりも興行にドラマ性が見えた！

◀高田延彦と同じテーマ曲で入場してきた金子。生い立ちのこともあって、やたらと悲壮感に溢れていた

▲5 VS 5対抗戦の第2試合。禅道会の瀧本美咲は、見事にアクティブJ所属のキックボクサー・大島椿から腕ひしぎ十字固めで一本勝ちを収めた

ウィンディ智美のコメント

「べつに危ないって思うことはなかったですね。海外でやっているんで、私には相手はいないと思っているし、自分が一番強いと思ってます。誰かが名指しで言ってくれれば、誰でもいいですよって感じです」

金子のコメント

「今回はいつも出ている会場というか、愛着がちょっとずつ出てきたようなところで、その舞台でスマック連合軍という形なんで、本当は勝ちたかったです。悔しかったですね」

◀見よ、この形相を！　やはり本格的に鍛えられたキックボクサーは強い！

◀このハイキックはいったいなんだ!?　対抗戦の第3試合となった、昨年、女子キックでチャンピオンにまでなったＰＡＬＭ所属の彩丘亜紗子と女子プロレスラー・亜利弥の対戦は、強烈な打撃を持つ彩丘に軍配。亜利弥の意地も感じたが、彩丘の強さは際立っていた

次回、藪下めぐみの初参戦決定！

▲体調管理の問題で、関係がギクシャクしていた“力道山を刺した男の娘”篠原光（右の写真）と篠代表が手打ち。次回大会から、篠原の参戦が決定。また、次回大会には第1回「リミックス」で優勝した藪下めぐみ（中央の写真）が、遂に『スマックガール』初参戦を果たす。そして、先日引退を宣言した女子プロレスラー・中山香里（左の写真）も、昨年の「リミックス」に続き、最後の総合挑戦をすることになった

▲グラウンドになると金子がやはり優勢。しかし、ウィンディも必死で一本を極めさせない

挑む『スマックガール』の選手たちの姿が、会場にかつてない熱気を呼んだ。

その熱気が最高潮に達したのが、2勝2敗で迎えた大将戦。禅道会の金子真理と全日本キックに参戦しているウィンディ智美の一戦だ。金子というと、女子の総合格闘技界でもベテラン選手。どちらかというと、地味な部類に入り、体も小柄なほうだ。対するウィンディ智美は海外でチャンピオンになったほどの強者。このウィンディに金子は果敢に挑んでいった。

金子がウィンディに組み付いていく姿は、『イノキボンバイエ』のバンナ戦で見た安田とダブるものがあった。安田が借金苦と一家離散を背負っていたのなら、金子も幼児期に虐待を受け、施設で育ったという暗い過去を背負っている。試合では判定で金子が負けてしまったものの、この一戦が生み出した緊張感は会場を大いに熱くさせ、感動を呼び込んだ。あの地味な金子が光っていたのだ。これこそ、他流試合というコンセプトが生んだ勝利と言っていいだろう。

今回の女子版「『プライド』VS K―1」といい、時間差バトルロイヤル、7月に開催する最強タッグにしても、コンセプトを武器にしての一か八かの綱渡り的なところはある。しかし、誰もが挑戦しないことにあえて挑戦する精神に、黎明期の女子総合格闘技を世間に知らしめようという覚悟を感じるし、何よりも団体の生命力を感じるのだ。アイディアで女子総合格闘技界に勝負を仕掛ける『スマックガール』からは、当分目を離せそうにない。

（小松魔裟夫）

女子総合のレベルはここまで上がった!
実力派対決は『アックス』で見よ!

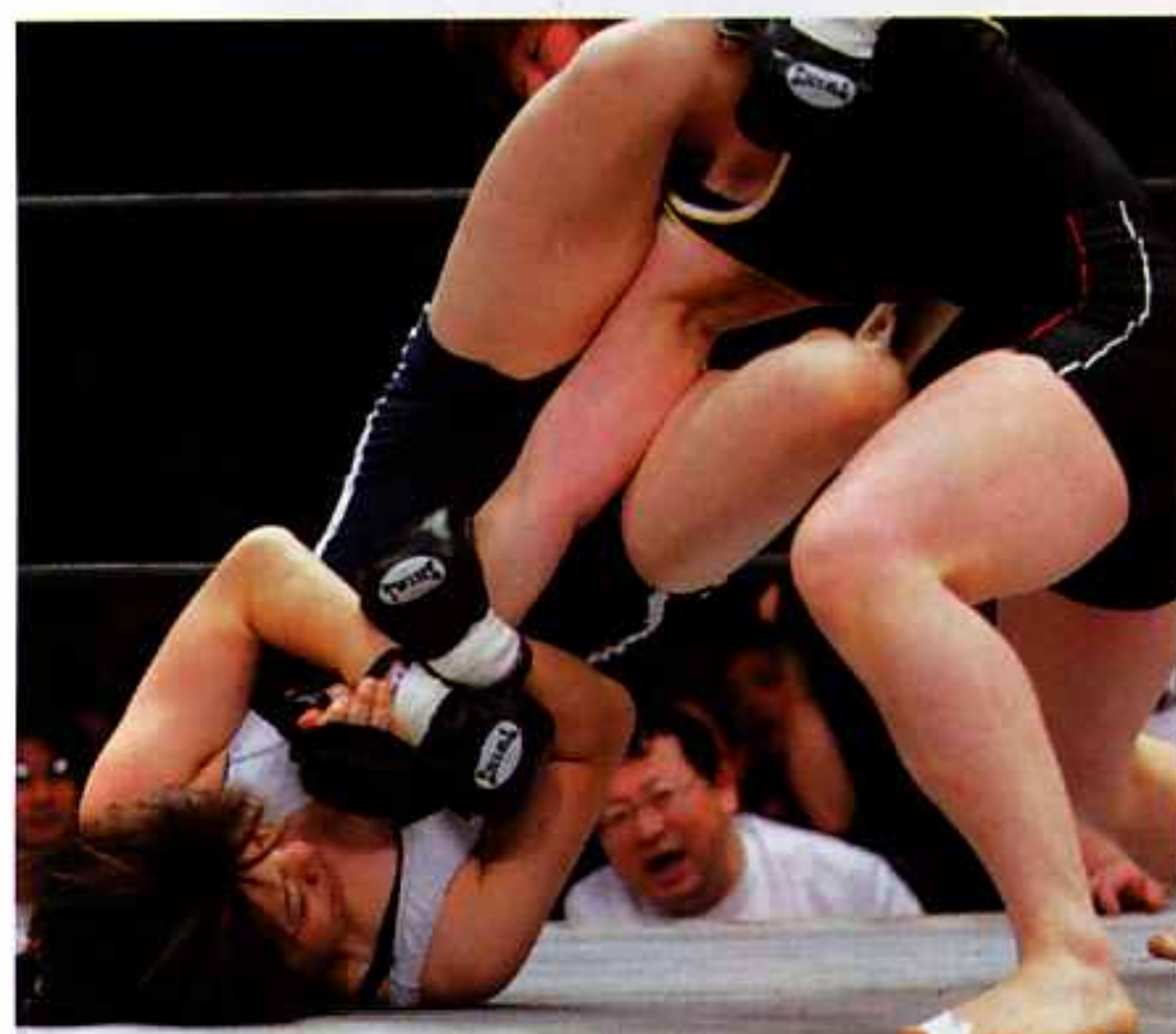
★セミファイナル/AX公式ルール（5分3R）
○星野育蒔（2R3分29秒、アームロック）岡裕美●
〈米里倶人満〉　〈フリー〉

『アックス』は、『スマックガール』から枝分かれするような形で誕生した女子総合格闘技の興行である。昨年10月に旗揚げし、12月に第2回興行を行い、そこから約4カ月ぶりの興行となるのだが、その間にプロ修斗でも女子の試合が始まり、さらに女子総合格闘技の興行戦争が激化しそうな時期に、しかも今回は『スマックガール』のわずか2日前というニアミスなスケジュールで開催することになってしまった。

だが、あえて主催者の木村浩一郎氏は「今回は選手のためにやっているので、客の入りは期待してません」と語り、女子総合のみの興行としては初の格闘技の聖地・後楽園ホールに進出するという勝負に出たのである。キャパシティは『スマックガール』が行われるディファ有明の倍以上。当然ながら館内には空席も目立ったが、選手達に大きな舞台を踏ませてやろうという親心、格闘技関係者に女子総合を認知させようというヤル気が感じられて頼もしい。

カードも『スマックガール』で名勝負を繰り広げてきた実力者を選り抜いた豪華な組み合わせを揃えて差別化を図っていた。メインは現在の女子総合格闘技界のトップに躍り出た辻結花VSJ―NETWORKのレディース1位のジェット・イズミ。2日後の『スマックガール』で行われた「スマック連合軍VSキック」にもジェットと同じアクティブJ所属の選手が数人出場していたが、ジェットはそのトップに君臨しているワケだから、事実上の大将戦が先に組まれたと言ってもいい。打撃とグラッ

『スマックガール』より先に後楽園ホール進出！

▲4・7『スマックガール』でメインを張った辻結花（総合格闘技闇愚羅・右）が、『アックス』でもメインで登場。対戦相手のジェット・イズミ（アクティブJ・左）は現在キックボクサーとして活躍しているが、レスリング時代に辻と一緒に合宿をしていたこともあるという

▲どんな角度からでも巧みに腕十字を狙う辻と、それをうまくかわすジェット。その攻防はまさに女子総合格闘技界の頂点と言えよう

▲辻は念願の修斗のライセンスを取得した

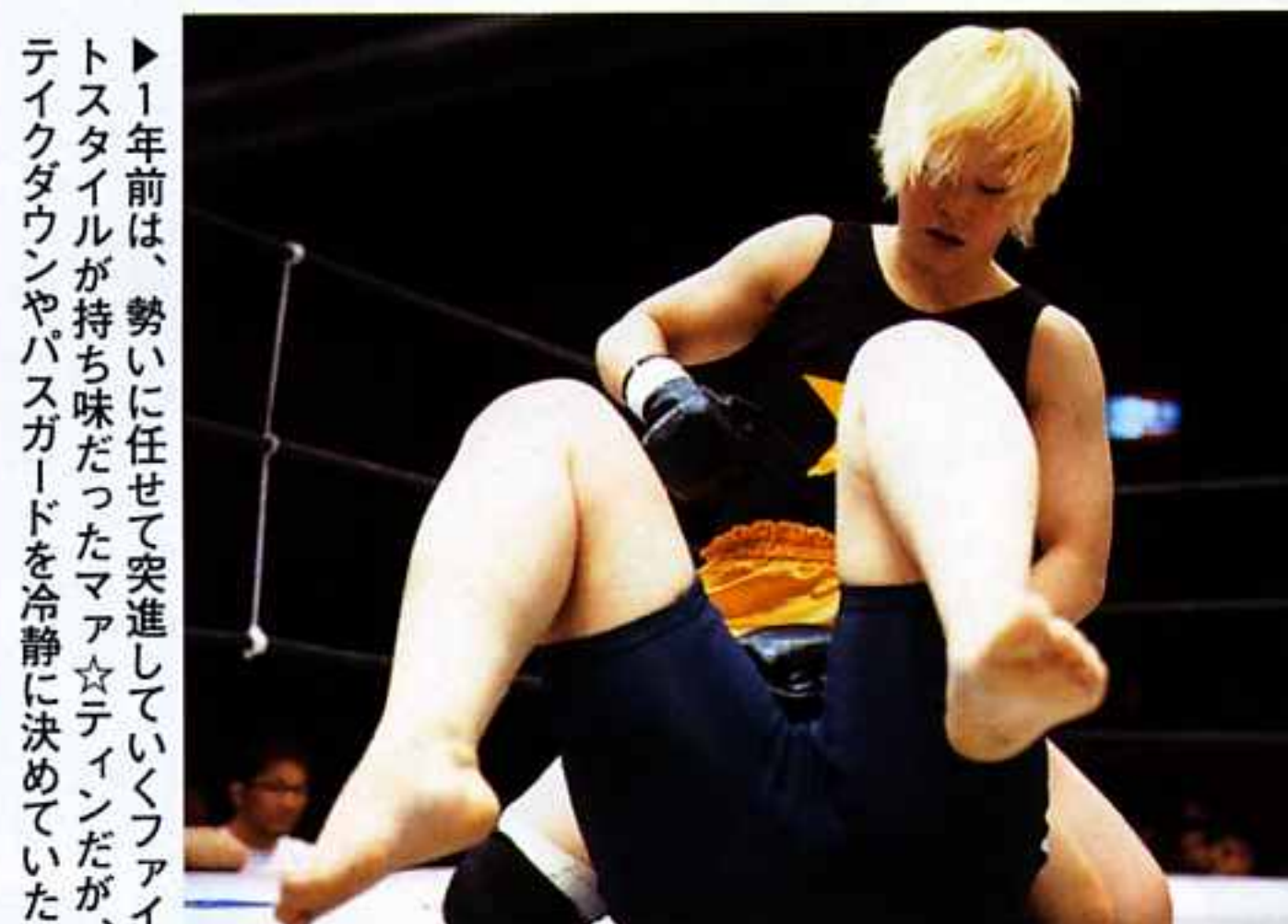
▲3R目には、ジェットの右ストレートでフラついた辻がダウンをとられてしまったが、試合を終始押し気味に進めていた辻が判定2－1で勝利した。辻は、試合後「一本取れなくて悔しい。このままいけば判定で勝てるという気持ちがなかったとはいえない……」と語った

星野のコメント

「やっぱり、試合って楽しい！　女の人は柔らかくて、なかなか（関節が）極められないので、極めを早くしていきたい。（グラウンドでの）時間制限ありだと瞬発力がいるので、もっと練習しなきゃいけないと思った。（対戦したい相手は）辻さん、ジェットさん、辻さん、辻さん……。強い人と闘いたいです！　こんな楽しいことない！」

岡のコメント

「強いですね。（以前闘った）辻選手は相手の得意技を絶対に使わせないというか、パンチ打てなかったんですけど、星野選手はパンチにも付き合ってくれて。強いっていうか、凄い思いっきりのいいパンチでした。今は寝技ができないので、それが恐いから打撃もできないんですけど、寝技を練習して闘えるまでになりたいですね」

▲「相手が笑っているように見えたので、呑まれないように」という空手家の岡は試合中、笑顔がこぼれていた。星野は試合が楽しくて笑顔を見せていたようだ

▶1年前は、勢いに任せて突進していくファイトスタイルが持ち味だったマァ☆ティンだが、テイクダウンやパスガードを冷静に決めていた

▶1周年を迎えたマァ☆ティンは「総合ができて良かった」と語るように、試合ができることがうれしくて堪らないという様子でリングに駆けていく

▶試合が終わると「教えてもらったことが全然できなくて悔しい」と興奮状態で泣きながらリングを降りた。デビューからずっとこの姿は変わっていない

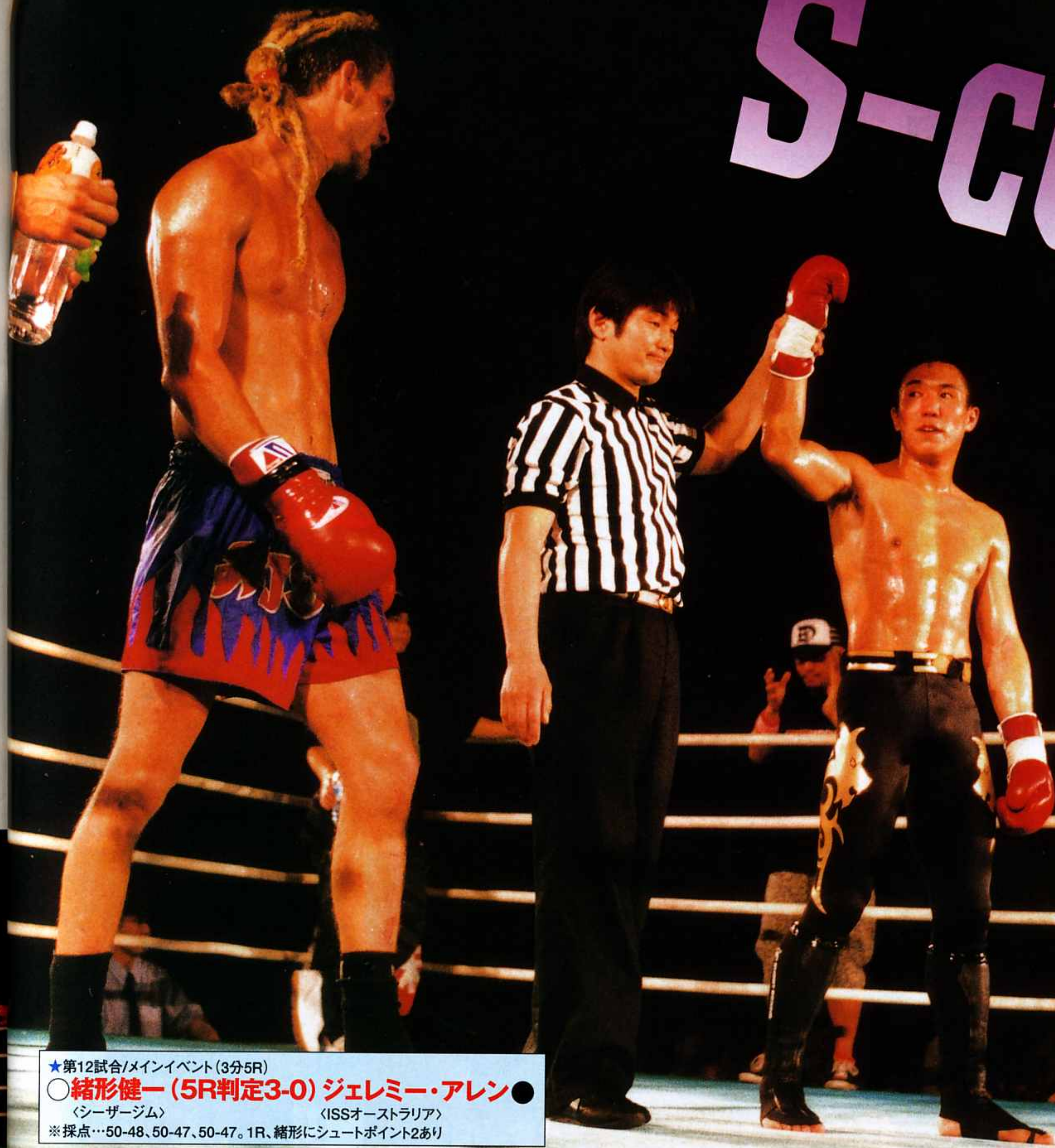
プリングが互角に交差する白熱した展開は3Rでも決着つかない接戦。判定も2—1という僅差で辛くも辻が逃げきった。

　しかし、この日のハイライトはやはりセミに登場した星野育蒔のデビュー1周年試合である。前回の『アックス』で辻に敗れてしまい、今回のメインは譲ったが、やはりエースはマァ☆ティンだ。もちろん会場人気も一番高い。相手は5・6『スマックガール』で辻に敗れている岡裕美。辻との再戦を狙う星野にとっては、ここで落とすワケにはいかない。「強くなりたい」という一心で、この1年、本格的にレスリングや柔術に取り組み着実にレベルアップしてきた星野は、落ち着いた試合運びで見事な一本勝ち。試合後は、いつもの爆発的なハイテンショントークで会場を沸かせていた。

　ただ『アックス』はレベルが高い技術戦が多く、そのためか客席の雰囲気も、試合の内容もどこか生真面目で堅くなりすぎているようにも見えた。後楽園という場のムードがそうさせるのか？　少しは『スマックガール』のようなアバウトな演出もあったほうがいいのでは？

　次回、6・26『アックス』も会場は後楽園で、国際戦が予定されており、おそらく星野が日本代表として強豪外人を迎え撃つことになるだろう。W杯で日本全体が盛り上がる時期に、国際戦という分かりやすい対立概念は、格闘技初心者のお客さんにもアピールできるはずだ。次こそは満員の客席で、ホッペタに日の丸を描いて彼女達を迎えてあげたい。（沖崎）

緒形健一、久々の大阪大会で不本意な判定勝ち。こうなったら

S-cupに全てを賭けろ！

★第12試合/メインイベント(3分5R)
○緒形健一（5R判定3-0）ジェレミー・アレン●
〈シーザージム〉　〈ISSオーストラリア〉
※採点…50-48、50-47、50-47。1R、緒形にシュートポイント2あり

▲3年ぶりに開催の大阪大会でメインを張った緒形健一。7・7『S－cup』につなげるためにもいい勝ち方をしたいところだったが、思うように攻められず。判定勝ちにも表情は冴えなかった

撮影◎糸井孝康

ここ何回かの後楽園大会を見ても分かるように、今のシュートボクシングは話題性という面でも試合内容という面でも、非常に面白い。打撃十投げ十立ち関節技、つまり〝立ち技総合〟という競技性を重視しながらも、それに凝り固まることなく「とにかく面白いことをやってやろう」というマッチメイクもいい。特にシュートボクセやボブチャンチン軍団といったVT系へのアプローチは見事にハマッていた。

緒形健一、土井広之、前田辰也、宍戸大樹、それに後藤龍治といった実力派がトップに並んでいるのも心強い。この男たちの試合、そうは外れがないのだ。

それが、この3年ぶりの大阪大会に限って〝外れ〟になってしまうとはなんて皮肉だろうか。セミの前田は相手の負傷によるTKO勝ち。そしてメインの緒形も煮え切らない形での判定勝利と、7・7『S－cup』へ向けて弾みがついたとは言い難い内容となってしまった。

緒形と闘ったジェレミー・アレンはオーストラリアのキックボクサー。豪州キック界といえば、『K－1ワールドMAX』でアルバート・クラウスの顔面を腫らせた張本人シェイン・チャップマンや、小比類巻に勝ったこともあるダニエル・ドーソンを輩出している。体が頑丈でパワーがあり、それでいてみっちりタイで経験を積んでいたりもするから、正

シュートボクシング
The age of "S" vol.3
5.13★大阪府立体育会館第2競技場

前田辰也、今年初勝利もあまりのあっけなさに憮然

▲今年に入ってから勝ち星のないSフェザー級王者の前田辰也。今回は地元ということもあって気合いの入り方も違っていたはずだが……。クリンチにきたエマニュエル・ルドニックを外掛けで倒した際、ルドニックが足をひねって負傷。そのままレフェリーストップとなってしまった（1R2分17秒）

▲悲鳴を上げてのたうち回るルドニック。前田は今年初勝利にも、力を出さないままのあっけない終幕に憮然としていた

▲昨年4月以来の試合となったSバンタム級チャンピオンの森谷吉博は、キャリア4勝4敗の若手・市政貴文にまさかの判定負け。試合勘が戻らないままスタートから出遅れ、後半はボディを効かせたものの若い市政に押し切られてしまった。が、この男に落ち込んでいるヒマはない。森谷はシュートボクシング協会の広報でもあり、さっそく翌日から『S－cup』のマッチメイク調整に奔走するのであった

緒形のコメント

「プロで見せる試合じゃなかった。久しぶりの大阪大会で、来年につなげるためにもいい試合を見せたかったんですけど。気持ちが足りなかったのか技術が足りなかったのか。（S-cupは）全てを賭けるしか道はないんで。前回、シュートボクシングの名を落としてしまったっていうのがあるんで、それをなんとか取り戻したいです」

「気持ちが足りなかったのか……」いや、オガケンは気合いが入りすぎているのだ

▶長身から変則的に繰り出されるアレンのパンチ、蹴りに手こずった緒形

▶ローキックはかなり効果的にヒット。もう少しでダウンが奪えそうだったが、その「もう少し」が遠かった

▲1R、アレンのカカト落としをキャッチするとキャプチュードのように投げた緒形。これでシュートポイントが入った

◀前回の試合で足を傷めていた緒形。今回も後半になると思うように足が動かなかったという

▲攻め込まれながらも、突如としてこんな大胆なキックを打ってくるアレン。緒形は間合いが取りにくそうだった

直な話タチが悪いのだ。

アレンもまた、チャップマンやドーソンほどではないにせよタチの悪い選手だった。変則的なタイミングのパンチ、キックにはパワーがあり、いかにも緒形は闘いにくそうだった。

緒形も徐々にローキックを効かせてはいたのだが、トドメを刺すまでには至らない。「攻撃に幅を出すために」練習しているというサウスポースタイルも試みたが、かえってバランスを崩してしまったようだ。

で、結局は判定での勝利にとどまった。試合後の緒形は「プロで見せる試合じゃなかった」と落胆することしきり。

「久々の大阪大会なんで、とにかくいい試合を見せたいって一心で臨んだんですけど……」

自分の納得がいく試合をできなかったというより、緒形は久しぶりにSBを見る大阪のファンを満足させられなかったことに落ち込んでいるようだった。緒形に限らず、SBの選手たちはとにかく責任感が強い。過剰なまでにSBというジャンルを背負って闘うのだ。「もうちょっと自分のことだけ考えてもバチは当たんないよ」と言いたくなるくらいに。

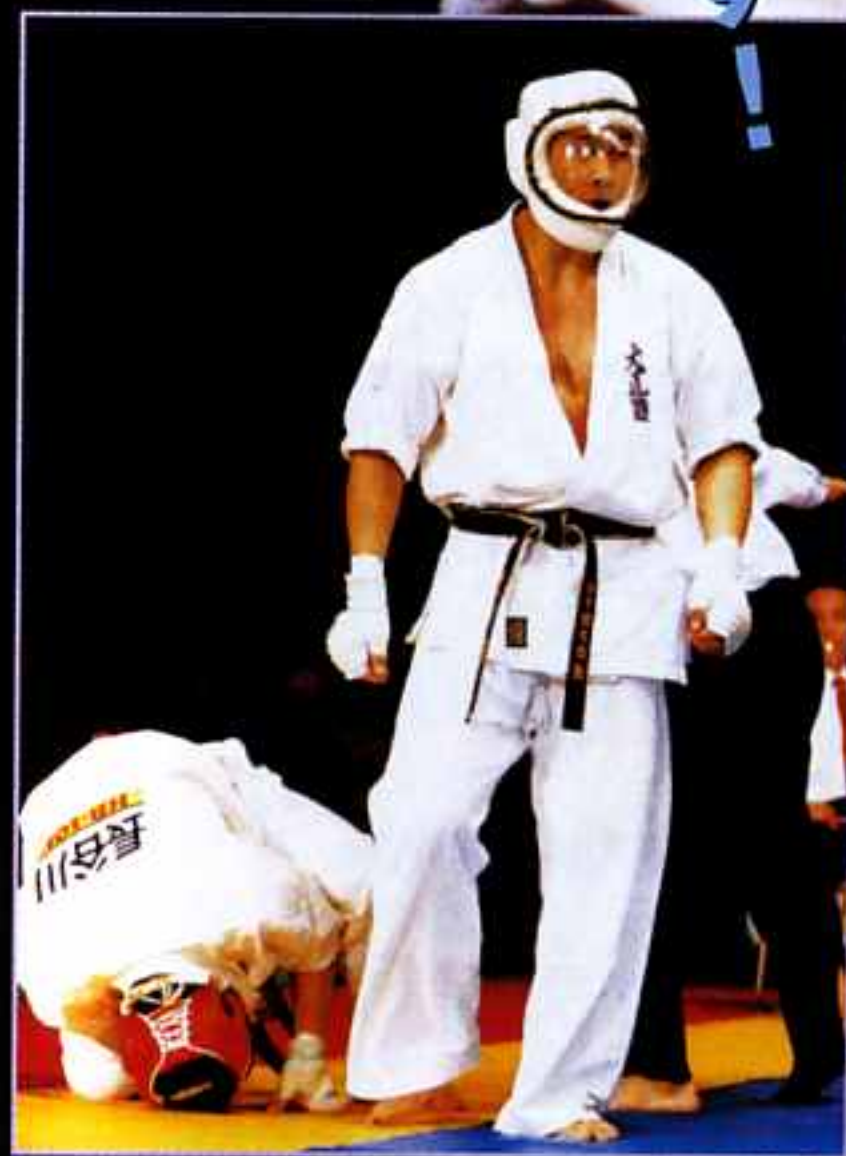
緒形は『S－cup』で、かつて自分が惨敗を喫したKOKルールの試合を行う。「前回、SBの名を落としてしまった。それをなんとか取り戻したい」と。とっくにリングスは活動休止してるのに、そのうちみんな忘れてくれるかもしれないのに、あえてそれをやらずにはいられないのである。

「そこに全てを賭けるしか道はないんで」と緒形。この男に関しては、そんなドラマチックすぎる言葉も信じてみたくなるのだ。

（橋本）

キミは大道塾“伝説のヒットマン”を知っているか？

長田賢一、突如として復活！

10年ぶりの全日本大会出場 準決勝敗退も、その強さはいまだ衰えず！

▲2回戦から登場した長田は、新潟支部の長谷川正人と対戦。全盛期さながらの攻撃で長谷川を圧倒し、前蹴りで技有りを奪って快勝。37歳とは思えぬ動きの良さと迫力に、会場は戦慄！

◀試合も後半になると、稲田が非情に徹して猛ラッシュ。パンチの連打で押して優勢勝ち

今回の体力別大会は、大道塾にとって正念場だった。昨年秋に初開催された世界大会で、トップ選手の多くが引退を表明。つまり、ここからまた新たに、まっさらな状態から再スタートを切るのである。選手の質的に、不安があることは否めなかった。そんな今大会に、なんと長田賢一がエントリーしたんだから驚いたなんてもんじゃない。

過去に無差別大会で4度の優勝を誇る長田。タイでムエタイのチャンピオンと闘ったり、大道塾のワンマッチ大会『ザ・ウォーズ』でメインを務めたこともある。“格闘技界に大道塾あり”というところを体を張って示してきたのが長田だったのだ。80年代後半から90年代初頭にかけて「最強は誰か」という話題になると必ず長田の名前が上がったものだった。

だが、全日本大会への出場は10年ぶり。初めて全日本大会で優勝したのは85年、17年も前なのだ（昭和だよ昭和！）。その長田が復帰だって？ただ、そこで「どうせすぐ負けるよ」と思わせないだけの何かを長田が持っているのも確かだ。

長田の強さの質を例えると“柔”でも“剛”でもなく“美”であると思う。僕がまだ学生の頃に見たビデオに、全盛期の長田のシャドーボクシングが収録されているものがあった。それがもう、うっとりするくらいの素晴らしさで、何度も繰り返して見たものだ。

大道塾
北斗旗
全日本空道体力別選手権大会
5.5★宮城県スポーツセンター

今からでもK-1、PRIDEに出てほしい！それぐらいの幻想が、長田にはある

長田のコメント

「（稲田は）試合なんだから遠慮しないで攻めてくればいいのに、あのバカが。まあ先輩思いの後輩でね。最後はガムシャラにやらないとどうしようもない状態でした。（初戦でアバラを傷めたのは）感覚のズレっていうか、もらわないはずだなって時にもらってしまったり、この距離で効くはずないなって技で効いてしまったりとか。ただ、今の子供たちとか白帯とかが多い中で、その現状で精一杯闘いたかったんで。その意味ではできたんじゃないかと。これでいいスタートになれたんで、また来年以降、強くなって藤松とやりたいです。胸を貸すっていうか借りるっていうかね。自分自身、まだまだ強くなれるなっていうのを感じてるんで」

《超重量級》

左ブロック	右ブロック
秋山剛（倉敷同好会）	藤田忠司（岩田道場）
稲田卓也（横浜教室）	平塚洋二郎（那覇支部）
長谷川正人（新潟支部）	高橋敏親（松任支部）
長田賢一（仙台西支部）	藤松泰通（総本部）

▶予選大会やこの日の2回戦での負傷を抱えながらの準決勝、稲田卓也戦。グラウンドから立ち上がるのさえつらそうだったが、長田は気迫のこもった攻撃を繰り出していった

▶軸足をきれいに返した美しいハイキック。組み技も使える北斗旗ルールで、これだけ美しい打撃が出せる選手はめったにいない

◀試合も後半になると、稲田が非情に徹して猛ラッシュ。パンチの連打で押して優勢勝ちをもぎ取った

▶伝説の男を破った稲田は、改めて長田に礼を尽くした。寝技になった際、負傷箇所を打って呻く長田に「先輩、大丈夫ですか」と思わず攻撃の手を休めてしまった稲田。長田が「いいから攻めてこい！」と稲田を叩いたのが審判にタップと間違われる一幕もあった

★超重量級/準決勝戦
○稲田卓也（本戦4-1優勢勝ち）長田賢一●
〈横浜教室〉　〈仙台西支部〉

◀〈決勝戦〉昨年の世界大会、重量級で優勝を果たした藤松が、超重量級に階級を上げて参戦。延長戦でカウンターの左フックを決めて技有りを奪い、優勝を決めた

▶名実ともに大道塾を背負う立場となる藤松。柔道出身で寝技が得意なのだが、今回はあえて立ち技で勝負を挑み、成長をうかがわせた。試合前は加藤清尚とマンツーマンで練習していたのだという

激戦の超重量級は世界王者・藤松泰通が優勝！

力強いとかキレがあるとかは当然として、そこに美しさも含んでいる。機能美ではない。芸術品のような美しさなのである。格闘家で同じ雰囲気があるとしたら、ヒクソンぐらいだろう。そんな長田であれば、10年のブランクがあってもブザマな姿は見せないだろうと言う期待があったのだが……予想以上だった。

結果から言えば、ケガもあって準決勝で敗退したのだが、東塾長など「もし長田が万全だったら誰も勝てなかっただろう」と言い切ってしまうのである。優勝した藤松泰通も、決勝は長田戦を想定していたという。長田なら当然、勝ち上がってくるだろうと。長田が今でも強いことを物語るエピソードについて「そんなのはもう、いくらでもありますよ」と藤松は言う。

その拳に一撃必殺の気迫を込めつつ、同時にバレエ・ダンサーのような気品がある――。昔、あのビデオを見た時と同じだった。いつまでも見続けたいと思わせる、絶品の動きだった。しかも、である。試合後の長田はこう言うのだ。

「いいスタートになった。自分自身、まだまだ強くなるなっていうのを感じてるんで。来年また強くなって藤松とやりたい」

この復帰は、主力級が抜けてモチベーションが低くなりがちな後輩たちに刺激を与えようとか、そういうことだけではない。37歳にして、2世代も3世代も下の若い選手と互角に張り合っていこうというのである。

今からでも遅くない。K-1でも、いや、ことによると『プライド』でだって通用するんじゃないか。そこまでの幻想を抱かせる男なのだ、長田賢一は。

（橋本）

大道塾

北斗旗

全日本空道体力別選手権大会

5.5★宮城県スポーツセンター

これが新試合形式『集団戦』だ！

な、なんだこの光景は……。空手でバトルロイヤル？

▲エキシビジョンで行われた、大道塾の新しい試合形式『集団戦』。5人対5人で闘い、キャプテンマークをつけた女子選手を倒したところで勝利となるルールだ。結果は3戦して赤チームの2勝1敗

これが路上の現実 複数相手に寝技は極まらない！

▲赤のスーパーセーフをつけた選手が腕十字を極めにいくも、すぐさま白チームの仲間が助けに入る。おいそれと寝てられないのがケンカなのである

◀女子選手を守るため、必ず1人が〝壁〟になる。この試合形式が発展すれば、様々な形のフォーメーションが見られるだろう

囲め囲め！

▶一本取られた順に選手が抜けていくため、当然ながら数的有利、不利が出てくる。1人の選手を囲んで攻め込むなんてこともありなわけだ

大道塾の空手は、あくまで護身を前提にしている。寝技に時間制限があるのもそのためだ。「じっくり寝技なんかやってたら、すぐに敵の仲間が助けに来ちゃうよ」というのが東塾長の持論。そんな考えをさらに押し進めたのが、今大会で行われた『団体戦』ならぬ『集団戦』である。5対5で、いっぺんに闘うのだ。一度に何人も相手にしなきゃいけない場合もあり、マウントを取ったと思ったら違う相手に後ろから蹴られる時もある。それも〝路上の現実〟の一面なわけで、この『集団戦』は突飛ではあるけれど実に納得できる形式だ。1対1での技術・常識が通用しないことも新鮮で、見ていても非常に面白い。今回はエキシビジョンということで、ある程度ライトコンタクトで行われたのだが、ゆくゆくはきちんとした試合として整備されるとのこと。誰もが考えつきそうで、でも絶対にやらなかったことを実現させてしまう。この柔軟さが大道塾なのである。（橋本）

東孝塾長の大会総括

「今回は各クラスで一人二人、光るのが出てくれればいいなというつもりでいたんで、そういう意味では良かったと思います。去年の最終予選と比べると、多少ヌルい感じがするのはしょうがないけども、二番手でいいと思っていた選手が、トップに立ったことで自覚も変わってくると思うんでね。次に先輩とやる時は、彼らがチャンピオンなんで、そのプライドも出てくるだろうから、そういう意味で。長田はね、予選でもケガしてるし、その後の練習でもケガしてて、試合に出られる状態じゃないし、出なくてもよかったと思うんだよね。ただアイツは後輩に胸を貸してやるっていうか、闘う精神を吹き込みたいって気持ちでやったと思うんだよね。それを後輩が感じてほしいという気がするね。もし長田が万全だったら誰も勝てなかっただろうし、あのくらいのクラスの選手を育てないとダメなんだよね。（集団戦は）20年かけて、個人戦は世界大会も終わってある程度の成果は出たと。次は当然、集団というか、個人対複数、複数対複数も考えていかなくちゃいけない。競技化はもちろんしますよ。選手も長くできるし、いろんな楽しみ方ができるし。合宿で支部対抗戦なんかもやりたいね」

軽～重量級は、全階級が初優勝！

▲〈中量級決勝戦〉吉岡正裕（左）と後藤一郎の闘いは、再延長までもつれ込む大接戦。最後の最後に後藤がパンチの連打で効果ポイントを上げて勝負を決めた

▲〈軽重量級決勝戦〉1回戦から全て寝技でポイントを取って勝ち上がってきた若月里木は、決勝でも伊豫田徹から マウントパンチで効果ポイント2を獲得して優勢勝ち

◀〈軽量級決勝戦〉一昨年優勝の寺西登に挑んだのは伊賀泰司郎。伊賀は開始すぐに払い腰で寺西をテイクダウン。襟絞めでタップを奪い、秒殺で初優勝を決めた。投げから絞めの畳み掛けるような連続攻撃は、セコンドについた小川英樹さながらの鮮やかさだった

▲〈重量級決勝戦〉エントリーが8人と少なかったこの階級、4人ずつ2つのリーグ戦を行い、それぞれでトップに立った清水和磨と石田圭一が決勝で対戦。本戦終了とほぼ同時にアキレス腱固めを極めた清水。これはタイムアップとなったものの、足を傷めた石田に延長戦でもアキレスを極めて清水が優勝

▼今大会、各階級の優勝者たち。左から伊賀泰司郎（軽量級）、後藤一郎（中量級）、若月里木（軽重量級）、清水和磨（重量級）、藤松泰通（超重量級）。最優秀勝利者賞には、重量級の清水が選出された

Mineral & Herb

Fasting Diet

グレート アントニオ

誌上通販

大ブーム！

ダイエット＆体質改善＆肉体改造の最終兵器。
いつ何時、誰の挑戦でも受ける!!

ファスティング・ダイエット（360ml×3本入り）
Fasting Diet　18,000円（税別）
販売元／グレート・アントニオ　開発研究／杏林予防医学研究所

●ファスティング・ダイエット　¥18,000（税別）
ファスティングに関する詳しい内容は、グレート・アントニオHP（http://www.great-antonio.jp）をご覧ください。

●ミステリーマンTシャツ
（カラー白／サイズXS・S・M・L）
¥3,500（税別）

●矢野卓見フィギュア
¥4,800（税別）
©TAKUMI YANO
※全長約19cm、
両腕・腰部分可動

●浅草キッドTシャツ2002
（カラー白／サイズXS・S・M・L）
¥3,500（税別）
©OFFICE KITANO

http://www.great-antonio.jp

グレート・アントニオmeets新日本プロレス!!
"リアル"サマー・ファイト・シリーズ開幕!

出ました!

What's CHAMPIONS CLUB?
チャンピオンズ・クラブとは、新日本プロレス創立30周年を迎えるにあたり、新日本プロレスまたプロレス界の繁栄に絶大なる貢献と実績を残した選手のみにメンバー資格が与えられるクラブである。©NJPW

CHAMPIONS CLUB
©NJPW

●木戸修Tシャツ
(カラー白/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT
BACK

●マサ斎藤 Tシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT
BACK

●坂口征二 ビッグサカTシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT
BACK

●ヤマハブラザースTシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

ご注文方法

ご注文は電話受付のみです

『グレート・アントニオ』通販専用NAVIダイヤル
☎ 0570-007800 ※携帯電話からは掛かりません。
☎ 03-3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。
【受付曜日・時間】月曜日〜土曜日 AM10:00〜PM6:00

商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で(株)ジャンボ(大阪)より郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、ご注文を受け付けておりません。

ACCESS MAP

とうふパン専科
グレート・アントニオ

○神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)より徒歩5分
○小川町駅(都営新宿線)より徒歩5分
○淡路町駅(丸ノ内線)より徒歩6分
○竹橋駅(東西線)より徒歩8分

OPEN 11:00〜20:00(月曜定休)
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

http://www.great-antonio.jp

【WOWOW提供】

『UFC』放送を開始したWOWOWから、
ティトの特大ポスターを!

5名様

『UFC』ポスター

【ドリームステージエンターテインメント提供】

シウバの新作Tシャツが登場!

VIVA JIU-JITSUTシャツ

FRONT　BACK

3名様

シウバTシャツver4

3名様

※PRIDEグッズの購入は、PRIDE GOODS ナビダイヤル03-5775-5852、または http://www.so-net.ne.jp/prideまで

たっつぁんの万座ビーチ

いよいよワールドカップ開催間近!
たっつぁん万座ビーチもワールドワイドなプレゼントをお届けします!

読者プレゼント

【IF-PROJECT提供】

いま柔術界が熱い!

5・2『〜プロフェッショナル柔術リーグ〜「GI um」Ground Impact』大会記念Tシャツ

FRONT　BACK

2名様

【本誌編集部提供】

結婚パーティーの引き出物Tシャツ!
ゲーリー&カレンさん、いつまでもお幸せに!

ゲーリー・グッドリッジTシャツ

FRONT　BACK

1名様

【グレート・アントニオ提供】

グレート・アントニオが放つ、
新日本プロレス往年のレスラーTシャツ!

マサ斎藤Tシャツ

FRONT　BACK

各2名様

ヤマハブラザーズTシャツ

FRONT　BACK

各2名様

坂口征二ビッグ・サカTシャツ

FRONT　BACK

各2名様

木戸修Tシャツ

3名様

※グレート・アントニオの商品に関するお問い合わせは、グレート・アントニオ03-3219-9550、または http://www.great-antonio.jpまで

【エンターブレイン提供】

今では入手困難な会場売りのパンフレットの復刻版!

新日本プロレス復刻版パンフレットシリーズ
『燃える闘魂〜格闘技世界一決定戦・編〜』

3名様

※定価3,000円(税込)。全国書店で発売中!

応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう!

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由(複数可)
❻今号で面白くなかった記事とその理由(複数可)
❼本誌に対するご意見・ご感想
を書いて、ビシバシ応募してください!

あて先　〒101-0054 東京都千代田区
神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX編集部『たっつぁん万座ビーチ㉑』係まで

締め切り…2002年6月13日(木)当日消印有効。

応募券 たっつぁん万座ビーチ ㉑

SRSDX
6·13
6·27合併号 No.71
5.11「K-1 WORLD MAX 2002」決勝大会
修斗、UFC、パンクラス、GW格闘技情報
平成12年4月25日第3種郵便物認可 平成14年6月27日発行 第4巻・12号・通算71号
編集人・谷川貞治 発行人・菊沢忠之 発行所・(株)フジテレビ出版／(株)ローデス 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F 電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号
定価680円 本体648円

雑誌21584-6/27
T1121584060682
Printed in Japan